

付録3

令和3（2021年度）気象情報の 利活用状況に関する調査報告

I. 調査概要

1. 調査目的

本調査は、一般における気象情報の利活用状況を把握し、今後の気象業務の改善に資することを目的とする。

2. 調査概要

1) 調査対象

全国に居住する 20 才～79 才の男女

2) 調査方法

インターネット上の WEB 画面に用意した質問に回答する方式(WEB 調査)

3) 有効回収数

配付：2,000／有効回収：2,000 サンプル（回収率：100%）

性別、年齢、居住地の分布は、令和2年国勢調査 人口等基本集計の人口分布に基づき、割付。
回収数は次の通りである。

I. 調査概要

回収数	20～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60～79歳		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
北海道	86	5	5	6	6	8	8	7	8	15	18
青森県	20	1	1	1	1	2	2	2	2	4	4
岩手県	20	1	1	1	1	2	2	2	2	4	4
宮城県	37	2	2	3	3	4	4	3	3	6	7
秋田県	15	1	1	1	1	1	1	1	1	3	4
山形県	16	1	1	1	1	2	1	1	1	3	4
福島県	32	2	2	2	2	3	3	3	3	6	6
茨城県	45	3	2	3	3	5	4	4	4	8	9
栃木県	32	2	2	2	2	3	3	3	3	6	6
群馬県	32	2	2	2	2	3	3	3	3	6	6
埼玉県	116	8	8	9	8	12	11	11	10	19	20
千葉県	100	7	6	8	7	10	10	9	9	16	18
東京都	224	17	18	20	20	24	23	21	20	29	32
神奈川県	149	10	10	12	11	16	15	15	14	22	24
新潟県	35	2	2	3	2	3	3	3	3	7	7
富山県	16	1	1	1	1	2	2	1	1	3	3
石川県	18	1	1	1	1	2	2	2	2	3	3
福井県	12	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2
山梨県	12	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2
長野県	32	2	2	2	2	3	3	3	3	6	6
岐阜県	32	2	2	2	2	3	3	3	3	6	6
静岡県	56	3	3	4	4	6	5	5	5	10	11
愛知県	118	8	8	10	9	13	12	11	10	18	19
三重県	30	2	2	2	2	3	3	3	3	5	5
滋賀県	23	2	1	2	2	2	2	2	2	4	4
京都府	42	3	3	3	3	4	4	3	4	7	8
大阪府	139	10	10	10	10	14	14	13	13	21	24
兵庫県	85	5	5	6	6	8	9	8	8	14	16
奈良県	20	1	1	1	1	2	2	2	2	4	4
和歌山県	14	1	1	1	1	1	1	1	1	3	3
鳥取県	10	0	0	1	1	1	1	1	1	2	2
島根県	12	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2
岡山県	29	2	2	2	2	3	3	2	2	5	6
広島県	43	3	3	3	3	4	4	4	4	7	8
山口県	21	1	1	1	1	2	2	2	2	4	5
徳島県	12	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2
香川県	14	1	1	1	1	1	1	1	1	3	3
愛媛県	20	1	1	1	1	2	2	2	2	4	4
高知県	12	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2
福岡県	79	5	5	6	6	8	8	6	7	13	15
佐賀県	13	1	1	1	1	1	1	1	1	2	3
長崎県	20	1	1	1	1	2	2	2	2	4	4
熊本県	26	1	2	2	2	2	2	2	2	5	6
大分県	18	1	1	1	1	2	2	1	2	3	4
宮崎県	16	1	1	1	1	1	2	1	1	3	4
鹿児島県	24	1	1	2	2	2	2	2	2	5	5
沖縄県	23	2	2	2	2	2	2	2	2	3	4
全体	2000	131	130	149	144	199	194	179	179	331	364

◆地方予報区に該当する都道府県

地方予報区	都道府県
北海道地方	北海道
東北地方	青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県 福島県
関東甲信地方	茨城県 栃木県 群馬県 埼玉県 千葉県 東京都 神奈川県 山梨県 長野県
東海地方	岐阜県 静岡県 愛知県 三重県
北陸地方	新潟県 富山県 石川県 福井県
近畿地方	滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山県
中国地方	鳥取県 島根県 岡山県 広島県
四国地方	徳島県 香川県 愛媛県 高知県
九州北部地方	山口県 福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県
九州南部・奄美地方	宮崎県 鹿児島県
沖縄地方	沖縄県

4) 実施期間

2021年12月15日(水)～2021年12月20日(月)

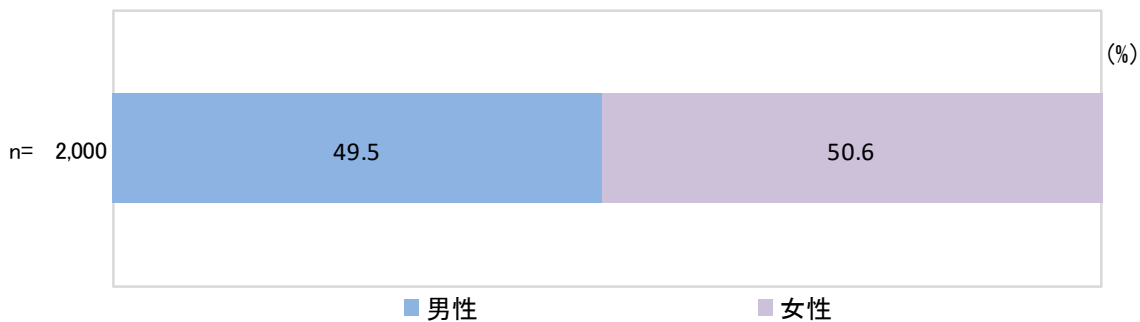
3. 集計・分析の記述について

- 図表中のnは回答者の数（母数）であり、回答比率（%）算出の基数を表している。
- 回答比率（%）は、小数点第2位を四捨五入して、小数点第1位までを表示している。このため、回答比率の合計が100%にならないことがある。
- 2つ以上の複数回答ができる設問では、回答比率の合計は原則として100%を超える。
- 調査数（n値）が30未満のものは、統計上、回答構成比の信頼性が低いため、文章中の分析では言及していない。

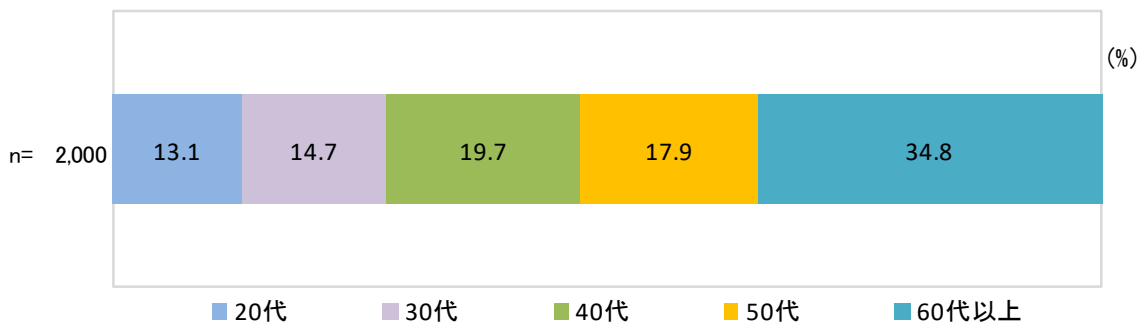
II. アンケート調査結果

1. 対象者属性

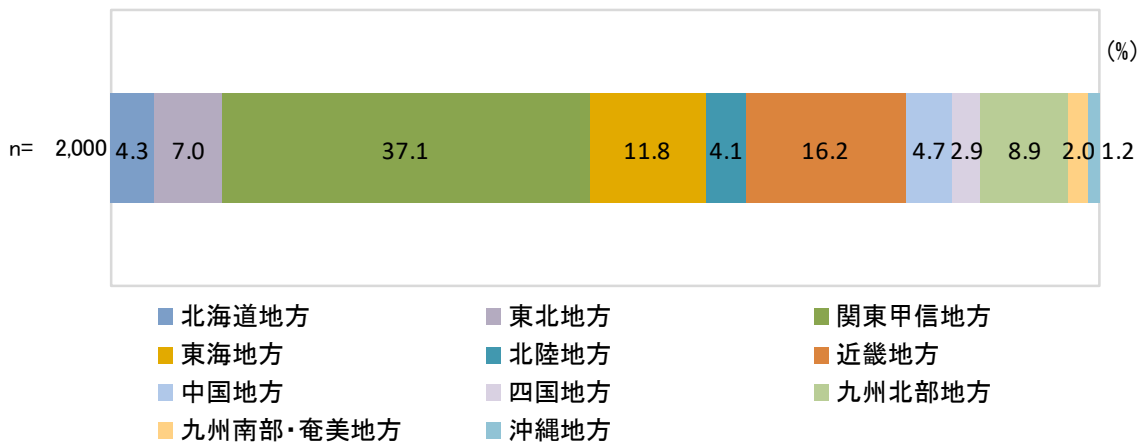
性



年代



居住地

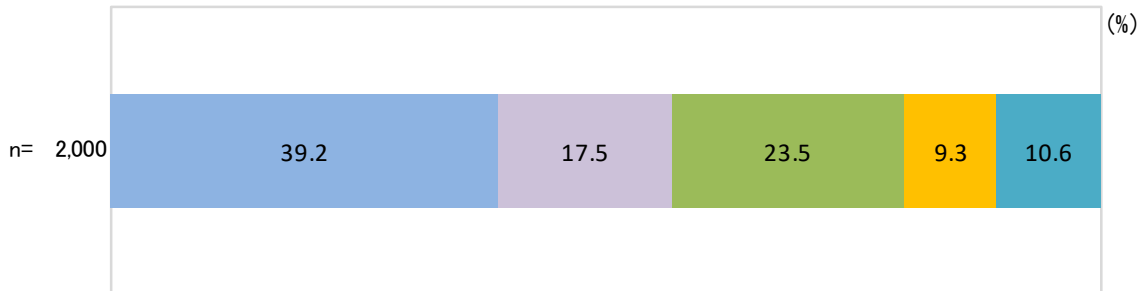


II. アンケート調査結果

2. 防災についての意識

(1) 居住地の災害リスク把握

Q1. あなたは自分の住んでいる地域で、大雨や台風などによる災害リスクがあるかどうか知っていますか。あなたの状況に最も近いものを1つ選んでください。



- 自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している
- 自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している
- 自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはあると思っている
- 自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている
- 自分の住む地域の災害リスクについて考えたことはない

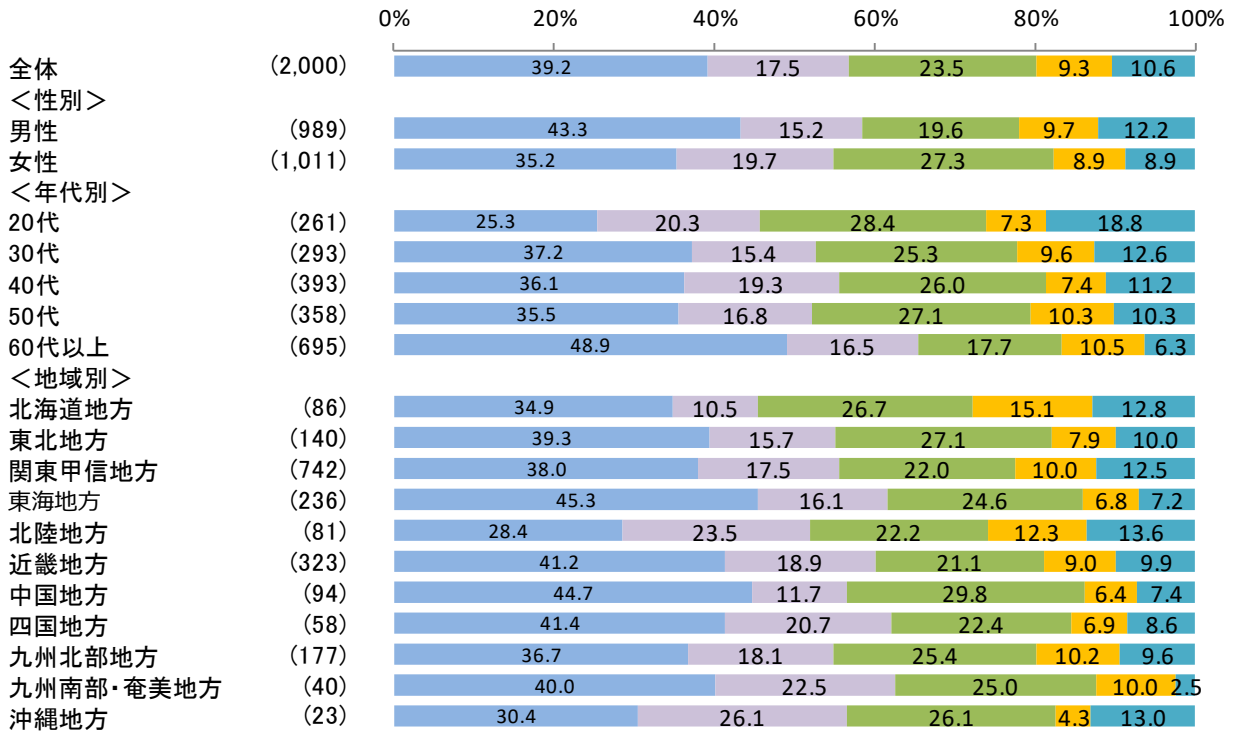
居住地の災害リスク把握については、「自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している」が39.2%、「自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している」が17.5%となり、両者を合わせた居住地の災害リスクを何らかの手段で把握している人は56.7%となっている。

* ■はR3+10ポイント以上、■はR3+5ポイント以上、■はR3-10ポイント以下、■はR3-5ポイント以下 (%)

	n	自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している (%)	自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している (%)	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはあると思っている (%)	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている (%)	自分の住む地域の災害リスクについて考えたことはない (%)
R3	2,000	39.2	17.5	23.5	9.3	10.6
R1	2,000	37.3	17.0	25.8	8.8	11.2

居住地の災害リスク把握を令和元年度調査と比較すると、傾向に変化は見られない。

Ⅱ. アンケート調査結果



- 自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している
- 自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している
- 自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはあると思っている
- 自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている
- 自分の住む地域の災害リスクについて考えたことはない

※ベースがn=29 以下は参考値

性別にみると、男性は「自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している」が43.3%とやや高く、女性は「自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはあると思っている」が27.3%とやや高い。

年代別では、60代以上で「自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している」が48.9%と高い。一方で、若年層ほど「考えたことがない」の割合が高くなっている。

地域別にみると、東海地方、近畿地方、四国地方、九州南部・奄美地方では、「自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している」と「自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いてある程度把握している」を合わせた居住地の災害リスクを何らかの手段で把握している人が60.1~62.5%とやや高くなっている。

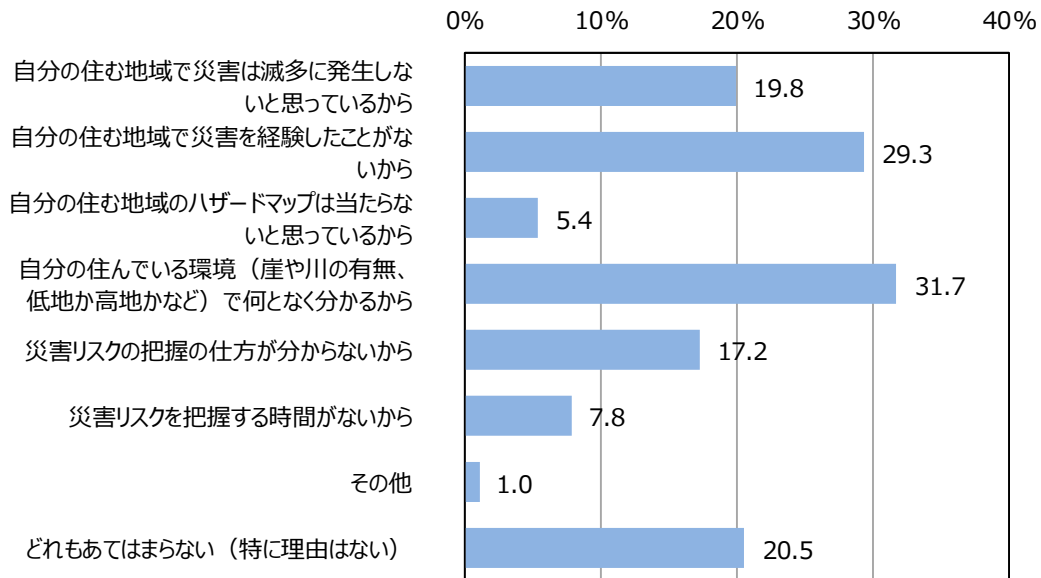
II. アンケート調査結果

(2) 居住地の災害リスクを把握していない理由

Q2. あなたが自分の住む地域の災害リスクを具体的に把握していない理由は何ですか。あてはまるものを全て選んでください。

n=867 ベース：居住地の災害リスク把握で、把握していない・考えたことはないと回答した人

(n=867)



居住地の災害リスクを把握していない理由については、「自分の住んでいる環境（崖や川の有無、低地か高地かなど）で何となく分かるから」（31.7%）、「自分の住む地域で災害を経験したことがないから」（29.3%）が3割前後で上位となっている。

* ■はR3+10ポイント以上、■はR3+5ポイント以上、■はR3-10ポイント以下、■はR3-5ポイント以下

	n	滅多に発生しない地域で災害は発生しないと思っているから	自分の住む地域で災害を経験したことがないから	自分の住む地域のハザードマップは当たらないと思っているから	自分の住んでいる環境（崖や川の有無、低地か高地かなど）で何となく分かるから	災害リスクの把握の仕方が分からないから	災害リスクを把握する時間がないから	その他	どれもあてはまらない（特に理由はない）
R3	867	19.8	29.3	5.4	31.7	17.2	7.8	1.0	20.5
R1	915	12.3	30.4	3.9	35.1	15.6	6.9	0.8	24.0

居住地の災害リスクを把握していない理由を令和元年度調査と比較すると、「自分の住む地域で災害は滅多に発生しないと思っているから」が8ポイント上昇している。

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下
 * 赤字はベースがn=29以下のため参考値

		n	る多自 か分の ら発の 生住 しむ しな地 ない域 と思で つ災 て害 は減	験自 した分の こと住 がむ がない地 いから域 からで 災 害を 経	てマ いる分の は住 当む た地 た域 らな ない と思 つド	自 分の 住 ん で い る 環 境 (崖 や 川 の 有 無 、 低 地 か 高 地 か な ど)で 何 と な く 分 か る か ら	分 災 害 リ ス ク の 把 握 の 仕 方 が 分 か ら な い か ら	災 害 リ ス ク を 把 握 す る 時 間 が な い か ら	そ の 他	に ど れ も あ て は ま ら な い (特 別 理 由 は な い)
全体		867	19.8	29.3	5.4	31.7	17.2	7.8	1.0	20.5
性別	男性	411	22.6	29.2	7.8	31.1	15.6	7.5	1.7	22.1
	女性	456	17.3	29.4	3.3	32.2	18.6	8.1	0.4	19.1
年代別	20代	142	18.3	24.6	7.7	24.6	22.5	13.4	0.7	27.5
	30代	139	15.1	28.1	5.0	24.5	20.9	6.5	0.0	30.2
	40代	175	14.9	28.0	4.6	32.6	17.1	11.4	1.1	20.0
	50代	171	16.4	26.3	6.4	31.0	14.0	8.2	1.2	19.9
	60代以上	240	29.6	35.8	4.2	40.0	14.2	2.5	1.7	11.7
	地域別	北海道地方	47	25.5	21.3	10.6	25.5	14.9	8.5	0.0
東北地方		63	22.2	20.6	9.5	36.5	11.1	7.9	0.0	19.0
関東甲信地方		330	20.0	32.4	5.2	30.6	18.2	6.1	1.2	22.1
東海地方		91	14.3	29.7	4.4	33.0	26.4	8.8	1.1	15.4
北陸地方		39	17.9	33.3	5.1	30.8	17.9	12.8	0.0	15.4
近畿地方		129	18.6	25.6	4.7	31.0	13.2	8.5	2.3	24.8
中国地方		41	24.4	26.8	2.4	36.6	17.1	17.1	0.0	19.5
四国地方		22	27.3	40.9	4.5	18.2	18.2	18.2	0.0	13.6
九州北部地方		80	18.8	23.8	5.0	38.8	13.8	3.8	1.3	18.8
九州南部・奄美地方		15	13.3	53.3	0.0	33.3	20.0	6.7	0.0	13.3
沖縄地方	10	30.0	40.0	10.0	20.0	20.0	0.0	0.0	30.0	

性別にみると、全体と同様の傾向にある。

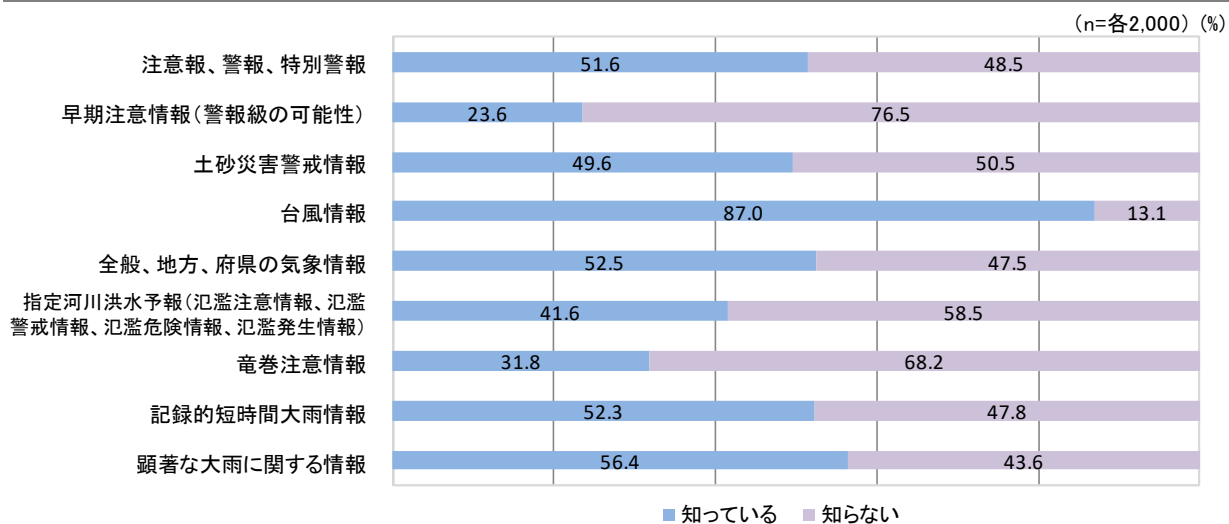
年代別にみると、高齢層ほど、「自分の住んでいる環境（崖や川の有無、低地か高地かなど）で何となく分かるから」の割合が高い傾向がみられる。また、60代以上では、「自分の住む地域で災害は減多に発生しないと思っているから」（29.6%）、「自分の住む地域で災害を経験したことがないから」（35.8%）も高い。

地域別では、北海道地方で「自分の住む地域で災害は減多に発生しないと思っているから」（25.5%）、東海地方で「災害リスクの把握の仕方が分からないから」（26.4%）、九州北部地方で「自分の住んでいる環境で何となく分かるから」（38.8%）がそれぞれやや高くなっている。

II. アンケート調査結果

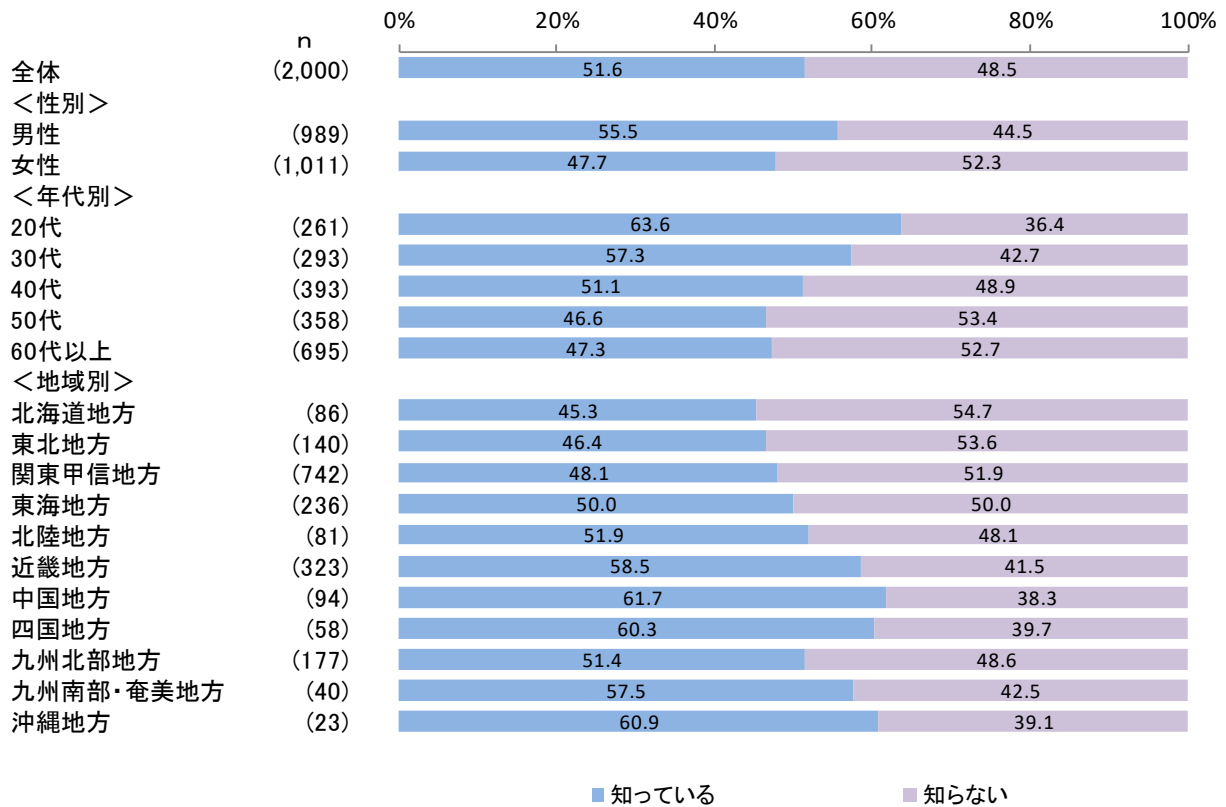
(3) 防災情報の認知度

Q3. あなたは、大雨や台風などによる災害から身を守るために、気象庁から発表される防災情報を知っていますか。知っているものを全て選んでください。知っているものを全て選んでください。



防災情報の認知度については、＜台風情報＞が 87.0%と最も高く、これに＜顕著な大雨に関する情報＞(56.4%)、＜記録的短時間大雨情報＞(52.3%)、＜全般、地方、府県の気象情報＞(52.5%)、＜注意報、警報、特別警報＞(51.6%)が続いている。

①注意報、警報、特別警報



※ベースがn=29以下は参考値

<注意報、警報、特別警報>の認知度は51.6%。

男性の認知度は55.5%で、女性（47.7%）を上回る。

年代別にみると、若年層ほど認知度が高く、20代では63.6%にのぼる。

地域別では、近畿地方（58.5%）、中国地方（61.7%）、四国地方（60.3%）、九州南部・奄美地方（57.5%）で認知度が高い。

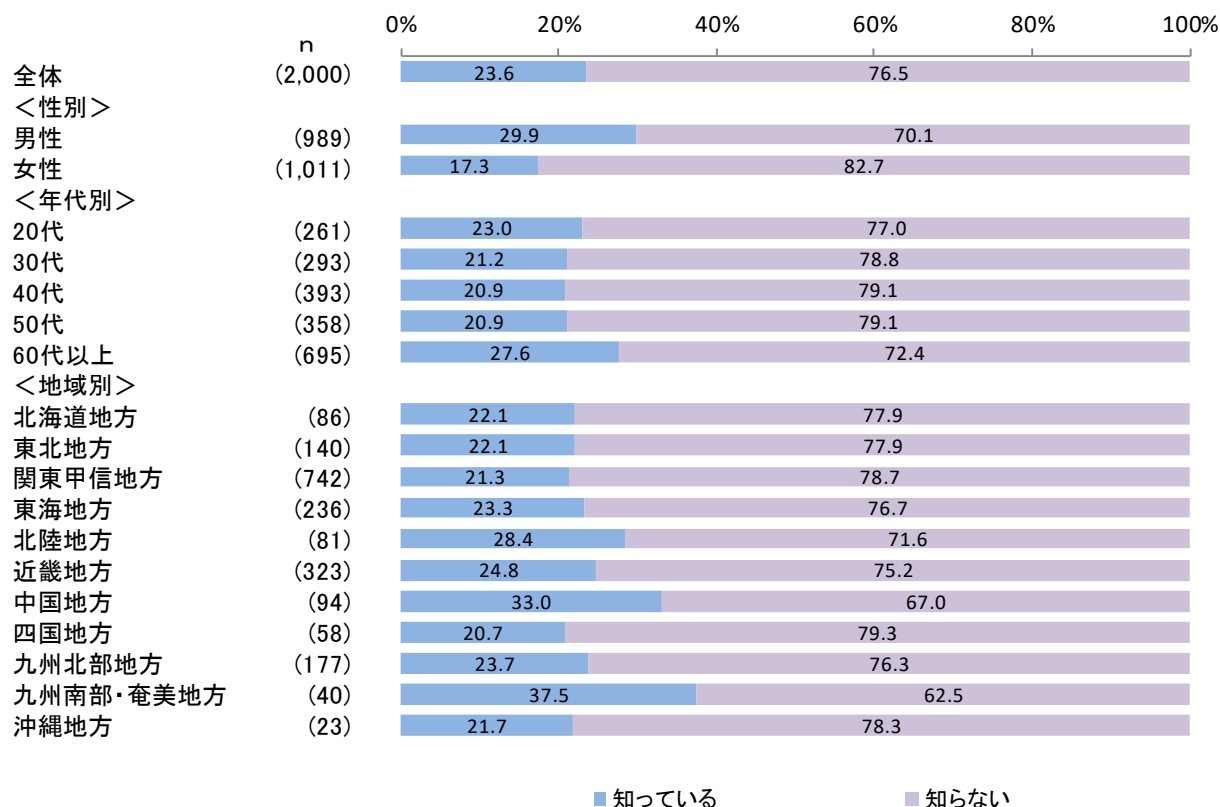
* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下
* 赤字はベースがn=29以下のため参考値

		n	知っている	知らない
全体		2,000	51.6	48.5
Q1 災害リスク把握	自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している	784	64.0	36.0
	自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している	349	60.2	39.8
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはあると思っている	470	45.3	54.7
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている	186	34.9	65.1
	自分の住む地域の災害リスクについて考えたことはない	211	19.4	80.6

居住地の災害リスク把握別にみると、自分の住む地域の災害リスクについての把握の程度が強いほど、認知度が高い傾向にある。

II. アンケート調査結果

②早期注意情報（警報級の可能性）



※ベースがn=29以下は参考値

<早期注意情報（警報級の可能性）>の認知度は23.6%。

男性の認知度は29.9%で、女性（17.3%）を上回る。

年代別にみると、全体と同様の傾向にある。

地域別では、中国地方（33.0%）、九州南部・奄美地方の認知度（37.5%）が3割台と高い。

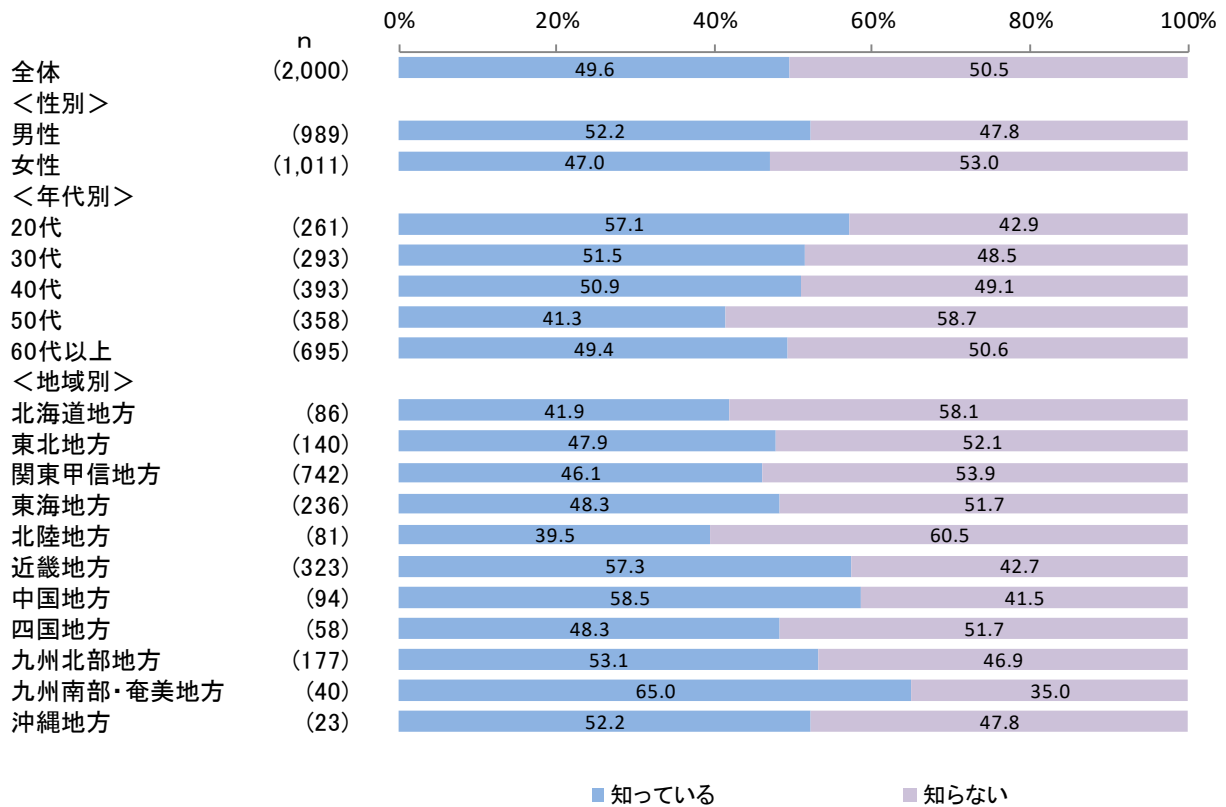
* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下

* 赤字はベースがn=29以下のため参考値

		n	知っている	知らない
全体		2,000	23.6	76.5
Q1・災害リスク把握	自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している	784	34.6	65.4
	自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している	349	25.5	74.5
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはあると思っている	470	15.1	84.9
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている	186	12.9	87.1
	自分の住む地域の災害リスクについて考えたことはない	211	7.6	92.4

居住地の災害リスク把握別にみると、自分の住む地域の災害リスクについての把握の程度が強いほど、認知度が高い傾向にある。

③土砂災害警戒情報



※ベースがn=29以下は参考値

<土砂災害警戒情報>の認知度は49.6%。

男性の認知度は52.2%で、女性（47.0%）を上回る。

年代別にみると、20代の認知度が57.1%と高い。

地域別では、近畿地方（57.3%）、中国地方（58.5%）、九州南部・奄美地方（65.0%）の認知度が高い。

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下
 * 赤字はベースがn=29以下のため参考値

		n	知っている	知らない
全体		2,000	49.6	50.5
Q1 ・ 災 害 リ ス ク 把 握	自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している	784	64.8	35.2
	自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している	349	54.7	45.3
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはあると思っている	470	39.8	60.2
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている	186	33.9	66.1
	自分の住む地域の災害リスクについて考えたことはない	211	19.9	80.1

居住地の災害リスク把握別にみると、自分の住む地域の災害リスクについての把握の程度が強いほど、認知度が高い傾向にある。

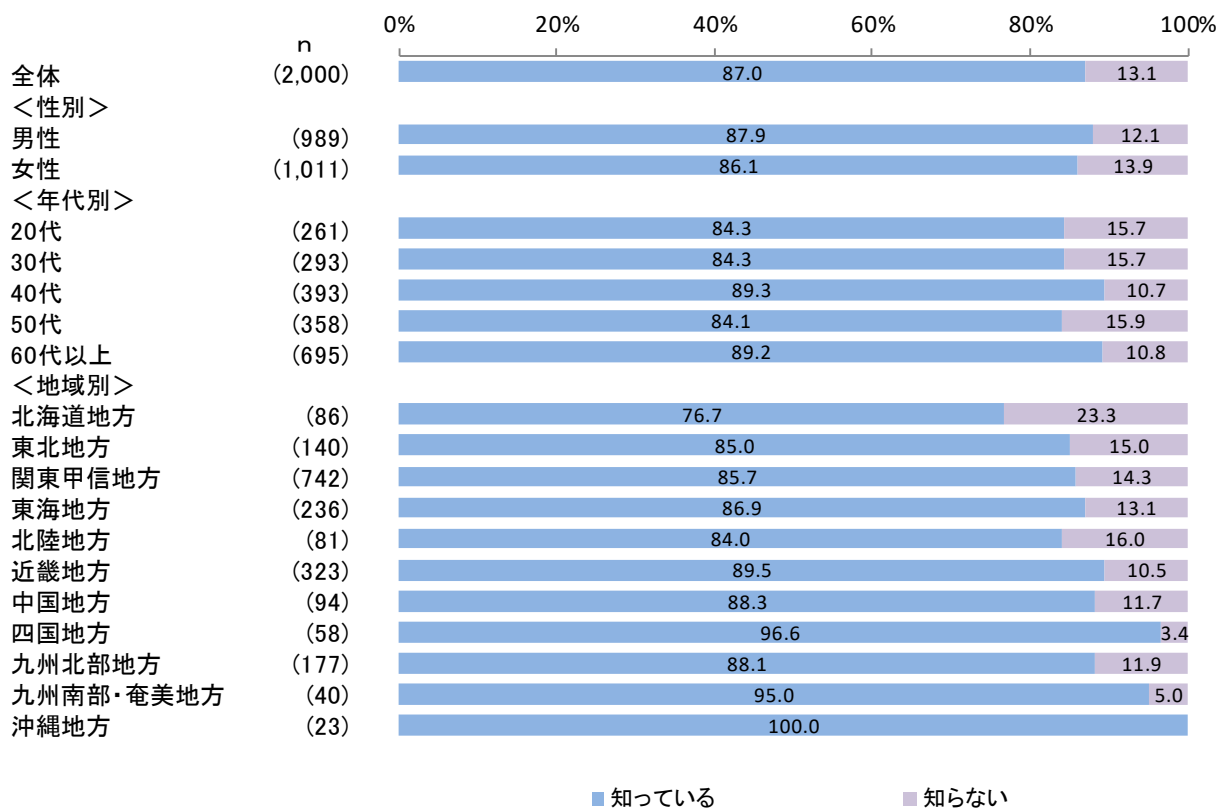
II. アンケート調査結果

④台風情報

* ■はR3+10ポイント以上、■はR3+5ポイント以上、■はR3-10ポイント以下、■はR3-5ポイント以下
(%)

	n	知 っ て い る	知 ら な い
R3	2,000	87.0	13.1
R1	2,000	87.4	12.6

<台風情報>の認知度は87.0%で、令和元年度調査(87.4%)から横ばいとなっている。



※ベースがn=29以下は参考値

性別みると、全体と同様の傾向にある。

年代別にみると、全体と同様の傾向にある。

地域別では、四国地方(96.6%)、九州南部・奄美地方(95.0%)の認知度が高く、9割以上となっている。

Ⅱ. アンケート調査結果

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下

* 赤字はベースがn=29以下のため参考値

		n	知 つ て い る	知 ら な い
全体		2,000	87.0	13.1
Q 1 ・ 災 害 リ ス ク 把 握	自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している	784	94.6	5.4
	自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している	349	92.0	8.0
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはあると思っている	470	88.3	11.7
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている	186	82.3	17.7
	自分の住む地域の災害リスクについて考えたことはない	211	51.2	48.8

居住地の災害リスク把握別にみると、自分の住む地域の災害リスクについての把握の程度が強いほど、認知度が高い傾向にある。

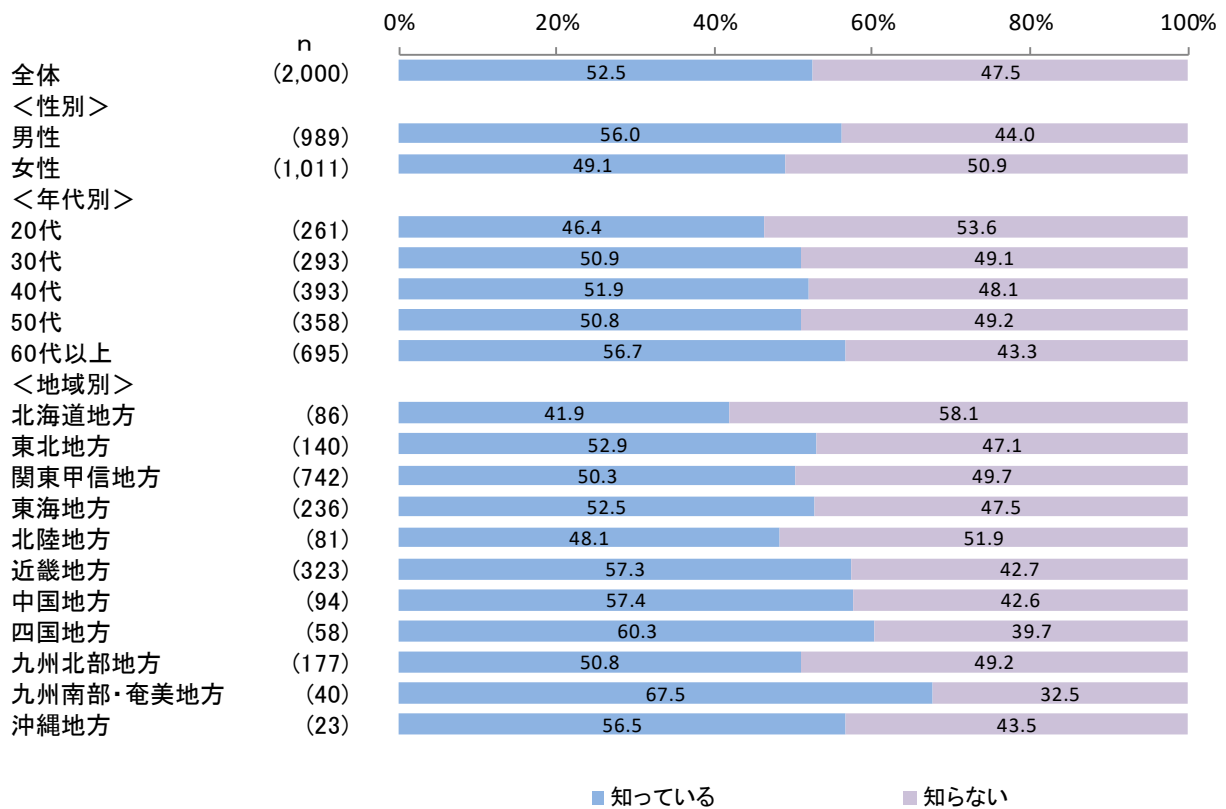
II. アンケート調査結果

⑤全般、地方、府県の気象情報

* ■はR3+10ポイント以上、■はR3+5ポイント以上、■はR3-10ポイント以下、■はR3-5ポイント以下
(%)

	n	知 っ て い る	知 ら な い
R3	2,000	52.5	47.5
R1	2,000	51.9	48.1

＜全般、地方、府県の気象情報＞の認知度は 52.5%で、令和元年度調査（51.9%）から横ばいとなっている。



※ベースがn=29 以下は参考値

男性の認知度は 56.0%で、女性（49.1%）を上回る。
年代別にみると、高年層ほど、認知度が高い傾向にある。
地域別では、九州南部・奄美地方の認知度が 67.5%で最も高い。

Ⅱ. アンケート調査結果

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下

* 赤字はベースがn=29以下のため参考値

		n	知 つ て い る	知 ら な い
全体		2,000	52.5	47.5
Q 1 ・ 災 害 リ ス ク 把 握	自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している	784	65.6	34.4
	自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している	349	56.2	43.8
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはあると思っている	470	46.8	53.2
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている	186	42.5	57.5
	自分の住む地域の災害リスクについて考えたことはない	211	19.4	80.6

居住地の災害リスク把握別にみると、自分の住む地域の災害リスクについての把握の程度が強いほど、認知度が高い傾向にある。

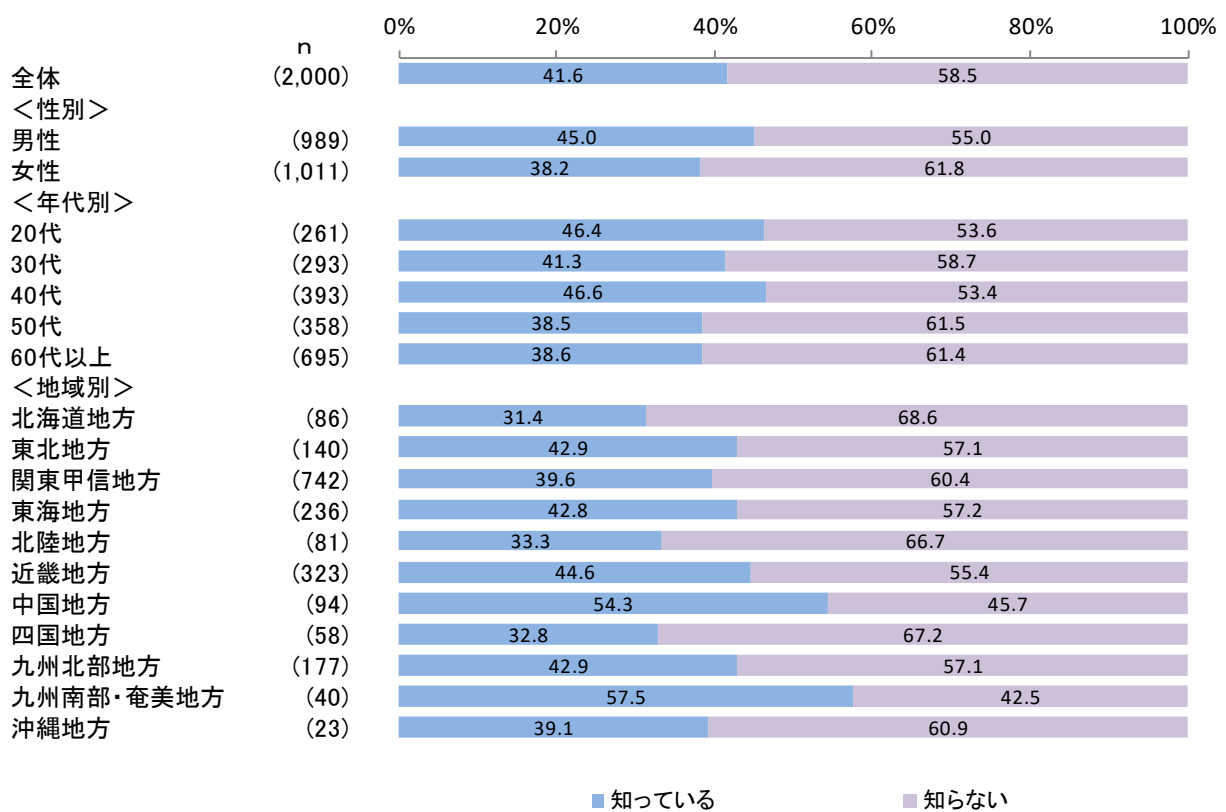
II. アンケート調査結果

⑥指定河川洪水予報（氾濫注意情報、氾濫警戒情報、氾濫危険情報、氾濫発生情報）

* ■はR3+10ポイント以上、■はR3+5ポイント以上、■はR3-10ポイント以下、■はR3-5ポイント以下
(%)

	n	知 っ て い る	知 ら な い
R3	2,000	41.6	58.5
R1	2,000	49.9	50.1

<指定河川洪水予報>の認知度は41.6%で、令和元年度調査（49.9%）よりも8ポイント低下している。



※ベースがn=29以下は参考値

男性の認知度は45.0%で、女性（38.2%）を上回る。

年代別にみると、20代、40代の認知度が46.4%、46.6%とやや高い。

地域別では、中国地方（54.3%）、九州南部・奄美地方の認知度（57.5%）が5割台と高い。

Ⅱ. アンケート調査結果

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下

* 赤字はベースがn=29以下のため参考値

		n	知 つ て い る	知 ら な い
全体		2,000	41.6	58.5
Q 1 ・ 災 害 リ ス ク 把 握	自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している	784	57.9	42.1
	自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している	349	45.6	54.4
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはあると思っている	470	31.1	68.9
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている	186	22.6	77.4
	自分の住む地域の災害リスクについて考えたことはない	211	14.2	85.8

居住地の災害リスク把握別にみると、自分の住む地域の災害リスクについての把握の程度が強いほど、認知度が高い傾向にある。

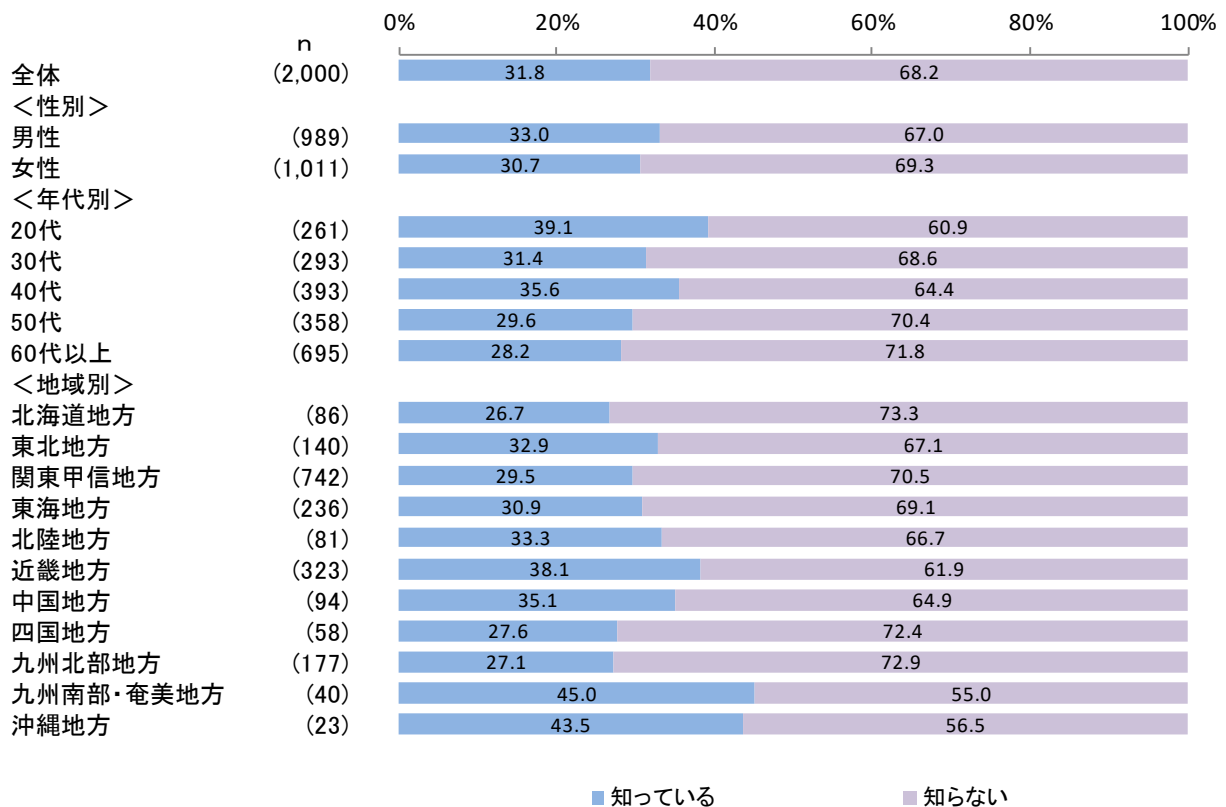
II. アンケート調査結果

⑦竜巻注意情報

* ■はR3+10ポイント以上、■はR3+5ポイント以上、■はR3-10ポイント以下、■はR3-5ポイント以下
(%)

	n	知っている	知らない
R3	2,000	31.8	68.2
R1	2,000	47.5	52.5

<竜巻注意情報>の認知度は31.8%で、令和元年度調査(47.5%)よりも16ポイント低下している。



※ベースがn=29以下は参考値

性別にみると、全体と同様の傾向にある。

年代別にみると、20代の認知度が39.1%と高い。

地域別では、九州南部・奄美地方の認知度が45.0%と高い。

Ⅱ. アンケート調査結果

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下

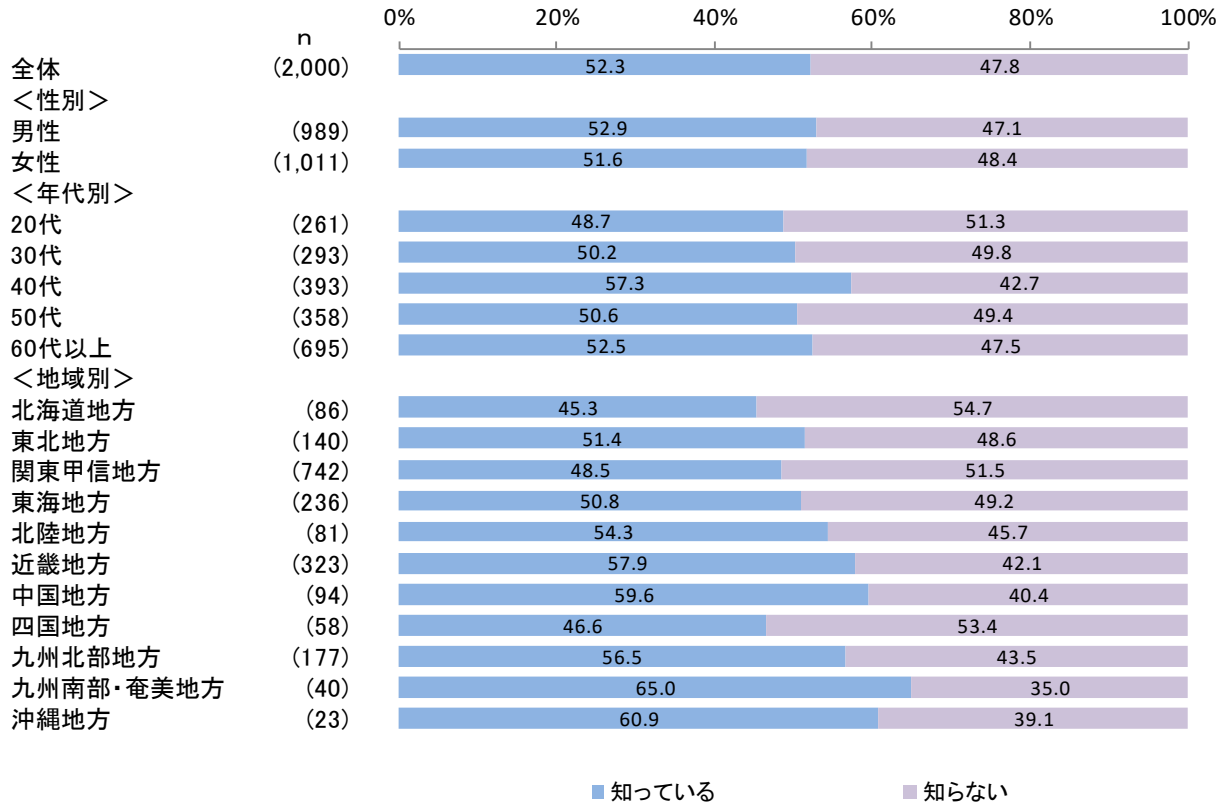
* 赤字はベースがn=29以下のため参考値

		n	知 つ て い る	知 ら な い
全体		2,000	31.8	68.2
Q 1 ・ 災 害 リ ス ク 把 握	自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している	784	41.8	58.2
	自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している	349	34.1	65.9
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはあると思っている	470	24.9	75.1
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている	186	22.6	77.4
	自分の住む地域の災害リスクについて考えたことはない	211	14.2	85.8

居住地の災害リスク把握別にみると、自分の住む地域の災害リスクについての把握の程度が強いほど、認知度が高い傾向にある。

II. アンケート調査結果

⑧記録的短時間大雨情報



※ベースがn=29以下は参考値

<記録的短時間大雨情報>の認知度は52.3%。

性別にみると、全体と同様の傾向にある。

年代別にみると、40代の認知度が57.3%と高い。

地域別では、近畿地方（57.9%）、中国地方（59.6%）、九州南部・奄美地方（65.0%）の認知度が高い。

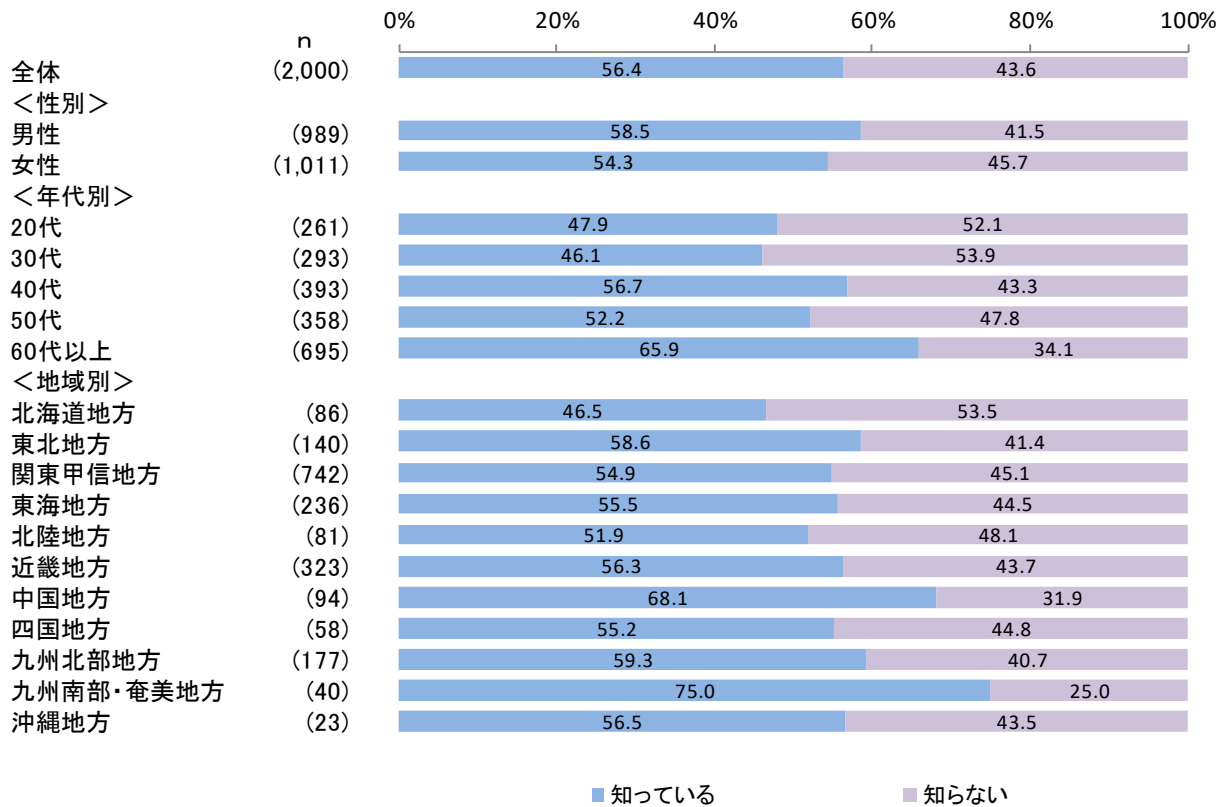
* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下

* 赤字はベースがn=29以下のため参考値

		n	知っている	知らない
全体		2,000	52.3	47.8
Q1・災害リスク把握	自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している	784	65.7	34.3
	自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している	349	54.4	45.6
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはあると思っている	470	48.9	51.1
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている	186	41.9	58.1
	自分の住む地域の災害リスクについて考えたことはない	211	15.2	84.8

居住地の災害リスク把握別にみると、自分の住む地域の災害リスクについての把握の程度が強いほど、認知度が高い傾向にある。

⑨ 顕著な大雨に関する情報



※ベースがn=29以下は参考値

<顕著な大雨に関する情報>の認知度は56.4%。

性別にみると、全体と同様の傾向にある。

年代別にみると、60代以上の認知度が65.9%と高い。

地域別では、中国地方(68.1%)、九州南部・奄美地方(75.0%)の認知度が高い。

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下
 * 赤字はベースがn=29以下のため参考値

		n	知っている	知らない
全体		2,000	56.4	43.6
Q1・災害リスク把握	自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している	784	70.7	29.3
	自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している	349	62.2	37.8
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはあると思っている	470	48.9	51.1
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている	186	45.2	54.8
	自分の住む地域の災害リスクについて考えたことはない	211	20.4	79.6

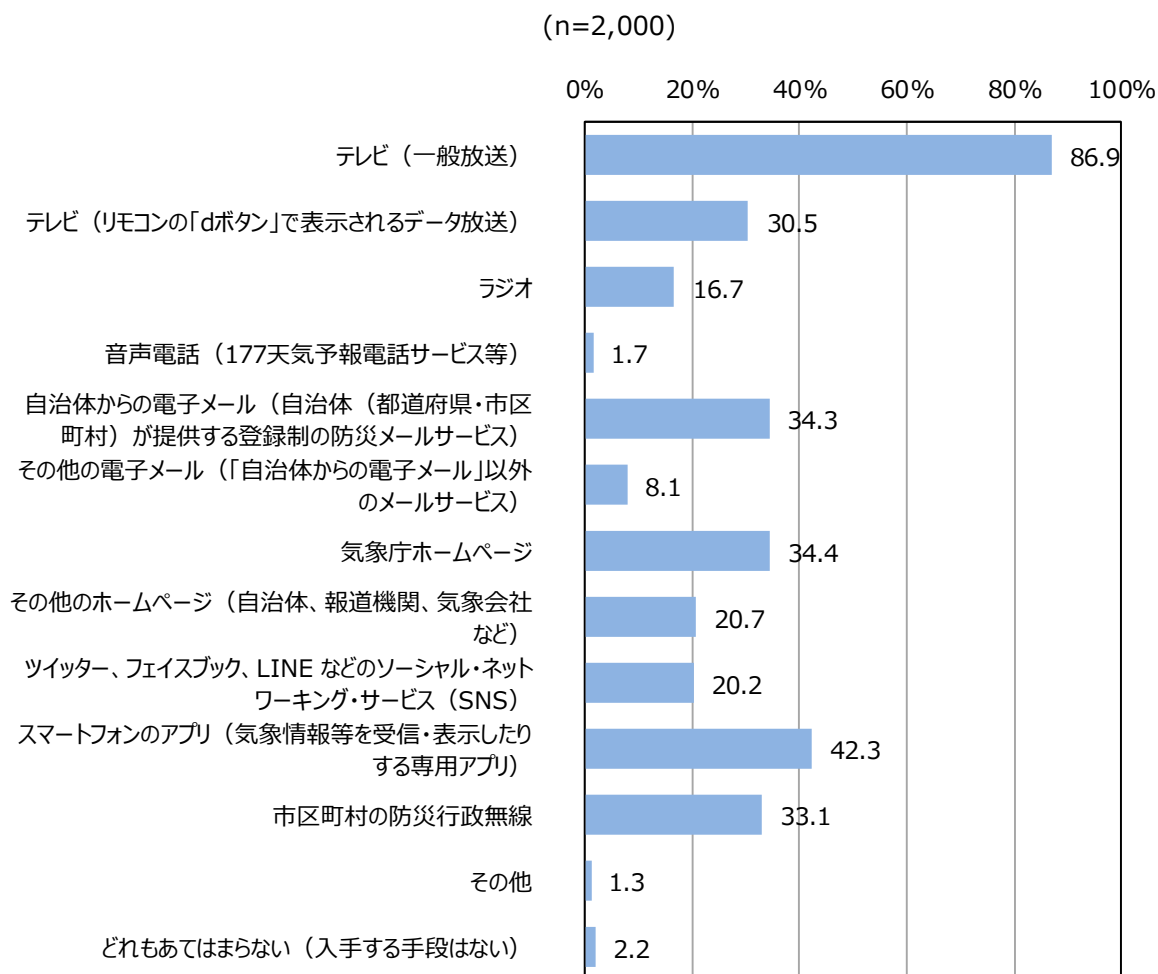
居住地の災害リスク把握別にみると、自分の住む地域の災害リスクについての把握の程度が強いほど、認知度が高い傾向にある。

II. アンケート調査結果

3. 気象庁から発表される防災情報の入手手段

(1) 防災情報の入手手段

Q4. あなたが、大雨警報や台風情報など気象庁から発表される防災情報を入手する手段は何ですか。あてはまるものを全て選んでください。



防災情報の認知経路については、「テレビ（一般放送）」が 86.9%と特に高く、次いで「スマートフォンのアプリ（気象情報等を受信・表示したりする専用アプリ）」（42.3%）、「気象庁ホームページ」（34.4%）、「自治体からの電子メール（自治体（都道府県・市区町村）が提供する登録制の防災メールサービス）」（34.3%）、「市区町村の防災行政無線」（33.1%）、「テレビ（リモコンの「dボタン」で表示されるデータ放送）」（30.5%）となっている。

II. アンケート調査結果

* ■はR3+10ポイント以上、■はR3+5ポイント以上、■はR3-10ポイント以下、■はR3-5ポイント以下

	n	テレビ（一般放送）	テレビ（リモコンの「dボタン」で表示されるデータ放送）	ラジオ	音声電話（177天気予報電話サービス等）	登録制の防災メール（自治体から）	自治体からの電子メール（自治体から）	その他の電子メール（自治体から）	気象庁ホームページ	道機関、気象会社など	その他のホームページ（自治体、報道機関、気象会社など）	LINEなどのソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）	ツイッター、フェイスブック、インスタグラムなどのソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）	リネンなどのソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）	等を受信・表示したりする専用アプリ（気象情報）	スマートフォンアプリ（気象情報）	市区町村の防災行政無線	その他	どれもあてはまらない（入手する手段はない）	どれもあてはまらない（入手する手段はない）
R3	2,000	86.9	30.5	16.7	1.7	34.3	8.1	34.4	20.7	20.2	42.3	33.1	1.3	2.2						
H29	2,000	86.6	19.3	2.5	12.5	46.7	10.9	42.5	11.5	0.1	2.6									

防災情報の認知経路を平成29年度調査と比較すると、「ツイッター、フェイスブック、LINEなどのソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）」が9ポイント、「市区町村の防災行政無線」が22ポイント上昇している。

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下

* 赤字はベースがn=29以下のため参考値

	n	テレビ（一般放送）	テレビ（リモコンの「dボタン」で表示されるデータ放送）	ラジオ	音声電話（177天気予報電話サービス等）	登録制の防災メール（自治体から）	自治体からの電子メール（自治体から）	その他の電子メール（自治体から）	気象庁ホームページ	道機関、気象会社など	その他のホームページ（自治体、報道機関、気象会社など）	LINEなどのソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）	ツイッター、フェイスブック、インスタグラムなどのソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）	リネンなどのソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）	等を受信・表示したりする専用アプリ（気象情報）	スマートフォンアプリ（気象情報）	市区町村の防災行政無線	その他	どれもあてはまらない（入手する手段はない）	どれもあてはまらない（入手する手段はない）
全体	2,000	86.9	30.5	16.7	1.7	34.3	8.1	34.4	20.7	20.2	42.3	33.1	1.3	2.2						
性別																				
男性	989	84.3	32.4	20.5	2.1	32.4	8.5	40.1	24.2	18.2	43.2	33.9	1.4	2.8						
女性	1,011	89.4	28.7	13.0	1.3	36.2	7.7	28.8	17.3	22.2	41.4	32.2	1.1	1.6						
年代別																				
20代	261	79.7	20.7	10.7	1.5	20.3	6.5	35.2	15.3	44.4	40.2	24.9	1.1	5.4						
30代	293	85.0	25.9	14.0	2.7	29.4	3.4	36.5	24.6	32.1	38.9	21.5	0.0	3.1						
40代	393	82.7	31.8	17.6	0.8	35.6	5.1	35.6	22.6	21.4	43.8	29.5	1.3	2.8						
50代	358	86.9	33.0	17.3	1.1	34.6	10.1	34.1	20.1	14.2	45.5	33.5	1.1	2.2						
60代以上	695	92.8	34.1	19.3	2.2	40.7	11.4	32.7	20.3	8.5	42.0	42.7	1.9	0.3						
地域別																				
北海道地方	86	88.4	26.7	24.4	2.3	22.1	3.5	27.9	16.3	23.3	37.2	18.6	1.2	3.5						
東北地方	140	90.7	32.1	25.7	0.7	38.6	10.7	30.0	19.3	22.9	47.1	35.7	0.0	0.7						
関東甲信地方	742	86.8	26.8	14.3	1.5	29.1	7.8	34.5	20.8	22.5	41.4	36.5	0.9	2.2						
東海地方	236	88.1	30.5	14.8	1.7	36.4	9.3	36.9	20.8	16.1	45.8	35.2	1.7	2.1						
北陸地方	81	88.9	28.4	14.8	3.7	37.0	11.1	32.1	21.0	16.0	37.0	27.2	2.5	2.5						
近畿地方	323	87.3	36.8	14.6	1.5	35.9	5.3	37.2	20.1	18.3	44.6	30.7	0.3	3.1						
中国地方	94	81.9	30.9	17.0	1.1	52.1	7.4	37.2	27.7	21.3	36.2	41.5	3.2	0.0						
四国地方	58	81.0	29.3	20.7	0.0	41.4	8.6	25.9	19.0	13.8	34.5	31.0	3.4	1.7						
九州北部地方	177	82.5	31.6	17.5	2.8	39.0	9.6	31.1	20.9	16.9	46.9	26.0	2.3	3.4						
九州南部・奄美地方	40	95.0	45.0	27.5	5.0	32.5	10.0	42.5	20.0	25.0	40.0	30.0	2.5	0.0						
沖縄地方	23	91.3	39.1	30.4	0.0	43.5	21.7	47.8	26.1	30.4	26.1	21.7	0.0	0.0						

性別にみると、男性は「気象庁ホームページ」が40.1%と高い。

年代別では、20代・30代で「ツイッター、フェイスブック、LINEなどのソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）」（44.4%、32.1%）が高く、60代以上で「テレビ（一般放送）」（92.8%）、「自治体からの電子メール」（40.7%）、「市区町村の防災行政無線」（42.7%）がやや高い。

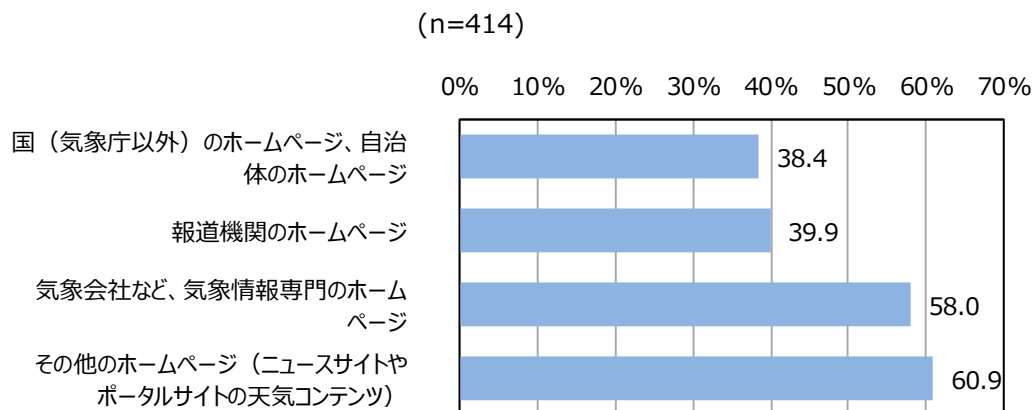
地域別では、四国地方で「自治体からの電子メール」（52.1%）、九州南部・奄美地方で「テレビ（リモコンの「dボタン」で表示されるデータ放送）」（45.0%）、「ラジオ」（27.5%）が高い。

II. アンケート調査結果

(2) 気象庁ホームページ以外で防災情報を入手するホームページ

Q5. あなたが、気象庁ホームページ以外のホームページで、大雨警報や台風情報など気象庁から発表される防災情報を入手する手段は何ですか。あてはまるものを全て選んでください。

n=414 ベース：防災情報の入手手段で、「その他のホームページ」と回答した人



気象庁ホームページ以外で防災情報を入手するホームページは、「気象会社など、気象情報専門のホームページ」(58.0%)、「その他のホームページ（ニュースサイトやポータルサイトの天気コンテンツ）」(60.9%)が6割前後と高い。

Ⅱ. アンケート調査結果

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下
 * 赤字はベースがn=29以下のため参考値

		n	国（気象庁以外）のホームページ	報道機関のホームページ	気象会社など、気象情報専門のホームページ	ポータルサイト、天気	その他のホームページ
全体		414	38.4	39.9	58.0	60.9	
性別	男性	239	43.1	39.3	61.9	58.6	
	女性	175	32.0	40.6	52.6	64.0	
年代別	20代	40	45.0	52.5	57.5	55.0	
	30代	72	26.4	38.9	69.4	61.1	
	40代	89	48.3	40.4	59.6	59.6	
	50代	72	38.9	43.1	54.2	68.1	
	60代以上	141	36.2	34.8	53.2	59.6	
	地域別	北海道地方	14	28.6	57.1	57.1	57.1
東北地方		27	33.3	40.7	55.6	66.7	
関東甲信地方		154	40.3	35.1	57.1	59.7	
東海地方		49	51.0	46.9	55.1	59.2	
北陸地方		17	23.5	17.6	58.8	52.9	
近畿地方		65	38.5	41.5	56.9	60.0	
中国地方		26	38.5	34.6	50.0	57.7	
四国地方		11	27.3	45.5	72.7	63.6	
九州北部地方		37	35.1	43.2	62.2	67.6	
九州南部・奄美地方		8	37.5	87.5	62.5	87.5	
沖縄地方		6	16.7	33.3	100.0	50.0	

性別にみると、男性は「国（気象庁以外）のホームページ、自治体のホームページ」（43.1%）、「気象会社など、気象情報専門のホームページ」（61.9%）がやや高い。

年代別では、20代で「報道機関のホームページ」（52.5%）が高く、30代で「気象会社など、気象情報専門のホームページ」（69.4%）が高い。

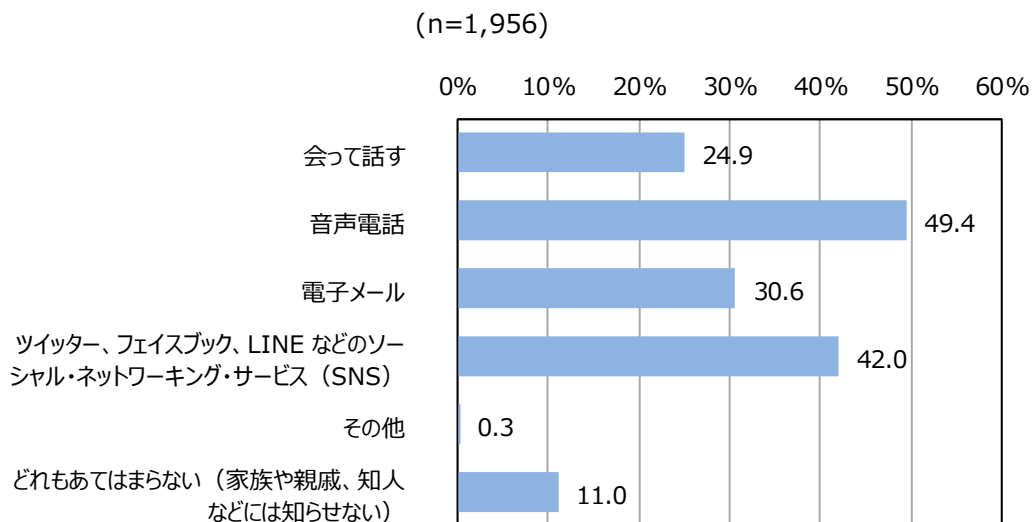
地域別では、東海地方で「国（気象庁以外）のホームページ、自治体のホームページ」（51.0%）が高い。

II. アンケート調査結果

(3) 防災情報の伝達手段

Q6. あなたが、大雨警報や台風情報など気象庁から発表される防災情報を入手した場合、家族や親せき、知人などにどのような手段で知らせますか。あてはまるものを全て選んでください。

n=1,956 ベース：防災情報の入手手段を何らかの方法で入手している人



大雨警報や台風情報など気象庁から発表される防災情報を入手した場合、家族や親せき、知人などに伝達する方法は、「音声電話」が49.4%で最も高く、これに「ツイッター、フェイスブック、LINE などのソーシャル・ネットワーキング・サービス (SNS)」(42.0%)、「電子メール」(30.6%)が続いている。

Ⅱ. アンケート調査結果

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下
 * 赤字はベースがn=29以下のため参考値

	n	会 っ て 話 す	音 声 電 話	電 子 メ ー ル	ト ワ ー キ ン グ ・ サ ー ビ ス (S N S ・ ネ ッ ツ	ツ イ ッ タ ー 、 フ ェ イ ス ブ ッ ク 、 L I N E	そ の 他	ど れ も あ ら な い (家 族 や 親 戚 、 知 人 な ど に は ま ら な い)
全体	1,956	24.9	49.4	30.6	42.0	0.3	11.0	
性別								
男性	961	30.4	47.5	29.9	36.2	0.1	12.4	
女性	995	19.7	51.4	31.3	47.5	0.5	9.7	
年代別								
20代	247	33.6	49.8	22.3	59.1	0.4	8.1	
30代	284	26.1	47.2	27.5	53.9	0.0	9.9	
40代	382	23.8	49.7	29.6	41.6	0.8	10.7	
50代	350	23.4	50.6	31.7	41.7	0.0	10.9	
60代以上	693	22.8	49.5	34.8	31.3	0.3	12.8	
地域別								
北海道地方	83	21.7	56.6	30.1	47.0	0.0	10.8	
東北地方	139	26.6	51.1	25.2	41.7	0.0	11.5	
関東甲信地方	726	23.1	46.3	34.0	43.1	0.4	11.3	
東海地方	231	32.0	50.6	31.2	39.4	0.0	9.5	
北陸地方	79	24.1	51.9	27.8	48.1	0.0	13.9	
近畿地方	313	24.3	50.2	29.4	44.7	0.3	11.2	
中国地方	94	27.7	53.2	28.7	35.1	0.0	9.6	
四国地方	57	26.3	49.1	26.3	31.6	0.0	15.8	
九州北部地方	171	25.1	50.3	28.7	39.2	1.2	9.9	
九州南部・奄美地方	40	22.5	60.0	20.0	40.0	0.0	5.0	
沖縄地方	23	13.0	43.5	26.1	34.8	0.0	17.4	

性別にみると、男性は「会って話す」(30.4%)が高く、女性は「ツイッター、フェイスブック、LINEなどのソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)」(47.5%)が高い。

年代別では、20代・30代で「ツイッター、フェイスブック、LINEなどのソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)」(59.1%、53.9%)が高く50%以上となっている。

地域別では、九州南部・奄美地方で「音声電話」(60.0%)が高い。

II. アンケート調査結果

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下

* 赤字はベースがn=29以下のため参考値

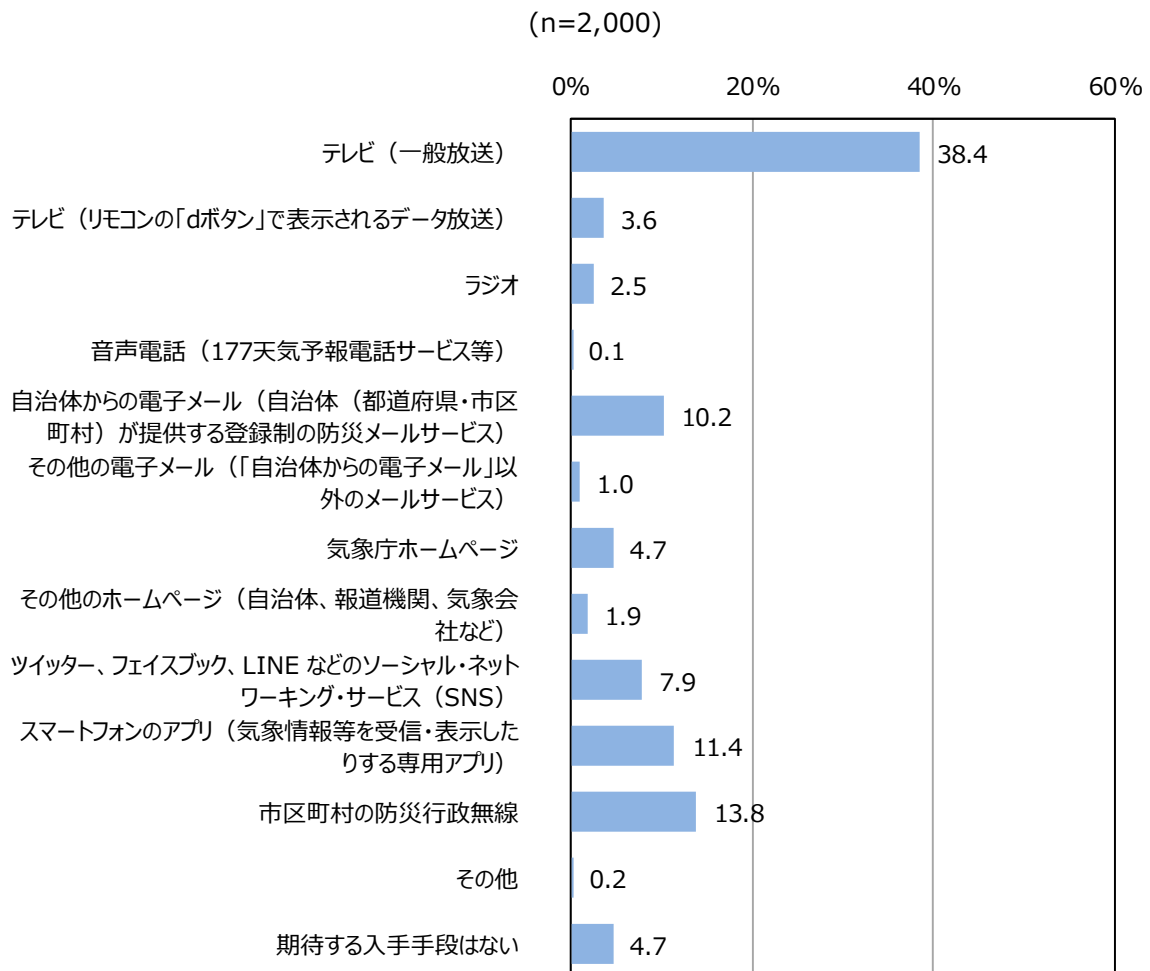
		n	会 っ て 話 す	音 声 電 話	電 子 メ ー ル	ト ワ ー キ ン グ ・ サ ー ビ ス （ ソ シ ヤ ル ・ ネ ッ ト ワ ー キ ン グ ・ サ ー ビ ス ）	ブ ッ ク 、 E - マ イ ル 、 N E ッ ト	そ の 他	ど れ も あ て は ま ら な い （ ど れ も あ て は ま ら な い ）
全体		1,956	24.9	49.4	30.6	42.0	0.3	11.0	
Q 1 ・ 災 害 リ ス ク 把 握	自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している	782	28.5	52.4	34.8	43.9	0.3	7.8	
	自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している	349	27.5	55.3	33.0	45.0	0.6	5.2	
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはあると思っている	466	21.7	47.2	27.3	44.8	0.2	12.0	
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている	182	17.6	43.4	26.4	34.6	0.5	16.5	
	自分の住む地域の災害リスクについて考えたことはない	177	20.3	36.7	20.3	27.7	0.0	28.8	
Q 4 ・ 防 災 情 報 入 手 手 段	テレビ（一般放送）	1,738	26.2	50.6	31.5	41.8	0.3	10.1	
	テレビ（リモコンの「dボタン」で表示されるデータ放送）	610	32.3	56.6	37.2	43.9	0.2	7.9	
	ラジオ	334	34.1	56.6	39.2	42.2	0.3	7.8	
	音声電話（177天気予報電話サービス等）	34	44.1	58.8	47.1	41.2	0.0	5.9	
	自治体からの電子メール（自治体（都道府県・市区町村）が提供する登録制の防災メールサービス）	686	27.7	52.6	39.9	46.2	0.4	6.1	
	その他の電子メール（「自治体からの電子メール」以外のメールサービス）	162	33.3	57.4	46.3	47.5	1.2	7.4	
	気象庁ホームページ	688	30.4	55.1	38.7	45.8	0.3	6.3	
	その他のホームページ（自治体、報道機関、気象会社など）	414	28.0	50.5	37.0	54.6	0.2	8.2	
	ツイッター、フェイスブック、LINEなどのソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）	404	30.2	54.2	30.7	68.6	0.5	5.7	
	スマートフォンのアプリ（気象情報等を受信・表示したりする専用アプリ）	846	24.1	51.8	31.9	52.6	0.6	9.0	
	市区町村の防災行政無線	661	28.1	55.5	38.1	41.0	0.2	6.4	
その他	25	28.0	52.0	32.0	44.0	0.0	8.0		
どれもあてはまらない（入手する手段はない）	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

居住地の災害リスク把握別にみると、自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している層で「音声電話」（55.3%）が高い。

防災情報の入手手段別では、音声電話の層で「会って話す」（44.1%）、「電子メール」（47.1%）が高く、その他の電子メールの層で「電子メール」（46.3%）が高い。また、その他のホームページ、SNS、スマートフォンのアプリの各層は「ツイッター、フェイスブック、LINEなどのソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）」（54.6%、68.6%、52.6%）が高くなっている。

(4-1) 期待する入手手段【最も期待すること】

Q7. あなたが、大雨警報や台風情報など気象庁から発表される防災情報の入手手段について、今後、さらなる充実を期待している手段は何ですか。
最も期待するもの、2番目に期待するもの、3番目に期待するものまで選んでください。



大雨警報や台風情報など気象庁から発表される防災情報の入手手段について、今後、さらなる充実を最も期待している手段は、「テレビ（一般放送）」が38.4%と特に高く、これに「市区町村の防災行政無線」（13.8%）、「スマートフォンのアプリ（気象情報等を受信・表示したりする専用アプリ）」（11.4%）、「自治体からの電子メール（自治体（都道府県・市区町村）が提供する登録制の防災メールサービス）」（10.2%）が続いている。

II. アンケート調査結果

* ■はR3+10ポイント以上、■はR3+5ポイント以上、■はR3-10ポイント以下、■はR3-5ポイント以下

	n	テレビ（一般放送）	テレビ（リモコンの「dボタン」で表示されるデータ放送）	ラジオ	音声電話（177天気予報電話サービス等）	登録制の防災メールサービス（自治体からの電子メール）	（自治体からの電子メール）以外のメールサービス	その他の電子メール	気象庁ホームページ	道機関、気象会社など	その他のホームページ（自治体、報道機関、気象会社など）	Twitter・キング・サービス（SNS）	Twitter、フェイスブック、LINEなどのソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）	リ等を受信・表示したりする専用アプリ	スマートフォンアプリ（気象情報）	市区町村の防災行政無線	その他	期待する入手手段はない
R3	2,000	38.4	3.6	2.5	0.1	10.2	1.0	4.7	1.9	7.9	11.4	13.8	0.2	4.7				
H29	2,000	52.9	2.8	0.6	3.2	13.0	1.5	17.6	3.2	0.1	3.6							

今後、さらなる充実を最も期待している手段を平成29年度調査と比較すると、「スマートフォンのアプリ」が6ポイント低下し、「ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）」が6ポイント、「市区町村の防災行政無線」が11ポイント上昇している。

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下

* 赤字はベースがn=29以下のため参考値

	n	テレビ（一般放送）	テレビ（リモコンの「dボタン」で表示されるデータ放送）	ラジオ	音声電話（177天気予報電話サービス等）	登録制の防災メールサービス（自治体からの電子メール）	（自治体からの電子メール）以外のメールサービス	その他の電子メール	気象庁ホームページ	道機関、気象会社など	その他のホームページ（自治体、報道機関、気象会社など）	Twitter・キング・サービス（SNS）	Twitter、フェイスブック、LINEなどのソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）	リ等を受信・表示したりする専用アプリ	スマートフォンアプリ（気象情報）	市区町村の防災行政無線	その他	期待する入手手段はない
全体	2,000	38.4	3.6	2.5	0.1	10.2	1.0	4.7	1.9	7.9	11.4	13.8	0.2	4.7				
性別																		
男性	989	33.8	3.5	3.2	0.2	9.8	1.3	6.3	2.1	8.9	13.1	11.3	0.3	6.1				
女性	1,011	42.8	3.7	1.7	0.0	10.5	0.7	3.1	1.6	6.9	9.6	16.1	0.1	3.3				
年代別																		
20代	261	38.3	3.4	0.8	0.4	5.4	1.1	4.2	1.1	16.9	12.3	9.2	0.0	6.9				
30代	293	36.9	3.8	3.4	0.0	10.2	0.3	4.1	3.1	13.0	11.6	5.8	0.3	7.5				
40代	393	32.3	1.5	3.6	0.0	10.7	2.0	6.1	3.1	8.7	16.8	11.7	0.3	3.3				
50代	358	41.3	2.8	3.4	0.0	7.5	1.1	5.3	1.4	5.3	12.6	13.4	0.0	5.9				
60代以上	695	40.9	5.2	1.6	0.1	12.9	0.6	3.9	1.2	3.3	7.2	20.1	0.3	2.7				
地域別																		
北海道地方	86	38.4	3.5	7.0	0.0	10.5	1.2	4.7	2.3	4.7	12.8	10.5	0.0	4.7				
東北地方	140	44.3	3.6	2.1	0.0	9.3	1.4	5.0	1.4	5.7	10.0	12.9	0.0	4.3				
関東甲信地方	742	38.0	4.2	2.4	0.1	8.4	0.7	4.6	2.0	10.2	11.6	13.7	0.1	3.9				
東海地方	236	39.8	3.8	0.0	0.0	8.9	1.3	5.1	1.7	4.7	12.3	17.4	0.4	4.7				
北陸地方	81	44.4	1.2	2.5	0.0	12.3	0.0	2.5	1.2	12.3	7.4	12.3	1.2	2.5				
近畿地方	323	36.5	3.1	1.9	0.0	12.4	0.6	5.3	1.9	7.7	10.8	13.9	0.0	5.9				
中国地方	94	36.2	4.3	4.3	0.0	9.6	1.1	7.4	1.1	4.3	10.6	16.0	0.0	5.3				
四国地方	58	36.2	3.4	6.9	1.7	10.3	3.4	3.4	3.4	5.2	5.2	13.8	0.0	6.9				
九州北部地方	177	35.6	4.0	2.8	0.0	14.7	1.7	4.0	1.7	6.8	13.0	9.0	0.6	6.2				
九州南部・奄美地方	40	47.5	0.0	2.5	0.0	7.5	2.5	2.5	2.5	2.5	15.0	17.5	0.0	0.0				
沖縄地方	23	21.7	0.0	0.0	0.0	17.4	0.0	0.0	0.0	17.4	17.4	17.4	0.0	8.7				

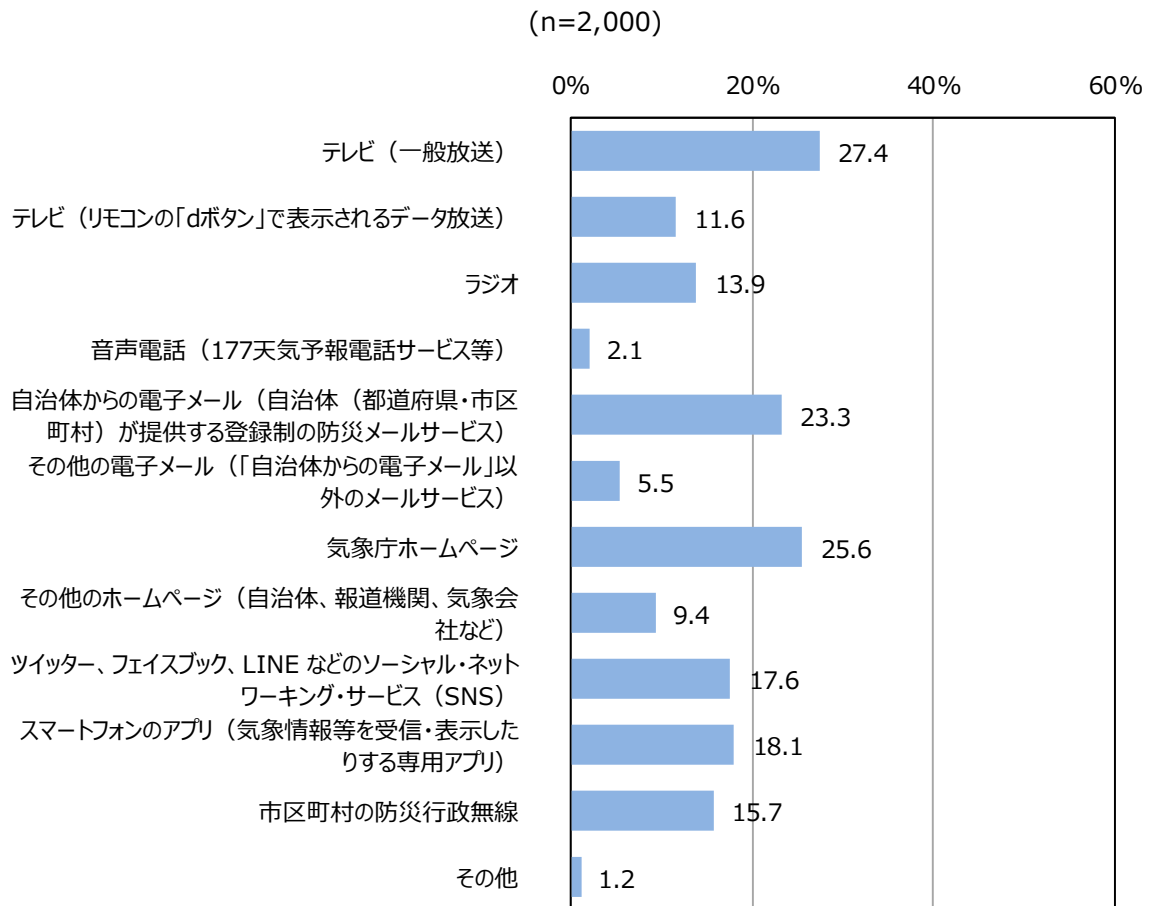
性別にみると、女性は「テレビ（一般放送）」（42.8%）が男性（33.8%）をやや上回っている。

年代別では、20代・30代で「SNS」（16.9%、13.0%）、40代で「スマートフォンのアプリ」（16.8%）、60代以上で「市区町村の防災行政無線」（20.1%）が高くなっている。

地域別では、東北地方、北陸地方、九州南部・奄美地方で「テレビ（一般放送）」（44.3%～47.5%）が高くなっている。

(4-2) 期待する入手手段【2番目、3番目に期待すること（複数回答）】

Q7. あなたが、大雨警報や台風情報など気象庁から発表される防災情報の入手手段について、今後、さらなる充実を期待している手段は何ですか。
最も期待するもの、2番目に期待するもの、3番目に期待するものまで選んでください。



※選択肢は2番目と3番目の期待することの合算値。

天気予報に2番目以降に期待することについては、「テレビ（一般放送）」（27.4%）、「気象庁ホームページ」（25.6%）、「自治体からの電子メール（自治体（都道府県・市区町村）が提供する登録制の防災メールサービス）」（23.3%）が上位となっている。

II. アンケート調査結果

4. 気象庁ホームページ

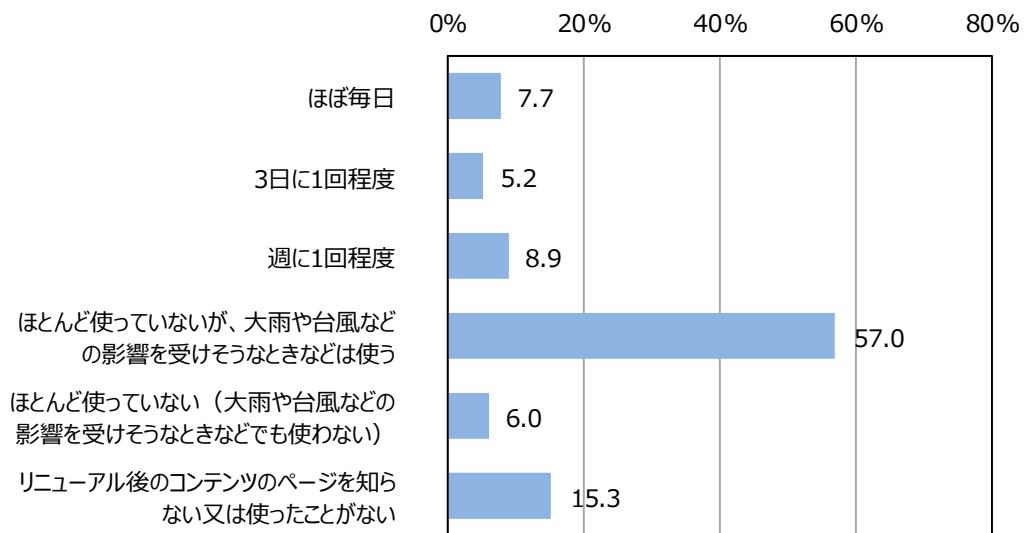
(1-1) リニューアル後のコンテンツ使用頻度

Q8-1. 気象庁では令和3年2月、大雨警報や台風情報など気象庁から発表される防災情報を表示するコンテンツのページをリニューアルしました。
このリニューアル後のコンテンツのページについて、現在のあなたの使用頻度を1つ選んでください。



n=688 ベース：防災情報の入手手段で「気象庁ホームページ」と回答した人

(n=688)



リニューアル後のコンテンツ使用頻度は、「ほとんど使っていないが、大雨や台風などの影響を受けそうときなどは使う」が57.0%と特に高く、これに「リニューアル後のコンテンツのページを知らない又は使ったことがない」(15.3%)が続いている。

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下
 * 赤字はベースがn=29以下のため参考値

		n	ほぼ毎日	3日に1回程度	週に1回程度	うらなときなどは使う	雨や台風などの影響を受け、その	ほとんど使っていないが、大雨	ほとんど使っていない	たのこペリ	のニュー
全体		688	7.7	5.2	8.9	57.0	6.0	15.3			
性別	男性	397	8.8	7.3	10.1	58.4	5.8	9.6			
	女性	291	6.2	2.4	7.2	55.0	6.2	23.0			
年代別	20代	92	4.3	5.4	10.9	50.0	6.5	22.8			
	30代	107	1.9	3.7	10.3	54.2	4.7	25.2			
	40代	140	5.0	5.0	5.7	61.4	6.4	16.4			
	50代	122	9.0	3.3	10.7	54.9	8.2	13.9			
	60代以上	227	12.8	7.0	8.4	59.5	4.8	7.5			
	地域別	北海道地方	24	20.8	0.0	12.5	41.7	4.2	20.8		
東北地方		42	16.7	7.1	2.4	59.5	4.8	9.5			
関東甲信地方		256	8.6	5.5	9.8	55.9	8.2	12.1			
東海地方		87	9.2	8.0	6.9	52.9	4.6	18.4			
北陸地方		26	3.8	3.8	3.8	46.2	11.5	30.8			
近畿地方		120	0.8	3.3	8.3	70.0	3.3	14.2			
中国地方		35	8.6	5.7	8.6	62.9	0.0	14.3			
四国地方		15	0.0	0.0	6.7	66.7	6.7	20.0			
九州北部地方		55	9.1	9.1	7.3	52.7	3.6	18.2			
九州南部・奄美地方		17	5.9	0.0	11.8	58.8	5.9	17.6			
沖縄地方	11	0.0	0.0	45.5	9.1	18.2	27.3				

性別にみると、女性は「リニューアル後のコンテンツのページを知らない又は使ったことがない」(23.0%)が高い。

年代別では、20代・30代で「リニューアル後のコンテンツのページを知らない又は使ったことがない」(22.8%、25.2%)がやや高く、60代以上で「ほぼ毎日」(12.8%)がやや高い。

地域別にみると、「ほぼ毎日」は東北地方(16.7%)で高い。また、「ほとんど使っていないが、大雨や台風などの影響を受けそうなときなどは使う」は近畿地方(70.0%)、中国地方(62.9%)で高くなっている。

II. アンケート調査結果

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下
 * 赤字はベースがn=29以下のため参考値

		n	ほぼ毎日	3日に1回程度	週に1回程度	な影がほど響（ほななテリ ど響、と を大ら 受雨ど 使や使 うそ台つ う風て なな とど きのい	なな い又 いッ はの 使は っパ たル この と知 がら	リ ニ ユ の ー ル 後 の コ ン
全体		688	7.7	5.2	8.9	57.0	6.0	15.3
Q1.災害リスク把握	自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している	349	9.2	6.9	9.2	61.3	4.3	9.2
	自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している	132	9.1	3.8	9.8	60.6	6.1	10.6
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはあると思っている	138	5.1	2.9	6.5	48.6	8.0	29.0
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている	39	5.1	2.6	15.4	48.7	15.4	12.8
	自分の住む地域の災害リスクについて考えたことはない	30	0.0	6.7	3.3	40.0	3.3	46.7
Q4.防災情報入手手段	テレビ（一般放送）	611	7.7	5.2	8.7	57.4	5.7	15.2
	テレビ（リモコンの「dボタン」で表示されるデータ放送）	292	6.8	5.5	8.6	64.0	4.8	10.3
	ラジオ	163	9.8	5.5	8.6	54.6	4.3	17.2
	音声電話（177天気予報電話サービス等）	22	13.6	13.6	4.5	50.0	4.5	13.6
	自治体からの電子メール（自治体（都道府県・市区町村）が提供する登録制の防災メールサービス）	284	8.8	7.4	7.7	59.9	3.9	12.3
	その他の電子メール（「自治体からの電子メール」以外のメールサービス）	75	12.0	10.7	9.3	53.3	2.7	12.0
	気象庁ホームページ	688	7.7	5.2	8.9	57.0	6.0	15.3
	その他のホームページ（自治体、報道機関、気象会社など）	238	7.6	4.6	5.5	63.0	4.6	14.7
	ツイッター、フェイスブック、LINEなどのソーシャル・ネットワーク・サービス（SNS）	172	4.1	4.7	10.5	57.0	4.1	19.8
	スマートフォンのアプリ（気象情報等を受信・表示したりする専用アプリ）	284	6.0	2.8	8.1	64.4	4.2	14.4
市区町村の防災行政無線	277	11.2	7.6	10.8	57.0	4.0	9.4	
その他	10	20.0	0.0	0.0	70.0	0.0	10.0	
どれもあてはまらない（入手する手段はない）	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

居住地の災害リスク把握別にみると、自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはあると思っている層と自分の住む地域の災害リスクについて考えたことはない層で「リニューアル後のコンテンツのページを知らない又は使ったことがない」（29.0%、46.7%）が高い。

防災情報の入手手段別では、その他の電子メールの層で「3日に1回程度」（10.7%）がやや高く、テレビ（リモコンの「dボタン」で表示されるデータ放送）、その他のホームページ、スマートフォンのアプリの各層は「ほとんど使っていないが、大雨や台風などの影響を受けそうなときなどは使う」（63.0%～64.4%）がやや高い。

II. アンケート調査結果

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下
 * 赤字はベースがn=29以下のため参考値

		n	ほぼ毎日	3日に1回程度	週に1回程度	影響をうけそうなき	ほとんど使わない	ほとんど使わない	ほとんど使わない	ほとんど使わない	ほとんど使わない
全体		688	7.7	5.2	8.9	57.0	6.0	15.3			
Q5.防災情報入手手段	国（気象庁以外）のホームページ、自治体のホームページ	120	10.0	6.7	5.0	60.8	5.0	12.5			
	報道機関のホームページ	108	8.3	6.5	5.6	65.7	4.6	9.3			
	気象会社など、気象情報専門のホームページ	166	8.4	5.4	7.2	62.0	3.0	13.9			
	その他のホームページ（ニュースサイトやポータルサイトの天気コンテンツ）	141	5.0	3.5	5.0	66.7	4.3	15.6			
Q7(1).最も期待する防災情報の入手手段	テレビ（一般放送）	219	5.9	6.4	7.3	50.7	8.7	21.0			
	テレビ（リモコンの「dボタン」で表示されるデータ放送）	28	7.1	0.0	7.1	71.4	7.1	7.1			
	ラジオ	16	0.0	0.0	6.3	87.5	0.0	6.3			
	音声電話（177天気予報電話サービス等）	2	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0			
	自治体からの電子メール（自治体（都道府県・市区町村）が提供する登録制の防災メールサービス）	74	4.1	2.7	4.1	67.6	4.1	17.6			
	その他の電子メール（「自治体からの電子メール」以外のメールサービス）	13	7.7	0.0	15.4	61.5	7.7	7.7			
	気象庁ホームページ	68	13.2	11.8	7.4	54.4	5.9	7.4			
	その他のホームページ（自治体、報道機関、気象会社など）	16	0.0	0.0	6.3	75.0	0.0	18.8			
	ツイッター、フェイスブック、LINEなどのソーシャル・ネットワーク・サービス（SNS）	60	1.7	0.0	18.3	63.3	3.3	13.3			
	スマートフォンのアプリ（気象情報等を受信・表示したりする専用アプリ）	78	9.0	3.8	3.8	62.8	5.1	15.4			
市区町村の防災行政無線	94	16.0	8.5	18.1	48.9	3.2	5.3				
その他	3	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0				
期待する入手手段はない	17	11.8	5.9	0.0	29.4	5.9	47.1				
Q8(2).コンテンツのページの使いやすさ	とても使いやすい	81	27.2	16.0	7.4	49.4	0.0	0.0			
	やや使いやすい	380	6.8	5.3	11.1	71.6	5.3	0.0			
	やや使いにくい	107	3.7	2.8	10.3	68.2	15.0	0.0			
	とても使いにくい	15	6.7	0.0	13.3	46.7	33.3	0.0			

防災情報の入手手段別にみると、報道機関のホームページ、気象会社など、気象情報専門のホームページ、その他のホームページの各層で「ほとんど使っていないが、大雨や台風などの影響を受けそうなきなどは使う」（62.0%～66.7%）がやや高い。

最も期待する防災情報の入手手段別では、自治体からの電子メールの層で「ほとんど使っていないが、大雨や台風などの影響を受けそうなきなどは使う」（67.6%）が高い。

コンテンツのページの使いやすさ別では、とても使いやすい層で「ほぼ毎日」（27.2%）、「3日に1回程度」（16.0%）が高く、やや使いやすい、やや使いにくい各層で「ほとんど使っていないが、大雨や台風などの影響を受けそうなきなどは使う」（71.6%、68.2%）が高い。

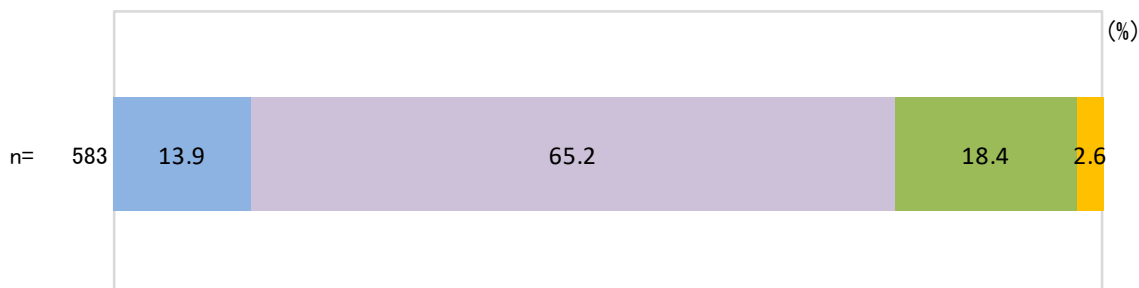
II. アンケート調査結果

(1-2) リニューアル後のコンテンツの評価

Q8-2 気象庁では令和3年2月、大雨警報や台風情報など気象庁から発表される防災情報を表示するコンテンツのページをリニューアルしました。
このリニューアル後のコンテンツのページについて、現在のあなたの考えにもっとも近いものを1つ選んでください。



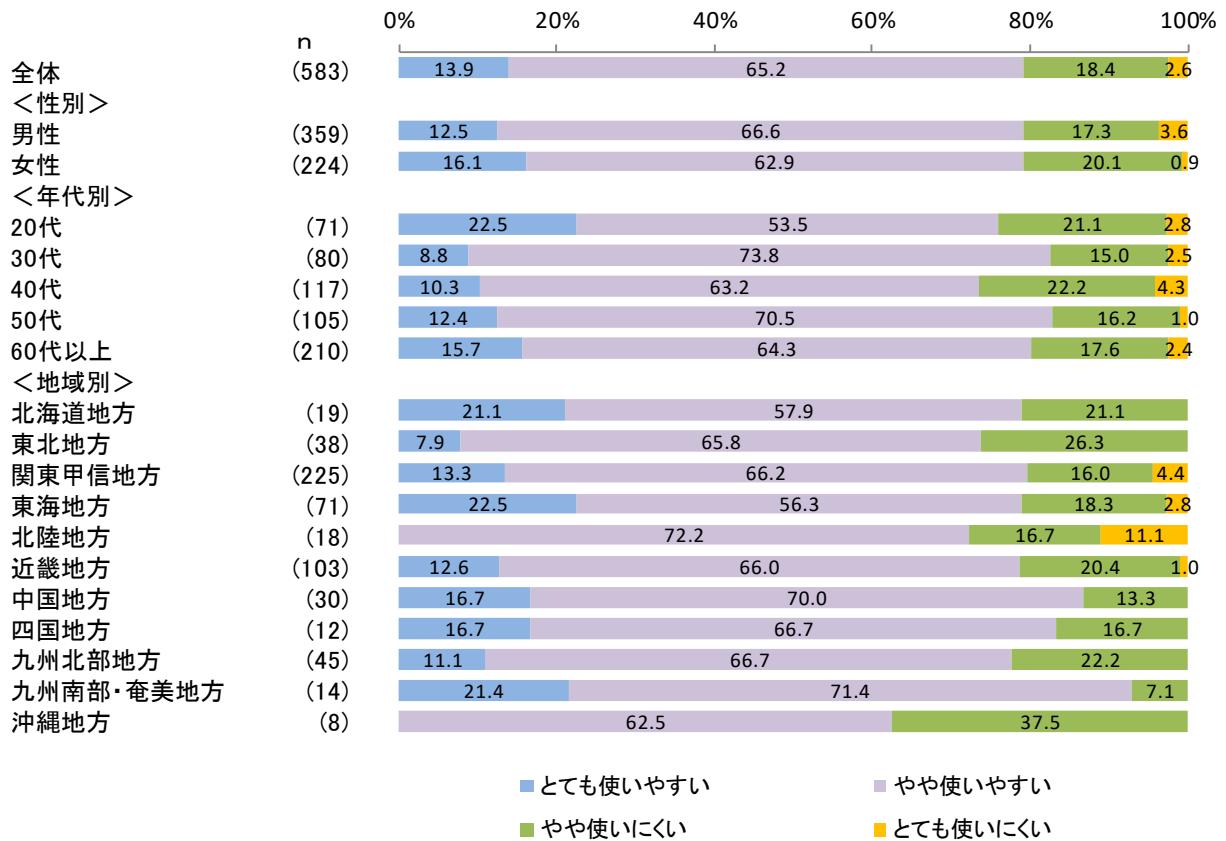
n=583 ベース：リニューアル後のコンテンツ使用頻度について、「ほぼ毎日」～「ほとんど使っていない」のいずれかに回答した人



■ とても使いやすい ■ やや使いやすい ■ やや使いにくい ■ とても使いにくい

リニューアル後のコンテンツの評価は、「とても使いやすい」(13.9%)と「やや使いやすい」(65.2%)の合計で79.1%を占めている。

Ⅱ. アンケート調査結果



※ベースがn=29 以下は参考値

性別にみると、全体と同様の傾向にある。

年代別では、20代では「とても使いやすい」が22.5%と高い。

II. アンケート調査結果

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下
 * 赤字はベースがn=29以下のため参考値

		n	とても使いやすい	やや使いやすい	やや使いにくい	とても使いにくい
全体		583	13.9	65.2	18.4	2.6
Q1.災害リスク把握	自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している	317	15.1	66.2	15.8	2.8
	自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している	118	14.4	64.4	18.6	2.5
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはあると思っている	98	10.2	67.3	21.4	1.0
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている	34	11.8	50.0	32.4	5.9
	自分の住む地域の災害リスクについて考えたことはない	16	12.5	68.8	18.8	0.0
Q4.防災情報入手手段	テレビ（一般放送）	518	14.3	66.4	17.0	2.3
	テレビ（リモコンの「dボタン」で表示されるデータ放送）	262	14.9	65.6	18.3	1.1
	ラジオ	135	14.8	63.0	18.5	3.7
	音声電話（177天気予報電話サービス等）	19	21.1	52.6	21.1	5.3
	自治体からの電子メール（自治体（都道府県・市区町村）が提供する登録制の防災メールサービス）	249	18.5	65.1	14.5	2.0
	その他の電子メール（「自治体からの電子メール」以外のメールサービス）	66	18.2	62.1	15.2	4.5
	気象庁ホームページ	583	13.9	65.2	18.4	2.6
	その他のホームページ（自治体、報道機関、気象会社など）	203	12.8	70.4	14.3	2.5
	ツイッター、フェイスブック、LINEなどのソーシャル・ネットワーク・サービス（SNS）	138	17.4	63.8	15.9	2.9
	スマートフォンのアプリ（気象情報等を受信・表示したりする専用アプリ）	243	12.3	68.7	16.9	2.1
	市区町村の防災行政無線	251	17.9	63.7	16.3	2.0
	その他	9	22.2	55.6	22.2	0.0
どれもあてはまらない（入手する手段はない）	0	0.0	0.0	0.0	0.0	

居住地の災害リスク把握別にみると、自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている層で「やや使いにくい」（32.4%）が高い。

防災情報の入手手段別では、その他のホームページの層で「やや使いやすい」（70.4%）が高い。

Ⅱ. アンケート調査結果

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下

* 赤字はベースがn=29以下のため参考値

		n	とても使いやすい	やや使いやすい	やや使いにくい	とても使いにくい
全体		583	13.9	65.2	18.4	2.6
Q5.防災情報入手手段	国（気象庁以外）のホームページ、自治体のホームページ	105	16.2	68.6	12.4	2.9
	報道機関のホームページ	98	14.3	67.3	16.3	2.0
	気象会社など、気象情報専門のホームページ	143	14.7	68.5	14.7	2.1
	その他のホームページ（ニュースサイトやポータルサイトの天気コンテンツ）	119	9.2	73.1	15.1	2.5
Q7(1).最も期待する防災情報の入手手段	テレビ（一般放送）	173	15.0	64.7	18.5	1.7
	テレビ（リモコンの「dボタン」で表示されるデータ放送）	26	26.9	57.7	11.5	3.8
	ラジオ	15	13.3	73.3	13.3	0.0
	音声電話（177天気予報電話サービス等）	1	0.0	0.0	0.0	100.0
	自治体からの電子メール（自治体（都道府県・市区町村）が提供する登録制の防災メールサービス）	61	9.8	68.9	14.8	6.6
	その他の電子メール（「自治体からの電子メール」以外のメールサービス）	12	16.7	75.0	8.3	0.0
	気象庁ホームページ	63	4.8	65.1	25.4	4.8
	その他のホームページ（自治体、報道機関、気象会社など）	13	0.0	84.6	15.4	0.0
	ツイッター、フェイスブック、LINE などのソーシャル・ネットワーク・サービス（SNS）	52	13.5	61.5	21.2	3.8
	スマートフォンのアプリ（気象情報等を受信・表示したりする専用アプリ）	66	10.6	65.2	24.2	0.0
	市区町村の防災行政無線	89	23.6	64.0	11.2	1.1
その他	3	0.0	33.3	66.7	0.0	
期待する入手手段はない	9	0.0	66.7	33.3	0.0	
Q8(1).コンテンツのページの使用頻度	ほぼ毎日	53	41.5	49.1	7.5	1.9
	3日に1回程度	36	36.1	55.6	8.3	0.0
	週に1回程度	61	9.8	68.9	18.0	3.3
	ほとんど使っていないが、大雨や台風などの影響を受けそうときなどは使う	392	10.2	69.4	18.6	1.8
	ほとんど使っていない（大雨や台風などの影響を受けそうときなどでも使わない）	41	0.0	48.8	39.0	12.2
	リニューアル後のコンテンツのページを知らない又は使ったことがない	0	0.0	0.0	0.0	0.0

Ⅱ. アンケート調査結果

防災情報の入手手段別にみると、その他のホームページの層で「やや使いやすい」(73.1%)が高い。

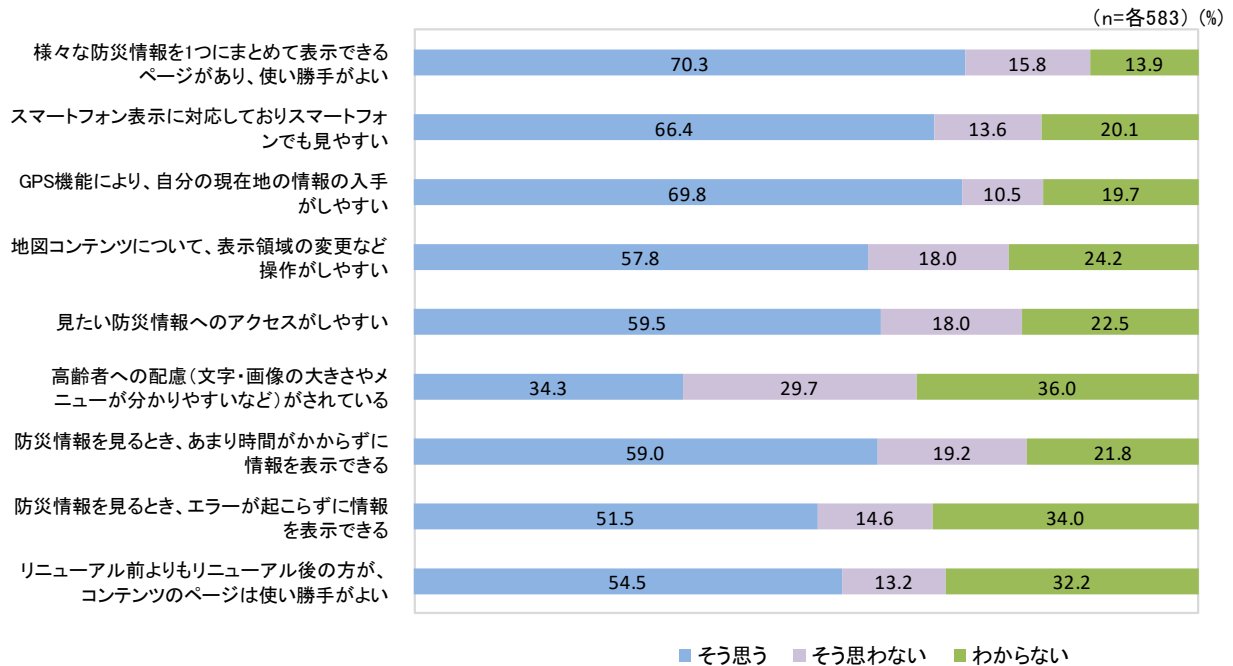
最も期待する防災情報の入手手段別では、市区町村の防災行政無線を挙げた層で「とても使いやすい」(23.6%)が高く、気象庁ホームページ、スマートフォンのアプリを挙げた各層で「やや使いにくい」(25.4%、24.2%)が高い。

コンテンツのページの使用頻度別では、ほぼ毎日、3日に1回程度の各層で「とても使いやすい」(41.5%、36.1%)が高く、ほとんど使っていない層で「やや使いにくい」(39.0%)が高くなっている。

(2) 防災情報の使い勝手

Q9. あなたが、気象庁ホームページで大雨警報や台風情報など気象庁から発表される防災情報を、確認するにあたっての使い勝手について、あてはまるものを全て選んでください。

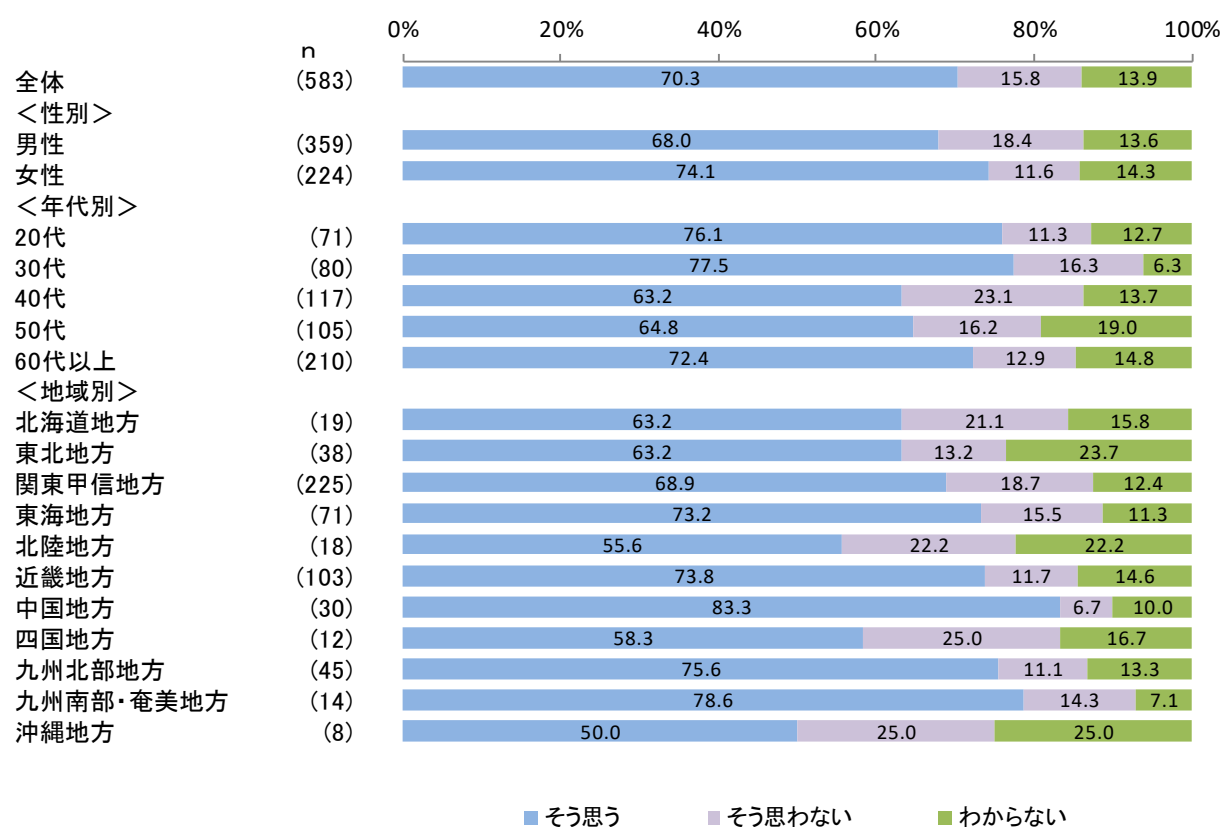
n=583 ベース：リニューアル後のコンテンツ使用頻度について、「ほぼ毎日」～「ほとんど使っていない」のいずれかに回答した人



気象庁から発表される防災情報を確認するにあたっての使い勝手に関する肯定的評価(「そう思う」)は、<様々な防災情報を1つにまとめて表示できるページがあり、使い勝手がよい>が70.3%で最も高く、次いで<GPS機能により、自分の現在地の情報の入手がしやすい>(69.8%)、<スマートフォン表示に対応しておりスマートフォンでも見やすい>(66.4%)となっている。

II. アンケート調査結果

① 様々な防災情報を1つにまとめて表示できるページがあり、使い勝手がよい



※ベースがn=29以下は参考値

<様々な防災情報を1つにまとめて表示できるページがあり、使い勝手がよい>の肯定的評価(「そう思う」)は70.3%。

女性の肯定的評価は74.1%で、男性(68.0%)をやや上回る。

年代別では、20代・30代の肯定的評価(76.1%、77.5%)が高い。

地域別では、中国地方の肯定的評価(83.3%)が高くなっている。

II. アンケート調査結果

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下
 * 赤字はベースがn=29以下のため参考値

		n	そう 思 う	そ う 思 わ な い	わ か ら な い
全体		583	70.3	15.8	13.9
Q1.災害リスク 把握	自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している	317	73.8	15.8	10.4
	自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している	118	72.0	14.4	13.6
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはあると思っている	98	66.3	14.3	19.4
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている	34	52.9	29.4	17.6
	自分の住む地域の災害リスクについて考えたことはない	16	50.0	6.3	43.8
Q4.防災情報 入手手段	テレビ（一般放送）	518	72.6	14.3	13.1
	テレビ（リモコンの「dボタン」で表示されるデータ放送）	262	72.5	13.7	13.7
	ラジオ	135	67.4	18.5	14.1
	音声電話（177天気予報電話サービス等）	19	57.9	15.8	26.3
	自治体からの電子メール（自治体（都道府県・市区町村）が提供する登録制の防災メールサービス）	249	77.5	11.2	11.2
	その他の電子メール（「自治体からの電子メール」以外のメールサービス）	66	71.2	12.1	16.7
	気象庁ホームページ	583	70.3	15.8	13.9
	その他のホームページ（自治体、報道機関、気象会社など）	203	76.8	12.3	10.8
	ツイッター、フェイスブック、LINEなどのソーシャル・ネットワークワーキング・サービス（SNS）	138	77.5	10.9	11.6
	スマートフォンのアプリ（気象情報等を受信・表示したりする専用アプリ）	243	70.0	11.9	18.1
市区町村の防災行政無線	251	70.9	16.7	12.4	
その他	9	55.6	22.2	22.2	
どれもあてはまらない（入手する手段はない）	0	0.0	0.0	0.0	
Q8(1).コンテ ンツのページ の使用頻度	ほぼ毎日	53	79.2	9.4	11.3
	3日に1回程度	36	75.0	13.9	11.1
	週に1回程度	61	62.3	29.5	8.2
	ほとんど使っていないが、大雨や台風などの影響を受けそうときなどは使う	392	71.2	14.5	14.3
	ほとんど使っていない（大雨や台風などの影響を受けそうときなどでも使わない）	41	58.5	17.1	24.4
	リニューアル後のコンテンツのページを知らない又は使ったことがない	0	0.0	0.0	0.0
Q8(2).コンテ ンツのページ の使いやすさ	とても使いやすい	81	92.6	6.2	1.2
	やや使いやすい	380	77.1	11.1	11.8
	やや使いにくい	107	35.5	35.5	29.0
	とても使いにくい	15	26.7	46.7	26.7

II. アンケート調査結果

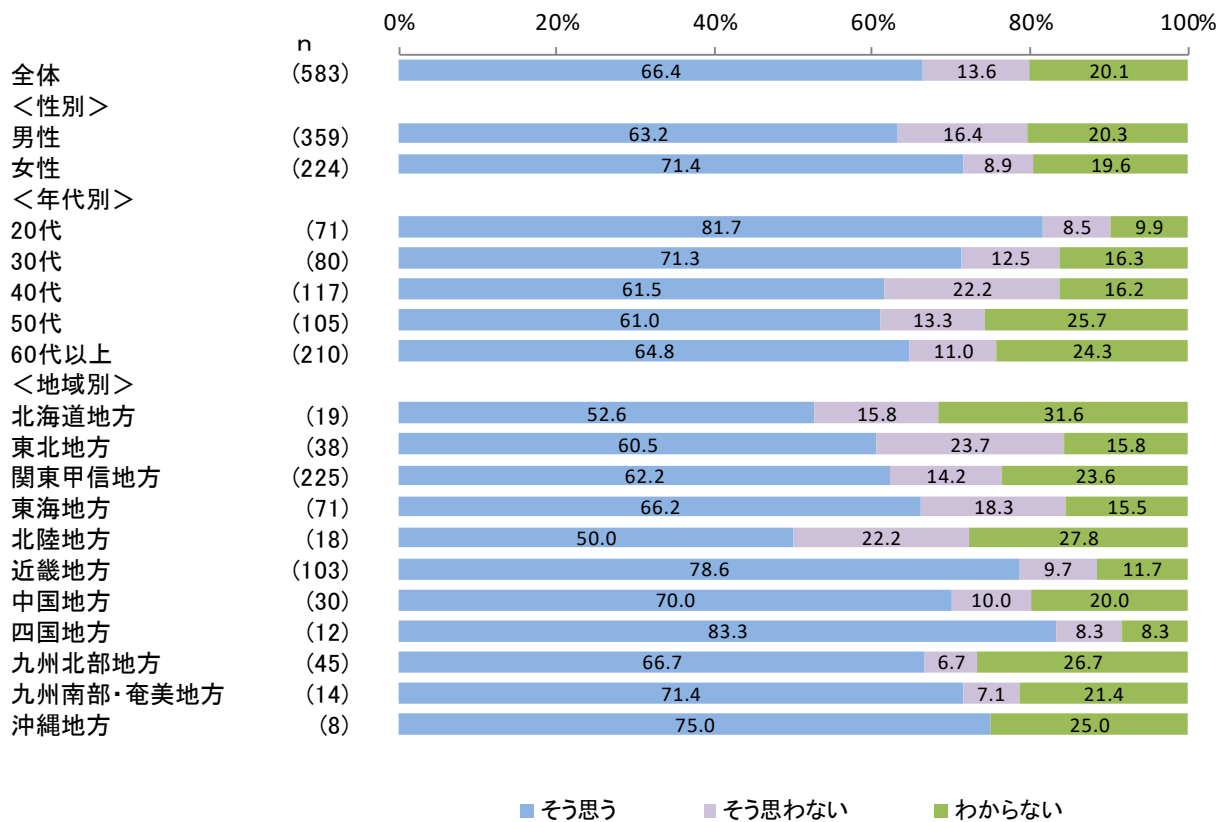
居住地の災害リスク把握別にみると、自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている層は、否定評価（「そう思わない」29.4%）が高い。

防災情報の入手手段別では、自治体からの電子メール、その他のホームページ、SNS の各層で肯定的評価（77.5%～76.8%）が高い。

コンテンツのページの使用頻度別では、ほぼ毎日の層で肯定的評価（79.2%）が高い。また、週1回程度の層で否定的評価（29.5%）が高くなっている。

コンテンツのページの使いやすさ別では、とても使いやすい層で肯定的評価（92.6%）が高い。また、やや使いにくい層で否定的評価（35.5%）が高くなっている。

② スマートフォン表示に対応しておりスマートフォンでも見やすい



※ベースがn=29 以下は参考値

<スマートフォン表示に対応しておりスマートフォンでも見やすい>の肯定的評価(「そう思う」)は66.4%。女性の肯定的評価は71.4%で、男性(63.2%)を上回る。年代別では、20代の肯定的評価(81.7%)が高い。地域別では、近畿地方の肯定的評価(78.6%)が高くなっている。

II. アンケート調査結果

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下
 * 赤字はベースがn=29以下のため参考値

		n	そ う 思 う	そ う 思 わ な い	わ か ら な い
全体		583	66.4	13.6	20.1
Q1.災害リスク 把握	自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している	317	68.5	11.4	20.2
	自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している	118	71.2	14.4	14.4
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはあると思っている	98	63.3	17.3	19.4
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている	34	55.9	17.6	26.5
	自分の住む地域の災害リスクについて考えたことはない	16	31.3	18.8	50.0
Q4.防災情報 入手手段	テレビ（一般放送）	518	67.4	12.7	19.9
	テレビ（リモコンの「dボタン」で表示されるデータ放送）	262	71.4	11.8	16.8
	ラジオ	135	66.7	13.3	20.0
	音声電話（177天気予報電話サービス等）	19	52.6	21.1	26.3
	自治体からの電子メール（自治体（都道府県・市区町村）が提供する登録制の防災メールサービス）	249	70.3	10.0	19.7
	その他の電子メール（「自治体からの電子メール」以外のメールサービス）	66	68.2	16.7	15.2
	気象庁ホームページ	583	66.4	13.6	20.1
	その他のホームページ（自治体、報道機関、気象会社など）	203	65.0	11.3	23.6
	ツイッター、フェイスブック、LINEなどのソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）	138	79.7	7.2	13.0
	スマートフォンのアプリ（気象情報等を受信・表示したりする専用アプリ）	243	73.3	8.2	18.5
	市区町村の防災行政無線	251	72.1	13.1	14.7
その他	9	55.6	11.1	33.3	
	どれもあてはまらない（入手する手段はない）	0	0.0	0.0	0.0
Q8(1).コンテ ンツのページの 使用頻度	ほぼ毎日	53	58.5	22.6	18.9
	3日に1回程度	36	75.0	11.1	13.9
	週に1回程度	61	67.2	21.3	11.5
	ほとんど使っていないが、大雨や台風などの影響を受けそうときなどは使う	392	67.9	11.2	20.9
	ほとんど使っていない（大雨や台風などの影響を受けそうときなどでも使わない）	41	53.7	14.6	31.7
	リニューアル後のコンテンツのページを知らない又は使ったことがない	0	0.0	0.0	0.0
Q8(2).コンテ ンツのページの 使いやすさ	とても使いやすい	81	84.0	7.4	8.6
	やや使いやすい	380	70.3	9.7	20.0
	やや使いにくい	107	45.8	28.0	26.2
	とても使いにくい	15	20.0	40.0	40.0

Ⅱ. アンケート調査結果

防災情報の入手手段別では、SNS、スマートフォンのアプリ、市区町村の防災行政無線の各層で肯定的評価（72.1%～79.7%）が高い。

コンテンツのページの使用頻度別では、3日に1回程度の層で肯定的評価（75.0%）がやや高く、ほぼ毎日、週1回程度の各層で否定的評価（22.6%、21.3%）がやや高い。

コンテンツのページの使いやすさ別では、とても使いやすい層で肯定的評価（84.0%）が高く、やや使いにくい層で否定的評価（28.0%）が高い。

II. アンケート調査結果

③ GPS 機能により、自分の現在地の情報の入手がしやすい



※ベースがn=29以下は参考値

<GPS 機能により、自分の現在地の情報の入手がしやすい>の肯定的評価（「そう思う」）は69.8%。

性別にみると、全体と同様の傾向にある。

年代別では、20代の肯定的評価（80.3%）が高い。

地域別では、近畿地方、中国地方の肯定的評価（77.7%、76.7%）が高くなっている。

II. アンケート調査結果

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下
 * 赤字はベースがn=29以下のため参考値

		n	そう 思 う	そ う 思 わ な い	わ か ら な い
全体		583	69.8	10.5	19.7
Q1. 災害リスク 把握	自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している	317	72.2	7.6	20.2
	自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している	118	70.3	15.3	14.4
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはあると思っている	98	66.3	11.2	22.4
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている	34	67.6	14.7	17.6
	自分の住む地域の災害リスクについて考えたことはない	16	43.8	18.8	37.5
Q4. 防災情報 入手手段	テレビ（一般放送）	518	70.1	10.0	19.9
	テレビ（リモコンの「dボタン」で表示されるデータ放送）	262	69.1	10.7	20.2
	ラジオ	135	65.9	14.1	20.0
	音声電話（177天気予報電話サービス等）	19	68.4	15.8	15.8
	自治体からの電子メール（自治体（都道府県・市区町村）が提供する登録制の防災メールサービス）	249	73.1	8.8	18.1
	その他の電子メール（「自治体からの電子メール」以外のメールサービス）	66	69.7	12.1	18.2
	気象庁ホームページ	583	69.8	10.5	19.7
	その他のホームページ（自治体、報道機関、気象会社など）	203	66.0	10.8	23.2
	ツイッター、フェイスブック、LINEなどのソーシャル・ネットワークワーキング・サービス（SNS）	138	78.3	7.2	14.5
	スマートフォンのアプリ（気象情報等を受信・表示したりする専用アプリ）	243	74.9	5.8	19.3
	市区町村の防災行政無線	251	72.1	10.4	17.5
	その他	9	66.7	0.0	33.3
どれもあてはまらない（入手する手段はない）		0	0.0	0.0	0.0
Q8(1). コンテ ンツのページの 使用頻度	ほぼ毎日	53	71.7	13.2	15.1
	3日に1回程度	36	75.0	8.3	16.7
	週に1回程度	61	73.8	11.5	14.8
	ほとんど使っていないが、大雨や台風などの影響を受けそうなときなどは使う	392	68.9	9.9	21.2
	ほとんど使っていない（大雨や台風などの影響を受けそうなときなどでも使わない）	41	65.9	12.2	22.0
	リニューアル後のコンテンツのページを知らない又は使ったことがない	0	0.0	0.0	0.0
Q8(2). コンテ ンツのページの 使いやすさ	とても使いやすい	81	88.9	1.2	9.9
	やや使いやすい	380	72.9	8.2	18.9
	やや使いにくい	107	48.6	23.4	28.0
	とても使いにくい	15	40.0	26.7	33.3

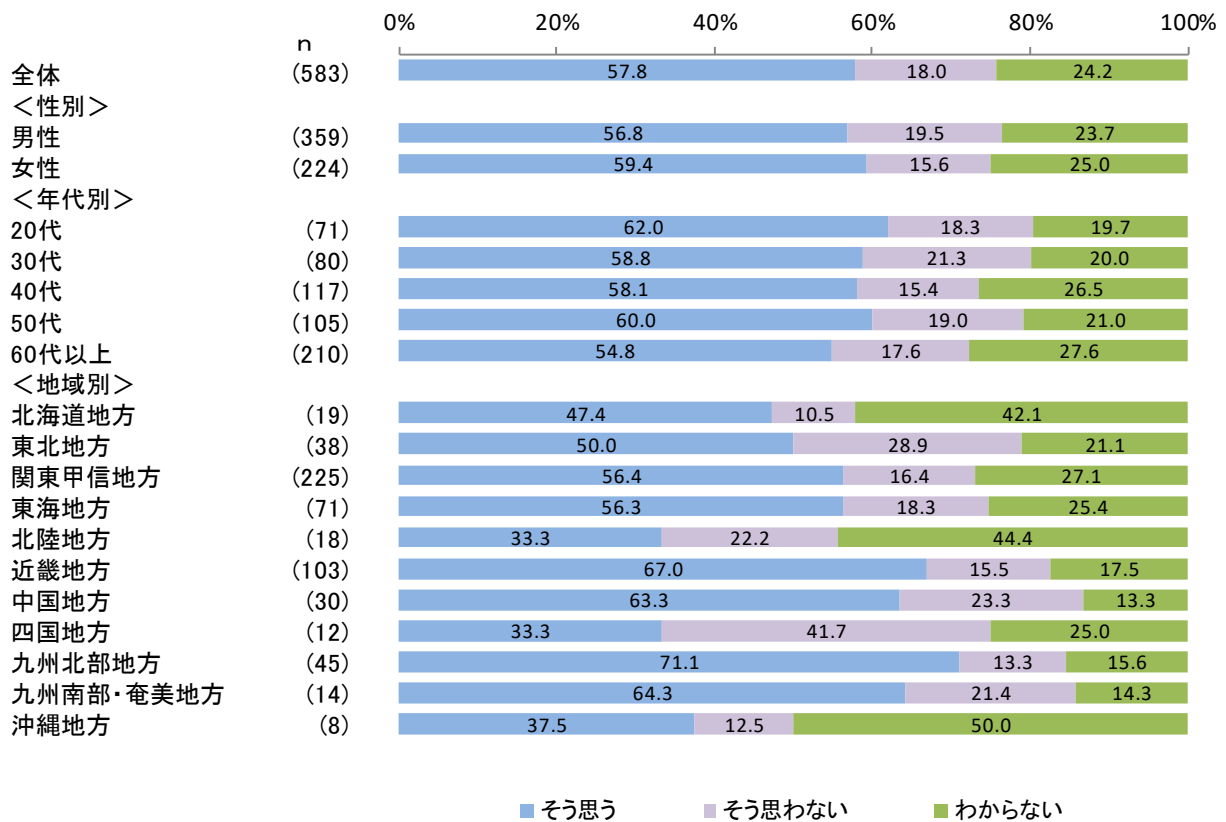
Ⅱ. アンケート調査結果

防災情報の入手手段別では、SNS、スマートフォンのアプリの各層で肯定的評価（78.3%、74.9%）がやや高い。

コンテンツのページの使用頻度別では、3日に1回程度の層で肯定的評価（75.0%）がやや高い。

コンテンツのページの使いやすさ別では、とても使いやすい層で肯定的評価（88.9%）が高く、やや使いにくい層で否定的評価（23.4%）が高い。

④ 地図コンテンツについて、表示領域の変更など操作がしやすい



※ベースがn=29 以下は参考値

＜地図コンテンツについて、表示領域の変更など操作がしやすい＞の肯定的評価（「そう思う」）は57.8%。
 性別にみると、全体と同様の傾向にある。
 年代別にみると、全体と同様の傾向にある。
 地域別では、近畿地方、中国地方、九州北部地方の肯定的評価（67.0%、63.3%、71.1%）が高くなっている。

II. アンケート調査結果

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下
 * 赤字はベースがn=29以下のため参考値

		n	そう 思 う	そ う 思 わ な い	わ か ら な い
全体		583	57.8	18.0	24.2
Q1. 災害リスク 把握	自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している	317	59.3	18.9	21.8
	自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している	118	55.1	18.6	26.3
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはあると思っている	98	59.2	12.2	28.6
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている	34	50.0	29.4	20.6
	自分の住む地域の災害リスクについて考えたことはない	16	56.3	6.3	37.5
Q4. 防災情報 入手手段	テレビ（一般放送）	518	57.3	18.3	24.3
	テレビ（リモコンの「dボタン」で表示されるデータ放送）	262	58.8	19.1	22.1
	ラジオ	135	50.4	23.7	25.9
	音声電話（177天気予報電話サービス等）	19	36.8	26.3	36.8
	自治体からの電子メール（自治体（都道府県・市区町村）が提供する登録制の防災メールサービス）	249	63.1	14.5	22.5
	その他の電子メール（「自治体からの電子メール」以外のメールサービス）	66	54.5	25.8	19.7
	気象庁ホームページ	583	57.8	18.0	24.2
	その他のホームページ（自治体、報道機関、気象会社など）	203	53.2	20.2	26.6
	ツイッター、フェイスブック、LINEなどのソーシャル・ネットワークワーキング・サービス（SNS）	138	59.4	18.1	22.5
	スマートフォンのアプリ（気象情報等を受信・表示したりする専用アプリ）	243	61.7	11.9	26.3
	市区町村の防災行政無線	251	59.4	20.7	19.9
	その他	9	55.6	0.0	44.4
	どれもあてはまらない（入手する手段はない）	0	0.0	0.0	0.0
Q8(1). コンテ ンツのページの 使用頻度	ほぼ毎日	53	64.2	15.1	20.8
	3日に1回程度	36	72.2	16.7	11.1
	週に1回程度	61	50.8	31.1	18.0
	ほとんど使っていないが、大雨や台風などの影響を受けそうなときなどは使う	392	57.9	17.3	24.7
	ほとんど使っていない（大雨や台風などの影響を受けそうなときなどでも使わない）	41	46.3	9.8	43.9
	リニューアル後のコンテンツのページを知らない又は使ったことがない	0	0.0	0.0	0.0
Q8(2). コンテ ンツのページの 使いやすさ	とても使いやすい	81	81.5	8.6	9.9
	やや使いやすい	380	61.1	13.9	25.0
	やや使いにくい	107	31.8	38.3	29.9
	とても使いにくい	15	33.3	26.7	40.0

居住地の災害リスク把握別にみると、自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている層は、否定的評価（29.4%）が高い。

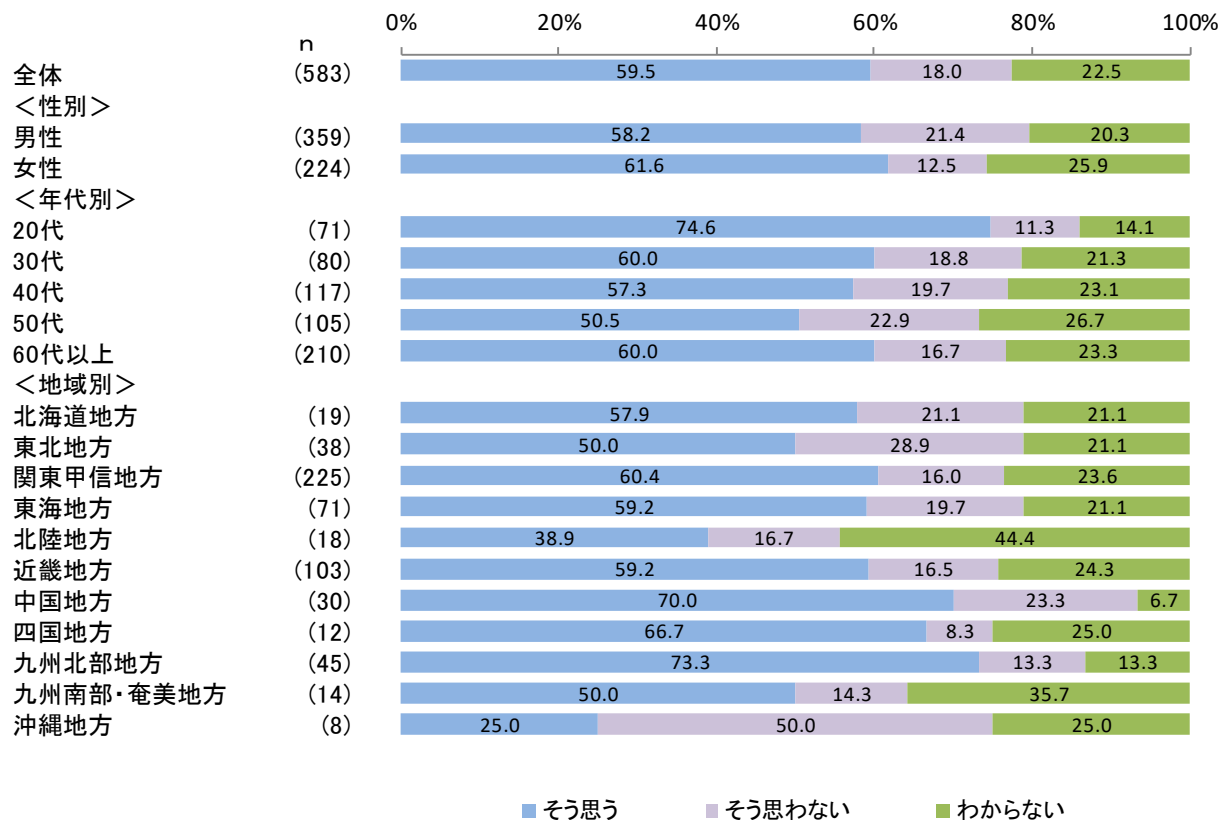
防災情報の入手手段別では、自治体からの電子メールの層で肯定的評価（63.1%）がやや高く、ラジオ、その他の電子メールの各層で否定的評価（23.7%、25.8%）がやや高い。

コンテンツのページの使用頻度別では、ほぼ毎日、3日に1回程度の層で肯定的評価（64.2%、72.2%）が高く、週1回程度の層で否定的評価（31.1%）が高い。

コンテンツのページの使いやすさ別では、とても使いやすい層で肯定的評価（81.5%）が高く、やや使いにくい層で否定的評価（38.3%）が高い。

II. アンケート調査結果

⑤見たい防災情報へのアクセスがしやすい



※ベースがn=29以下は参考値

<見たい防災情報へのアクセスがしやすい>の肯定的評価（「そう思う」）は59.5%。

性別にみると、全体と同様の傾向にある。

年代別では、20代の肯定的評価（74.6%）が高い。

地域別では、中国地方、九州北部地方の肯定的評価（70.0%、73.3%）が高くなっている。

II. アンケート調査結果

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下

* 赤字はベースがn=29以下のため参考値

		n	そう 思う	そう 思わ ない	わ か ら ない
全体		583	59.5	18.0	22.5
Q1.災害リスク 把握	自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している	317	62.5	16.4	21.1
	自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している	118	56.8	19.5	23.7
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはあると思っている	98	59.2	18.4	22.4
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている	34	50.0	23.5	26.5
	自分の住む地域の災害リスクについて考えたことはない	16	43.8	25.0	31.3
Q4.防災情報 入手手段	テレビ（一般放送）	518	60.2	17.6	22.2
	テレビ（リモコンの「dボタン」で表示されるデータ放送）	262	61.1	16.8	22.1
	ラジオ	135	55.6	20.0	24.4
	音声電話（177天気予報電話サービス等）	19	57.9	5.3	36.8
	自治体からの電子メール（自治体（都道府県・市区町村）が提供する登録制の防災メールサービス）	249	65.5	14.5	20.1
	その他の電子メール（「自治体からの電子メール」以外のメールサービス）	66	63.6	13.6	22.7
	気象庁ホームページ	583	59.5	18.0	22.5
	その他のホームページ（自治体、報道機関、気象会社など）	203	57.6	18.7	23.6
	ツイッター、フェイスブック、LINEなどのソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）	138	68.1	13.0	18.8
	スマートフォンのアプリ（気象情報等を受信・表示したりする専用アプリ）	243	61.7	14.8	23.5
市区町村の防災行政無線	251	61.4	16.7	21.9	
その他	9	55.6	22.2	22.2	
	どれもあてはまらない（入手する手段はない）	0	0.0	0.0	0.0
Q8(1).コンテ ンツのページ の使用頻度	ほぼ毎日	53	71.7	13.2	15.1
	3日に1回程度	36	69.4	13.9	16.7
	週に1回程度	61	59.0	27.9	13.1
	ほとんど使っていないが、大雨や台風などの影響を受けそうときなどは使う	392	58.4	17.3	24.2
	ほとんど使っていない（大雨や台風などの影響を受けそうときなどでも使わない）	41	46.3	19.5	34.1
	リニューアル後のコンテンツのページを知らない又は使ったことがない	0	0.0	0.0	0.0
Q8(2).コンテ ンツのページ の使いやすさ	とても使いやすい	81	81.5	7.4	11.1
	やや使いやすい	380	63.7	14.2	22.1
	やや使いにくい	107	32.7	35.5	31.8
	とても使いにくい	15	26.7	46.7	26.7

II. アンケート調査結果

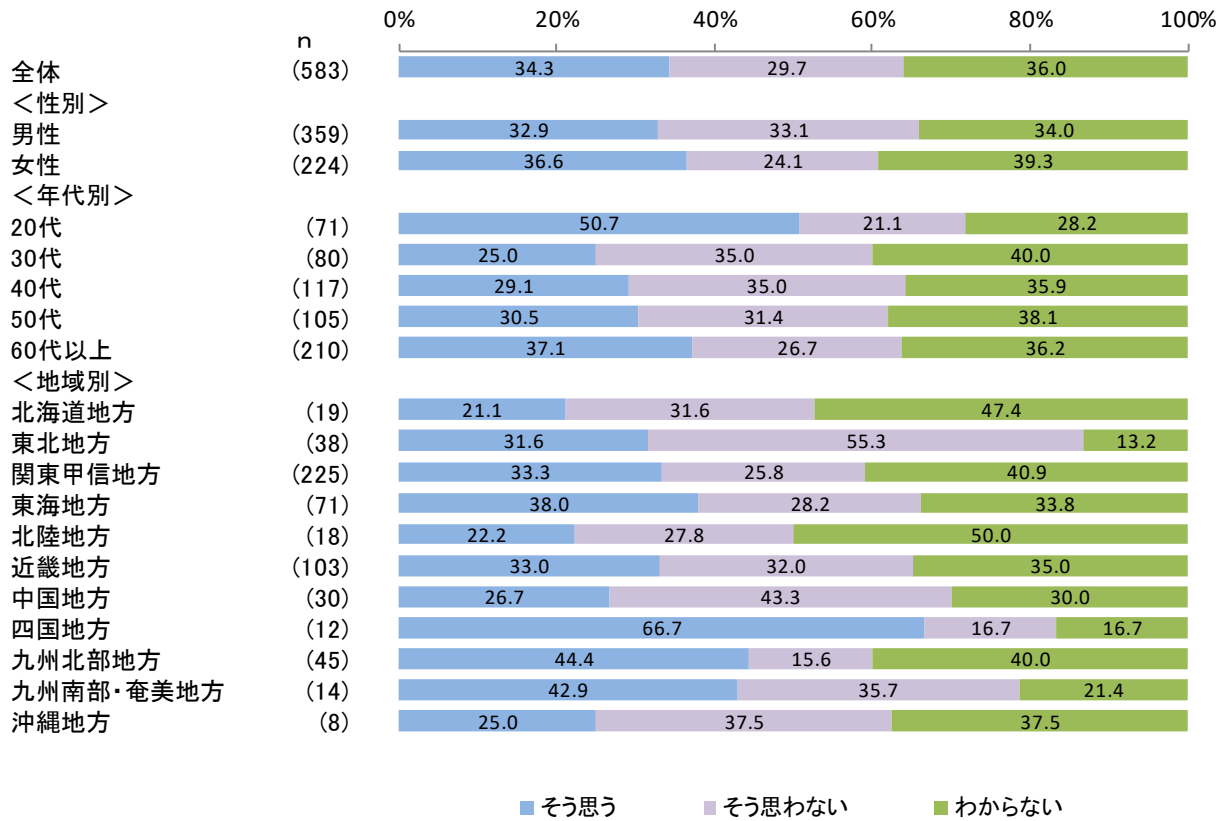
居住地の災害リスク把握別にみると、自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている層は、否定的評価（23.5%）が高い。

防災情報の入手手段別では、自治体からの電子メール、SNS の各層で肯定的評価（65.5%、68.1%）が高い。

コンテンツのページの使用頻度別では、ほぼ毎日、3日に1回程度の各層で肯定的評価（71.7%、69.4%）が高く、週に1回程度の層で否定的評価（27.9%）が高い。

コンテンツのページの使いやすさ別では、とても使いやすい層で肯定的評価（81.5%）が高く、やや使いにくい層で否定的評価（35.5%）が高い。

⑥高齢者への配慮(文字・画像の大きさやメニューが分かりやすいなど)がされている



※ベースがn=29以下は参考値

<高齢者への配慮(文字・画像の大きさやメニューが分かりやすいなど)がされている>の肯定的評価(「そう思う」)は34.3%で、否定的評価(「そうは思わない」29.7%)と拮抗している。

性別にみると、全体と同様の傾向にある。

年代別では、20代の肯定的評価(50.7%)が高い。しかし、30代~50代では否定的評価が肯定的評価を上回っている。

地域別では、九州北部地方で肯定的評価(44.4%)が高く、東北地方、中国地方で否定的評価(55.3%、43.3%)が高い。

II. アンケート調査結果

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下
 * 赤字はベースがn=29以下のため参考値

		n	そ う 思 う	そ う 思 わ な い	わ か ら な い
全体		583	34.3	29.7	36.0
Q1.災害リスク 把握	自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している	317	35.6	29.3	35.0
	自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している	118	38.1	27.1	34.7
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはあると思っている	98	33.7	28.6	37.8
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている	34	23.5	38.2	38.2
	自分の住む地域の災害リスクについて考えたことはない	16	6.3	43.8	50.0
Q4.防災情報 入手手段	テレビ（一般放送）	518	33.8	29.9	36.3
	テレビ（リモコンの「dボタン」で表示されるデータ放送）	262	35.9	31.7	32.4
	ラジオ	135	34.8	34.8	30.4
	音声電話（177天気予報電話サービス等）	19	52.6	10.5	36.8
	自治体からの電子メール（自治体（都道府県・市区町村）が提供する登録制の防災メールサービス）	249	37.3	29.3	33.3
	その他の電子メール（「自治体からの電子メール」以外のメールサービス）	66	40.9	31.8	27.3
	気象庁ホームページ	583	34.3	29.7	36.0
	その他のホームページ（自治体、報道機関、気象会社など）	203	29.1	29.6	41.4
	ツイッター、フェイスブック、LINEなどのソーシャル・ネットワークワーキング・サービス（SNS）	138	39.1	27.5	33.3
	スマートフォンのアプリ（気象情報等を受信・表示したりする専用アプリ）	243	32.9	26.7	40.3
市区町村の防災行政無線	251	39.8	28.7	31.5	
その他	9	55.6	22.2	22.2	
どれもあてはまらない（入手する手段はない）	0	0.0	0.0	0.0	
Q8(1).コンテ ンツのページの 使用頻度	ほぼ毎日	53	49.1	18.9	32.1
	3日に1回程度	36	50.0	25.0	25.0
	週に1回程度	61	29.5	36.1	34.4
	ほとんど使っていないが、大雨や台風などの影響を受けそうなときなどは使う	392	31.4	31.1	37.5
	ほとんど使っていない（大雨や台風などの影響を受けそうなときなどでも使わない）	41	36.6	24.4	39.0
	リニューアル後のコンテンツのページを知らない又は使ったことがない	0	0.0	0.0	0.0
Q8(2).コンテ ンツのページの 使いやすさ	とても使いやすい	81	63.0	17.3	19.8
	やや使いやすい	380	32.9	28.4	38.7
	やや使いにくい	107	16.8	43.9	39.3
	とても使いにくい	15	40.0	26.7	33.3

Ⅱ. アンケート調査結果

居住地の災害リスク把握別にみると、自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている層では、否定的評価（38.2%）が高い。

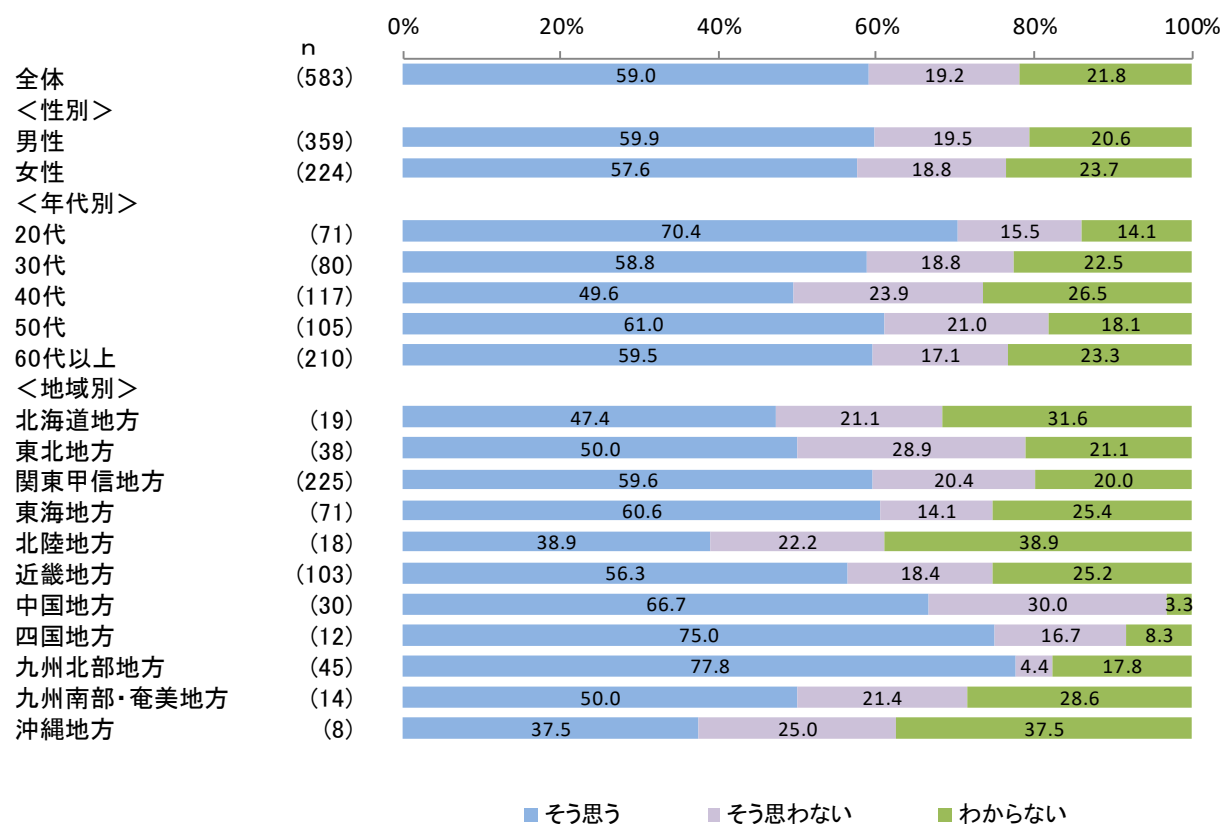
防災情報の入手手段別では、その他の電子メール、市区町村の防災行政無線の各層で肯定的評価（40.9%、39.8%）が高く、ラジオの層で否定的評価（34.8%）が高い。

コンテンツのページの使用頻度別では、ほぼ毎日、3日に1回程度の各層で肯定的評価（49.1%、50.0%）が高く、週に1回程度の層で否定的評価（36.1%）が高い。

コンテンツのページの使いやすさ別では、とても使いやすい層で肯定的評価（63.0%）が高く、やや使いにくい層で否定的評価（43.9%）が高い。

II. アンケート調査結果

⑦防災情報を見るとき、あまり時間がかからずに情報を表示できる



※ベースがn=29以下は参考値

<防災情報を見るとき、あまり時間がかからずに情報を表示できる>の肯定的評価(「そう思う」)は59.0%。

性別にみると、全体と同様の傾向にある。

年代別では、20代の肯定的評価(70.4%)が高い。

地域別では、中国地方、九州北部地方の肯定的評価(66.7%、77.8%)が高くなっている。

II. アンケート調査結果

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下
 * 赤字はベースがn=29以下のため参考値

		n	そう 思 う	そ う 思 わ な い	わ か ら な い
全体		583	59.0	19.2	21.8
Q1. 災害リスク 把握	自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している	317	63.1	18.3	18.6
	自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している	118	57.6	18.6	23.7
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはあると思っている	98	56.1	18.4	25.5
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている	34	50.0	29.4	20.6
	自分の住む地域の災害リスクについて考えたことはない	16	25.0	25.0	50.0
Q4. 防災情報 入手手段	テレビ（一般放送）	518	58.5	19.1	22.4
	テレビ（リモコンの「dボタン」で表示されるデータ放送）	262	55.3	22.9	21.8
	ラジオ	135	50.4	25.2	24.4
	音声電話（177天気予報電話サービス等）	19	57.9	21.1	21.1
	自治体からの電子メール（自治体（都道府県・市区町村）が提供する登録制の防災メールサービス）	249	63.9	17.3	18.9
	その他の電子メール（「自治体からの電子メール」以外のメールサービス）	66	62.1	18.2	19.7
	気象庁ホームページ	583	59.0	19.2	21.8
	その他のホームページ（自治体、報道機関、気象会社など）	203	58.6	18.7	22.7
	ツイッター、フェイスブック、LINEなどのソーシャル・ネットワークワーキング・サービス（SNS）	138	63.8	17.4	18.8
	スマートフォンのアプリ（気象情報等を受信・表示したりする専用アプリ）	243	59.3	16.9	23.9
	市区町村の防災行政無線	251	61.0	19.5	19.5
	その他	9	55.6	33.3	11.1
	どれもあてはまらない（入手する手段はない）	0	0.0	0.0	0.0
Q8(1). コンテ ンツのページの 使用頻度	ほぼ毎日	53	77.4	17.0	5.7
	3日に1回程度	36	77.8	19.4	2.8
	週に1回程度	61	55.7	27.9	16.4
	ほとんど使っていないが、大雨や台風などの影響を受けそうなときなどは使う	392	57.4	17.9	24.7
	ほとんど使っていない（大雨や台風などの影響を受けそうなときなどでも使わない）	41	39.0	22.0	39.0
	リニューアル後のコンテンツのページを知らない又は使ったことがない	0	0.0	0.0	0.0
Q8(2). コンテ ンツのページの 使いやすさ	とても使いやすい	81	85.2	4.9	9.9
	やや使いやすい	380	60.5	18.2	21.3
	やや使いにくい	107	37.4	29.9	32.7
	とても使いにくい	15	33.3	46.7	20.0

Ⅱ. アンケート調査結果

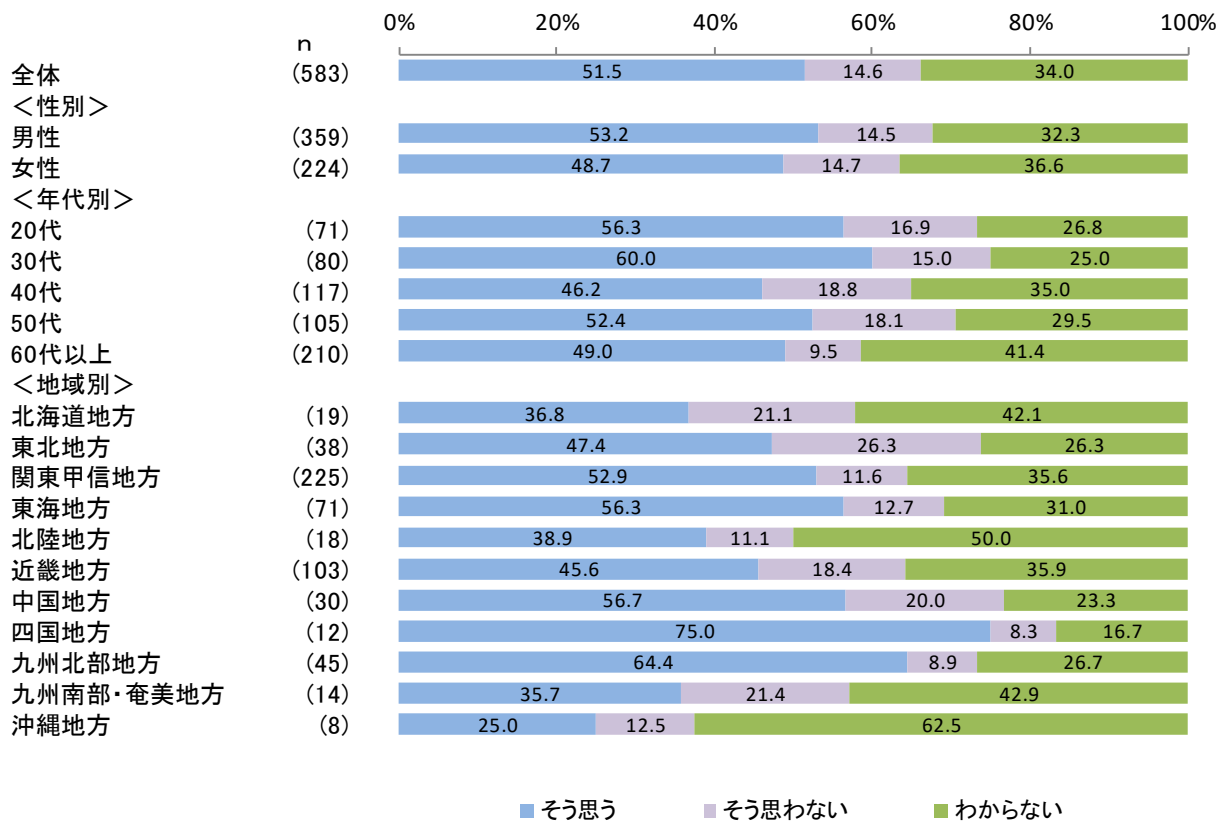
居住地の災害リスク把握別にみると、自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている層は、否定的評価（29.4%）が高い。

防災情報の入手手段別では、ラジオの層で否定的評価（25.2%）が高い。

コンテンツのページの使用頻度別では、ほぼ毎日、3日に1回程度の各層で肯定的評価（77.4%、77.8%）が高く、週に1回程度の層で否定的評価（27.9%）が高い。

コンテンツのページの使いやすさ別では、とても使いやすい層で肯定的評価（85.2%）が高く、やや使いにくい層で否定的評価（29.9%）が高い。

⑧防災情報を見るとき、エラーが起こらずに情報を表示できる



※ベースがn=29以下は参考値

<防災情報を見るとき、エラーが起こらずに情報を表示できる>の肯定的評価（「そう思う」）は51.5%。

性別にみると、全体と同様の傾向にある。

年代別では、30代の肯定的評価（60.0%）が高い。

地域別では、中国地方、九州北部地方で肯定的評価（56.7%、64.4%）が高くなっている。

II. アンケート調査結果

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下
 * 赤字はベースがn=29以下のため参考値

		n	そう 思 う	そ う 思 わ な い	わ か ら な い
全体		583	51.5	14.6	34.0
Q1. 災害リスク 把握	自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している	317	53.3	13.2	33.4
	自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している	118	50.8	16.1	33.1
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはあると思っている	98	52.0	14.3	33.7
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている	34	47.1	20.6	32.4
	自分の住む地域の災害リスクについて考えたことはない	16	25.0	18.8	56.3
Q4. 防災情報 入手手段	テレビ（一般放送）	518	51.5	14.5	34.0
	テレビ（リモコンの「dボタン」で表示されるデータ放送）	262	53.4	13.0	33.6
	ラジオ	135	50.4	16.3	33.3
	音声電話（177天気予報電話サービス等）	19	47.4	21.1	31.6
	自治体からの電子メール（自治体（都道府県・市区町村）が提供する登録制の防災メールサービス）	249	57.8	11.6	30.5
	その他の電子メール（「自治体からの電子メール」以外のメールサービス）	66	56.1	12.1	31.8
	気象庁ホームページ	583	51.5	14.6	34.0
	その他のホームページ（自治体、報道機関、気象会社など）	203	52.2	11.3	36.5
	ツイッター、フェイスブック、LINEなどのソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）	138	56.5	15.2	28.3
	スマートフォンのアプリ（気象情報等を受信・表示したりする専用アプリ）	243	53.5	12.3	34.2
	市区町村の防災行政無線	251	52.2	16.3	31.5
	その他	9	66.7	0.0	33.3
	どれもあてはまらない（入手する手段はない）	0	0.0	0.0	0.0
Q8(1). コンテ ンツのページ の使用頻度	ほぼ毎日	53	71.7	13.2	15.1
	3日に1回程度	36	77.8	5.6	16.7
	週に1回程度	61	47.5	29.5	23.0
	ほとんど使っていないが、大雨や台風などの影響を受けそうなときなどは使う	392	48.7	13.5	37.8
	ほとんど使っていない（大雨や台風などの影響を受けそうなときなどでも使わない）	41	34.1	12.2	53.7
	リニューアル後のコンテンツのページを知らない又は使ったことがない	0	0.0	0.0	0.0
Q8(2). コンテ ンツのページ の使いやすさ	とても使いやすい	81	69.1	6.2	24.7
	やや使いやすい	380	55.3	11.3	33.4
	やや使いにくい	107	28.0	31.8	40.2
	とても使いにくい	15	26.7	20.0	53.3

居住地の災害リスク把握別にみると、自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている層では、否定的評価（20.6%）が高い。

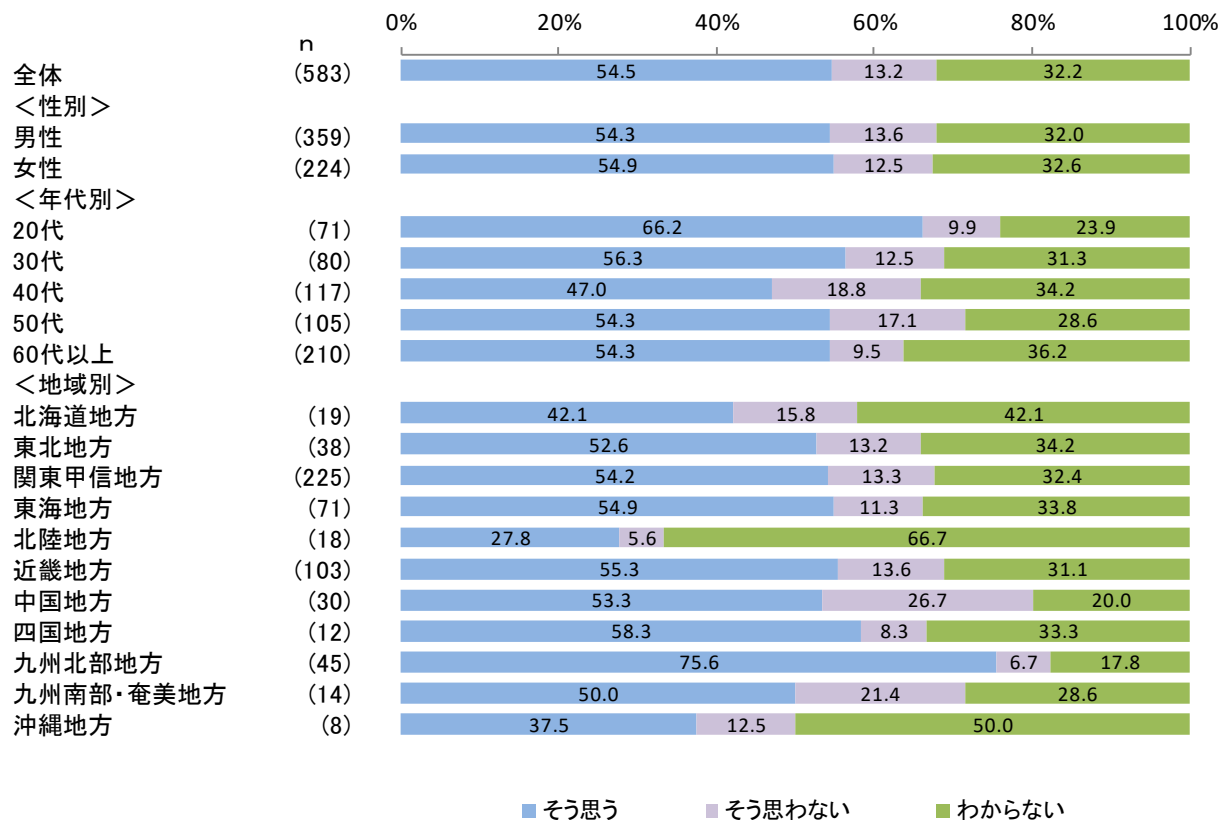
防災情報の入手手段別では、自治体からの電子メール、SNS の各層で肯定的評価（57.8%、56.5%）が高い。

コンテンツのページの使用頻度別では、ほぼ毎日、3日に1回程度の各層で肯定的評価（71.7%、77.8%）が高く、週に1回程度の層で否定的評価（29.5%）が高い。

コンテンツのページの使いやすさ別では、とても使いやすい層で肯定的評価（69.1%）が高く、やや使いにくい層で否定的評価（31.8%）が高い。

II. アンケート調査結果

⑨リニューアル前よりもリニューアル後の方が、コンテンツのページは使い勝手がよい



※ベースがn=29以下は参考値

＜リニューアル前よりもリニューアル後の方が、コンテンツのページは使い勝手がよい＞の肯定的評価（「そう思う」）は54.5%。

性別にみると、全体と同様の傾向にある。

年代別では、20代の肯定的評価（66.2%）が高い。

地域別では、九州北部地方の肯定的評価（75.6%）が高い。

Ⅱ. アンケート調査結果

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下
 * 赤字はベースがn=29以下のため参考値

		n	そう 思う	そ う 思 わ な い	わ か ら な い
全体		583	54.5	13.2	32.2
Q1.災害リスク 把握	自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している	317	58.4	12.9	28.7
	自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している	118	54.2	13.6	32.2
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはあると思っている	98	50.0	12.2	37.8
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている	34	44.1	20.6	35.3
	自分の住む地域の災害リスクについて考えたことはない	16	31.3	6.3	62.5
Q4.防災情報 入手手段	テレビ（一般放送）	518	54.6	12.7	32.6
	テレビ（リモコンの「dボタン」で表示されるデータ放送）	262	57.3	12.6	30.2
	ラジオ	135	51.1	11.9	37.0
	音声電話（177天気予報電話サービス等）	19	52.6	10.5	36.8
	自治体からの電子メール（自治体（都道府県・市区町村）が提供する登録制の防災メールサービス）	249	57.8	11.2	30.9
	その他の電子メール（「自治体からの電子メール」以外のメールサービス）	66	60.6	15.2	24.2
	気象庁ホームページ	583	54.5	13.2	32.2
	その他のホームページ（自治体、報道機関、気象会社など）	203	58.1	10.8	31.0
	ツイッター、フェイスブック、LINEなどのソーシャル・ネットワーク・サービス（SNS）	138	56.5	8.7	34.8
	スマートフォンのアプリ（気象情報等を受信・表示したりする専用アプリ）	243	54.3	10.3	35.4
市区町村の防災行政無線	251	55.8	11.6	32.7	
その他	9	55.6	0.0	44.4	
どれもあてはまらない（入手する手段はない）	0	0.0	0.0	0.0	
Q8(1).コンテ ンツのページ の使用頻度	ほぼ毎日	53	71.7	13.2	15.1
	3日に1回程度	36	63.9	11.1	25.0
	週に1回程度	61	59.0	26.2	14.8
	ほとんど使っていないが、大雨や台風などの影響を受けそうときなどは使う	392	52.3	10.7	37.0
	ほとんど使っていない（大雨や台風などの影響を受けそうときなどでも使わない）	41	39.0	19.5	41.5
	リニューアル後のコンテンツのページを知らない又は使ったことがない	0	0.0	0.0	0.0
Q8(2).コンテ ンツのページ の使いやすさ	とても使いやすい	81	79.0	3.7	17.3
	やや使いやすい	380	58.9	9.2	31.8
	やや使いにくい	107	25.2	29.0	45.8
	とても使いにくい	15	20.0	53.3	26.7

II. アンケート調査結果

居住地の災害リスク把握別にみると、自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている層は、否定的評価（20.6%）が高い。

防災情報の入手手段別では、その他の電子メールの層で肯定的評価（60.6%）が高い。

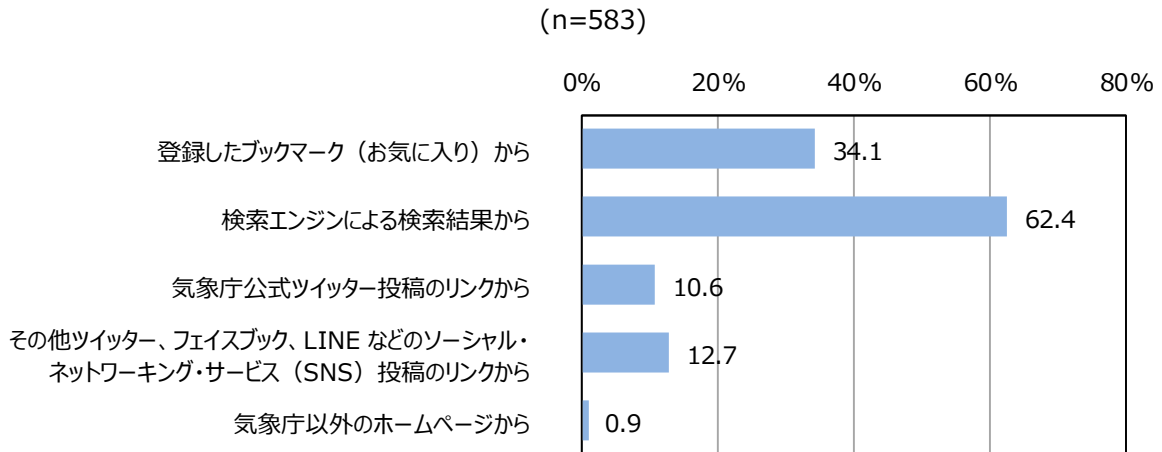
コンテンツのページの使用頻度別では、ほぼ毎日、3日に1回程度の層で肯定的評価（71.7%、63.9%）が高く、週に1回程度の層で否定的評価（26.2%）が高い。

コンテンツのページの使いやすさ別では、とても使いやすい層で肯定的評価（79.0%）が高く、やや使いにくい層で否定的評価（29.0%）が高い。

(3) 気象庁ホームページのアクセスルート

Q10. あなたが、大雨警報や台風情報など気象庁から発表される防災情報を確認する場合、気象庁ホームページへは、どのルートからアクセスしますか。
あてはまるものを全て選んでください。

n=583 ベース：リニューアル後のコンテンツ使用頻度について、「ほぼ毎日」～「ほとんど使っていない」のいずれかに回答した人



気象庁から発表される防災情報を確認する際の気象庁ホームページのアクセスルートは、「検索エンジンによる検索結果から」が62.4%と特に高く、次いで「登録したブックマーク（お気に入り）から」（34.1%）となっている。

II. アンケート調査結果

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下
 * 赤字はベースがn=29以下のため参考値

	n	登録したブックマーク（お気に入り）から	検索エンジンによる検索結果から	気象庁公式ツイッター投稿のリンクから	（SNS）投稿のリンクから	その他のツイッターなどのサービスのリンクから	気象庁以外のホームページから
全体	583	34.1	62.4	10.6	12.7	0.9	
性別							
男性	359	38.2	61.3	9.5	13.4	0.6	
女性	224	27.7	64.3	12.5	11.6	1.3	
年代別							
20代	71	28.2	70.4	22.5	16.9	0.0	
30代	80	21.3	80.0	5.0	11.3	1.3	
40代	117	32.5	69.2	7.7	10.3	0.0	
50代	105	42.9	55.2	10.5	15.2	0.0	
60代以上	210	37.6	52.9	10.5	11.9	1.9	
地域別							
北海道地方	19	36.8	47.4	15.8	21.1	0.0	
東北地方	38	23.7	57.9	7.9	21.1	0.0	
関東甲信地方	225	35.1	61.3	11.1	12.4	0.4	
東海地方	71	35.2	64.8	14.1	8.5	1.4	
北陸地方	18	27.8	55.6	5.6	11.1	0.0	
近畿地方	103	27.2	70.9	8.7	14.6	1.0	
中国地方	30	33.3	70.0	10.0	6.7	0.0	
四国地方	12	41.7	58.3	8.3	8.3	0.0	
九州北部地方	45	48.9	60.0	11.1	11.1	2.2	
九州南部・奄美地方	14	42.9	42.9	14.3	14.3	7.1	
沖縄地方	8	37.5	62.5	0.0	12.5	0.0	

性別で見ると、男性は、「登録したブックマークから」（38.2%）が女性（27.7%）に比べ高い。

年代別では、20代で「気象庁公式ツイッター投稿のリンクから」（22.5%）が高く、30代で「検索エンジンによる検索結果から」（80.0%）が高い。

地域別では、近畿地方、中国地方で「検索エンジンによる検索結果から」（70.9%、70.0%）が高く、九州北部地方で「登録したブックマークから」（48.9%）が高くなっている。

II. アンケート調査結果

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下
 * 赤字はベースがn=29以下のため参考値

		n	に 登 入 録 り した か ら ブ ッ ク マ ー ク （ お 気	か 検 索 エ ン ジ ン に よ る 検 索 結 果	リ 気 象 庁 公 式 ツ イ ッ タ ー 投 稿 の	の グ ソ ブ の リ ン ク か ら （ S N S ） の 投 稿	そ の 他 の ツ イ ッ タ ー な ど の イ ス	ら 気 象 庁 以 外 の ホ ー ム ペ ー ジ か
全体		583	34.1	62.4	10.6	12.7	0.9	
Q8(1).コンテンツの ページの使用頻度	ほぼ毎日	53	62.3	35.8	24.5	13.2	0.0	
	3日に1回程度	36	63.9	50.0	22.2	16.7	0.0	
	週に1回程度	61	31.1	60.7	16.4	14.8	0.0	
	ほとんど使っていないが、大雨や台風などの影響を受けそうなときなどは使う	392	29.1	67.3	7.1	11.7	1.3	
	ほとんど使っていない（大雨や台風などの影響を受けそうなときなどでも使わない） リニューアル後のコンテンツのページを知らない又は使ったことがない	41 0	24.4 0.0	63.4 0.0	7.3 0.0	14.6 0.0	0.0 0.0	
Q8(2).コンテンツの ページの使いやすさ	とても使いやすい	81	54.3	63.0	19.8	14.8	1.2	
	やや使いやすい	380	31.1	64.7	9.2	11.3	0.5	
	やや使いにくい	107	28.0	56.1	9.3	15.9	1.9	
	とても使いにくい	15	46.7	46.7	6.7	13.3	0.0	
Q9(1).様々な防災 情報を1つにまとめて 表示できるページがあ り、使い勝手がよい	そう思う	410	36.3	65.4	10.7	11.2	0.7	
	そう思わない	92	30.4	60.9	12.0	7.6	1.1	
	わからない	81	27.2	49.4	8.6	25.9	1.2	
Q9(2).スマートフォン 表示に対応しておりス マートフォンでも見やす い	そう思う	387	33.1	65.1	12.9	13.2	0.8	
	そう思わない	79	38.0	53.2	7.6	11.4	0.0	
	わからない	117	35.0	59.8	5.1	12.0	1.7	
Q9(3).GPS機能によ り、自分の所在地の情 報の入手がしやすい	そう思う	407	35.9	64.1	12.5	11.8	0.5	
	そう思わない	61	26.2	63.9	4.9	14.8	0.0	
	わからない	115	32.2	55.7	7.0	14.8	2.6	

コンテンツのページの使用頻度別にみると、ほぼ毎日、3日に1回程度の各層は、「登録したブックマークから」（62.3%、63.9%）と「気象庁公式ツイッター投稿のリンクから」（24.5%、22.2%）が高い。

コンテンツのページの使いやすさ別では、とても使いやすい層で「登録したブックマークから」（54.3%）が高く、「気象庁公式ツイッター投稿のリンクから」（19.8%）もやや高い。

II. アンケート調査結果

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下
 * 赤字はベースがn=29以下のため参考値

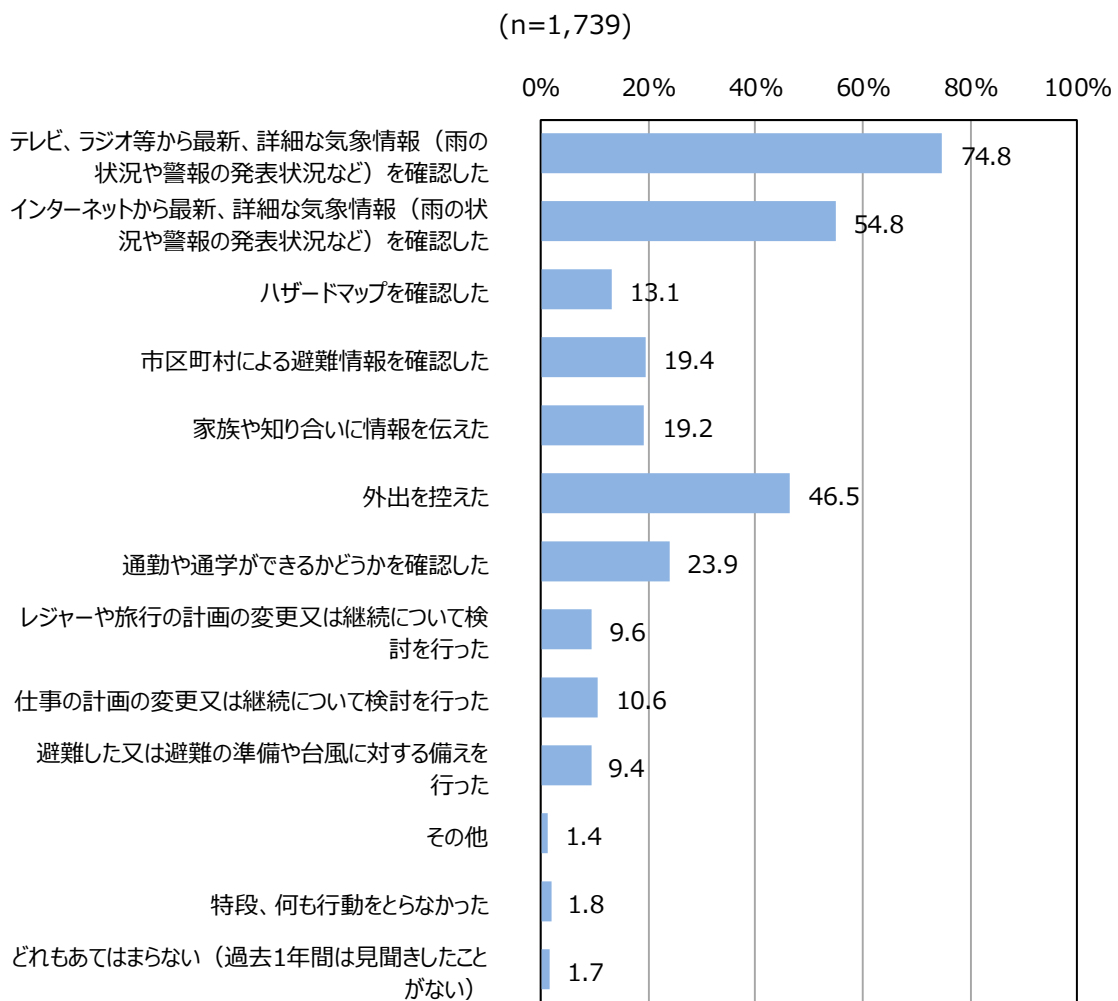
	n	に 登 録 した ブ ッ ク マ ー ク (お 気	か 検 索 エ ン ジ ン に よ る 検 索 結 果	リ 気 象 庁 公 式 ツ イ ッ タ ー 投 稿 の	の グ リ ン ク ー ス (S N S) 投 稿	ソ ー シ ャ ル ネット ワ ー ク 等 の	そ の 他 の ツ イ ッ タ ー 、 フ ェ イ ス	ら 気 象 庁 以 外 の ホ ー ム ペ ー ジ か
全体	583	34.1	62.4	10.6	12.7		0.9	
Q9(4).地図コンテンツについて、表示領域の変更など操作がしやすい	そう思う	337	35.0	65.3	11.9	11.0	0.9	
	そう思わない	105	33.3	60.0	14.3	13.3	1.0	
	わからない	141	32.6	57.4	5.0	16.3	0.7	
Q9(5).見たい防災情報へのアクセスがしやすい	そう思う	347	36.6	63.7	13.0	11.8	0.9	
	そう思わない	105	32.4	61.9	10.5	12.4	1.0	
	わからない	131	29.0	59.5	4.6	15.3	0.8	
Q9(6).高齢者への配慮がされている	そう思う	200	37.5	62.0	16.5	16.0	1.0	
	そう思わない	173	27.2	68.2	9.8	11.0	1.2	
	わからない	210	36.7	58.1	5.7	11.0	0.5	
Q9(7).防災情報を見るとき、あまり時間がかからずに情報を表示できる	そう思う	344	35.8	61.9	12.8	13.1	0.6	
	そう思わない	112	34.8	61.6	11.6	10.7	0.9	
	わからない	127	29.1	64.6	3.9	13.4	1.6	
Q9(8).防災情報を見るとき、エラーが起これらずに情報を表示できる	そう思う	300	37.3	62.3	12.3	11.7	0.7	
	そう思わない	85	25.9	57.6	17.6	17.6	1.2	
	わからない	198	32.8	64.6	5.1	12.1	1.0	
Q9(9).リニューアル前よりもリニューアル後の方が、コンテンツのページは使い勝手がよい	そう思う	318	38.1	63.2	13.2	11.3	0.9	
	そう思わない	77	29.9	54.5	14.3	14.3	1.3	
	わからない	188	29.3	64.4	4.8	14.4	0.5	

5. 台風情報

(1) 台風情報の見聞き時の行動

Q11. あなたは、自分のいる地域または関係する地域に接近する可能性がある台風について台風情報を見聞きした際に、どのような行動をとりましたか。
過去1年間に見聞きした場合の行動について、あてはまるものを全て選んでください。

n=1,739 ベース：防災情報の認知度で、台風情報を認知していると回答した人



自分のいる地域または関係する地域に接近する可能性がある台風情報を見聞きした際の行動については、「テレビ、ラジオ等から最新、詳細な気象情報（雨の状況や警報の発表状況など）を確認した」が74.8%で最も高く、次いで「インターネットから最新、詳細な気象情報（雨の状況や警報の発表状況など）を確認した」（54.8%）、「外出を控えた」（46.5%）となっている。

II. アンケート調査結果

* ■はR3+10ポイント以上、■はR3+5ポイント以上、■はR3-10ポイント以下、■はR3-5ポイント以下

		の細な発	発表気	インターネット	ハザード	市区	家族	外出	通勤	レジャー	仕事の	避難	その他	特段、	年間	どれ
	n	発表気	発表気	インターネット	ハザード	市区	家族	外出	通勤	レジャー	仕事の	避難	その他	特段、	年間	どれ
R3	1,739	74.8	54.8	13.1	19.4	19.2	46.5	23.9	9.6	10.6	9.4	1.4	1.8	1.7		
R1	1,747	80.8	72.0	31.3	32.9	56.5	29.5	22.7	15.1	9.2	2.0	1.6	1.0			

台風情報を見聞きした際の行動を令和元年度調査と比較すると、全般的に行動が低下している様子が窺える。特に「インターネットから最新、詳細な気象情報を確認した」「市区町村による避難情報を確認した」「家族や知り合いに情報を伝えた」「レジャーや旅行の計画の変更又は継続について検討を行った」の低下が大きい。

Ⅱ. アンケート調査結果

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下
 * 赤字はベースがn=29以下のため参考値

	n	テレビ、ラジオ等から最新、詳細な気象情報（雨の状況や警報の発表状況など）を確認した	インターネットから最新、詳細な気象情報（雨の状況や警報の発表状況など）を確認した	ハザードマップを確認した	市区町村による避難情報を確認した	家族や知り合いに情報を伝えた	外出を控えた	通勤や通学ができるかどうかを確認した	検討を行った	レジャーや旅行の計画の変更又は継続について検討を行った	仕事の計画の変更又は継続について検討を行った	避難した又は避難の準備や台風に対する備えを行った	その他	特段、何も行動をとらなかった	どれもあてはまらない（過去1年間は見聞きしたことがない）
全体	1,739	74.8	54.8	13.1	19.4	19.2	46.5	23.9	9.6	10.6	9.4	1.4	1.8	1.7	
性別															
男性	869	69.7	56.7	14.0	18.0	15.9	38.8	20.6	9.9	12.5	7.4	1.2	2.1	2.3	
女性	870	79.9	52.9	12.2	20.9	22.5	54.3	27.1	9.3	8.6	11.4	1.6	1.6	1.1	
年代別															
20代	220	60.0	54.1	12.3	17.3	25.0	47.3	31.8	15.0	10.9	9.1	0.9	2.3	2.7	
30代	247	71.3	59.1	14.2	17.4	26.7	48.6	33.2	11.7	16.2	11.7	1.2	1.2	2.8	
40代	351	71.5	57.5	16.5	21.1	19.4	45.3	30.2	9.4	11.7	9.1	1.7	2.0	1.7	
50代	301	79.1	57.1	12.3	16.3	16.6	45.8	22.3	8.3	15.6	9.0	0.3	1.7	1.0	
60代以上	620	81.3	50.6	11.5	21.6	15.3	46.5	14.5	7.6	5.2	8.9	1.9	1.9	1.3	
地域別															
北海道地方	66	77.3	47.0	7.6	13.6	18.2	47.0	16.7	13.6	6.1	9.1	0.0	1.5	6.1	
東北地方	119	79.0	49.6	10.1	16.8	19.3	41.2	18.5	10.1	14.3	10.1	0.0	2.5	3.4	
関東甲信地方	636	74.1	54.1	14.2	20.3	19.5	48.1	25.9	9.9	10.8	8.8	1.4	2.2	1.3	
東海地方	205	76.6	55.6	11.2	20.0	12.2	42.9	21.0	9.3	9.8	12.2	2.4	1.5	2.0	
北陸地方	68	73.5	36.8	10.3	13.2	19.1	45.6	17.6	7.4	10.3	1.5	2.9	0.0	0.0	
近畿地方	289	74.0	56.7	12.1	16.3	20.1	48.1	26.6	9.3	9.7	8.7	1.4	1.4	1.4	
中国地方	83	71.1	61.4	16.9	31.3	20.5	48.2	22.9	9.6	9.6	7.2	0.0	1.2	1.2	
四国地方	56	64.3	48.2	7.1	19.6	19.6	32.1	14.3	1.8	5.4	3.6	0.0	5.4	1.8	
九州北部地方	156	76.9	64.7	16.7	18.6	23.1	48.7	25.6	9.6	10.9	10.9	1.3	1.3	2.6	
九州南部・奄美地方	38	84.2	63.2	18.4	31.6	18.4	47.4	28.9	7.9	15.8	18.4	2.6	0.0	0.0	
沖縄地方	23	73.9	56.5	21.7	21.7	34.8	56.5	30.4	21.7	21.7	26.1	4.3	4.3	0.0	

性別で見ると、女性は、「テレビ、ラジオ等から最新、詳細な気象情報を確認した」（79.9%）、「外出を控えた」（54.3%）が高い。

年代別では、20代・30代で「家族や知り合いに情報を伝えた」（25.0%、26.7%）が高い。また、20代・30代・40代で「通勤や通学ができるかどうかを確認した」（31.8%、33.2%、30.2%）が高くなっている。

地域別では、中国地方、九州南部・奄美地方で「市区町村による避難情報を確認した」（31.3%、31.6%）が高くなっている。

II. アンケート調査結果

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下
 * 赤字はベースがn=29以下のため参考値

		n	テレビ、ラジオや警報の発表状況など（雨の状況や警報の発表状況など）を気象情報確認した	インターネットから最新、詳細な気象情報（雨の状況や警報の発表状況など）を確認した	ハザードマップを確認した	市区町村による避難情報を確認した	家族や知り合いに情報を伝えた	外出を控えた	通勤や通学ができるかどうかを確認した	検討を行った	レジャーや旅行の計画の変更又は継続について検討を行った	仕事の計画の変更又は継続について検討を行った	避難した又は避難の準備や台風に対する備えを行った	その他	特段、何も行動をとらなかった	たどることがない（過去1年間は見聞きしなかった）
全体		1,739	74.8	54.8	13.1	19.4	19.2	46.5	23.9	9.6	10.6	9.4	1.4	1.8	1.7	
Q1. 災害リスク把握	自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している	742	77.2	63.6	21.2	27.2	21.4	50.7	24.3	11.9	12.1	12.9	1.6	0.8	0.4	
	自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している	321	76.0	58.9	14.0	21.5	26.2	51.4	32.7	9.0	12.1	10.0	1.6	0.6	1.2	
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはあると思っている	415	79.5	46.5	4.6	11.3	14.9	45.1	22.2	8.9	9.2	6.0	1.2	3.1	1.2	
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている	153	68.0	44.4	2.0	9.2	12.4	34.6	17.0	5.9	9.8	5.2	1.3	3.3	2.6	
	自分の住む地域の災害リスクについて考えたことはない	108	46.3	28.7	3.7	5.6	9.3	25.9	11.1	3.7	1.9	1.9	0.0	5.6	13.0	
Q4. 防災情報入手手段	テレビ（一般放送）	1,544	80.2	54.7	13.1	19.9	20.3	48.0	24.5	9.6	10.3	9.8	1.4	1.5	1.2	
	テレビ（リモコンの「dボタン」で表示されるデータ放送）	573	82.2	64.2	17.3	26.2	24.6	54.8	30.5	10.5	12.9	14.7	2.1	0.7	0.9	
	ラジオ	310	82.6	61.0	18.4	26.5	26.8	52.6	26.8	11.6	15.2	12.3	1.3	1.0	1.0	
	音声電話（177天気予報電話サービス等）	28	71.4	67.9	25.0	28.6	28.6	57.1	21.4	10.7	3.6	21.4	0.0	0.0	3.6	
	自治体からの電子メール（自治体（都道府県・市区町村）が提供する登録制の防災メールサービス）	643	81.2	61.3	17.0	31.3	22.7	54.1	29.1	11.8	13.1	13.7	1.4	0.5	0.8	
	その他の電子メール（「自治体からの電子メール」以外のメールサービス）	152	80.3	67.8	22.4	34.2	27.0	55.3	26.3	14.5	16.4	17.8	2.0	0.0	0.0	
	気象庁ホームページ	659	72.2	66.5	19.6	25.0	22.5	50.2	29.6	14.1	14.9	12.3	1.1	1.2	0.8	
	その他のホームページ（自治体、報道機関、気象会社など）	400	78.0	75.5	19.5	28.0	25.3	54.5	33.5	14.3	16.8	16.5	1.8	0.8	1.0	
	ツイッター、フェイスブック、LINE などのソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）	381	71.1	71.7	20.2	25.7	29.4	59.1	37.0	16.8	15.7	15.2	0.8	1.3	1.0	
	スマートフォンのアプリ（気象情報等を受信・表示したりする専用アプリ）	783	75.0	64.9	14.6	23.4	23.6	53.0	28.4	11.9	14.0	11.4	1.9	1.4	0.8	
	市区町村の防災行政無線	610	81.0	58.7	15.6	27.4	21.6	49.5	24.9	11.5	11.3	11.3	1.3	1.0	0.8	
	その他	20	80.0	70.0	20.0	45.0	35.0	75.0	30.0	15.0	15.0	20.0	5.0	0.0	0.0	
どれもあてはまらない（入手する手段はない）	8	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	62.5	

居住地の災害リスク把握別にみると、自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している層は、「インターネットから最新、詳細な気象情報を確認した」（63.6%）、「ハザードマップを確認した」（21.2%）、「市区町村による避難情報を確認した」（27.2%）がやや高い。また、自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している層は、「家族や知り合いに情報を伝えた」（26.2%）、「通勤や通学ができるかどうかを決めた」（32.7%）がやや高くなっている。

防災情報の入手手段別では、その他の電子メール、気象庁ホームページ、その他のホームページ、SNS、スマートフォンのアプリの各層で「インターネットから最新、詳細な気象情報を確認した」（64.9～75.5%）が高く、自治体からの電子メール、その他の電子メールの各層で「市区町村による避難情報を確認した」（31.3%、34.2%）が高い。また、SNSの層では、「家族や知り合いに情報を伝えた」（29.4%）、「外出を控えた」（59.1%）、「通勤や通学ができるかどうかを確認した」（37.0%）といった行動も高い。

II. アンケート調査結果

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下
 * 赤字はベースがn=29以下のため参考値

	n	テレビ、ラジオ等からの発表状況など	インターネットから最新、詳細な気象情報（雨の状況や警報の発表状況など）を確認した	ハザードマップを確認した	市区町村による避難情報を確認した	家族や知り合いに情報を伝えた	外出を控えた	通勤や通学ができるかどうかを確認した	検討を行った	仕事の計画の変更又は継続について検討を行った	避難した又は避難の準備や台風に対する備えを行った	その他	特段、何も行動をとらなかった	どれもあてはまらない（過去1年間は見聞きしなかった）	
全体	1,739	74.8	54.8	13.1	19.4	19.2	46.5	23.9	9.6	10.6	9.4	1.4	1.8	1.7	
Q12(1).台風情報に最も期待すること	台風の進路や強度の予測精度向上	863	80.1	53.8	11.4	16.2	18.1	43.6	23.4	9.3	9.5	6.6	0.9	1.4	0.9
	台風の進路予報で台風が進む範囲の詳細な表現（現在は円で表現しているが、より適切な予報の表現となるように楕円やメッシュで示すなど）	162	72.2	66.0	16.7	21.6	17.3	46.9	24.7	14.2	8.6	11.7	1.9	0.6	0.6
	自分のいる地域での危険な状況（程度）がわかりやすい情報	484	78.7	61.0	14.0	25.4	24.0	54.3	27.7	9.5	12.8	13.6	1.7	1.0	0.8
	予想時間の延長（現在は5日先までの予報）	24	54.2	58.3	16.7	16.7	12.5	45.8	12.5	4.2	12.5	8.3	0.0	0.0	4.2
	進路予報の図において、予報円の時間間隔をもっと短くした情報（現在、1日より先の予報は1日間隔）	38	60.5	42.1	21.1	13.2	15.8	31.6	7.9	13.2	10.5	7.9	2.6	0.0	2.6
	台風の大きさの予報（現在は強さの予報のみ）	27	48.1	25.9	18.5	14.8	14.8	51.9	11.1	3.7	14.8	3.7	0.0	7.4	0.0
	台風が温帯低気圧や熱帯低気圧に変わった後の進路や強度の予報の継続	13	53.8	46.2	0.0	15.4	7.7	30.8	15.4	7.7	23.1	15.4	0.0	0.0	7.7
	どのように行動したらよいか判断できる情報	75	58.7	48.0	17.3	26.7	21.3	49.3	30.7	8.0	13.3	10.7	2.7	4.0	1.3
	台風シーズン前に提供される、その年の台風発生数の多い/少ないに関する見直し	5	20.0	0.0	80.0	0.0	0.0	80.0	40.0	20.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0
	その他	2	50.0	100.0	0.0	50.0	50.0	100.0	100.0	50.0	50.0	50.0	100.0	0.0	0.0
特になし	46	21.7	13.0	2.2	8.7	6.5	21.7	2.2	4.3	2.2	4.3	0.0	19.6	28.3	
Q13.より早い段階で分かった場合に活用したいもの	避難の準備や台風に対する備えを行う	987	80.3	54.8	14.8	22.5	21.5	49.2	23.0	7.6	7.5	10.9	1.6	1.0	0.9
	レジャーや旅行の計画の変更又は継続について検討を行う	376	70.7	57.4	12.0	15.7	19.4	46.5	23.4	16.8	8.5	9.3	1.3	1.9	0.5
	仕事の計画の変更又は継続について検討を行う	267	71.2	62.9	12.0	18.7	15.4	45.3	33.0	9.4	28.1	5.6	0.7	1.1	1.1
	その他	6	66.7	50.0	16.7	33.3	33.3	50.0	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0
	どれもあてはまらない（活用したいと思わない）	103	46.6	24.3	3.9	4.9	5.8	23.3	11.7	2.9	2.9	3.9	1.0	11.7	15.5

台風情報に最も期待すること別にみると、台風の進路予報で台風が進む範囲の詳細な表現を挙げた層では「インターネットから最新、詳細な気象情報を確認した」（66.0%）が高い。

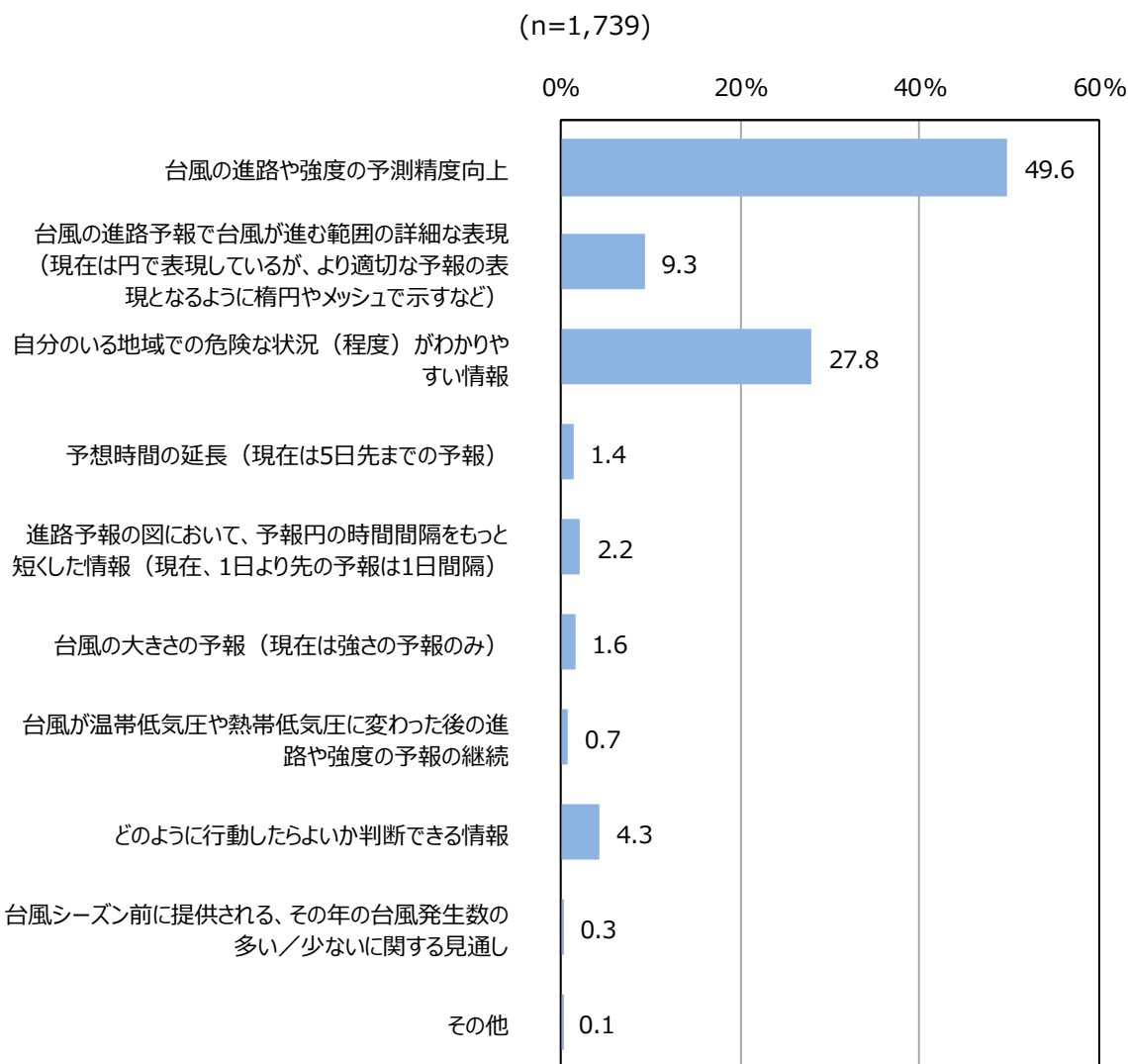
台風情報がより早い段階で分かった場合に活用したいもの別では、仕事の計画の変更又は継続について検討を行う層で「仕事の計画の変更又は継続について検討を行った」（28.1%）が高くなっている。

II. アンケート調査結果

(2-1) 台風情報に期待すること【最も期待すること】

Q12. あなたが、台風情報に期待することは何ですか。
最も期待すること、2番目に期待すること、3番目に期待することまで選んでください。

n=1,739 ベース：防災情報の認知度で、台風情報を認知していると回答した人



台風情報に最も期待することは、「台風の進路や強度の予測精度向上」が49.6%で最も高く、次いで「自分のいる地域での危険な状況(程度)がわかりやすい情報」(27.8%)となっている。

Ⅱ. アンケート調査結果

* ■はR3+10ポイント以上、■はR3+5ポイント以上、■はR3-10ポイント以下、■はR3-5ポイント以下

		台風の進路や強度の予測精度向上	台風の進路予報で台風が進む範囲の詳細な表現の （現在は円のように楕円やメッシュで示すなど）	自分のいる地域での危険な状況（程度）がわかりやすい情報	予想時間の延長（現在は5日先までの予報）	進路予報の図において、予報円の時間間隔を1日と短くした情報（現在、1日より先の予報は1日間隔）	台風の大きさの予報（現在は強さの予報のみ）	台風が温帯低気圧や熱帯低気圧に変わった後の進路や強度の予報の継続	どのように行動したらよいか判断できる情報	台風シーズン前に提供される、その年の台風発生数の多い／少ないに関する見直し	その他	特になし
	n											(%)
R3	1,739	49.6	9.3	27.8	1.4	2.2	1.6	0.7	4.3	0.3	0.1	2.6
R1	1,747	31.4	6.3	15.4	0.9	1.0	3.7	0.7	1.7		0.2	1.9

台風情報に最も期待することを令和元年度調査と比較すると、「台風の進路や強度の予測精度向上」が18ポイント、「自分のいる地域での危険な状況（程度）がわかりやすい情報」が12ポイント上昇している。

II. アンケート調査結果

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下

* 赤字はベースがn=29以下のため参考値

	n	台風の進路や強度の予測精度向上	台風の進路予報で台風が進む範囲の詳細な表現の （現在は円で表現しているが、より適切な予報の 表現となるように楕円やメッシュで示すなど）	自分のいる地域での危険な状況（程度）がわかり やすい情報	予想時間の延長（現在は5日先までの予報）	間隔短くした情報（現在、1日より先の予報は1日 と進路予報の図において、予報円の時間間隔をもつ	台風の大きさの予報（現在は強さの予報のみ）	台風が温帯低気圧や熱帯低気圧に変わった後の進 路や強度の予報の継続	どのように行動したらよいか判断できる情報	台風の多い／少ないに関する見直し	台風シーズン前に提供される、その年の台風発生 数の多い／少ないに関する見直し	その他	特になし
全体	1,739	49.6	9.3	27.8	1.4	2.2	1.6	0.7	4.3	0.3	0.1	2.6	
性別													
男性	869	55.6	8.9	22.0	1.7	2.9	2.0	0.7	2.9	0.5	0.1	2.9	
女性	870	43.7	9.8	33.7	1.0	1.5	1.1	0.8	5.7	0.1	0.1	2.4	
年代別													
20代	220	40.9	10.0	25.5	3.6	4.1	2.7	1.4	6.8	0.9	0.0	4.1	
30代	247	48.2	6.9	30.0	1.6	1.2	1.6	2.0	3.6	0.4	0.0	4.5	
40代	351	48.1	6.3	29.1	1.7	2.8	2.0	0.6	5.1	0.0	0.3	4.0	
50代	301	50.2	10.0	29.9	0.7	0.7	1.0	0.3	6.0	0.3	0.0	1.0	
60代以上	620	53.9	11.5	26.1	0.6	2.3	1.1	0.3	2.4	0.2	0.2	1.5	
地域別													
北海道地方	66	40.9	7.6	34.8	1.5	0.0	1.5	1.5	7.6	0.0	0.0	4.5	
東北地方	119	40.3	7.6	37.8	0.8	0.8	0.8	0.8	7.6	0.0	0.0	3.4	
関東甲信地方	636	48.9	9.3	28.0	1.4	3.0	0.9	0.3	5.2	0.5	0.2	2.4	
東海地方	205	42.9	12.7	28.8	2.0	2.4	3.9	3.4	2.0	0.0	0.0	2.0	
北陸地方	68	44.1	7.4	32.4	2.9	1.5	1.5	1.5	5.9	0.0	0.0	2.9	
近畿地方	289	55.4	7.6	25.3	1.4	2.8	1.0	0.3	2.8	0.0	0.0	3.5	
中国地方	83	55.4	13.3	22.9	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8	1.2	0.0	2.4	
四国地方	56	62.5	3.6	17.9	0.0	1.8	5.4	0.0	3.6	0.0	0.0	5.4	
九州北部地方	156	51.9	12.2	28.2	1.9	0.0	1.3	0.0	2.6	0.0	0.0	1.9	
九州南部・奄美地方	38	63.2	0.0	26.3	0.0	2.6	2.6	0.0	2.6	2.6	0.0	0.0	
沖縄地方	23	56.5	17.4	4.3	0.0	8.7	4.3	0.0	4.3	0.0	4.3	0.0	

※ベースがn=29以下は参考値

性別にみると、男性は「台風の進路や強度の予測精度向上」（55.6%）がやや高く、女性は「自分のいる地域での危険な状況（程度）がわかりやすい情報」（33.7%）がやや高い。

地域別では、四国地方、九州南部・奄美地方で「台風の進路や強度の予測精度向上」（62.5%、63.2%）が高くなっている。

II. アンケート調査結果

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下
 * 赤字はベースがn=29以下のため参考値

		n	台風の進路や強度の予測精度向上	（現在は円表示しているが、メツシユで示すなど）	台風の進路予報で現れている範囲の適切な予報の	自分のいる地域での危険な状況（程度）がわかりやすい情報	予想時間の延長（現在は5日先までの予報）	間隔短くした情報（現在、1日より先の予報は1日	進路予報の図において、予報円の時間間隔をもつ	台風の大きさの予報（現在は強さの予報のみ）	台風の強度の予報の継続	台風が温帯低気圧や熱帯低気圧に変わった後の進	どのように行動したらよいか判断できる情報	数の多い／少ないに関する見直し	台風シーズン前に提供される、その年の台風発生	その他	特になし
全体		1,739	49.6	9.3	27.8	1.4	2.2	1.6	0.7	4.3	0.3	0.1	2.6				
Q13.より早い段階で分かった場合に活用したいもの	避難の準備や台風に対する備えを行う	987	51.9	9.5	29.2	1.0	1.6	1.4	0.4	4.1	0.1	0.2	0.6				
	レジャーや旅行の計画の変更又は継続について検討を行う	376	48.7	8.5	29.5	1.9	2.9	1.3	1.3	3.7	0.8	0.0	1.3				
	仕事の計画の変更又は継続について検討を行う	267	48.3	10.1	26.2	1.9	2.2	2.6	1.5	6.4	0.4	0.0	0.4				
	その他	6	50.0	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0				
	どれもあてはまらない（活用したいと思わない）	103	35.0	6.8	13.6	1.9	4.9	1.0	0.0	3.9	0.0	0.0	33.0				
Q26.期待する気候変動情報	これまでに気候変動がどのくらい進んできているのか、地域毎により詳細な情報	669	56.5	9.6	25.6	0.7	1.6	1.0	0.0	4.0	0.3	0.1	0.4				
	これから気候変動がどう進むのか、地域毎により詳細な情報	917	52.6	9.1	29.3	1.1	2.0	1.1	0.5	3.7	0.2	0.0	0.4				
	災害が発生するような大雨等の極端な気象現象が発生した場合に、その現象における気候変動の影響（強度及び頻度）と、将来さらに気候が変化した場合の同種の気象現象の変化（強度及び頻度）	764	47.9	10.6	32.1	0.7	1.8	1.4	0.5	4.2	0.1	0.0	0.7				
	50年に1度の大雨や100年に1度の大雨といった、めったに起こらない気象現象の将来変化	386	47.7	9.3	29.8	1.3	3.4	0.8	1.3	4.9	0.8	0.0	0.8				
	より正確かつ詳細な天気予報（明日・明後日、週間、台風）	660	51.1	8.9	32.0	0.5	1.5	1.7	1.1	2.9	0.0	0.0	0.5				
	より正確かつ詳細な季節予報（1か月予報、3か月予報、寒候期・暖候期予報）	261	43.7	9.6	33.7	1.1	1.9	1.9	1.5	5.0	0.0	0.0	1.5				
	その他	5	60.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0				
期待する情報はない	107	37.4	4.7	16.8	4.7	0.9	2.8	0.0	3.7	0.0	0.0	29.0					

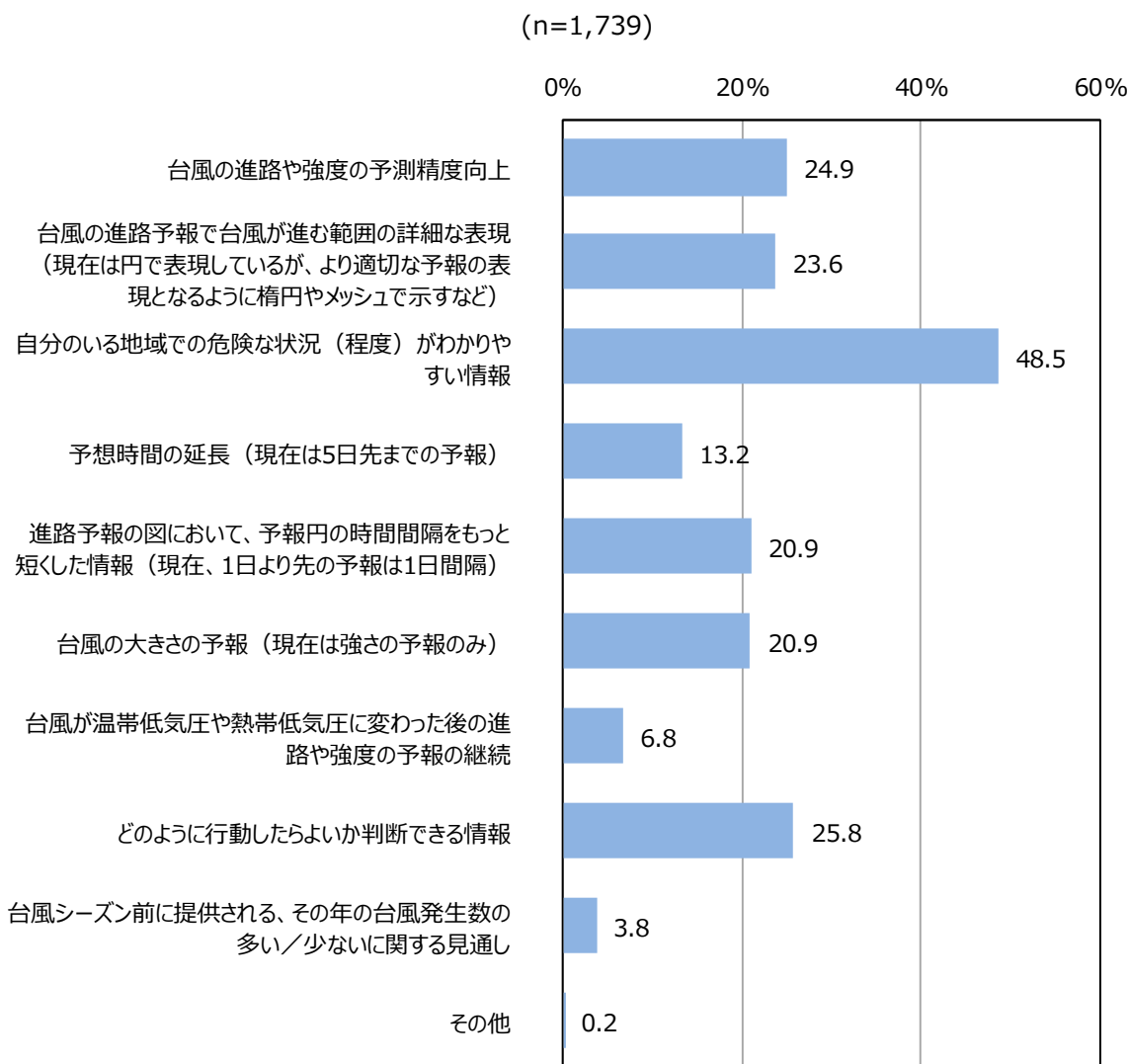
期待する気候変動情報別にみると、これまでに気候変動がどのくらい進んできているのか、地域毎により詳細な情報を挙げた層で「台風の進路や強度の予測精度向上」（56.5%）が高く、より正確かつ詳細な天気予報を挙げた層で「自分のいる地域での危険な状況（程度）がわかりやすい情報」（33.7%）が高い。

II. アンケート調査結果

(2-2) 台風情報に期待すること【2番目、3番目に期待すること（複数回答）】

Q12. あなたが、台風情報に期待することは何ですか。
最も期待すること、2番目に期待すること、3番目に期待することまで選んでください。

n=1,739 ベース：防災情報の認知度で、台風情報を認知していると回答した人



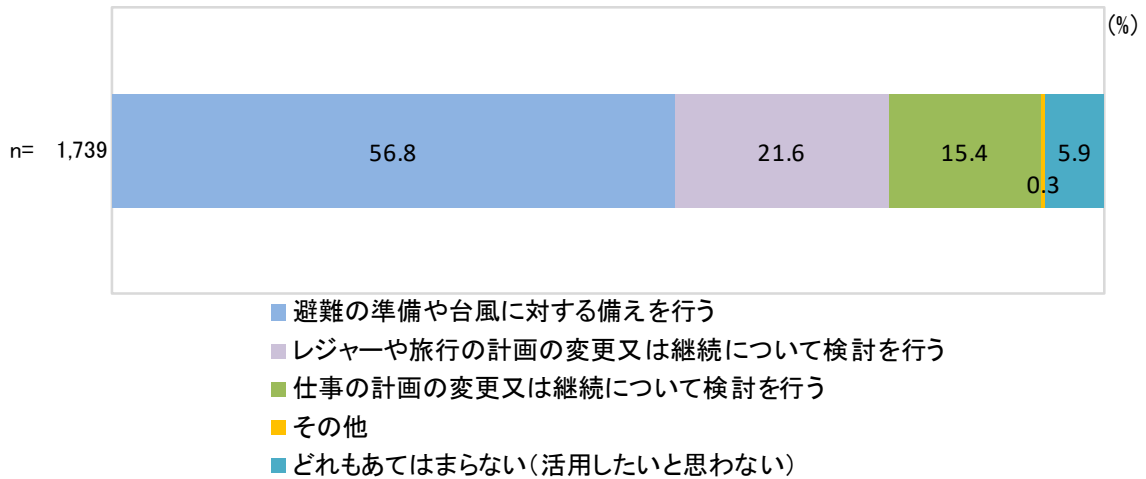
※選択肢は2番目と3番目の期待することの合算値。

台風情報に2番目以降に期待することについては、「自分のいる地域での危険な状況（程度）がわかりやすい情報」が48.5%で最も高く、次いで「どのように行動したらよいか判断できる情報」（25.8%）、「台風の進路や強度の予測精度向上」（24.9%）となっている。

(3) 台風発生前に発生や進路の予報があった場合の活用要望

Q13. 台風の中には、台風になってから（発生後）、3日くらいで日本に接近してくるものがあります。現在、台風情報は台風発生の1日前から発表していますが、あなたは、そのような台風の台風情報について、より早い段階（台風発生の2～5日程度前）で分かった場合、何に活用したいですか。あてはまるものを1つ選んでください。

n=1,739 ベース：防災情報の認知度で、台風情報を認知していると回答した人



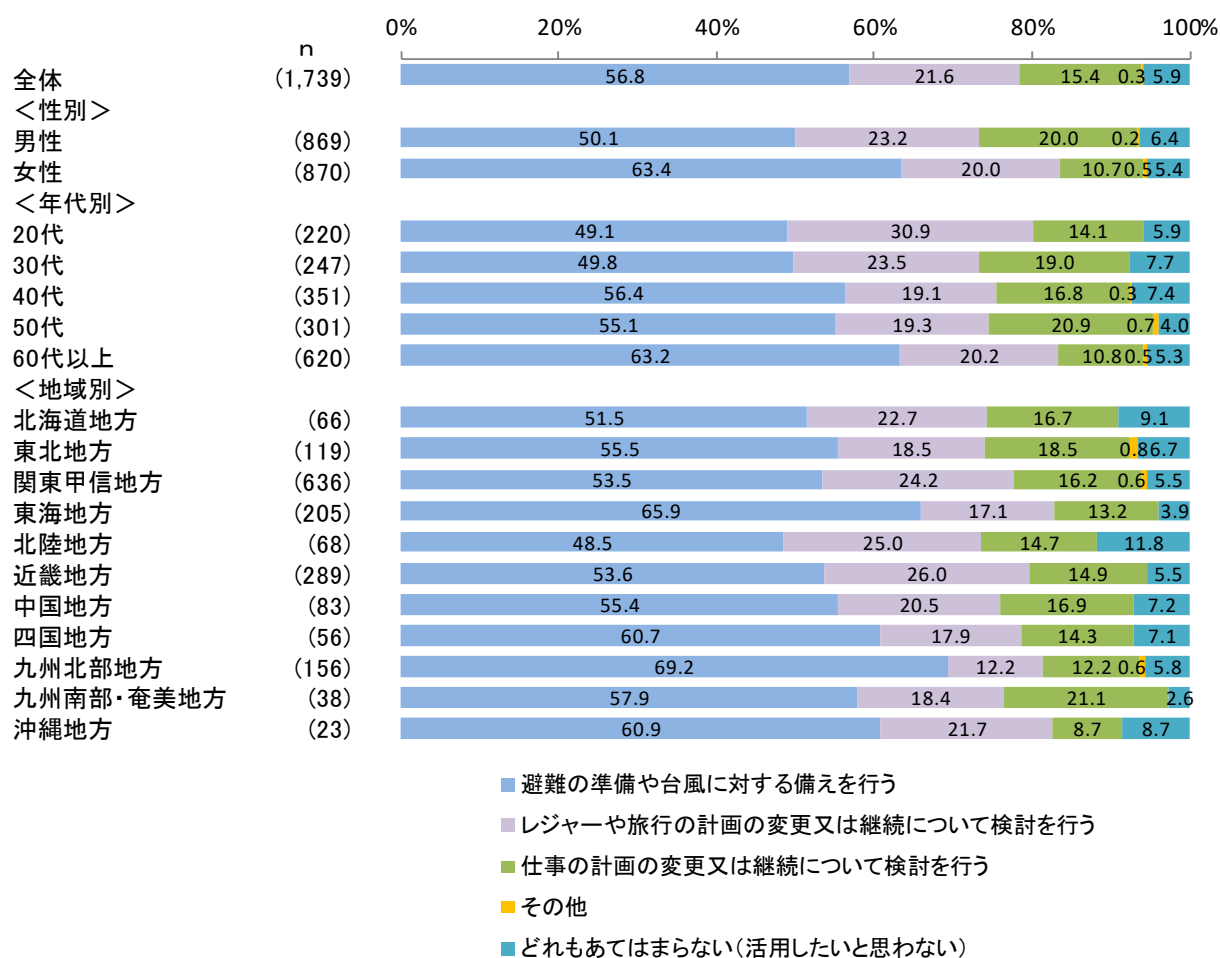
台風情報について、より早い段階（台風発生の2～5日程度前）で分かった場合の活用要望としては、「避難の準備や台風に対する備えを行う」が56.8%を占め、これに「レジャーや旅行の計画の変更又は継続を決める」が21.6%で続いている。

* ■はR3+10ポイント以上、■はR3+5ポイント以上、■はR3-10ポイント以下、■はR3-5ポイント以下 (%)

	n	対 避 す 難 る の 備 準 え 備 を や 行 台 う 風 に	つ 画 レ い の ジ て 変 ヤ 検 更 討 又 や を は 旅 行 継 行 う 続 の に 計	を は 仕 行 継 事 う 続 の に 計 つ 画 い の て 変 検 更 討 又	そ の 他	わ い ど な ー れ い 活 も 〜 用 あ し て た は いま と ら 思 な
R3	1,739	56.8	21.6	15.4	0.3	5.9
R1	1,747	64.5	20.5	11.6	0.4	2.9

台風情報について、より早い段階で分かった場合の活用要望を令和元年度調査と比較すると、「避難の準備や台風に対する備えを行う」が8ポイント低下している。

II. アンケート調査結果



※ベースがn=29 以下は参考値

性別にみると、女性は「避難の準備や台風に対する備えを行う」(63.4%)が高い。

年代別では、20代で「レジャーや旅行の計画の変更又は継続を決める」(30.9%)高く、60代以上で「避難の準備や台風に対する備えを行う」(63.2%)が高い。

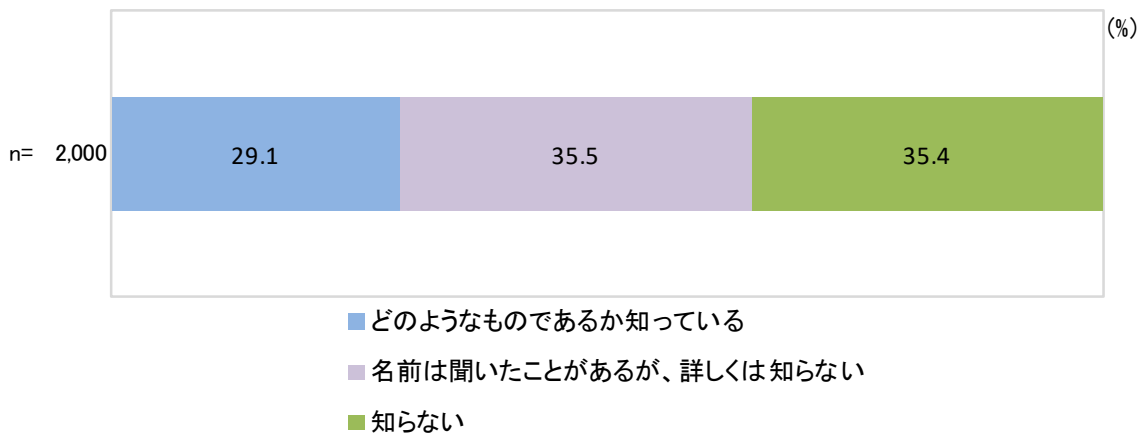
地域別にみると、東海地方、九州北部地方で「避難の準備や台風に対する備えを行う」(65.9%、69.2%)が高くなっている。

6. 大雨特別警報・キキクル・警戒レベル

(1) 大雨特別警報、キキクル（危険度分布）の認知度

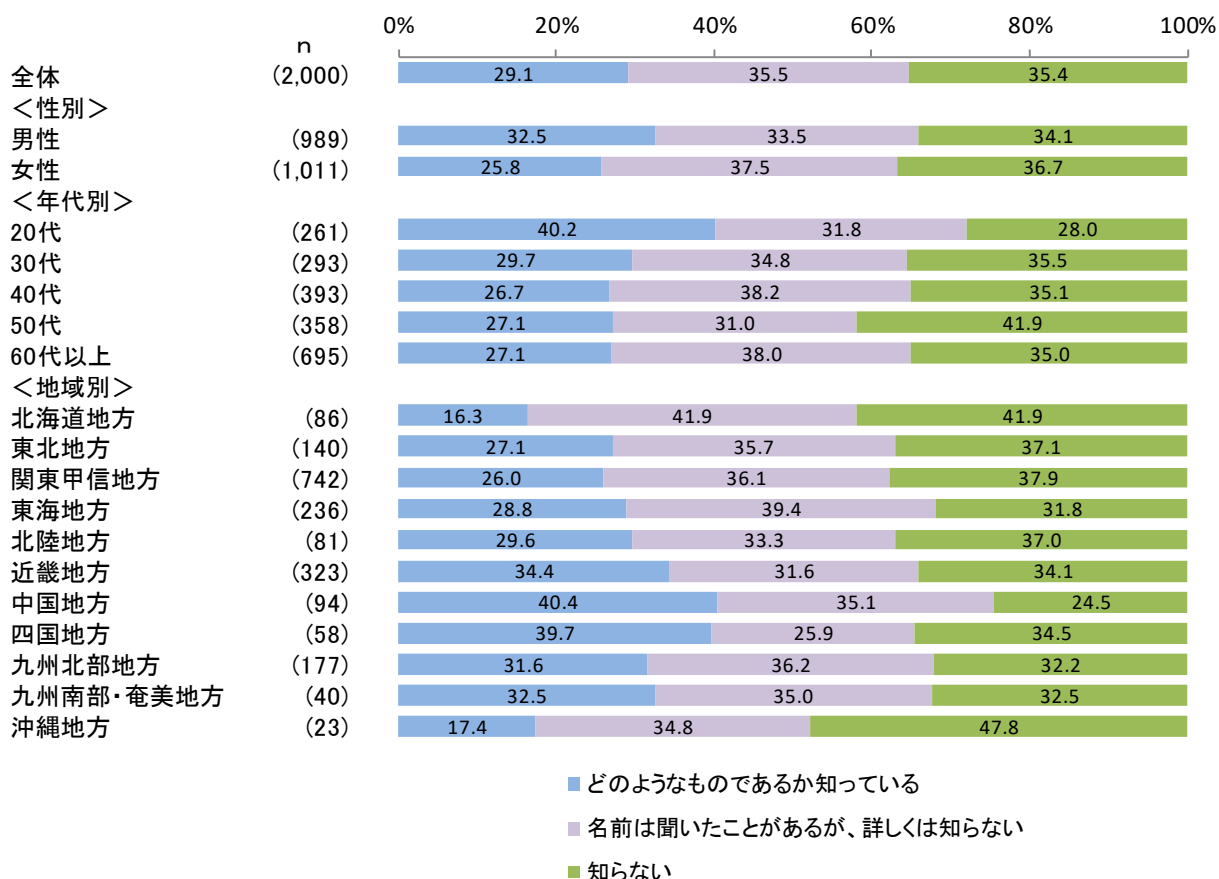
Q14. あなたは、特別警報のうち、「大雨特別警報」がどのようなものであるか知っていますか。
また、「キキクル（危険度分布）」がどのようなものであるか知っていますか。
あてはまるものを1つ選んでください。

① 大雨特別警報



大雨特別警報については、「どのようなものであるか知っている」が29.1%、「名前は聞いたことがあるが、詳しくは知らない」が35.5%、「知らない」が35.4%となっている。

II. アンケート調査結果



※ベースがn=29以下は参考値

性別にみると、男性は「どのようなものであるか知っている」(32.5%)がやや高く、女性は「名前は聞いたことがあるが、詳しくは知らない」(37.5%)がやや高い。

年代別では、20代で「どのようなものであるか知っている」(40.2%)が高く、50代で「知らない」(41.9%)がやや高い。

地域別では、近畿地方、中国地方、四国地方で「どのようなものであるか知っている」(34.4%、40.4%、39.7%)が高く、北海道で「名前は聞いたことがあるが、詳しくは知らない」(41.9%)が高い。

II. アンケート調査結果

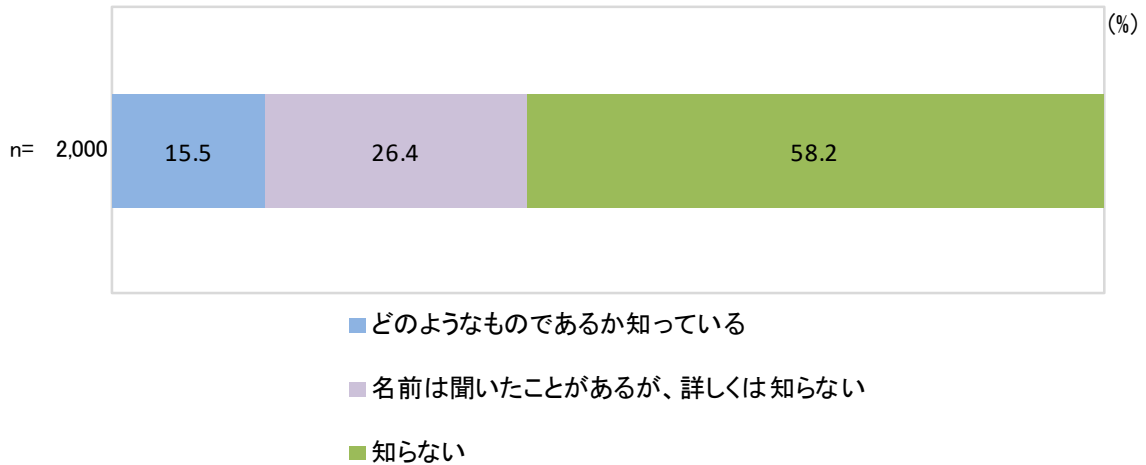
- * ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下
- * 赤字はベースがn=29以下のため参考値

		n	か ど の つ よ う な も の で あ る	い る が 前 は 詳 しい こ と が あ る	知 ら な い
全体		2,000	29.1	35.5	35.4
Q1	自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している	784	42.2	33.8	24.0
・	自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している	349	34.7	37.2	28.1
災害	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはあると思っている	470	17.9	39.6	42.6
リス	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている	186	15.1	41.4	43.5
ク	自分の住む地域の災害リスクについて考えたことはない	211	8.5	24.6	66.8
把握					

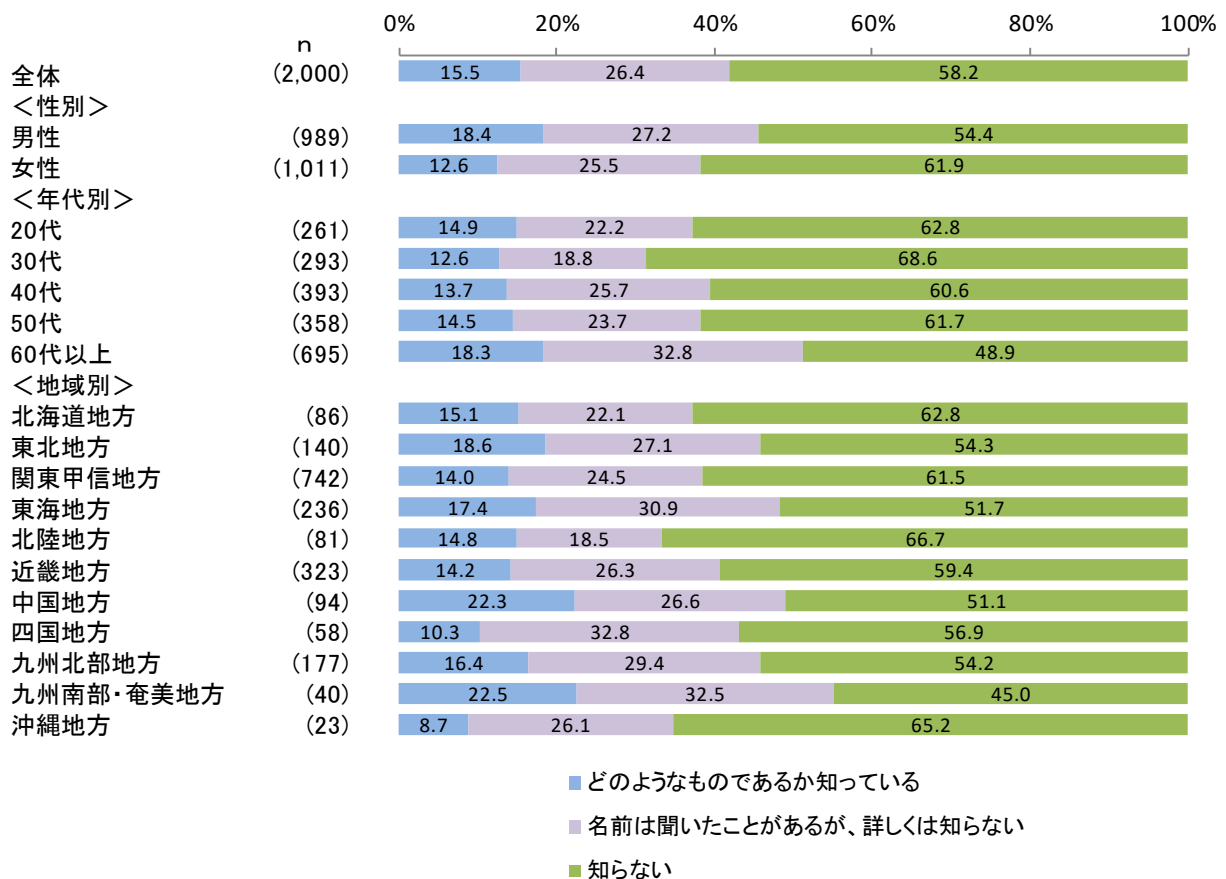
居住地の災害リスク把握別にみると、自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している層は「どのようなものであるか知っている」（42.2%）が高く、自分の住む地域の災害リスクについて考えたことはない層は「知らない」（66.8%）が高い。

II. アンケート調査結果

②キキクル（危険度分布）



キキクル（危険度分布）については、「どのようなものであるか知っている」が 15.5%、「名前は聞いたことがあるが、詳しくは知らない」が 26.4%、「知らない」が 58.2%となっている。



※ベースがn=29 以下は参考値

性別にみると、男性は「どのようなものであるか知っている」(18.4%)がやや高く、女性は「知らない」(61.9%)がやや高い。

年代別では、60代以上で「名前は聞いたことがあるが、詳しくは知らない」(32.8%)が高いため、「どのようなものであるか知っている」を含めた認知層の割合が高い。また、30代では「知らない」(68.6%)が高い。

地域別では、中国地方、九州南部・奄美地方で「どのようなものであるか知っている」(22.3%、22.5%)が高く、「名前は聞いたことがあるが、詳しくは知らない」を含めた認知層の割合も高い。北陸地方で「知らない」(66.7%)が高くなっている。

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-
 * 赤字はベースがn=29以下のため参考値

		n	か ど の つ よ て う い な る の で あ る	い る が 、 は 詳 しい く た は こ 知 ら が あ な あ	名 前 は 聞 い た こ と が あ る	知 ら な い
全体		2,000	15.5	26.4	58.2	
Q1	自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している	784	25.5	30.4	44.1	
・	自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している	349	14.9	31.5	53.6	
災	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはあると思っている	470	7.7	22.8	69.6	
害	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている	186	6.5	23.7	69.9	
リ	自分の住む地域の災害リスクについて考えたことはない	211	4.3	13.3	82.5	
ス						
ク						
把						
握						

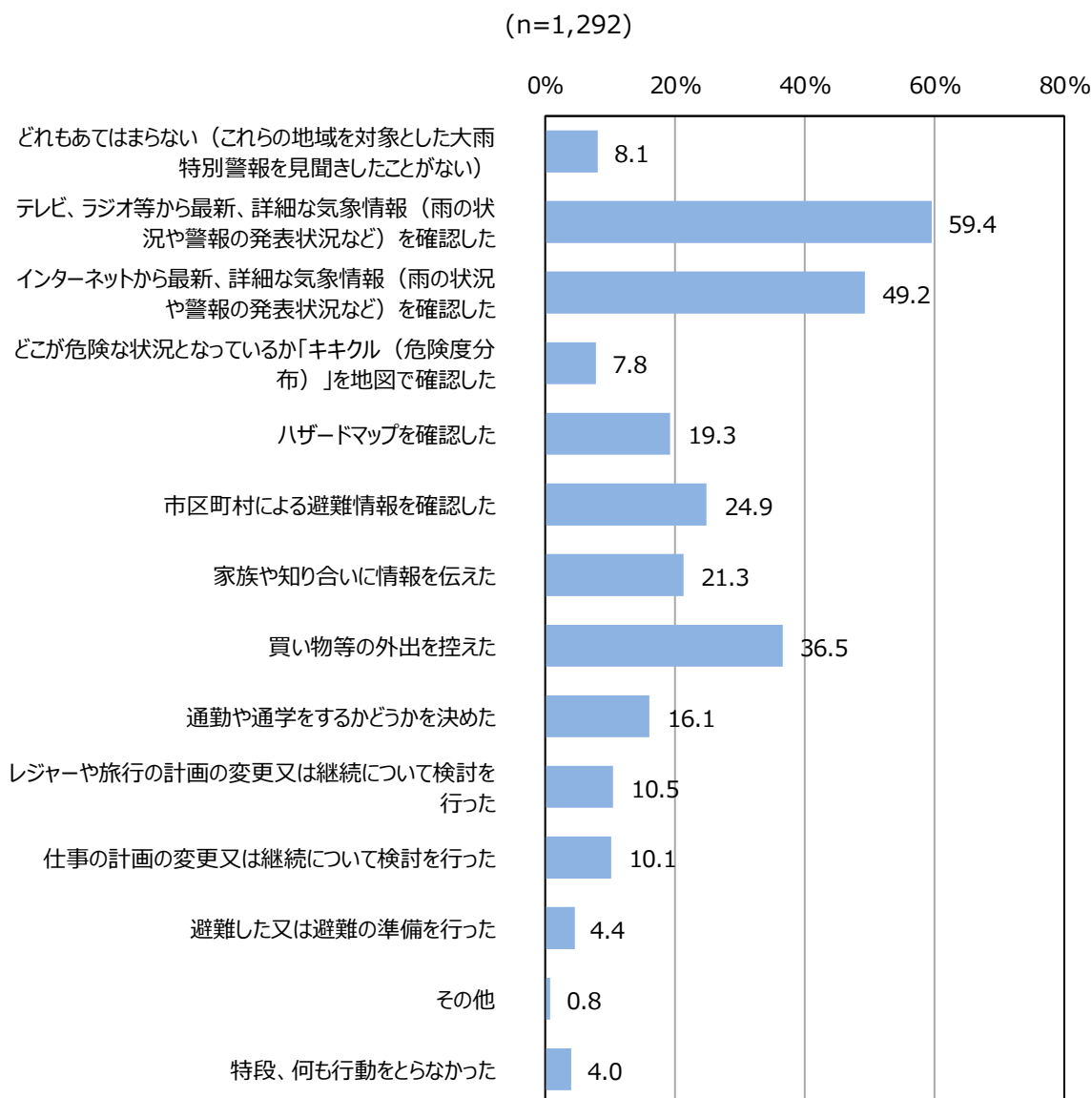
居住地の災害リスク把握別にみると、自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している層は「どのようなものであるか知っている」(25.5%)が高く、自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはあると思っている、自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている、自分の住む地域の災害リスクについて考えたことはないの各層は「知らない」(69.6%、69.9%、82.5%)が高い。

II. アンケート調査結果

(2) 大雨特別警報を見聞きしたときの行動

Q15. あなたは、自分のいる地域または関係する地域を対象とした大雨特別警報を見聞きした時に、どんな行動をとりましたか。あてはまるものを全て選んでください。

n=1,293 ベース：「大雨警戒警報」について、どのようなものか知っている」または「名前は聞いたことがある」と回答した人



自分のいる地域または関係する地域を対象とした大雨特別警報を見聞きした時の行動としては、「テレビ、ラジオ等から最新、詳細な気象情報（雨の状況や警報の発表状況など）を確認した」が 59.4%で最も高く、次いで「インターネットから最新、詳細な気象情報（雨の状況や警報の発表状況など）を確認した」（49.2%）、「買い物等の外出を控えた」（36.5%）となっている。

II. アンケート調査結果

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下
 * 赤字はベースがn=29以下のため参考値

	n	た ど れ も あ て は ま ら な い (こ れ ら の 地 域 を 対 象 と し た 大 雨 特 別 警 報 を 見 聞 き し た こ と が な い)	レ ビ ジ オ 等 か ら 最 新 、 詳 細 な 気 象 情 報 を 確 認 し た (雨 の 状 況 や 警 報 の 発 表 状 況 な ど)	テ レ ビ 、 ラ ジ オ 等 か ら 最 新 、 詳 細 な 気 象 情 報 を 確 認 し た (雨 の 状 況 や 警 報 の 発 表 状 況 な ど)	イ ン タ ー ネ ッ ト か ら 最 新 、 詳 細 な 気 象 情 報 を 確 認 し た (危 険 度 分 布)	ど こ が 危 険 な 状 況 と な っ て い る か (キ ク ル)	ハ ザ ー ド マ ッ プ を 確 認 し た	市 区 町 村 に よ る 避 難 情 報 を 確 認 し た	家 族 や 知 り 合 い に 情 報 を 伝 え た	買 い 物 等 の 外 出 を 控 え た	通 勤 や 通 学 を す る か ど う か を 決 め た	検 討 を 行 っ た	レ ジ ャ ー や 旅 行 の 計 画 の 変 更 又 は 継 続 に つ い て	仕 事 の 計 画 の 変 更 又 は 継 続 に つ い て	避 難 し た 又 は 避 難 の 準 備 を 行 っ た	そ の 他	特 段 、 何 も 行 動 を と ら な か っ た	
全体	1,292	8.1	59.4	49.2	7.8	19.3	24.9	21.3	36.5	16.1	10.5	10.1	4.4	0.8	4.0			
性別																		
男性	652	7.7	56.3	50.3	7.7	18.6	22.7	17.5	28.5	15.0	11.3	12.4	4.1	0.9	4.8			
女性	640	8.6	62.5	48.1	8.0	20.0	27.2	25.2	44.7	17.2	9.7	7.8	4.7	0.6	3.3			
年代別																		
20代	188	8.5	39.4	44.7	5.9	16.0	16.0	25.5	38.3	20.2	17.0	10.6	6.9	1.1	5.3			
30代	189	7.4	56.6	48.7	7.9	20.1	21.7	24.9	36.0	25.4	11.6	13.8	1.6	1.1	7.9			
40代	255	11.8	54.9	52.9	8.2	24.3	23.5	21.2	35.7	20.8	9.4	12.9	4.3	0.8	3.1			
50代	208	4.8	68.3	51.4	9.6	17.8	23.6	18.8	35.1	17.8	8.7	14.4	3.4	0.5	3.4			
60代以上	452	7.7	67.3	48.2	7.5	18.1	31.4	19.2	37.2	7.1	8.8	4.9	5.1	0.7	2.7			
地域別																		
北海道地方	50	4.0	66.0	42.0	12.0	16.0	12.0	22.0	38.0	14.0	16.0	10.0	4.0	0.0	8.0			
東北地方	88	6.8	69.3	56.8	8.0	19.3	17.0	18.2	20.5	12.5	5.7	10.2	6.8	1.1	4.5			
関東甲信地方	461	6.5	59.9	52.5	6.1	19.1	26.7	22.3	38.8	17.4	12.4	11.5	4.8	1.1	3.3			
東海地方	161	12.4	56.5	40.4	9.9	20.5	21.7	16.8	36.0	14.3	8.1	6.2	4.3	0.6	2.5			
北陸地方	51	7.8	56.9	29.4	2.0	19.6	17.6	15.7	39.2	7.8	13.7	9.8	2.0	0.0	3.9			
近畿地方	213	10.8	56.3	45.5	6.6	20.2	22.5	21.6	39.0	22.1	11.3	9.9	2.8	0.0	3.8			
中国地方	71	12.7	64.8	53.5	12.7	21.1	36.6	23.9	33.8	21.1	7.0	8.5	5.6	0.0	1.4			
四国地方	38	10.5	36.8	47.4	5.3	7.9	15.8	13.2	31.6	7.9	5.3	5.3	0.0	0.0	13.2			
九州北部地方	120	5.0	59.2	58.3	10.0	18.3	34.2	29.2	35.8	10.8	8.3	12.5	5.8	2.5	5.8			
九州南部・奄美地方	27	3.7	66.7	40.7	18.5	29.6	37.0	14.8	40.7	11.1	11.1	11.1	0.0	0.0	3.7			
沖縄地方	12	0.0	66.7	75.0	8.3	16.7	25.0	25.0	41.7	16.7	16.7	16.7	16.7	0.0	8.3			

性別にみると、女性は「買い物等の外出を控えた」(44.7%)がやや高い。

年代別では、30代で「通勤や通学をするかどうかを決めた」(25.4%)、40代で「ハザードマップを確認した」(24.3%)、50代で「テレビ、ラジオ等から最新、詳細な気象情報を確認した」(68.3%)、60代以上で「テレビ、ラジオ等から最新、詳細な気象情報を確認した」(67.3%)、「市区町村による避難情報を確認した」(31.4%)がそれぞれ高い。

地域別では、中国地方で「市区町村による避難情報を確認した」(36.6%)が高くなっている。

II. アンケート調査結果

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下
 * 赤字はベースがn=29以下のため参考値

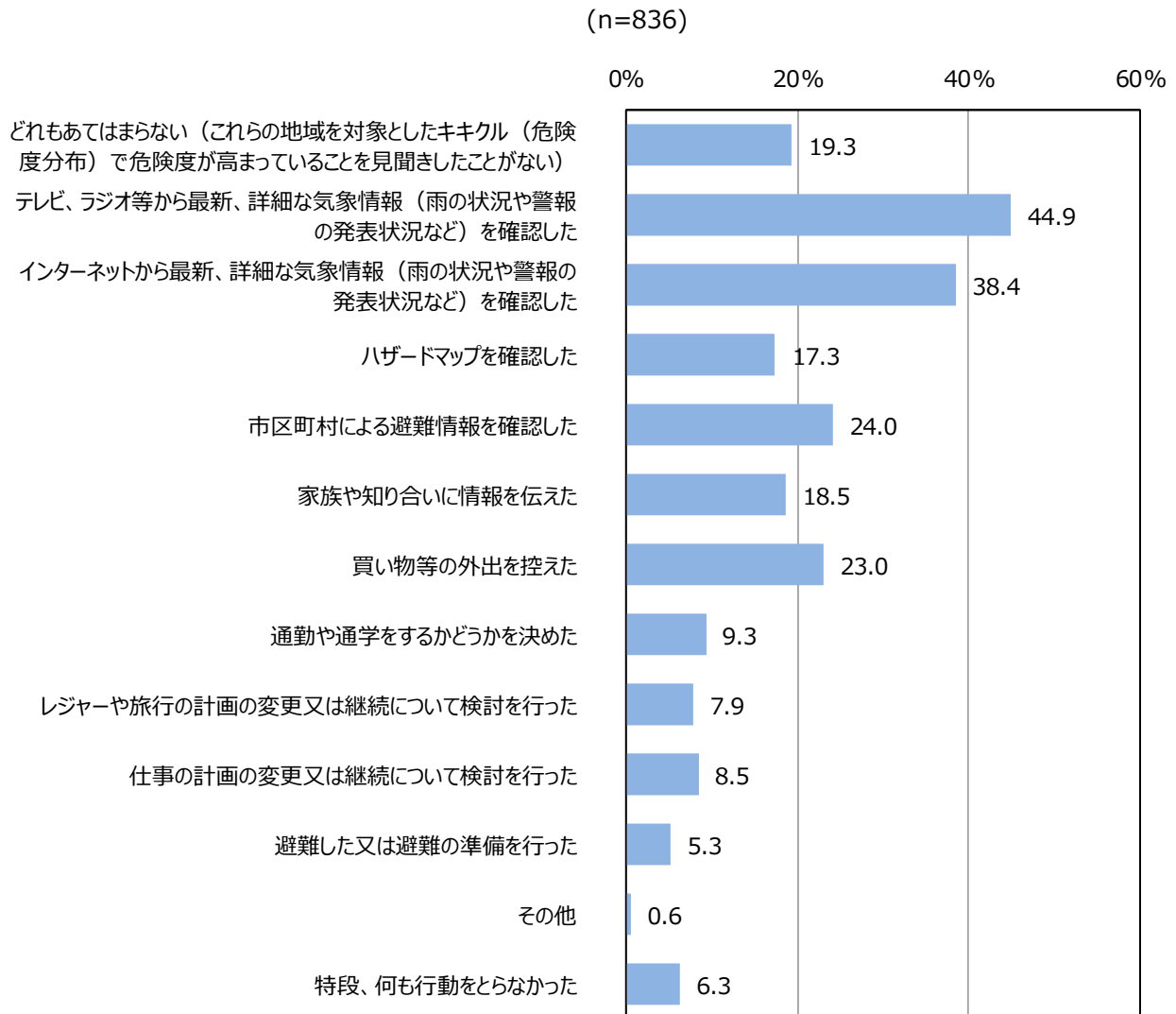
		n	した大雨特別警報を見聞きしたことがない(対象と)	テレビ、ラジオ等から最新、詳細な気象情報(雨)	インターネットから最新、詳細な気象情報(雨)	(危険度分布)を地図で確認した	どこが危険な状況となっているか(キキクル)	ハザードマップを確認した	市区町村による避難情報を確認した	家族や知り合いに情報を伝えた	買い物等の外出を控えた	通勤や通学をどうかを決めた	検討を行った	レジャーや旅行の計画の変更又は継続について	仕事の計画の変更又は継続について検討を行った	避難した又は避難の準備を行った	その他	特段、何も行動をとらなかった
全体		1,292	8.1	59.4	49.2	7.8	19.3	24.9	21.3	36.5	16.1	10.5	10.1	4.4	0.8	4.0		
Q4 防災情報入手手段	テレビ(一般放送)	1,142	8.0	63.8	49.6	7.9	19.4	25.5	22.1	37.8	16.1	10.3	9.9	4.6	0.8	3.4		
	テレビ(リモコンの「dボタン」で表示されるデータ放送)	457	5.9	68.1	56.7	12.0	25.8	32.8	25.6	42.5	20.8	13.8	13.8	7.4	0.9	2.2		
	ラジオ	244	3.7	71.3	50.0	9.0	24.2	27.5	28.3	39.8	19.3	11.9	11.9	5.3	0.0	2.9		
	音声電話(177天気予報電話サービス等)	23	4.3	56.5	52.2	21.7	39.1	39.1	34.8	34.8	13.0	13.0	4.3	17.4	0.0	13.0		
	自治体からの電子メール(自治体(都道府県・市区町村)が提供する登録制の防災メールサービス)	515	7.0	66.0	57.3	12.2	25.4	38.1	23.9	42.3	18.1	12.4	11.7	5.8	0.6	1.6		
	その他の電子メール(「自治体からの電子メール」以外のメールサービス)	129	3.1	71.3	68.2	18.6	31.0	38.0	32.6	41.9	17.8	14.7	17.1	10.1	0.8	2.3		
	気象庁ホームページ	524	5.3	58.8	61.8	11.6	25.4	29.2	25.4	39.3	21.6	14.9	14.3	5.7	0.8	2.5		
	その他のホームページ(自治体、報道機関、気象会社など)	322	6.2	64.3	68.9	11.8	26.1	33.5	27.6	44.4	22.0	17.7	16.5	6.2	0.9	2.2		
	ツイッター、フェイスブック、LINEなどのソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)	300	6.0	58.7	61.0	9.3	23.7	28.7	29.0	44.3	23.7	17.3	16.7	7.0	0.3	2.7		
	スマートフォンのアプリ(気象情報等を受信・表示したりする専用アプリ)	577	6.1	62.7	57.2	9.2	22.7	29.6	25.8	39.2	18.0	13.3	14.9	5.5	1.6	3.1		
	市区町村の防災行政無線	488	6.6	67.2	53.9	8.8	20.7	34.8	22.5	39.3	15.8	11.5	11.5	6.1	0.6	1.6		
	その他	18	0.0	55.6	61.1	27.8	38.9	66.7	38.9	44.4	16.7	16.7	27.8	16.7	0.0	0.0		
	どれもあてはまらない(入手する手段はない)	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0		

防災情報の入手手段別にみると、その他の電子メールの層は、「テレビ、ラジオ等から最新、詳細な気象情報を確認した」(71.3%)、「インターネットから最新、詳細な気象情報を確認した」(68.2%)など多岐にわたる行動をしている様子が窺える。

(3) 危険度が高まっていることの認知時の行動

Q16. あなたは、自分のいる地域または関係する地域を対象としたキキクル（危険度分布）で危険度が高まっていることを見聞きした時に、どんな行動をとりましたか。
あてはまるものを全て選んでください。

n=836 ベース：「キキクル」について、「どのようなものか知っている」または「名前は聞いたことがある」と回答した人



自分のいる地域または関係する地域を対象としたキキクル（危険度分布）で危険度が高まっていることを見聞きした時の行動としては、「テレビ、ラジオ等から最新、詳細な気象情報を確認した」が44.9%で最も高く、これに「インターネットから最新、詳細な気象情報を確認した」（38.4%）、「市区町村による避難情報を確認した」（24.0%）、「買い物等お外出を控えた」（23.0%）が続いている。

II. アンケート調査結果

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下

* 赤字はベースがn=29以下のため参考値

	n	まど ど も あ て は ま ら な い (こ れ ら の 地 域 を 対 象 と し た キ ク ル (危 険 度 分 布 事 象 を 確 認 し た)	報 し た (雨 の 状 況 や 警 報 の 発 表 状 況 な ど)	レ ビ 、 ラ ジ オ 等 か ら 最 新 、 詳 細 な 気 象 情 報 を 確 認 し た (雨 の 状 況 や 警 報 の 発 表 状 況 な ど)	し た (雨 の 状 況 や 警 報 の 発 表 状 況 な ど)	イ ン タ ー ネ ッ ト か ら 最 新 、 詳 細 な 気 象 情 報 を 確 認 し た (雨 の 状 況 や 警 報 の 発 表 状 況 な ど)	ハ ザ ー ド マ ッ プ を 確 認 し た	市 区 町 村 に よ る 避 難 情 報 を 確 認 し た	家 族 や 知 り 合 い に 情 報 を 伝 え た	買 い 物 等 の 外 出 を 控 え た	通 勤 や 通 学 を す る か ど う か を 決 め た	レ ジ ャ ー や 旅 行 の 計 画 の 変 更 又 は 継 続 に つ い て 検 討 を 行 っ た	行 っ た 仕 事 の 計 画 の 変 更 又 は 継 続 に つ い て 検 討 を 行 っ た	避 難 し た 又 は 避 難 の 準 備 を 行 っ た	そ の 他	特 段 、 何 も 行 動 を と ら な か っ た	
全体	836	19.3	44.9	38.4	17.3	24.0	18.5	23.0	9.3	7.9	8.5	5.3	0.6	6.3			
性別																	
男性	451	19.1	41.2	39.5	17.5	22.6	14.4	17.7	9.3	8.6	10.2	4.2	0.7	6.9			
女性	385	19.5	49.1	37.1	17.1	25.7	23.4	29.1	9.4	7.0	6.5	6.5	0.5	5.7			
年代別																	
20代	97	16.5	30.9	32.0	21.6	21.6	28.9	20.6	12.4	15.5	10.3	3.1	1.0	7.2			
30代	92	20.7	38.0	32.6	13.0	15.2	17.4	23.9	9.8	12.0	9.8	4.3	0.0	7.6			
40代	155	17.4	36.8	40.0	23.9	23.2	18.7	20.0	13.5	3.2	9.7	8.4	0.0	9.0			
50代	137	21.2	50.4	46.0	15.3	23.4	18.2	19.7	8.8	7.3	10.2	6.6	0.7	6.6			
60代以上	355	19.7	51.8	38.0	15.2	27.6	16.1	25.9	6.8	7.0	6.5	4.2	0.8	4.5			
地域別																	
北海道地方	32	21.9	46.9	37.5	28.1	18.8	18.8	21.9	3.1	12.5	9.4	9.4	0.0	3.1			
東北地方	64	23.4	51.6	42.2	15.6	21.9	10.9	15.6	4.7	4.7	7.8	1.6	1.6	4.7			
関東甲信地方	286	20.6	39.5	38.5	19.6	23.8	17.5	21.0	9.1	7.3	8.0	5.2	0.7	6.6			
東海地方	114	21.1	38.6	35.1	14.9	24.6	18.4	28.1	8.8	7.0	6.1	4.4	0.0	6.1			
北陸地方	27	14.8	44.4	22.2	14.8	7.4	14.8	25.9	7.4	11.1	7.4	3.7	0.0	11.1			
近畿地方	131	21.4	42.0	35.9	13.0	19.1	19.1	24.4	16.0	12.2	8.4	2.3	0.0	7.6			
中国地方	46	15.2	58.7	43.5	10.9	32.6	21.7	21.7	10.9	2.2	17.4	13.0	0.0	2.2			
四国地方	25	16.0	48.0	36.0	16.0	16.0	20.0	16.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	8.0			
九州北部地方	81	13.6	58.0	49.4	18.5	32.1	28.4	28.4	8.6	9.9	12.3	4.9	2.5	4.9			
九州南部・奄美地方	22	4.5	50.0	31.8	27.3	45.5	9.1	22.7	4.5	0.0	0.0	22.7	0.0	13.6			
沖縄地方	8	12.5	75.0	37.5	25.0	37.5	25.0	25.0	25.0	12.5	25.0	12.5	0.0	0.0			

性別にみると、女性は「買い物等の外出を控えた」(29.1%)が高い。

年代別では、20代で「家族や知り合いに情報を伝えた」(28.9%)が高い。

地域別では、北海道地方で「ハザードマップを確認した」(28.1%)が高く、中国地方で「テレビ、ラジオ等から最新、詳細な気象情報を確認した」(58.7%)が高い。また、九州北部地方で「テレビ、ラジオ等から最新、詳細な気象情報を確認した」(58.0%)、「インターネットから最新、詳細な気象情報を確認した」(49.4%)が高くなっている。

II. アンケート調査結果

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下
 * 赤字はベースがn=29以下のため参考値

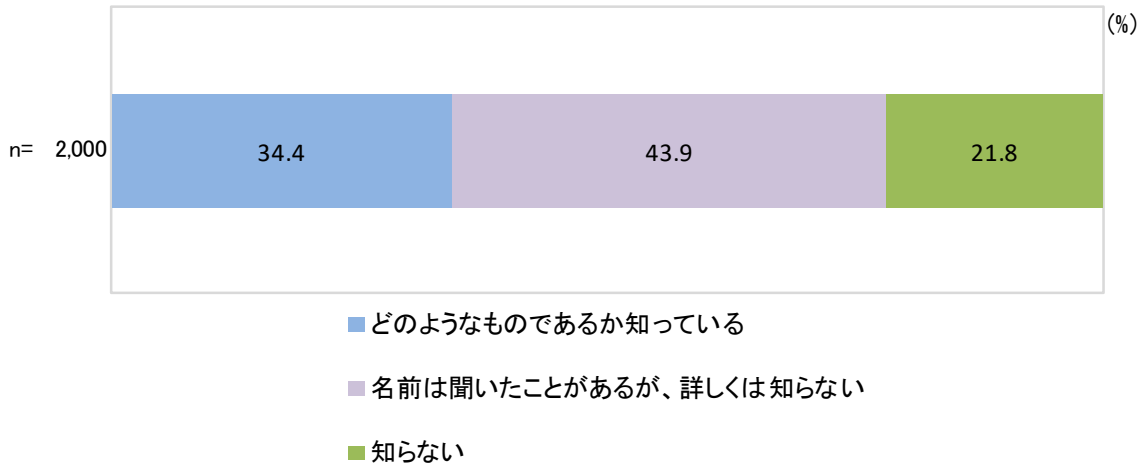
	n	ま ど と れ も あ て は ま ら な い （ 危 険 度 分 布 ） で 危 険 度 が 高 象	た （ 雨 の 状 況 や 警 報 の 発 表 状 況 な ど ） を 確 認 し	た （ 雨 の 状 況 や 警 報 の 発 表 状 況 な ど ） を 確 認 し	ハ ザ ード マ ツ プ を 確 認 し た	市 区 町 村 に よ る 避 難 情 報 を 確 認 し た	家 族 や 知 り 合 い に 情 報 を 伝 え た	買 い 物 等 の 外 出 を 控 え た	通 勤 や 通 学 を す る か ど う か を 決 め た	レ ジ ヤ ー や 旅 行 の 計 画 の 変 更 又 は 継 続 に つ い て 検 討 を 行 っ た	仕 事 の 計 画 の 変 更 又 は 継 続 に つ い て 検 討 を 行 っ た	避 難 し た 又 は 避 難 の 準 備 を 行 っ た	そ の 他	特 段 、 何 も 行 動 を と ら な か っ た	
全体	836	19.3	44.9	38.4	17.3	24.0	18.5	23.0	9.3	7.9	8.5	5.3	0.6	6.3	
Q 4 ・ 防 災 情 報 入 手 手 段	テレビ（一般放送）	746	19.3	47.6	38.9	17.2	24.8	19.0	24.1	9.8	8.3	8.6	5.9	0.5	6.2
	テレビ（リモコンの「dボタン」で表示されるデータ放送）	332	18.1	51.5	45.2	20.8	30.4	21.4	26.8	14.2	10.8	13.0	7.5	0.6	5.4
	ラジオ	176	15.9	52.3	44.3	25.6	25.0	21.6	27.3	9.1	8.5	8.5	6.3	0.0	5.7
	音声電話（177天気予報電話サービス等）	17	5.9	52.9	47.1	41.2	41.2	41.2	47.1	17.6	11.8	17.6	23.5	0.0	17.6
	自治体からの電子メール（自治体（都道府県・市区町村）が提供する登録制の防災メールサービス）	366	17.5	49.5	48.4	19.1	33.1	20.5	26.8	11.5	8.5	10.4	7.4	0.3	4.1
	その他の電子メール（「自治体からの電子メール」以外のメールサービス）	107	15.0	53.3	53.3	29.9	33.6	26.2	27.1	9.3	10.3	12.1	9.3	0.9	4.7
	気象庁ホームページ	394	17.0	44.7	45.4	21.6	27.2	19.3	22.3	11.9	10.4	12.4	5.8	0.3	6.9
	その他のホームページ（自治体、報道機関、気象会社など）	217	20.7	47.0	54.4	21.7	30.9	21.7	27.2	11.1	12.4	14.3	7.4	0.5	3.2
	ツイッター、フェイスブック、LINEなどのソーシャル・ネットワーク・サービス（SNS）	162	20.4	47.5	49.4	23.5	25.3	22.8	28.4	16.7	12.3	14.8	9.3	0.0	6.8
	スマートフォンのアプリ（気象情報等を受信・表示したりする専用アプリ）	383	20.4	46.7	42.3	18.3	27.2	19.6	25.1	12.0	9.4	9.4	7.3	1.0	7.0
	市区町村の防災行政無線	356	18.0	48.9	40.4	18.0	29.2	20.2	23.6	7.6	7.6	9.0	6.2	0.3	4.5
	その他	15	0.0	46.7	66.7	26.7	60.0	60.0	33.3	33.3	13.3	20.0	13.3	0.0	6.7
	どれもあてはまらない（入手する手段はない）	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

防災情報の入手手段別にみると、その他の電子メール、その他のホームページ、SNSの各層は、インターネットから最新、詳細な気象情報を確認した」（53.3%、54.4%、49.4%）が高くなっている。

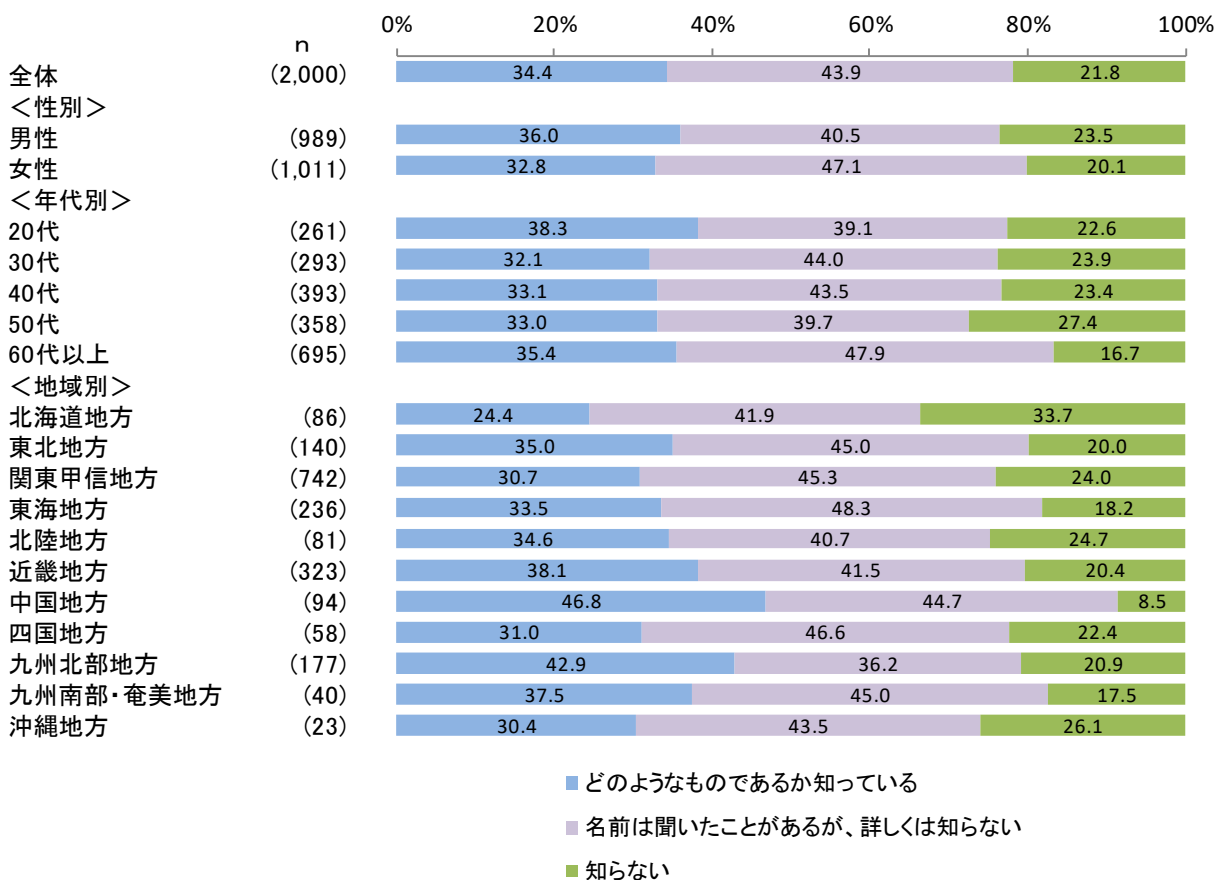
II. アンケート調査結果

(4) 「警戒レベル」の認知度

Q17. あなたは、大雨に関して避難情報等の「警戒レベル」がどのようなものであるか知っていますか。あてはまるものを1つ選んでください。



大雨に関する避難情報等の「警戒レベル」については、「どのようなものであるか知っている」が34.4%、「名前は聞いたことがあるが、詳しくは知らない」が43.9%、「知らない」が21.8%となっている。



※ベースがn=29 以下は参考値

性別にみると、全体と同様の傾向にある。

年代別では、20代で「どのようなものであるか知っている」(38.3%)がやや高く、60代以上で「名前は聞付 3-98

Ⅱ. アンケート調査結果

いたことがあるが、詳しくは知らない」(47.9%) がやや高い。また、50代で「知らない」(27.4%)が高い。
 地域別では、中国地方、九州北部地方で「どのようなものであるか知っている」(46.8%、42.9%)が高く、北海道で「知らない」(33.7%)が高い。

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント
 * 赤字はベースがn=29以下のため参考値

		n	かど 知の つよ てう いな るも ので ある	い る 名 が 前 、 は 詳 聞 し いた くた はこ 知と ら が な あ	知 ら な い
全体		2,000	34.4	43.9	21.8
Q1. 災害リスク把握	自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している	784	52.8	37.6	9.6
	自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いてある程度把握している	349	37.8	45.8	16.3
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはあると思っている	470	20.9	54.5	24.7
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている	186	14.0	55.4	30.6
	自分の住む地域の災害リスクについて考えたことはない	211	8.5	29.9	61.6

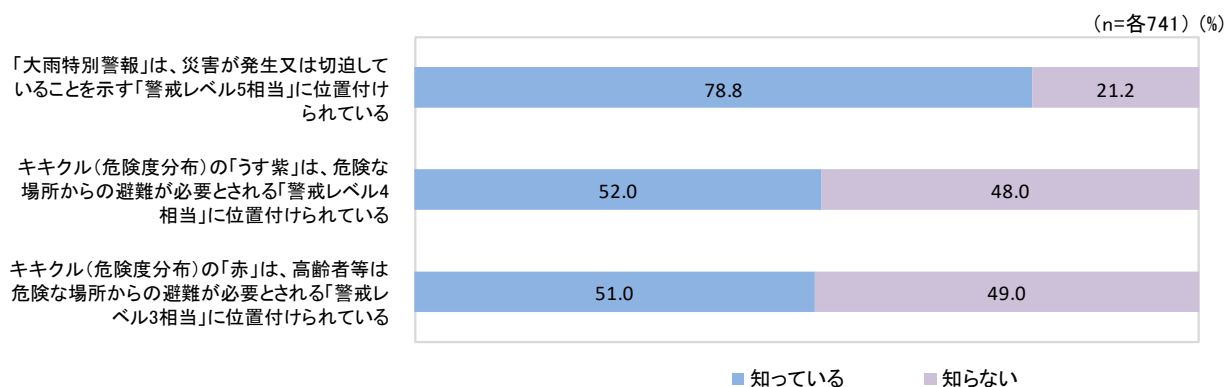
居住地の災害リスク把握別にみると、自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している層は「どのようなものであるか知っている」(52.8%)が高い。一方、自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはあると思っている層と自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている層は「名前は聞いたことがあるが、詳しくは知らない」(54.5%、55.4%)が高く、自分の住む地域の災害リスクについて考えたことはない層は「知らない」(61.6%)が高くなっている。

II. アンケート調査結果

(5) 大雨特別警報やキキクル（危険度分布）位置づけの認知度

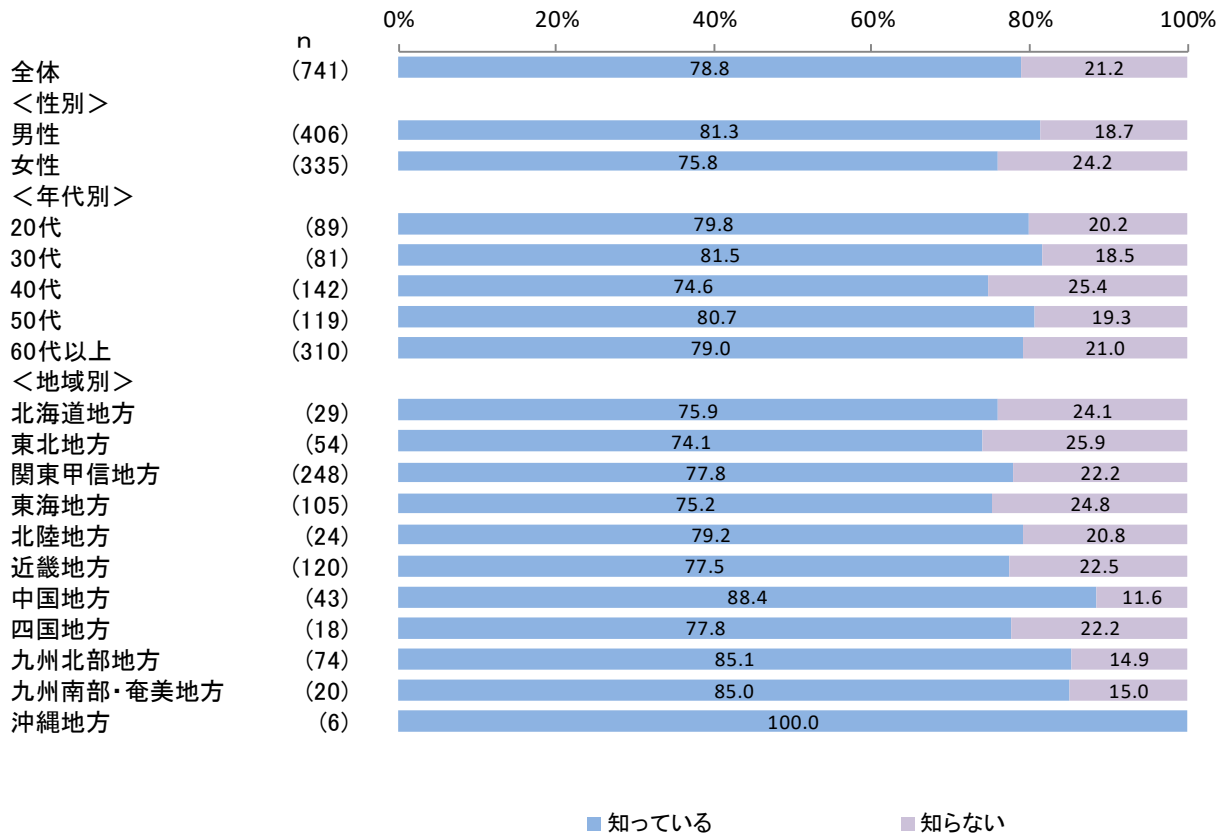
Q18. あなたは、大雨特別警報やキキクル（危険度分布）について、次のことを知っていますか。
あてはまるものを全て選んでください。

n=各 741 ベース：「大雨警戒警報」「キキクル」「警戒レベル」のそれぞれについて、「どのようなものか知っている」または「名前は聞いたことがある」と回答した人



＜「大雨特別警報」は、災害が発生又は切迫していることを示す「警戒レベル 5 相当」に位置付けられている＞の認知度（「知っている」）は 78.8%にのぼる。これに比べると、＜キキクル（危険度分布）の「うす紫」は、危険な場所からの避難が必要とされる「警戒レベル 4 相当」に位置付けられている＞＜キキクル（危険度分布）の「赤」は、高齢者等は危険な場所からの避難が必要とされる「警戒レベル 3 相当」に位置付けられている＞の認知はやや低く、52.0%、51.0%となっている。

①「大雨特別警報」は、災害が発生又は切迫していることを示す「警戒レベル 5 相当」に位置付けられている



※ベースがn=29以下は参考値

＜「大雨特別警報」は、災害が発生又は切迫していることを示す「警戒レベル 5 相当」に位置付けられている＞の認知度（「知っている」）は78.8%。

性別にみると、男性の認知度は81.3%で、女性（75.8%）をやや上回る。

年代別では、全体と同様の傾向にある。

地域別では、中国地方、九州北部地方の認知（88.4%、85.1%）が高い。

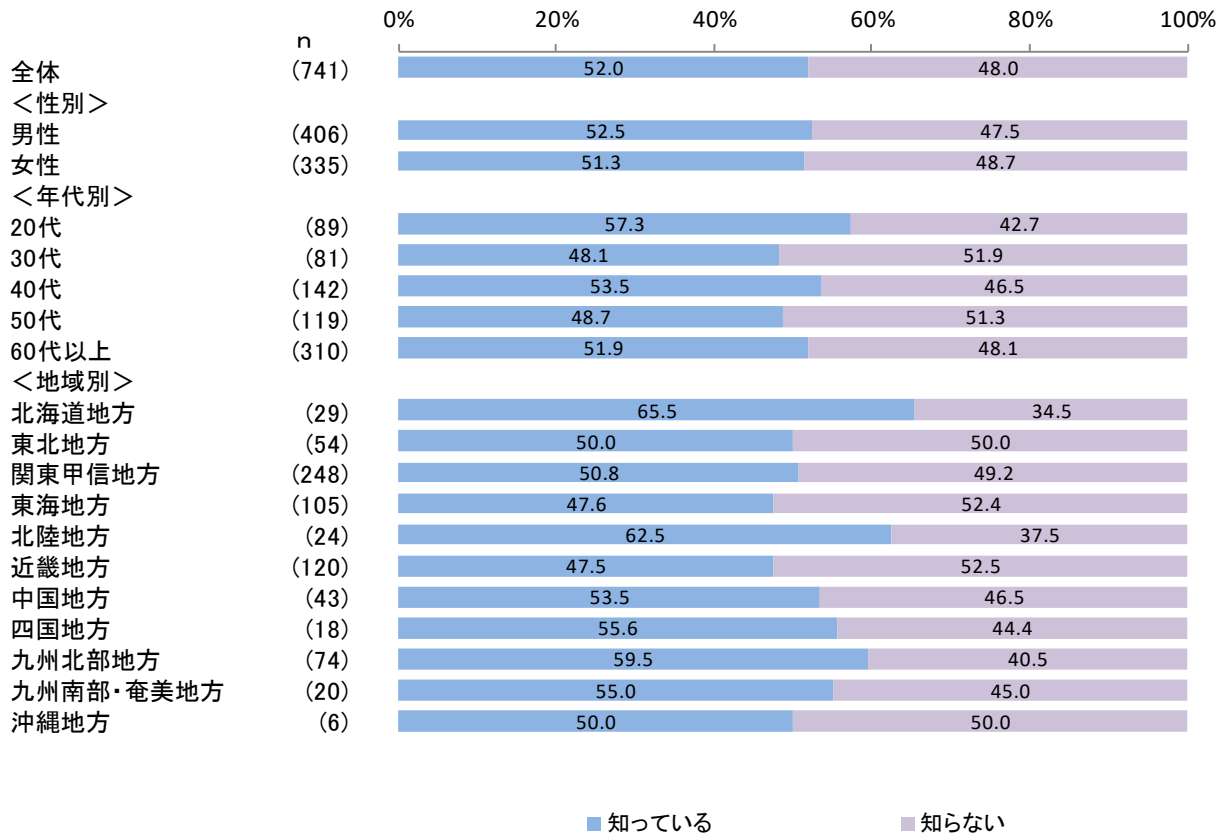
II. アンケート調査結果

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下
 * 赤字はベースがn=29以下のため参考値

		n	知 っ て い る	知 ら な い
全体		741	78.8	21.2
Q1.災害リスク把握	自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している	410	81.5	18.5
	自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している	146	79.5	20.5
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはあると思っている	120	75.8	24.2
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている	40	70.0	30.0
	自分の住む地域の災害リスクについて考えたことはない	25	60.0	40.0

居住地の災害リスク把握別にみると、自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている層の認知度（70.0%）が低くなっている。

②キキクル（危険度分布）の「うす紫」は、危険な場所からの避難が必要とされる「警戒レベル4相当」に位置付けられている



※ベースがn=29以下は参考値

<キキクル（危険度分布）の「うす紫」は、危険な場所からの避難が必要とされる「警戒レベル4相当」に位置付けられている>の認知度（「知っている」）は52.0%。

性別にみると、全体と同様の傾向にある。

年代別では、20代の認知度（57.3%）が高い。

地域別では、九州北部地方の認知度（59.5%）が高い。

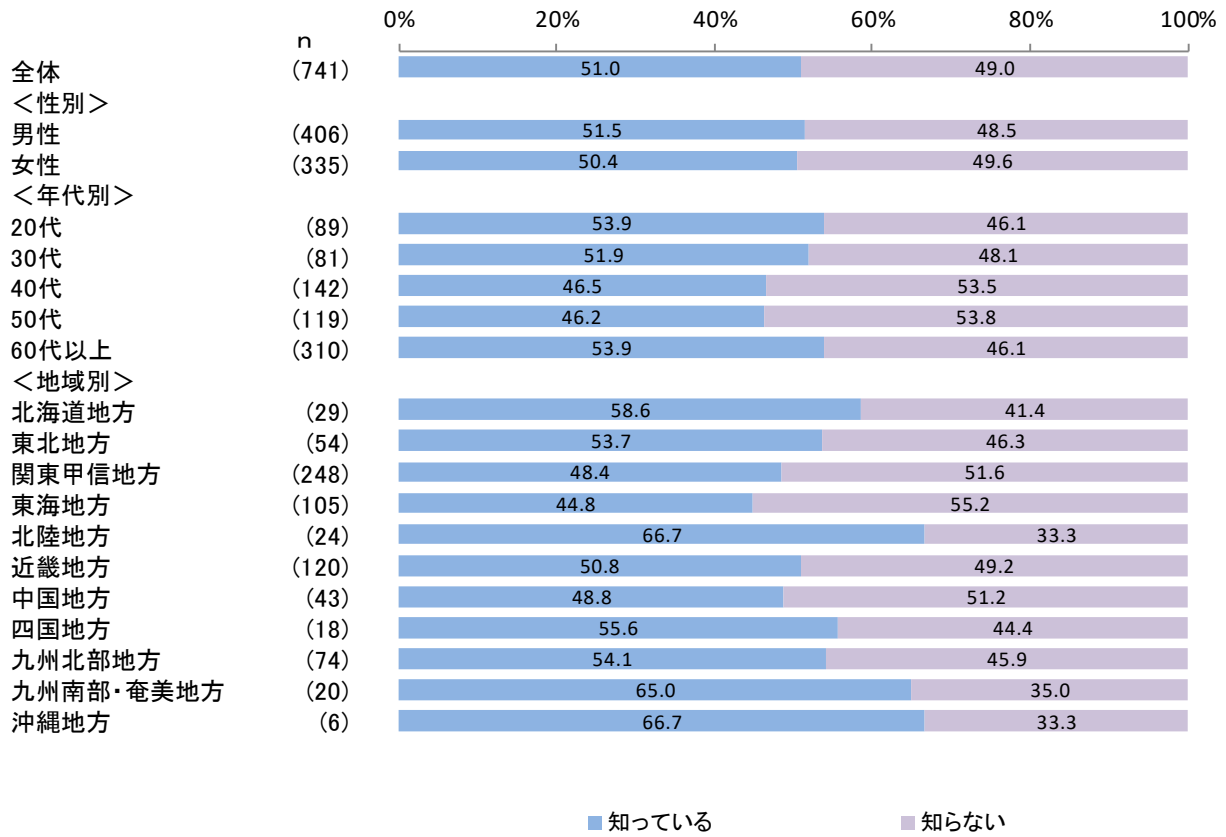
II. アンケート調査結果

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下
 * 赤字はベースがn=29以下のため参考値

		n	知 っ て い る	知 ら な い
全体		741	52.0	48.0
Q1.災害リスク把握	自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している	410	59.3	40.7
	自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している	146	52.7	47.3
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはあると思っている	120	33.3	66.7
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている	40	37.5	62.5
	自分の住む地域の災害リスクについて考えたことはない	25	40.0	60.0

居住地の災害リスク把握別にみると、自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している層の認知度（59.3%）が高くなっている。

③キキクル（危険度分布）の「赤」は、高齢者等は危険な場所からの避難が必要とされる「警戒レベル3相当」に位置付けられている



※ベースがn=29以下は参考値

<キキクル（危険度分布）の「赤」は、高齢者等は危険な場所からの避難が必要とされる「警戒レベル3相当」に位置付けられている>の認知度は51.0%。

性別にみると、全体と同様の傾向にある。

年代別では、全体と同様の傾向にある。

II. アンケート調査結果

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下
 * 赤字はベースがn=29以下のため参考値

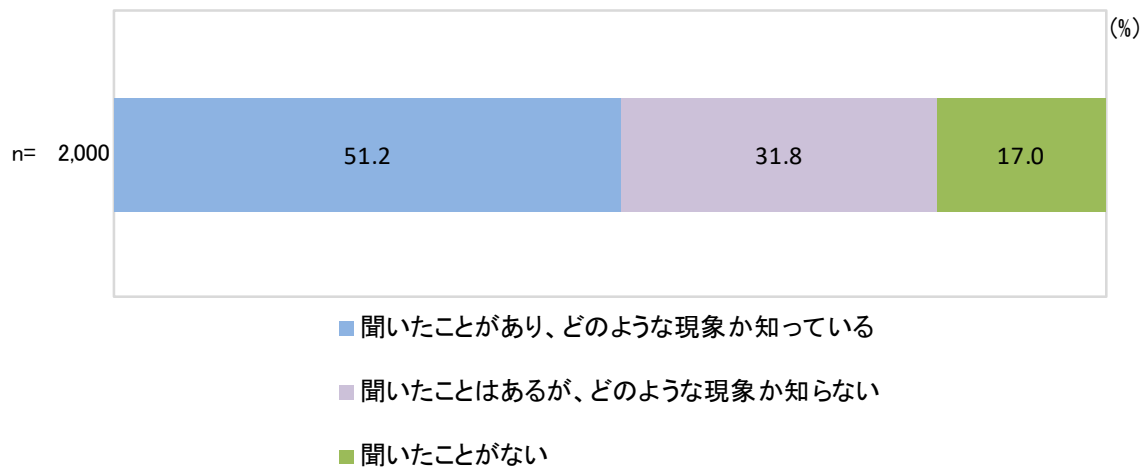
		n	知 っ て い る	知 ら な い
全体		741	51.0	49.0
Q1.災害リスク把握	自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している	410	57.8	42.2
	自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している	146	49.3	50.7
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはあると思っている	120	35.8	64.2
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている	40	42.5	57.5
	自分の住む地域の災害リスクについて考えたことはない	25	36.0	64.0

居住地の災害リスク把握別にみると、自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している層の認知度（57.8%）が高い。

7. 線状降水帯

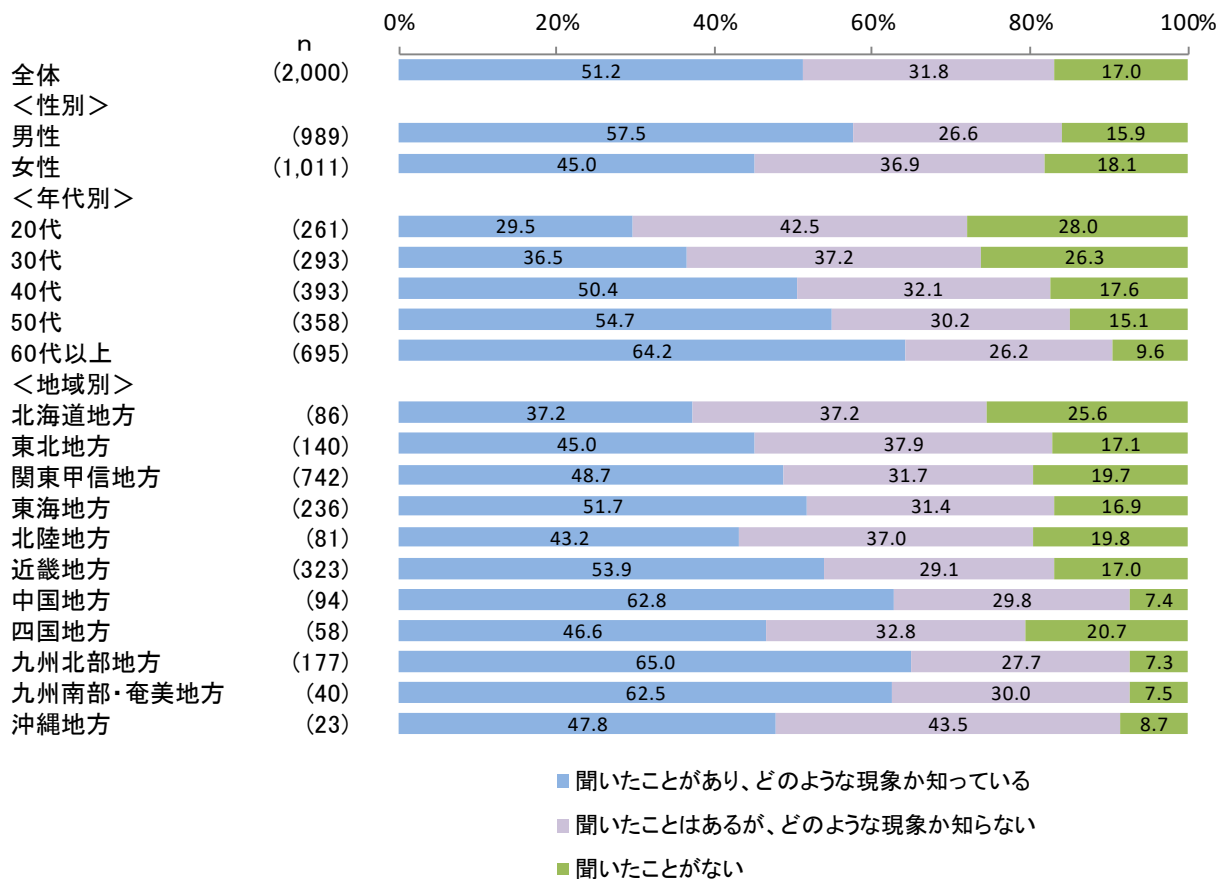
(1) 「線状降水帯」の認知度

Q19. あなたは、「線状降水帯」という言葉を聞いたことがありますか。
また、どのような現象か知っていますか。



＜線状降水帯＞については、「聞いたことがあります、どのような現象か知っている」が 51.2%、「聞いたことはあるが、どのような現象か知らない」が 31.8%、「聞いたことがない」が 17.0%となっている。

II. アンケート調査結果



※ベースがn=29 以下は参考値

性別にみると、男性は「聞いたことがあります、どのような現象か知っている」(57.5%)が高く、女性は「聞いたことはあるが、どのような現象か知らない」(36.9%)が高い。

年代別では、高年層ほど「聞いたことがあります、どのような現象か知っている」が高く、若年層ほど「聞いたことはあるが、どのような現象か知らない」「聞いたことがない」が高い傾向となっている。

地域別では、中国地方、九州北部地方、九州南部・奄美地方で「聞いたことがあります、どのような現象か知っている」(62.8%、65.0%、62.5%)が高くなっている。

Ⅱ. アンケート調査結果

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下
 * 赤字はベースがn=29以下のため参考値

		n	象 か、 知 つ て い う が あ る 現	象 が、 知 ら な い は あ る	聞 いた こ と が な い
全体		2,000	51.2	31.8	17.0
Q1.災害リスク把握	自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している	784	69.9	22.3	7.8
	自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している	349	55.3	34.7	10.0
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはあると思っている	470	37.4	42.8	19.8
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている	186	39.2	40.3	20.4
	自分の住む地域の災害リスクについて考えたことはない	211	16.1	30.3	53.6

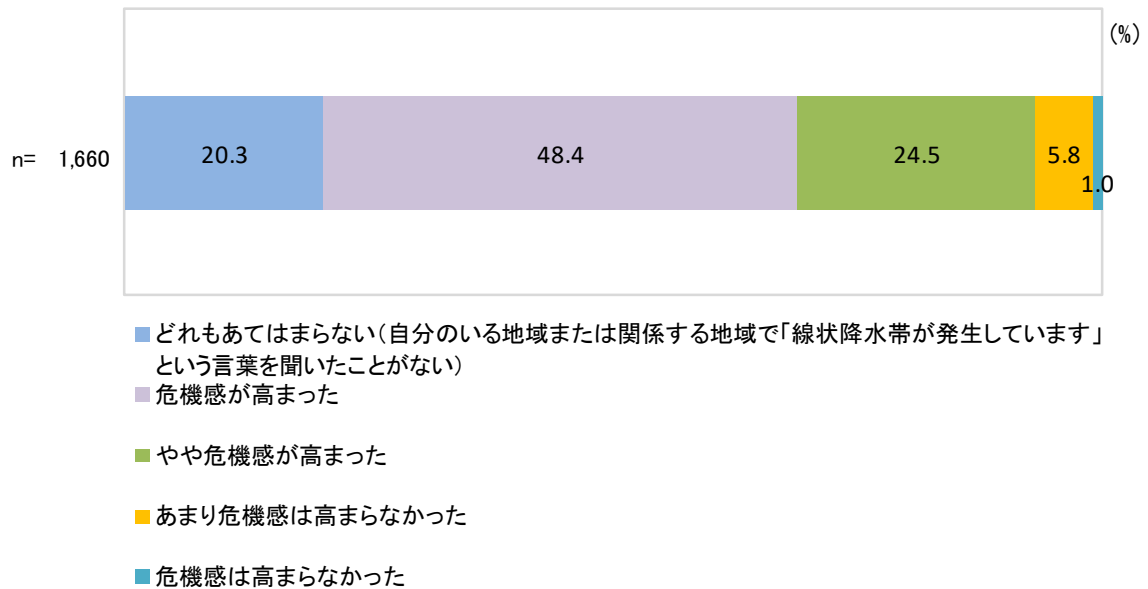
居住地の災害リスク把握別にみると、自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している層は「聞いたことがあり、どのような現象か知っている」(69.9%)が高い。一方、自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはあると思っている層は「聞いたことはあるが、どのような現象か知らない」(42.8%)がやや高く、自分の住む地域の災害リスクについて考えたことはない層は「聞いたことがない」(53.6%)が高くなっている。

II. アンケート調査結果

(2) 線状降水帯発生時の意識

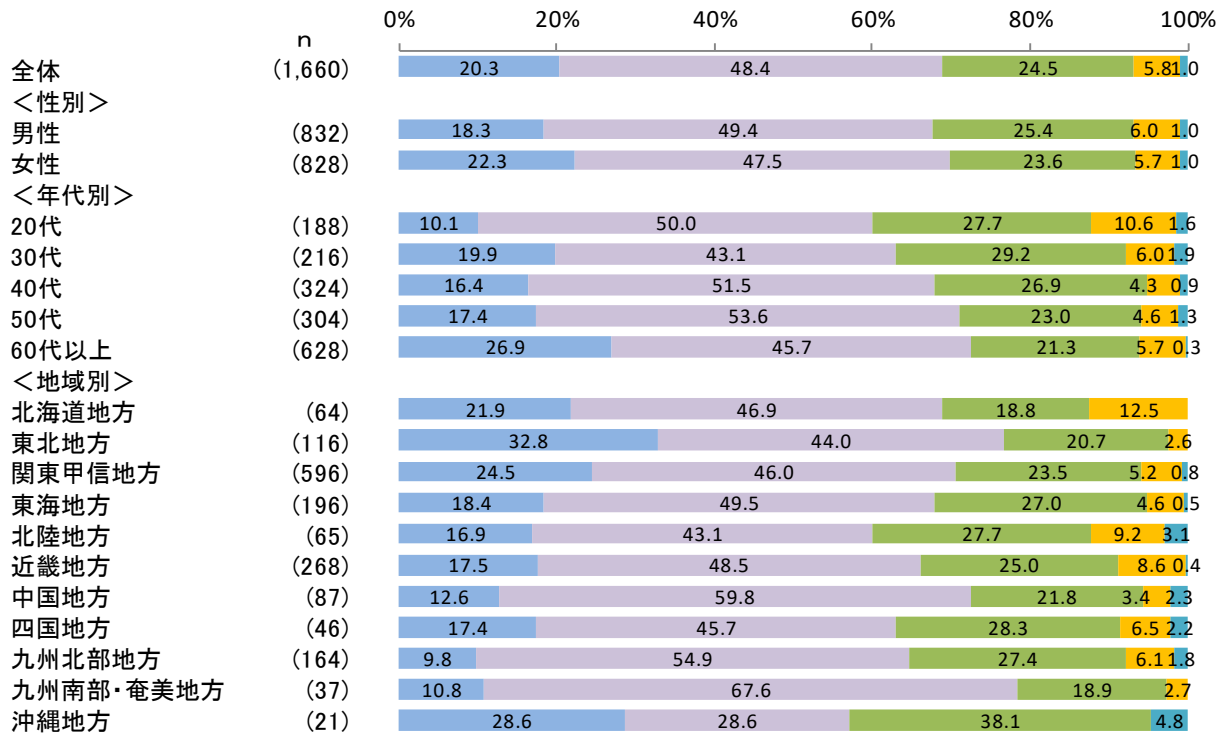
Q20. あなたが、自分のいる地域または関係する地域で「線状降水帯が発生しています」という言葉を聞いたとき、どのように感じましたか。あてはまるものを1つ選んでください。

n=1,660 ベース：「線状降水帯」について、「どのような現象か知っている」または「聞いたことがある」と回答した人



自分のいる地域または関係する地域で「線状降水帯が発生しています」という言葉を聞いたときの意識としては、「危機感が高まった」が48.4%、「やや危機感が高まった」24.5%で、両者を合わせた72.9%が“危機意識”を抱いたことになる。

Ⅱ. アンケート調査結果



- どれもあてはまらない(自分のいる地域または関係する地域で「線状降水帯が発生しています」という言葉を聞いたことがない)
- 危機感が高まった
- やや危機感が高まった
- あまり危機感が高まらなかった
- 危機感が高まらなかった

※ベースがn=29 以下は参考値

性別にみると、全体と同様の傾向にある。

年代別では、40代で危機感が高まったの合計（78.4%）が高い。

地域別では、中国地方、九州北部地方、九州南部・奄美地方で危機感が高まったの合計（81.6%、82.3%、86.5%）が高い。

II. アンケート調査結果

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下
 * 赤字はベースがn=29以下のため参考値

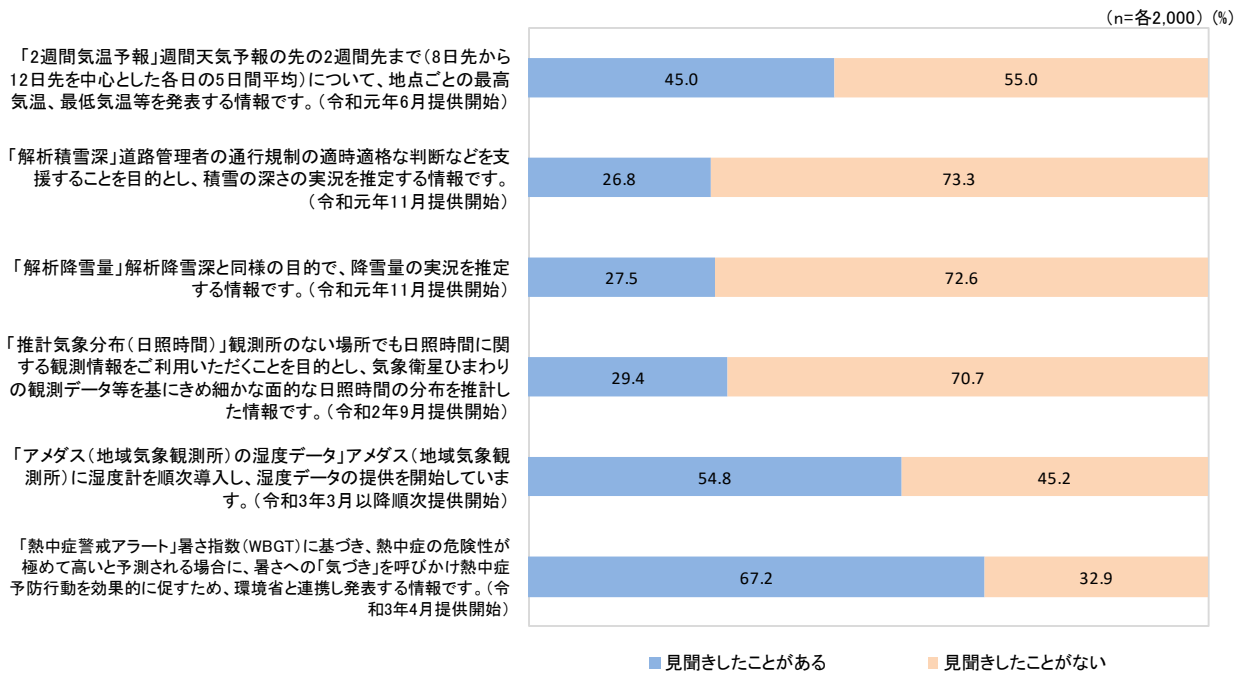
		n	う 言 葉 を 聞 い た こ と が な い	る 降 水 が 発 生 し て い る	ど れ も あ て は ま ら な い （ 自 分 の い 線	危 機 感 が 高 ま っ た	や や 危 機 感 が 高 ま っ た	あ ま り 危 機 感 は 高 ま ら な か っ た	危 機 感 は 高 ま ら な か っ た
全体		1,660		20.3		48.4	24.5	5.8	1.0
Q4.防災情報入手手段	テレビ（一般放送）	1,499		20.5		48.5	24.5	5.7	0.7
	テレビ（リモコンの「dボタン」で表示されるデータ放送）	558		20.4		52.3	22.6	4.7	0.0
	ラジオ	306		19.0		54.6	20.3	5.2	1.0
	音声電話（177天気予報電話サービス等）	26	15.4		38.5		42.3	0.0	3.8
	自治体からの電子メール（自治体（都道府県・市区町村）が提供する登録制の防災メールサービス）	624		21.2		51.6	22.4	4.5	0.3
	その他の電子メール（「自治体からの電子メール」以外のメールサービス）	148		23.6		48.6	23.0	4.7	0.0
	気象庁ホームページ	620		18.7		52.3	25.5	3.1	0.5
	その他のホームページ（自治体、報道機関、気象会社など）	385		23.4		50.9	20.3	4.9	0.5
	ツイッター、フェイスブック、LINEなどのソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）	340		16.8		52.1	25.3	4.7	1.2
	スマートフォンのアプリ（気象情報等を受信・表示したりする専用アプリ）	736		21.5		48.2	24.2	5.6	0.5
	市区町村の防災行政無線	592		22.3		49.2	24.0	4.6	0.0
	その他	20	15.0		70.0		15.0	0.0	0.0
どれもあてはまらない（入手する手段はない）	5	20.0		20.0		20.0	20.0	20.0	

防災情報の入手手段別にみると、ラジオの層で「危機意識が高まった」（54.6%）が高くなっている。

8. 近年提供を開始した気象情報

(1) 近年提供を開始した認知度

Q21. 気象庁が近年提供を開始した以下の気象情報について、見聞きしたことがあるものを全て選んでください。



気象庁が近年提供を開始した気象情報の認知度は、＜「熱中症警戒アラート」暑さ指数(WBGT)に基づき、熱中症の危険性が極めて高いと予測される場合に、暑さへの「気づき」を呼びかけ熱中症予防行動を効果的に促すため、環境省と連携し発表する情報です。(令和3年4月提供開始)＞が67.2%で最も高く、次いで＜「アメダス(地域気象観測所)の湿度データ」アメダス(地域気象観測所)に湿度計を順次導入し、湿度データの提供を開始しています。(令和3年3月以降順次提供開始)＞(54.8%)、＜「2週間気温予報」週間天気予報の先の2週間先まで(8日先から12日先を中心とした各日の5日間平均)について、地点ごとの最高気温、最低気温等を発表する情報です。(令和元年6月提供開始)＞(45.0%)となっている。

II. アンケート調査結果

「見聞きしたことがある」の値

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下

* 赤字はベースがn=29以下のため参考値

	n	（高各間一） （令和元年6月提供開始）	（すし時一） （令和元年11月提供開始）	（で一） （令和元年11月提供開始）	（的ま利い一） （令和元年9月提供開始）	始てをタ一） （令和元年3月提供開始）	情報一極一） （令和元年3月提供開始）
全体	2,000	45.0	26.8	27.5	29.4	54.8	67.2
性別							
男性	989	44.7	30.0	30.0	30.6	54.0	63.1
女性	1,011	45.3	23.5	24.9	28.1	55.6	71.1
年代別							
20代	261	49.0	26.4	24.5	28.7	55.2	64.8
30代	293	40.3	17.7	18.8	20.5	51.5	67.6
40代	393	39.7	23.7	24.9	27.2	59.8	70.0
50代	358	41.6	24.0	26.3	31.3	51.1	67.6
60代以上	695	50.2	33.8	34.2	33.5	55.1	66.0
地域別							
北海道地方	86	37.2	23.3	26.7	16.3	41.9	52.3
東北地方	140	48.6	35.0	33.6	30.7	55.0	65.7
関東甲信地方	742	43.3	23.9	24.0	28.4	55.5	67.0
東海地方	236	46.2	30.1	30.5	33.1	53.8	66.5
北陸地方	81	43.2	33.3	34.6	24.7	56.8	69.1
近畿地方	323	48.3	25.1	25.4	28.8	57.0	68.7
中国地方	94	50.0	29.8	31.9	31.9	59.6	72.3
四国地方	58	37.9	25.9	25.9	20.7	46.6	62.1
九州北部地方	177	40.7	26.0	29.9	31.1	54.8	68.9
九州南部・奄美地方	40	60.0	45.0	45.0	55.0	55.0	75.0
沖縄地方	23	60.9	13.0	13.0	39.1	52.2	78.3

性別にみると、全体と同様の傾向にある。

年代別では、60代以上で「2週間気温予報」週間天気予報の先の2週間先まで（8日先から12日先を中心とした各日の5日間平均）について、地点ごとの最高気温、最低気温等を発表する情報です。（令和元年6月提供開始）>（50.2%）、<「解析積雪深」道路管理者の通行規制の適時適格な判断などを支援することを目的とし、積雪の深さの実況を推定する情報です。（令和元年11月提供開始）>（33.8%）、<「解析降雪量」解析降雪深と同様の目的で、降雪量の実況を推定する情報です。（令和元年11月提供開始）>（34.2%）の認知度が高い。

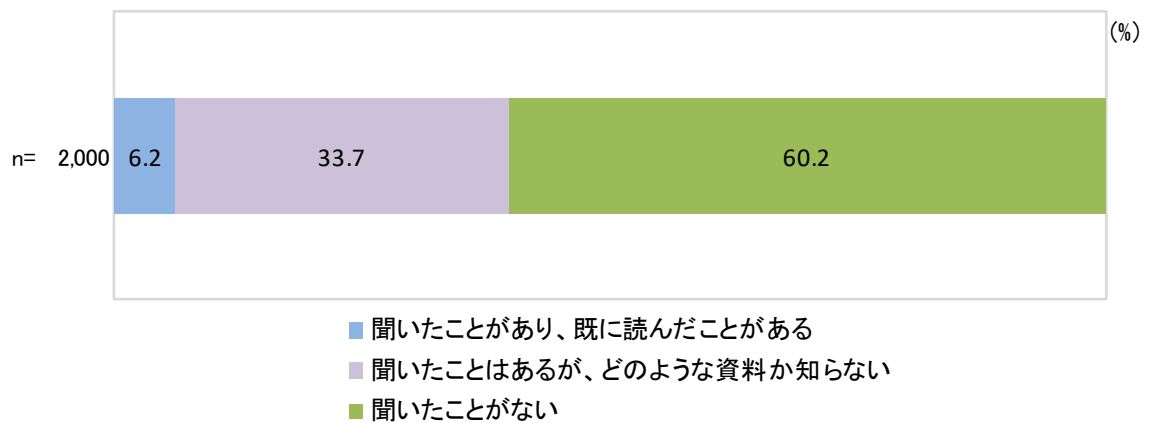
地域別では、九州南部・奄美地方で「2週間気温予報」週間天気予報の先の2週間先まで（8日先から12日先を中心とした各日の5日間平均）について、地点ごとの最高気温、最低気温等を発表する情報です。（令和元年6月提供開始）>（60.0%）、<「解析積雪深」道路管理者の通行規制の適時適格な判断などを支援することを目的とし、積雪の深さの実況を推定する情報です。（令和元年11月提供開始）>（45.0%）、<「解析降雪量」解析降雪深と同様の目的で、降雪量の実況を推定する情報です。（令和元年11月提供開始）>（45.0%）、<「推計気象分布（日照時間）」観測所のない場所でも日照時間に関する観測情報をご利用いただくことを目的とし、気象衛星ひまわりの観測データ等を基にきめ細かな面的な日照時間の分布を推計した情報です。（令和2年9月提供開始）>（55.0%）の認知度が高くなっている。

II. アンケート調査結果

9. 気候変動

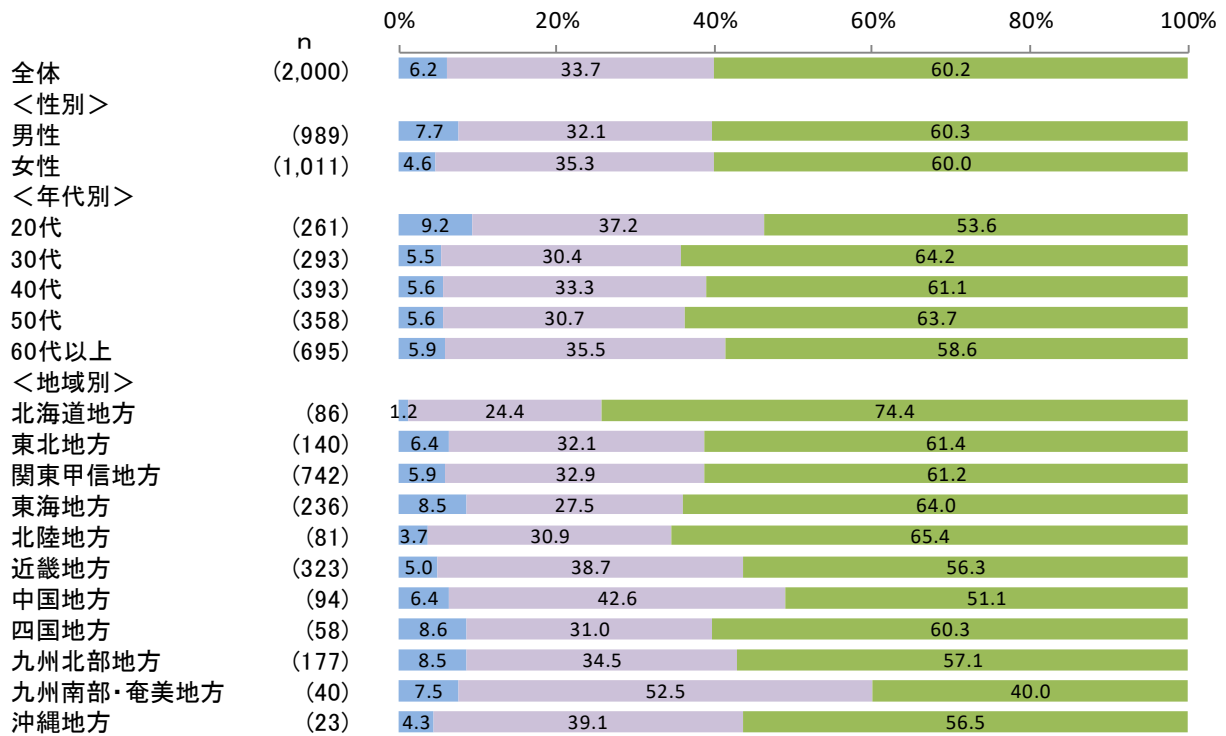
(1) 刊行物「日本の気候変動 2020」の認知度

Q22. あなたは、文部科学省と気象庁が共同で公表した刊行物「日本の気候変動 2020※」について聞いたことがありますか。また、どのような資料か知っていますか。
あてはまるものを1つ選んでください。



文部科学省と気象庁が共同で公表した刊行物「日本の気候変動 2020」については、「聞いたことがあります、既に読んだことがある」が6.2%、「聞いたことはあるが、どのような資料か知らない」が33.7%、「聞いたことがない」が60.2%となっている。

Ⅱ. アンケート調査結果



- 聞いたことがあり、既に読んだことがある
- 聞いたことはあるが、どのような資料か知らない
- 聞いたことがない

※ベースがn=29 以下は参考値

II. アンケート調査結果

性別にみると、全体と同様の傾向にある。

年代別でも、全体と同様の傾向にある。

地域別では、九州南部・奄美地方で「聞いたことはあるが、どのような資料か知らない」(52.5%)が高く、北海道で「聞いたことがない」(74.4%)が高くなっている。

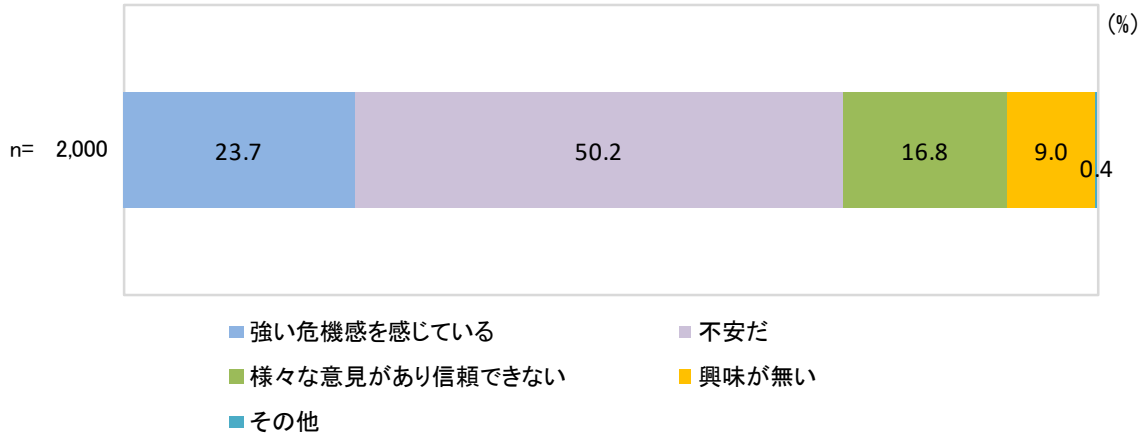
* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下
* 赤字はベースがn=29以下のため参考値

		n	に聞いたことがあり、既に読んだことがある	聞いたような資料はあるが、どのような資料か知らない	聞いたことがない
全体		2,000	6.2	33.7	60.2
Q4.防災情報入手手段	テレビ（一般放送）	1,738	6.1	34.6	59.3
	テレビ（リモコンの「dボタン」で表示されるデータ放送）	610	7.7	39.7	52.6
	ラジオ	334	10.2	38.0	51.8
	音声電話（177天気予報電話サービス等）	34	8.8	41.2	50.0
	自治体からの電子メール（自治体（都道府県・市区町村）が提供する登録制の防災メールサービス）	686	8.5	40.7	50.9
	その他の電子メール（「自治体からの電子メール」以外のメールサービス）	162	13.6	45.1	41.4
	気象庁ホームページ	688	9.6	40.4	50.0
	その他のホームページ（自治体、報道機関、気象会社など）	414	6.3	40.3	53.4
	ツイッター、フェイスブック、LINE などのソーシャル・ネットワークワーキング・サービス（SNS）	404	7.7	39.6	52.7
	スマートフォンのアプリ（気象情報等を受信・表示したりする専用アプリ）	846	6.6	36.6	56.7
	市区町村の防災行政無線	661	7.9	41.5	50.7
	その他	25	4.0	36.0	60.0
	どれもあてはまらない（入手する手段はない）	44	2.3	4.5	93.2

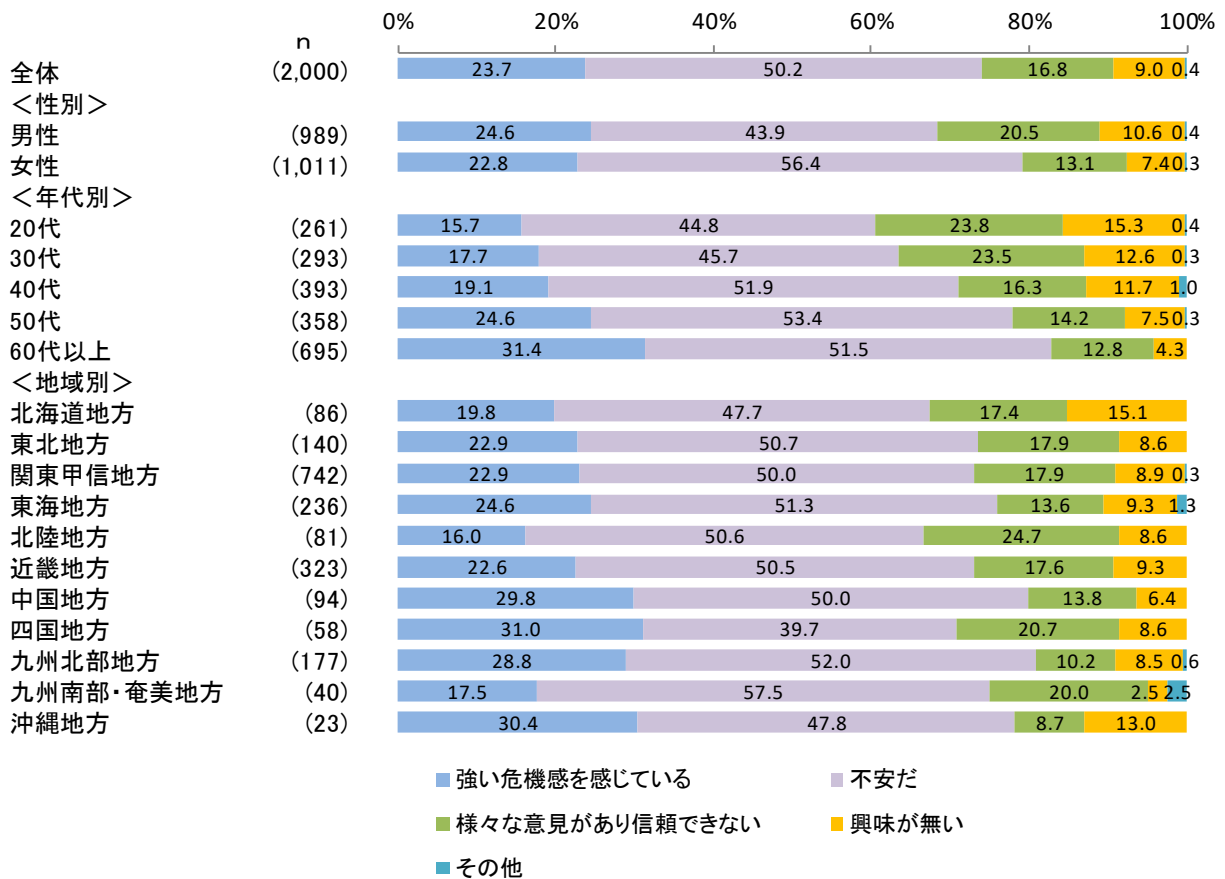
防災情報の入手手段別にみると、その他の電子メールの層は「聞いたことがあり、既に読んだことがある」(13.6%)がやや高く、「聞いたことはあるが、どのような資料か知らない」(45.1%)も高くなっている。

(2) 気候変動に対する意識

Q23. あなたは、気候変動についてどのように感じていますか。
あてはまるものを1つ選んでください。



気候変動については、「強い危機感を感じている」が23.7%、「不安だ」が50.2%、「様々な意見があり信頼できない」が16.8%、「興味がない」が9.0%となっている。



※ベースがn=29以下は参考値

II. アンケート調査結果

性別にみると、女性は「不安だ」(56.4%)が高い。

年代別では、高年層ほど「強い危機感を感じている」、「不安だ」の両意識が高くなる傾向がみられる。

地域別では、中国地方、四国地方で「強い危機感を感じている」(29.8%、31.0%)がやや高く、九州南部・奄美地方で「不安だ」(57.5%)が高くなっている。

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下

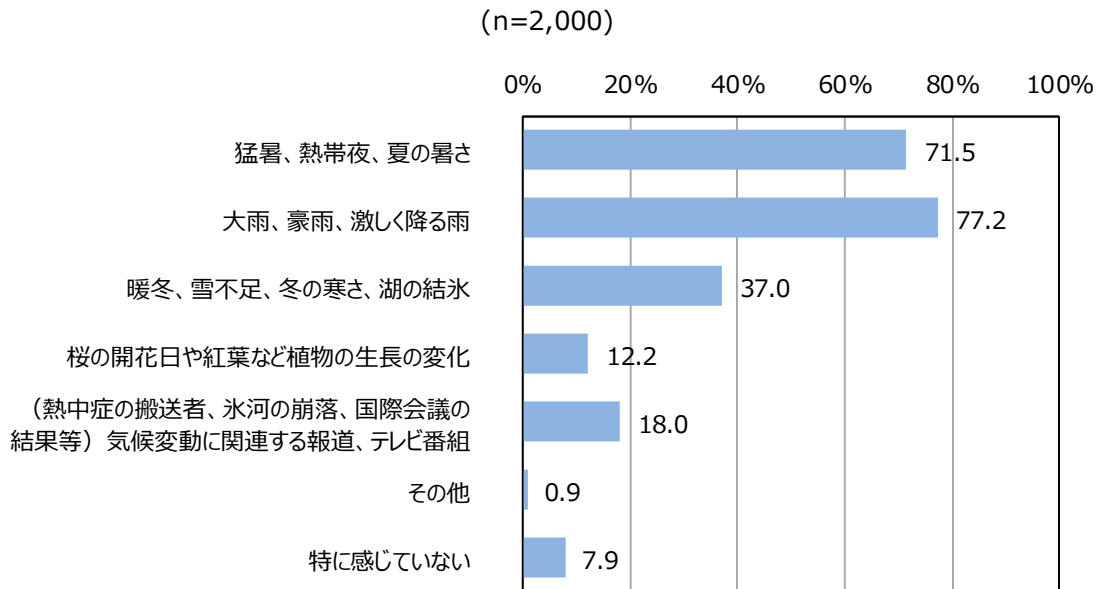
* 赤字はベースがn=29以下のため参考値

		n	て強 い 危 機 感 を 感 じ	不 安 だ	信 頼 々 々 な 見 が あ り	興 味 が 無 い	そ の 他
全体		2,000	23.7	50.2	16.8	9.0	0.4
Q1.災害リスク把握	自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している	784	35.1	47.4	13.3	3.7	0.5
	自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している	349	20.6	60.5	15.5	3.4	0.0
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはあると思っている	470	17.7	56.8	17.4	7.7	0.4
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている	186	14.5	50.0	26.9	8.1	0.5
	自分の住む地域の災害リスクについて考えたことはない	211	8.1	28.9	21.3	41.7	0.0

居住地の災害リスク把握別にみると、災害リスクを強く感じている層ほど、気候変動についても危機感や不安を感じる傾向が強い傾向にある。

(3) 気候変動を感じる事象

Q24. あなたは、どのような事柄で気候変動の影響を感じるがありますか。
あてはまるものを3つ以内で選んでください。



気候変動を感じる事象としては、「大雨、豪雨、激しく降る雨」(77.2%)、「猛暑、熱帯夜、夏の暑さ」(71.5%)が上位となり、これらに「暖冬、雪不足、冬の寒さ、湖の結氷」(37.0%)が続いている。

II. アンケート調査結果

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下
 * 赤字はベースがn=29以下のため参考値

		n	猛暑、 熱帯夜、 夏の暑さ	大雨、 豪雨、 激しく降る雨	暖冬、 雪不足、 冬の寒さ、 湖の 結氷	桜の 開花 日や 紅葉 など 植物の 生 長 の 変 化	動 落 に 関 連 す る 報 道 、 テ レ ビ 番 組 組 合 の 変 更	落 （ 熱 中 症 の 搬 送 者 、 氷 河 の 崩 落 、 国 際 会 議 の 結 果 等 ） 気 候 変 動 に 関 連 す る 報 道 、 テ レ ビ 番 組	そ の 他	特 に 感 じ て い な い
全体		2,000	71.5	77.2	37.0	12.2	18.0	0.9	7.9	
性別	男性	989	66.6	74.1	36.1	10.5	14.6	0.9	10.3	
	女性	1,011	76.2	80.2	37.9	13.7	21.4	0.8	5.4	
年代別	20代	261	60.9	63.6	38.3	13.8	14.2	0.8	13.0	
	30代	293	70.3	74.1	34.5	10.2	13.0	1.0	10.6	
	40代	393	73.5	74.8	32.6	12.7	12.7	0.8	8.1	
	50代	358	71.2	79.9	35.5	11.7	17.3	1.4	8.1	
	60代以上	695	74.8	83.6	40.9	12.2	24.9	0.6	4.5	
地域別	北海道地方	86	61.6	72.1	48.8	5.8	16.3	1.2	15.1	
	東北地方	140	64.3	75.0	54.3	10.7	15.0	0.0	7.9	
	関東甲信地方	742	73.2	77.0	36.9	12.1	18.5	0.9	7.3	
	東海地方	236	71.6	78.4	33.9	11.4	15.7	2.1	5.9	
	北陸地方	81	69.1	71.6	38.3	11.1	17.3	1.2	9.9	
	近畿地方	323	70.9	77.4	29.4	13.6	16.7	0.6	8.4	
	中国地方	94	76.6	81.9	39.4	16.0	17.0	0.0	7.4	
	四国地方	58	62.1	72.4	29.3	13.8	20.7	0.0	12.1	
	九州北部地方	177	75.1	80.8	38.4	10.2	23.2	0.0	7.9	
	九州南部・奄美地方	40	70.0	80.0	37.5	20.0	15.0	0.0	5.0	
沖縄地方	23	87.0	82.6	21.7	17.4	34.8	4.3	0.0		

性別にみると、女性は「猛暑、熱帯夜、夏の暑さ」（76.2%）、「大雨、豪雨、激しく降る雨」（80.2%）、「（熱中症の搬送者、氷河の崩落、国際会議の結果等）気候変動に関連する報道、テレビ番組」（21.4%）がやや高い。年代別では、概ね高年層ほど「猛暑、熱帯夜、夏の暑さ」、「大雨、豪雨、激しく降る雨」が高い傾向がみられる。地域別では、北海道地方、東北地方で「暖冬、雪不足、冬の寒さ、湖の結氷」（48.8%、54.3%）が高くなっている。

II. アンケート調査結果

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下

* 赤字はベースがn=29以下のため参考値

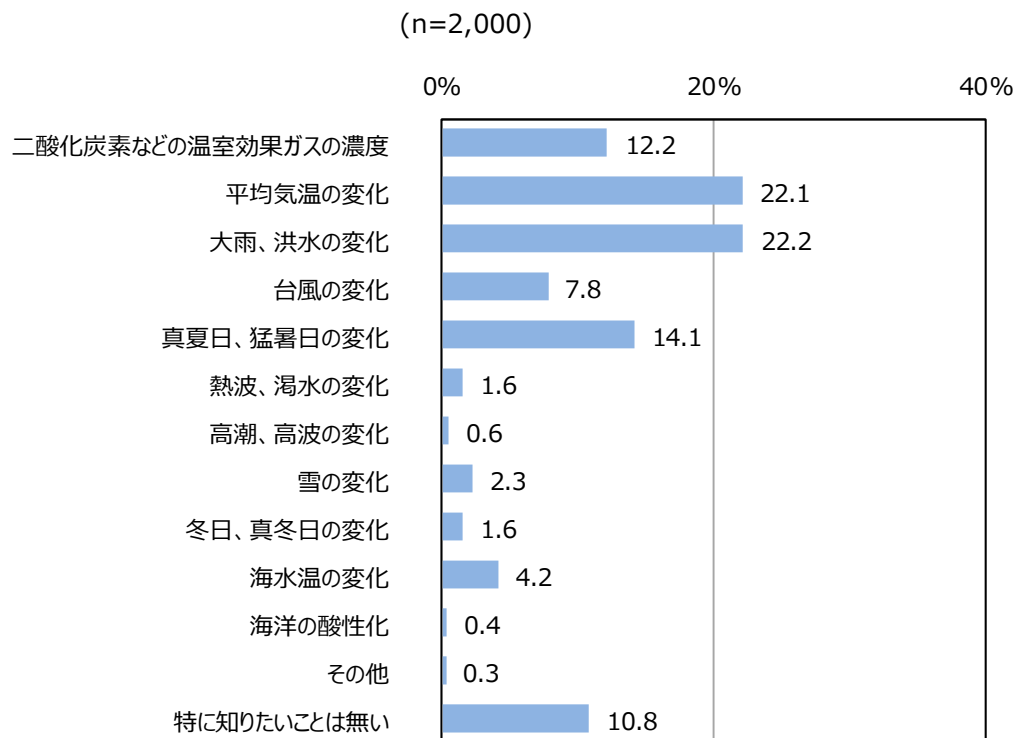
		n	猛暑、 熱帯夜、 夏の暑さ	大雨、 豪雨、 激しく降る雨	結氷、 暖冬、 雪不足、 冬の寒さ、 湖の	桜の開花 日の変化	長閑な日 や紅葉など 植物の生	動に 関連する 報道、 テレビ 番組	落（熱中 症の搬送 者、氷河 の崩壊	その他	特に 感じて いない
全体		2,000	71.5	77.2	37.0	12.2	18.0	0.9	7.9		
Q23.気候変動について	強い危機感を感じている	474	87.3	91.4	44.3	15.4	23.0	1.3	0.2		
	不安だ	1,004	77.4	86.2	41.0	11.4	19.9	0.4	0.8		
	様々な意見があり信頼できない	335	54.3	61.2	27.5	14.0	11.9	1.5	13.7		
	興味が無い	180	28.3	20.6	13.3	4.4	5.6	0.6	56.7		
	その他	7	71.4	57.1	28.6	14.3	14.3	14.3	0.0		

気候変動に対する意識別にみると、強い危機感を感じている層や不安を感じている層では、「猛暑、熱帯夜、夏の暑さ」、「大雨、豪雨、激しく降る雨」が高くなっている。

II. アンケート調査結果

(4) 気候変動の影響等の予測で知りたいこと

Q25-1. あなたが、将来考えられる気候変動の影響等の予測でもっとも知りたいことは何ですか。また、それはいつ頃を対象とした予測ですか。あてはまるものを1つずつ選んでください。



将来考えられる気候変動の影響等の予測で最も知りたいこととしては、「大雨、洪水の変化」(22.2%)、「平均気温の変化」(22.1%)が上位となり、これらに「真夏日、猛暑日の変化」(14.1%)、「二酸化炭素などの温室効果ガスの濃度」(12.2%)が続いている。

Ⅱ. アンケート調査結果

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下
 * 赤字はベースがn=29以下のため参考値

		n	果 二 酸 化 炭 素 な ど の 温 室 効 果 の 濃 度	平 均 気 温 の 変 化	大 雨 、 洪 水 の 変 化	台 風 の 変 化	真 夏 日 、 猛 暑 日 の 変 化	熱 波 、 渇 水 の 変 化	高 潮 、 高 波 の 変 化	雪 の 変 化	冬 日 、 真 冬 日 の 変 化	海 水 温 の 変 化	海 洋 の 酸 性 化	そ の 他	い 特 に 知 り た い こ と は 無 い
全体		2,000	12.2	22.1	22.2	7.8	14.1	1.6	0.6	2.3	1.6	4.2	0.4	0.3	10.8
性別	男性	989	12.7	21.9	22.6	7.6	11.4	1.7	0.6	2.5	1.5	3.6	0.5	0.4	12.7
	女性	1,011	11.6	22.2	21.7	8.0	16.7	1.5	0.5	2.1	1.7	4.7	0.3	0.2	8.9
年代別	20代	261	14.2	18.8	21.5	4.2	13.8	1.9	1.5	1.9	3.1	3.8	0.8	0.0	14.6
	30代	293	10.2	20.8	20.8	6.5	18.1	0.7	1.0	2.4	1.7	0.7	1.0	0.0	16.0
	40代	393	10.7	22.9	18.8	7.1	16.0	2.0	0.5	3.1	1.5	5.1	0.8	0.8	10.7
	50代	358	11.5	20.4	25.1	7.5	15.1	0.8	0.3	2.2	1.7	3.1	0.0	0.3	12.0
	60代以上	695	13.4	24.2	23.3	10.2	10.9	2.0	0.1	2.0	1.0	5.9	0.0	0.3	6.6
地域別	北海道地方	86	15.1	22.1	15.1	3.5	10.5	1.2	0.0	9.3	3.5	3.5	0.0	0.0	16.3
	東北地方	140	13.6	20.0	17.9	5.7	12.1	0.7	0.0	7.1	4.3	7.9	0.0	0.7	10.0
	関東甲信地方	742	11.2	22.8	22.4	7.0	16.6	1.5	0.5	1.1	1.5	3.9	0.0	0.4	11.2
	東海地方	236	11.4	26.7	22.9	7.2	13.1	2.5	0.0	1.7	1.7	2.5	0.4	0.4	9.3
	北陸地方	81	6.2	16.0	19.8	4.9	16.0	2.5	0.0	16.0	0.0	6.2	1.2	0.0	11.1
	近畿地方	323	13.6	21.1	22.0	8.7	13.0	2.5	0.3	0.9	2.2	3.4	0.3	0.3	11.8
	中国地方	94	9.6	23.4	31.9	5.3	16.0	2.1	3.2	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	7.4
	四国地方	58	15.5	19.0	24.1	6.9	12.1	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4	1.7	0.0	17.2
	九州北部地方	177	13.6	18.6	25.4	13.0	11.3	0.6	0.0	0.0	0.0	6.2	2.3	0.0	9.0
	九州南部・奄美地方	40	15.0	20.0	20.0	12.5	10.0	0.0	5.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	5.0
沖縄地方	23	17.4	30.4	4.3	30.4	4.3	0.0	4.3	0.0	0.0	4.3	0.0	0.0	4.3	

性別にみると、全体と同様の傾向にある。

地域別では、北陸地方で「雪の変化」(16.0%)が高く、中国地方で「大雨・洪水の変化」(31.9%)、九州北部地方で「台風の変化」(13.0%)が高くなっている。

II. アンケート調査結果

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下
 * 赤字はベースがn=29以下のため参考値

		n	果 ガ ス の 濃 度	二 酸 化 炭 素 な ど の 温 室 効	平 均 気 温 の 変 化	大 雨 、 洪 水 の 変 化	台 風 の 変 化	真 夏 日 、 猛 暑 日 の 変 化	熱 波 、 濁 水 の 変 化	高 潮 、 高 波 の 変 化	雪 の 変 化	冬 日 、 真 冬 日 の 変 化	海 水 温 の 変 化	海 洋 の 酸 性 化	そ の 他	特 に 知 り た い こ と は 無 い
全体		2,000	12.2	22.1	22.2	7.8	14.1	1.6	0.6	2.3	1.6	4.2	0.4	0.3	10.8	
Q1.災害リスク把握	自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している	784	12.9	24.1	27.3	8.7	12.5	1.0	0.6	1.9	0.9	4.7	0.1	0.4	4.8	
	自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している	349	13.5	23.8	23.2	9.5	13.5	2.6	0.6	1.7	3.2	2.9	0.9	0.3	4.6	
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはあると思っている	470	10.9	20.9	21.7	7.4	17.7	1.5	0.9	3.0	2.1	3.8	0.6	0.4	9.1	
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている	186	14.5	22.0	14.5	7.5	14.0	2.2	0.0	3.8	1.1	5.9	0.0	0.0	14.5	
	自分の住む地域の災害リスクについて考えたことはない	211	8.1	14.2	9.0	2.8	13.3	1.9	0.0	1.9	0.9	3.8	0.5	0.0	43.6	

居住地の災害リスク把握別にみると、自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している層では「大雨、洪水の変化」(27.3%)が高くなっている。

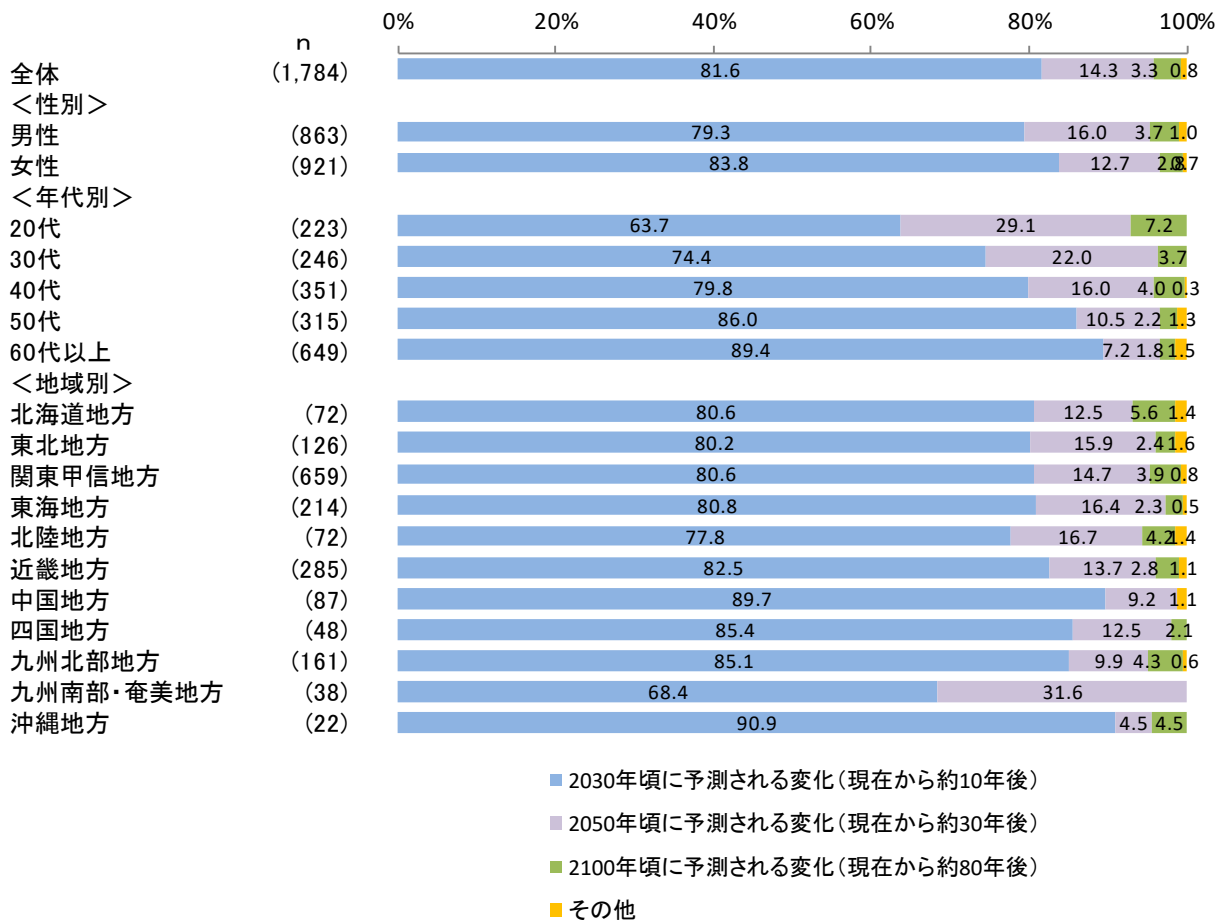
(5) 気候変動の影響等で知りたい予測時期

Q25-2. あなたが、将来考えられる気候変動の影響等の予測でもっとも知りたいことは何ですか。
また、それはいつ頃を対象とした予測ですか。あてはまるものを1つずつ選んでください。

n=1,784 ベース：気候変動の影響等の予測でもっと知りたいがあると回答した人



将来考えられる気候変動の影響等の予測でもっとも知りたいことでは、「2030年頃に予測される変化（現在から約10年後）」が81.6%を占めている。



※ベースがn=29以下は参考値

II. アンケート調査結果

性別にみると、全体と同様の傾向にある。

年代別では、高年層ほど「2030年頃に予測される変化」が高く、若年層ほど「2050年頃に予測される変化」が高い傾向がみられる。

地域別では、中国地方で「2030年頃に予測される変化」(89.7%)が高く、九州南部・奄美地方で「2050年頃に予測される変化」(31.6%)が高くなっている。

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下
* 赤字はベースがn=29以下のため参考値

		n	年 後 変 化 (0 現 在 頃 か に ら 予 約 測 1 さ れ	年 後 変 化 (0 現 在 頃 か に ら 予 約 測 3 さ れ	年 後 変 化 (0 現 在 頃 か に ら 予 約 測 8 さ れ	そ の 他
全体		1,784	81.6	14.3	3.3	0.8
Q1. 災害リスク把握	自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している	746	83.2	14.3	1.5	0.9
	自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している	333	81.1	14.7	3.6	0.6
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはあると思っている	427	83.1	12.6	3.5	0.7
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている	159	80.5	13.8	4.4	1.3
	自分の住む地域の災害リスクについて考えたことはない	119	68.9	19.3	10.9	0.8
Q25(1).最も知りたい気候変動の影響等の予測	二酸化炭素などの温室効果ガスの濃度	243	78.6	17.7	3.3	0.4
	平均気温の変化	441	83.0	15.2	1.6	0.2
	大雨、洪水の変化	443	85.1	9.9	3.4	1.6
	台風の変化	156	88.5	9.6	1.9	0.0
	真夏日、猛暑日の変化	282	82.3	14.2	2.5	1.1
	熱波、渇水の変化	32	62.5	28.1	6.3	3.1
	高潮、高波の変化	11	63.6	18.2	9.1	9.1
	雪の変化	46	80.4	8.7	8.7	2.2
	冬日、真冬日の変化	32	46.9	37.5	15.6	0.0
	海水温の変化	84	76.2	17.9	6.0	0.0
	海洋の酸性化	8	37.5	50.0	12.5	0.0
	その他	6	100.0	0.0	0.0	0.0
	特に知りたいことは無い	0	0.0	0.0	0.0	0.0

Ⅱ. アンケート調査結果

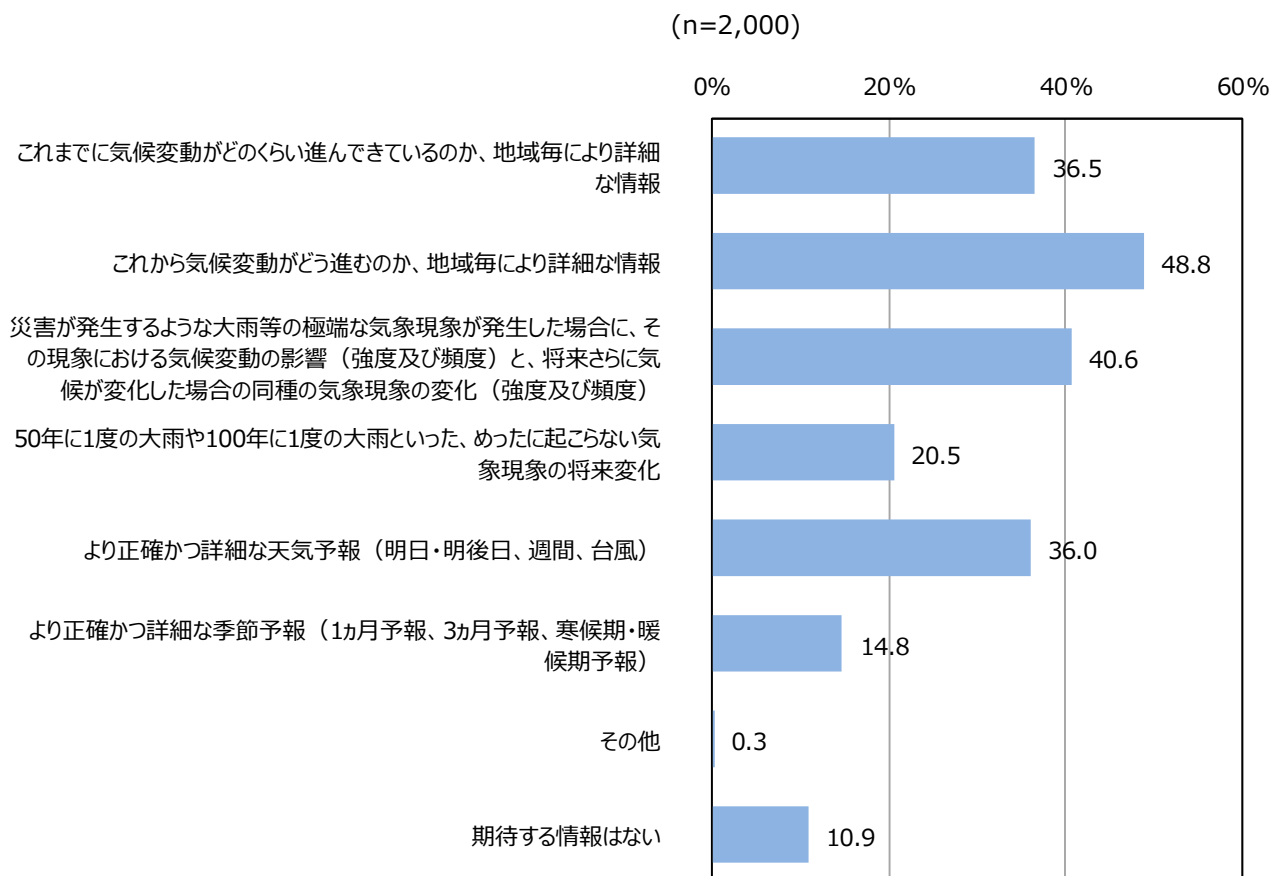
居住地の災害リスク把握別にみると、自分の住む地域の災害リスクについて考えたことはない層は、「2050年頃に予測される変化」(19.3%)、「2100年頃に予測される変化」(10.9%)がやや高くなっている。

最も知りたい気候変動の影響等の予測別では、熱波、湯水の変化を挙げた層で「2050年頃に予測される変化」(28.1%)が高く、冬日、真夏日の変化を挙げた層で「2050年頃に予測される変化」(37.5%)、「2100年頃に予測される変化」(15.6%)が高くなっている。

II. アンケート調査結果

(6) 期待される気候変動情報

Q26. 気候変動に関する情報で、期待するものは何ですか。
あてはまるものを3つ以内で選んでください。



気候変動に関する情報で、期待するものとしては、「これから気候変動がどう進むのか、地域毎により詳細な情報」が48.8%で最も高く、これに「災害が発生するような大雨等の極端な気象現象が発生した場合に、その現象における気候変動の影響（強度及び頻度）と、将来さらに気候が変化した場合の同種の気象現象の変化（強度及び頻度）」(40.6%)、「これまでに気候変動がどのくらい進んできているのか、地域毎により詳細な情報」(36.5%)、「より正確かつ詳細な天気予報（明日・明後日、週間、台風）」(36.0%)が続いている。

II. アンケート調査結果

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下
 * 赤字はベースがn=29以下のため参考値

	n	か、これまで地域毎により詳細な情報	これから気候変動がどう進むのか、地域毎により詳細な情報	災害が発生するよう大雨等の極端な気象現象が発生した場合の同種の気象現象の変化	50年間に起こらない気象現象の将来変化	より正確かつ詳細な天気予報(明日・明後日、週間、台風)	より正確かつ詳細な季節予報(1か月予報、3か月予報、寒候期・暖候期予報)	その他	期待する情報はない
全体	2,000	36.5	48.8	40.6	20.5	36.0	14.8	0.3	10.9
性別									
男性	989	38.2	48.4	36.3	19.4	32.9	12.2	0.5	12.3
女性	1,011	34.7	49.2	44.8	21.6	39.0	17.2	0.1	9.4
年代別									
20代	261	31.8	41.4	37.9	21.5	32.6	10.7	0.0	16.5
30代	293	34.8	46.8	44.7	18.8	29.7	14.3	0.3	14.7
40代	393	36.9	44.8	38.7	20.4	33.3	14.0	0.5	11.2
50代	358	41.6	46.1	39.9	19.6	35.2	12.8	0.6	11.5
60代以上	695	36.0	56.1	41.3	21.4	41.7	17.8	0.1	6.6
地域別									
北海道地方	86	33.7	41.9	34.9	16.3	50.0	22.1	0.0	14.0
東北地方	140	37.9	47.9	38.6	23.6	34.3	20.0	0.0	10.0
関東甲信地方	742	36.5	48.4	39.9	21.2	35.7	16.0	0.5	11.3
東海地方	236	37.7	46.6	39.0	16.5	39.0	12.3	0.4	8.9
北陸地方	81	27.2	48.1	45.7	17.3	33.3	13.6	0.0	16.0
近畿地方	323	35.9	52.9	39.0	19.5	31.9	12.1	0.3	11.5
中国地方	94	33.0	54.3	36.2	26.6	39.4	14.9	0.0	9.6
四国地方	58	27.6	53.4	55.2	24.1	25.9	8.6	0.0	13.8
九州北部地方	177	42.4	48.0	47.5	22.6	35.6	14.1	0.0	8.5
九州南部・奄美地方	40	40.0	40.0	37.5	20.0	42.5	12.5	0.0	7.5
沖縄地方	23	47.8	47.8	52.2	13.0	39.1	4.3	0.0	4.3

性別にみると、女性では「災害が発生するよう大雨等の極端な気象現象が発生した場合に、その現象における気候変動の影響と、将来さらに気候が変化した場合の同種の気象現象の変化」(44.8%)、「より正確かつ詳細な天気予報」(39.0%)が男性よりもやや高い。

年代別では、50代で「これまでに気候変動がどのくらい進んでいるのか、地域毎により詳細な情報」(41.6%)が高く、60代以上で「これから気候変動がどう進むのか、地域毎により詳細な情報」(56.1%)、「より正確かつ詳細な天気予報」(41.7%)が高い。

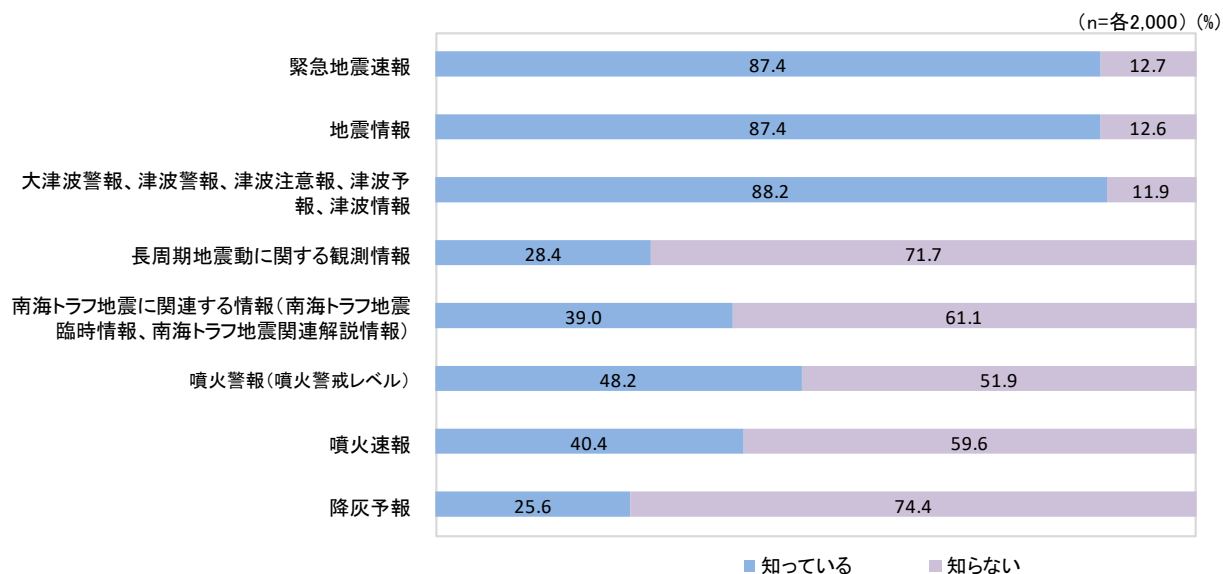
地域別では、北海道で「より正確かつ詳細な季節予報」(50.0%)が高く、四国地方で「災害が発生するよう大雨等の極端な気象現象が発生した場合に、その現象における気候変動の影響と、将来さらに気候が変化した場合の同種の気象現象の変化」(55.2%)が高くなっている。

II. アンケート調査結果

10. 地震津波、火山噴火に関する防災情報

(1) 地震津波、火山噴火に関する防災情報の認知度

Q27 あなたは、地震津波、火山噴火による災害から身を守るために、気象庁から発表される防災情報を知っていますか。あてはまるものを全て選んでください。



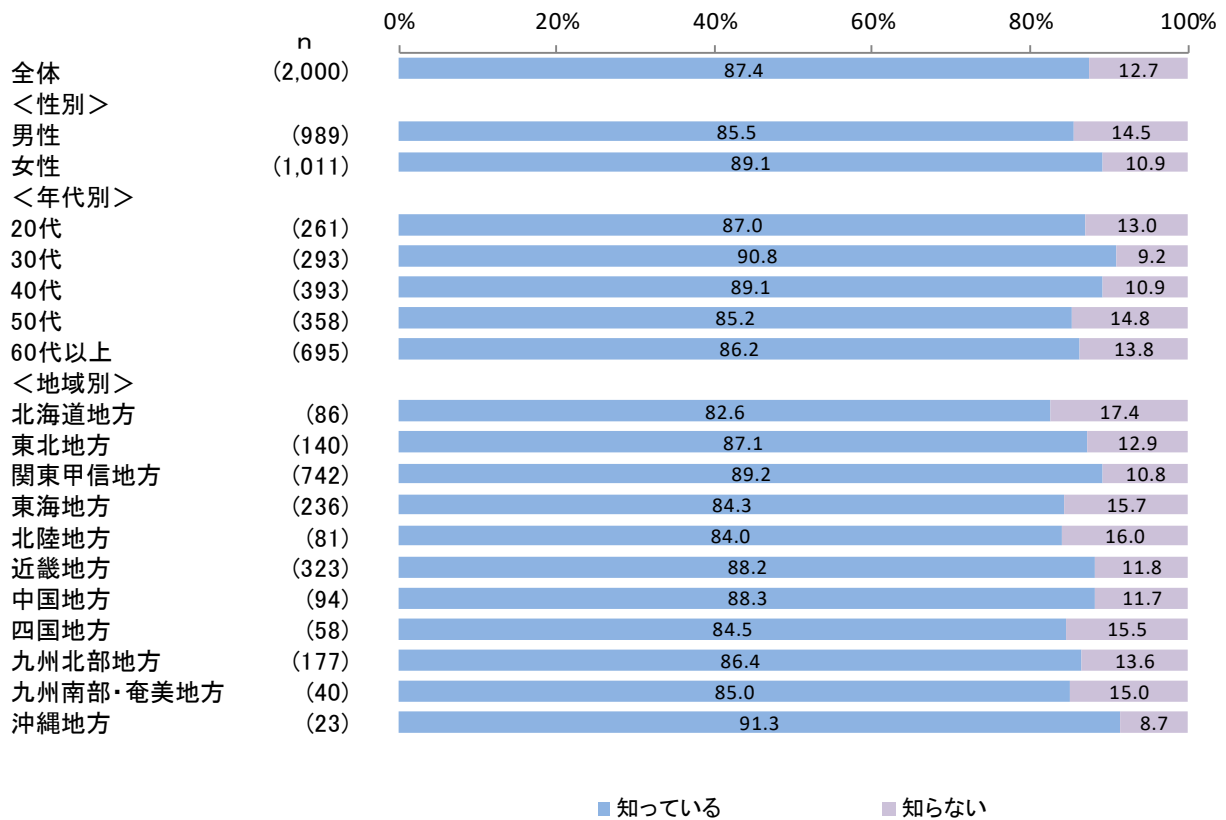
地震津波、火山噴火による災害から身を守るために、気象庁から発表される防災情報の認知度（「知っている」）は、＜緊急地震速報＞＜地震速報＞（各 87.4%）、＜大津波警報、津波警報、津波注意報、津波予報、津波情報＞（88.2%）がいずれも 9 割近くと高く、これらに＜噴火警報（噴火警戒レベル）＞（48.2%）が続いている。

① 緊急地震速報

* ■はR3+10ポイント以上、■はR3+5ポイント以上、■はR3-10ポイント以下、■はR3-5ポイント以下
(%)

	n	知っている	知らない
R3	2,000	87.4	12.7
R1	2,000	90.3	9.7

<緊急地震速報>の認知度は、令和元年度調査時とほぼ同様の傾向にある。



※ベースがn=29 以下は参考値

性別にみると、女性の認知度が89.1%で、男性（85.5%）をやや上回る。
年代別にみると、全体と同様の傾向にある。
地域別にみても、全体と同様の傾向にある。

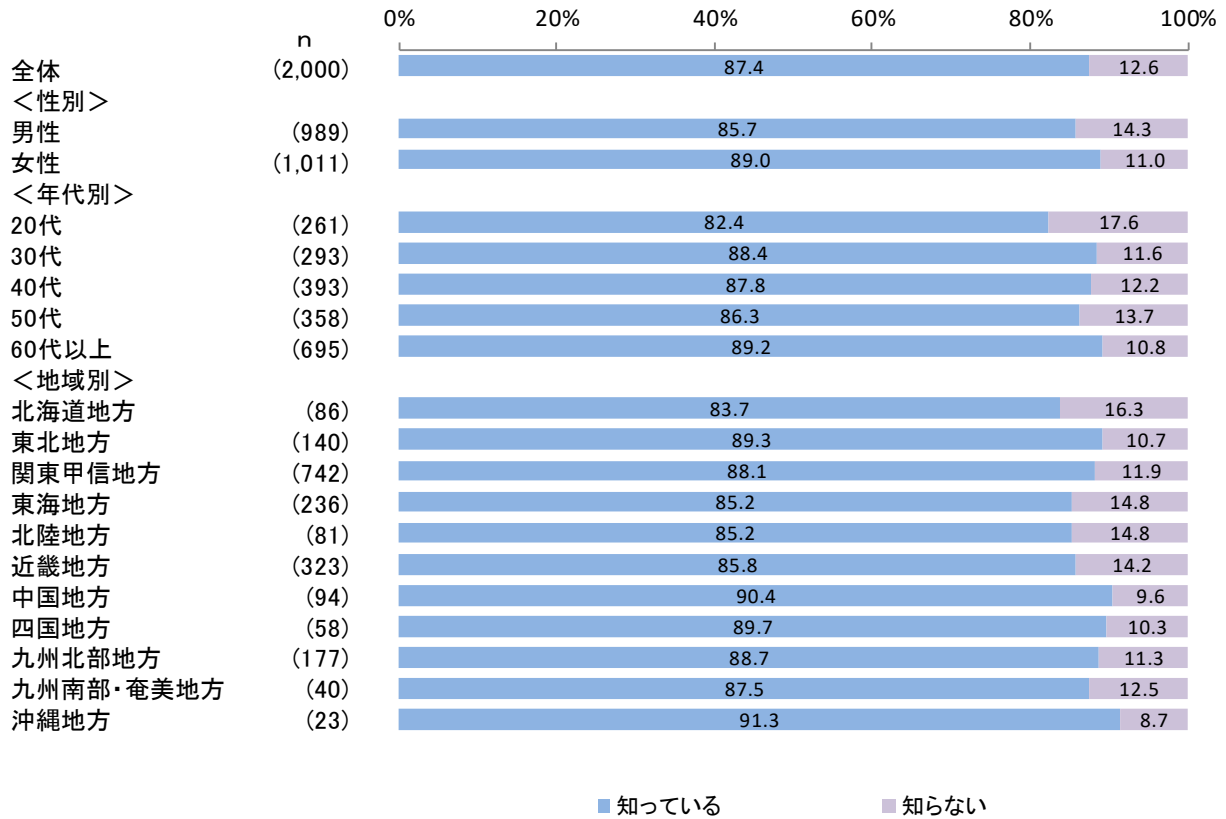
II. アンケート調査結果

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下
 * 赤字はベースがn=29以下のため参考値

		n	知 っ て い る	知 ら な い
全体		2,000	87.4	12.7
Q1. 災害リスク把握	自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している	784	93.6	6.4
	自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している	349	90.0	10.0
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはあると思っている	470	87.7	12.3
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている	186	85.5	14.5
	自分の住む地域の災害リスクについて考えたことはない	211	60.7	39.3

居住地の災害リスク把握別にみると、自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している層は、認知度（93.6%）が高くなっている。

②地震情報



※ベースがn=29 以下は参考値

<地震速報>の認知度は87.4%。
性別にみると、全体と同様の傾向にある
年代別にみても、全体と同様の傾向にある
地域別にみても、全体と同様の傾向にある。

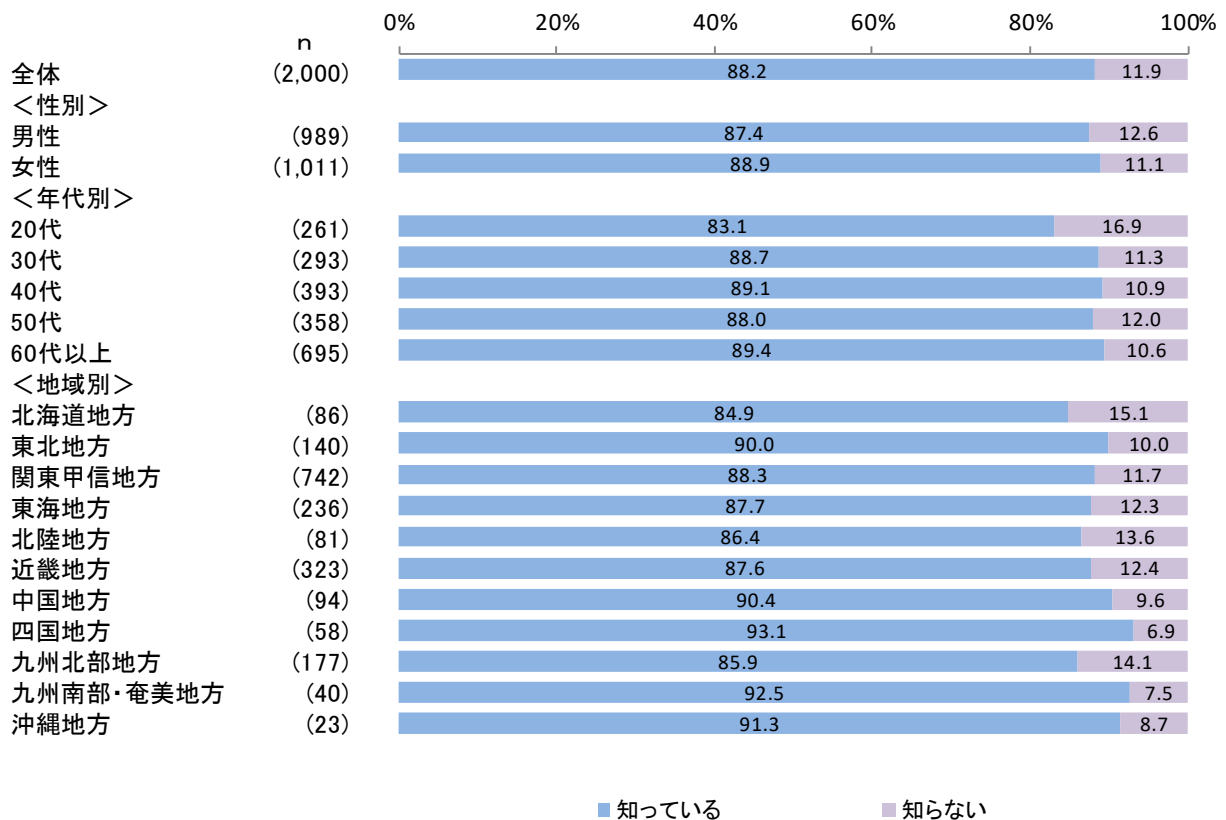
* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下
* 赤字はベースがn=29以下のため参考値

		n	知っている (%)	知らない (%)
全体		2,000	87.4	12.6
Q1. 災害リスク把握	自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している	784	94.6	5.4
	自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している	349	90.8	9.2
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはあると思っている	470	89.4	10.6
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている	186	81.7	18.3
	自分の住む地域の災害リスクについて考えたことはない	211	55.5	44.5

居住地の災害リスク把握別にみると、自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している層では、認知度(94.6%)がやや高くなっている。

II. アンケート調査結果

③大津波警報、津波警報、津波注意報、津波予報、津波情報



※ベースがn=29以下は参考値

<大津波警報、津波警報、津波注意報、津波予報、津波情報>の認知度は88.2%。

性別にみると、全体と同様の傾向にある

年代別にみても、全体と同様の傾向にある

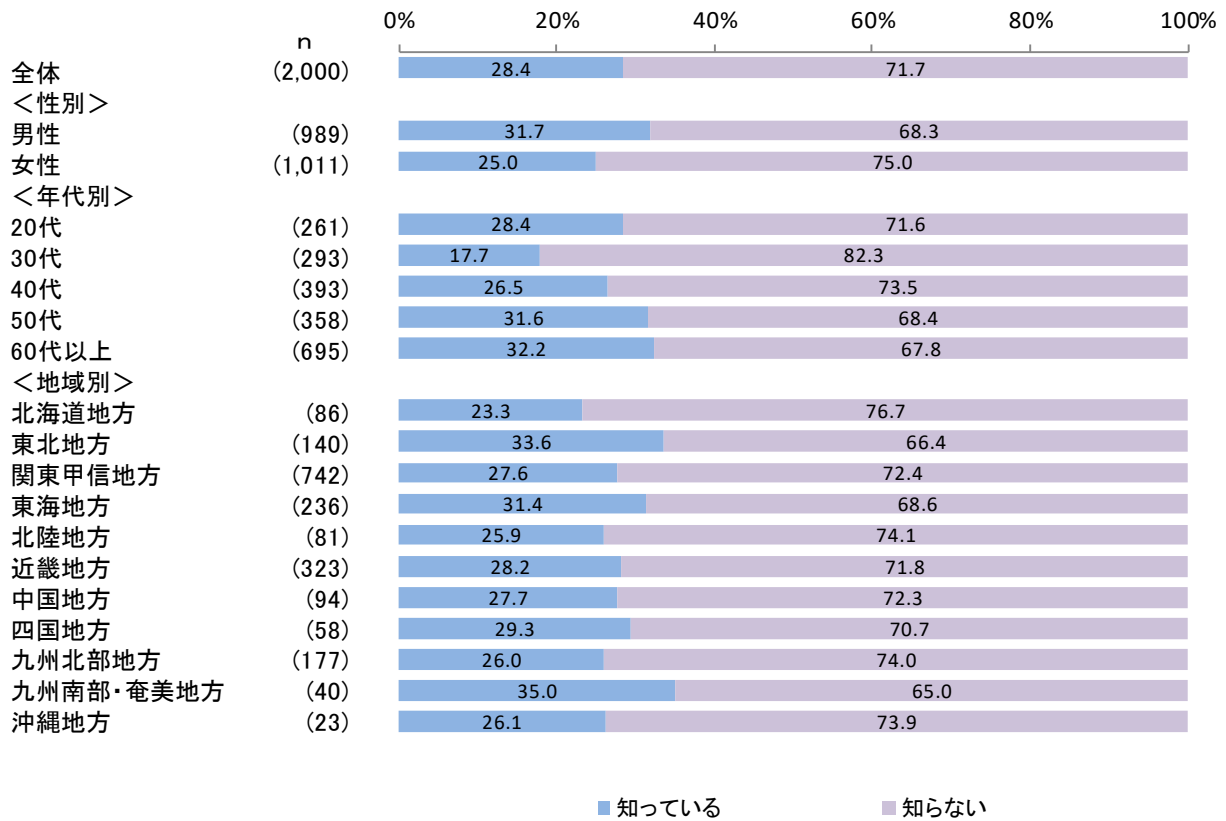
地域別にみても、全体と同様の傾向にある

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下
* 赤字はベースがn=29以下のため参考値

		n	知っている (%)	知らない (%)
全体		2,000	88.2	11.9
Q1. 災害リスク把握	自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している	784	95.5	4.5
	自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している	349	89.7	10.3
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはあると思っている	470	89.4	10.6
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている	186	86.6	13.4
	自分の住む地域の災害リスクについて考えたことはない	211	56.9	43.1

居住地の災害リスク把握別にみると、自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している層では、認知度(95.5%)がやや高くなっている。

④長周期地震動に関する観測情報



※ベースがn=29 以下は参考値

<長周期地震動に関する観測情報>の認知度は28.4%。

性別にみると、男性の認知度は31.7%で、女性（25.0%）をやや上回る。

年代別では、30代で「知らない」が82.3%と高い。

地域別では、東北地方、九州南部・奄美地方の認知度（33.6%、35.0%）が高い。

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下
 * 赤字はベースがn=29以下のため参考値

		n	知 つ て い る	知 ら な い
全体		2,000	28.4	71.7
Q1. 災害リスク把握	自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している	784	36.9	63.1
	自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している	349	28.9	71.1
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはあると思っている	470	23.8	76.2
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている	186	23.7	76.3
	自分の住む地域の災害リスクについて考えたことはない	211	10.0	90.0

居住地の災害リスク把握別にみると、自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している層は、認知度（36.9%）がやや高くなっている。

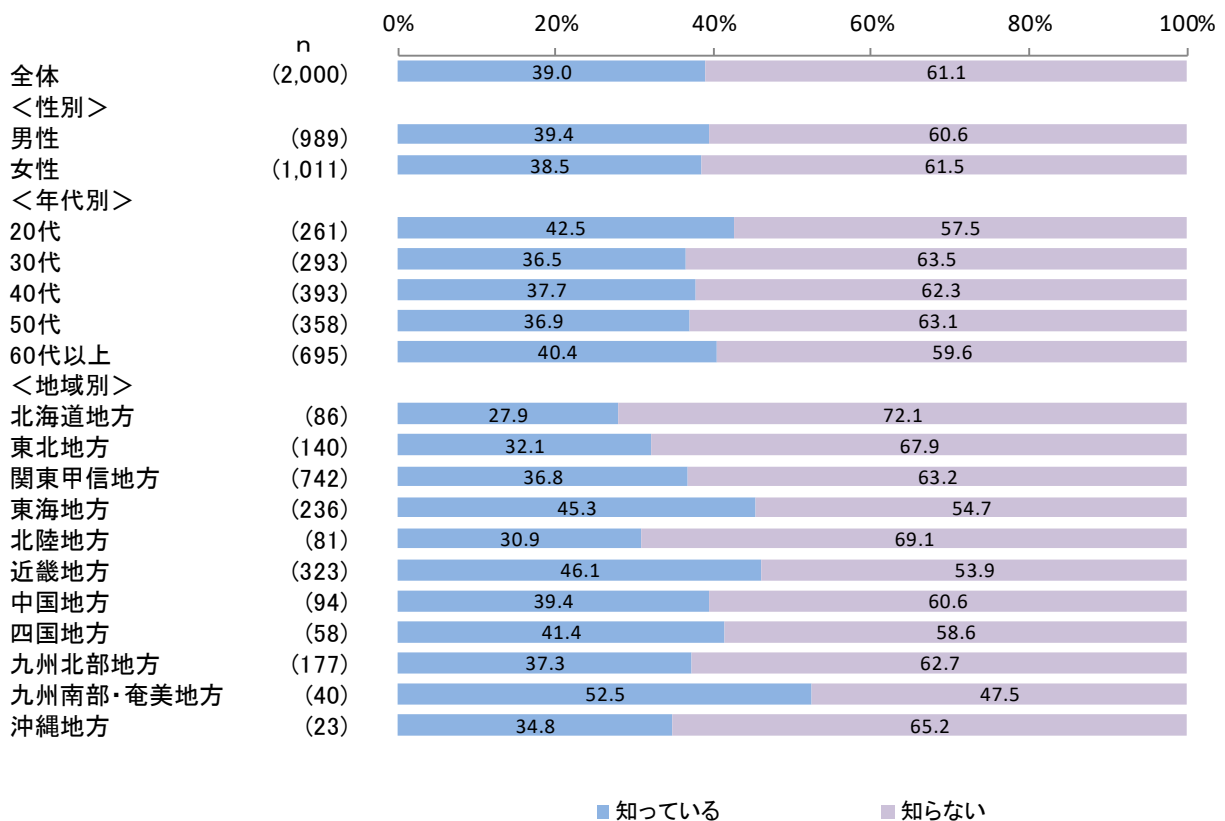
II. アンケート調査結果

⑤南海トラフ地震に関連する情報（南海トラフ地震臨時情報、南海トラフ地震関連解説情報）

* ■はR3+10ポイント以上、■はR3+5ポイント以上、■はR3-10ポイント以下、■はR3-5ポイント以下
(%)

	n	知っている	知らない
R3	2,000	39.0	61.1
R1	1,792	29.0	71.1

<南海トラフ地震に関連する情報>の認知度は39.0%で、令和元年度調査（29.0%）よりも10ポイント上昇している。



※ベースがn=29以下は参考値

性別にみると、全体と同様の傾向にある。

年代別にみても、全体と同様の傾向にある。

地域別では、東海地方（45.3%）、近畿地方（46.1%）、九州南部・奄美地方の認知度（52.5%）が高い。

Ⅱ. アンケート調査結果

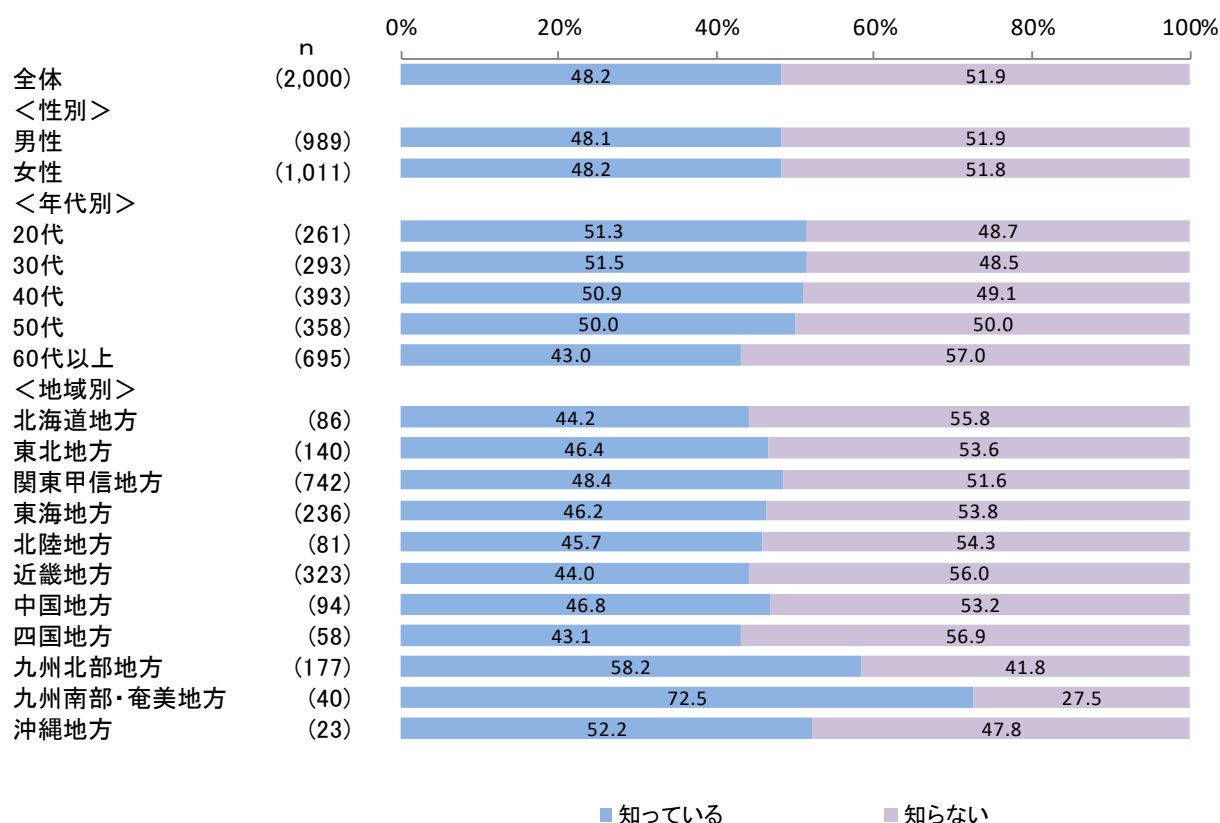
* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下
 * 赤字はベースがn=29以下のため参考値

		n	知 っ て い る	知 ら な い
全体		2,000	39.0	61.1
Q1.災害リスク把握	自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している	784	50.1	49.9
	自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している	349	44.1	55.9
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはあると思っている	470	33.2	66.8
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている	186	23.1	76.9
	自分の住む地域の災害リスクについて考えたことはない	211	15.6	84.4

居住地の災害リスク把握別にみると、自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している層や知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している層では、認知度（50.1%、44.1%）が高くなっている。

II. アンケート調査結果

⑥噴火警報（噴火警戒レベル）



※ベースがn=29以下は参考値

<噴火警報>の認知度は48.2%。

性別による差は小さい。

年代別では、30代の認知度（51.5%）が最も高い。

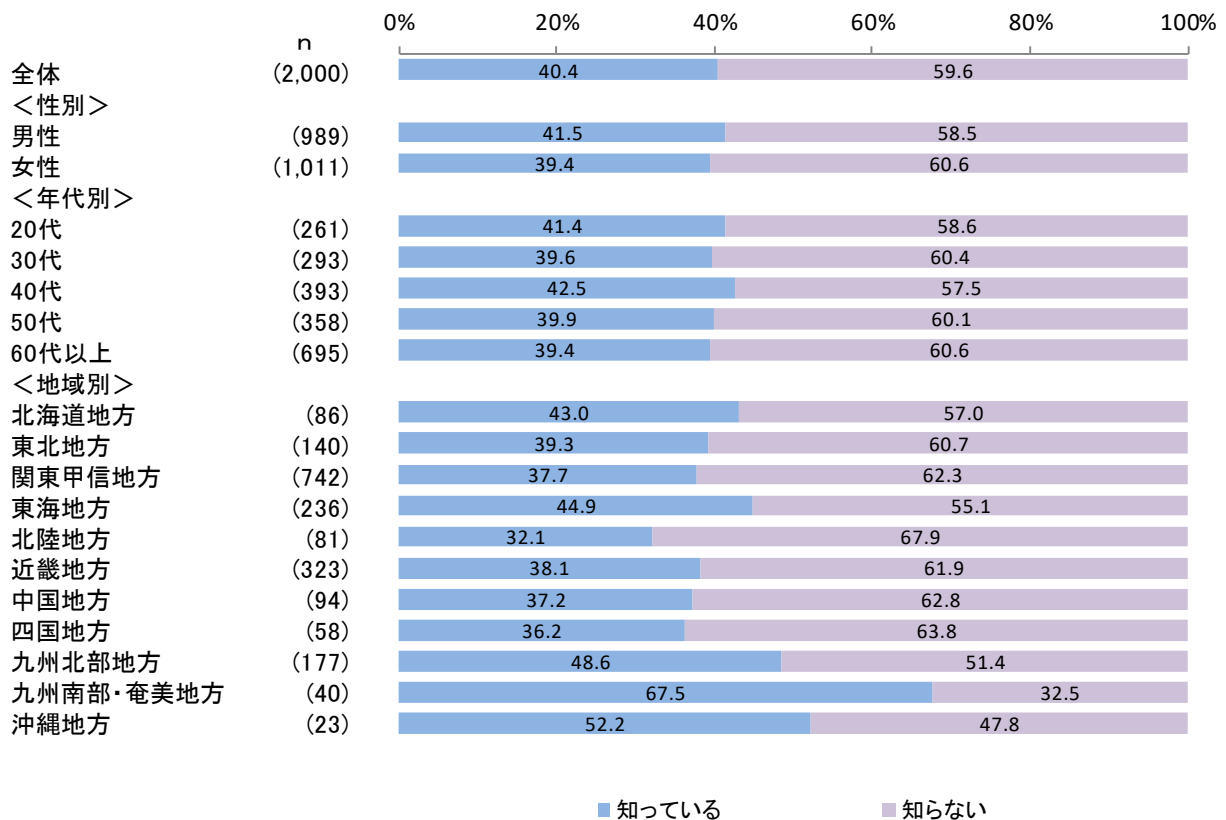
地域別では、九州南部・奄美地方の認知度（72.5%）が特に高い。

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下
* 赤字はベースがn=29以下のため参考値

		n	知っている	知らない
全体		2,000	48.2	51.9
Q1. 災害リスク把握	自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している	784	58.8	41.2
	自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している	349	52.4	47.6
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはあると思っている	470	43.4	56.6
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている	186	37.1	62.9
	自分の住む地域の災害リスクについて考えたことはない	211	21.8	78.2

居住地の災害リスク把握別にみると、自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している層は、認知度（58.8%）が高くなっている。

⑦噴火速報



※ベースがn=29以下は参考値

<噴火速報>の認知度は40.4%。

性別にみると、全体と同様の傾向にある。

年代別にみても、全体と同様の傾向にある。

地域別では、九州南部・奄美地方の認知度（67.5%）が特に高い。

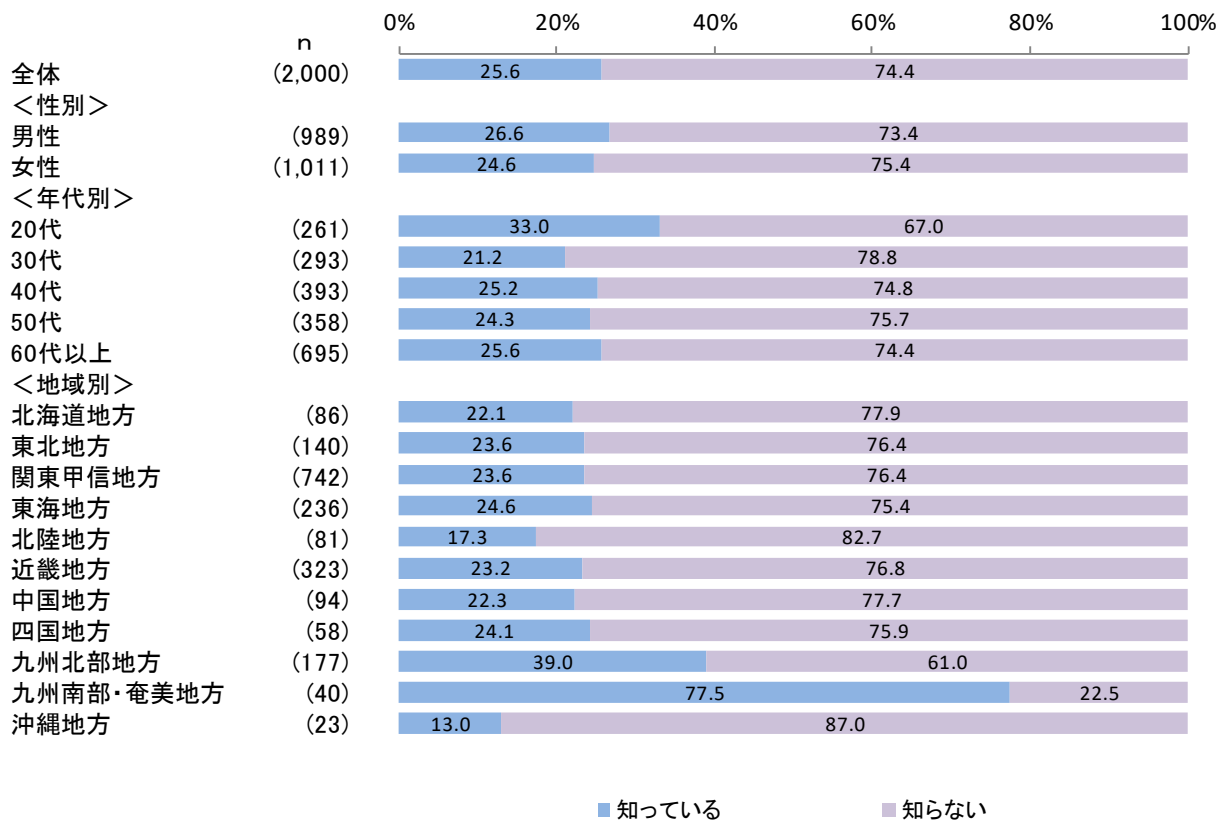
* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下
 * 赤字はベースがn=29以下のため参考値

		n	知っている	知らない
全体		2,000	40.4	59.6
Q1. 災害リスク把握	自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している	784	50.9	49.1
	自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している	349	46.4	53.6
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはあると思っている	470	33.6	66.4
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている	186	31.2	68.8
	自分の住む地域の災害リスクについて考えたことはない	211	14.7	85.3

居住地の災害リスク把握別にみると、自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している層や知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している層では、認知度（50.9%、46.4%）が高くなっている。

II. アンケート調査結果

⑧降灰予報



※ベースがn=29以下は参考値

<降灰予報>の認知度は25.6%。

性別にみると、全体と同様の傾向にある。

年代別では、20代の認知度(33.0%)が高い。

地域別では、九州南部・奄美地方、九州北部地方で認知度(77.5%、39.0%)が高くなっている。

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下
* 赤字はベースがn=29以下のため参考値

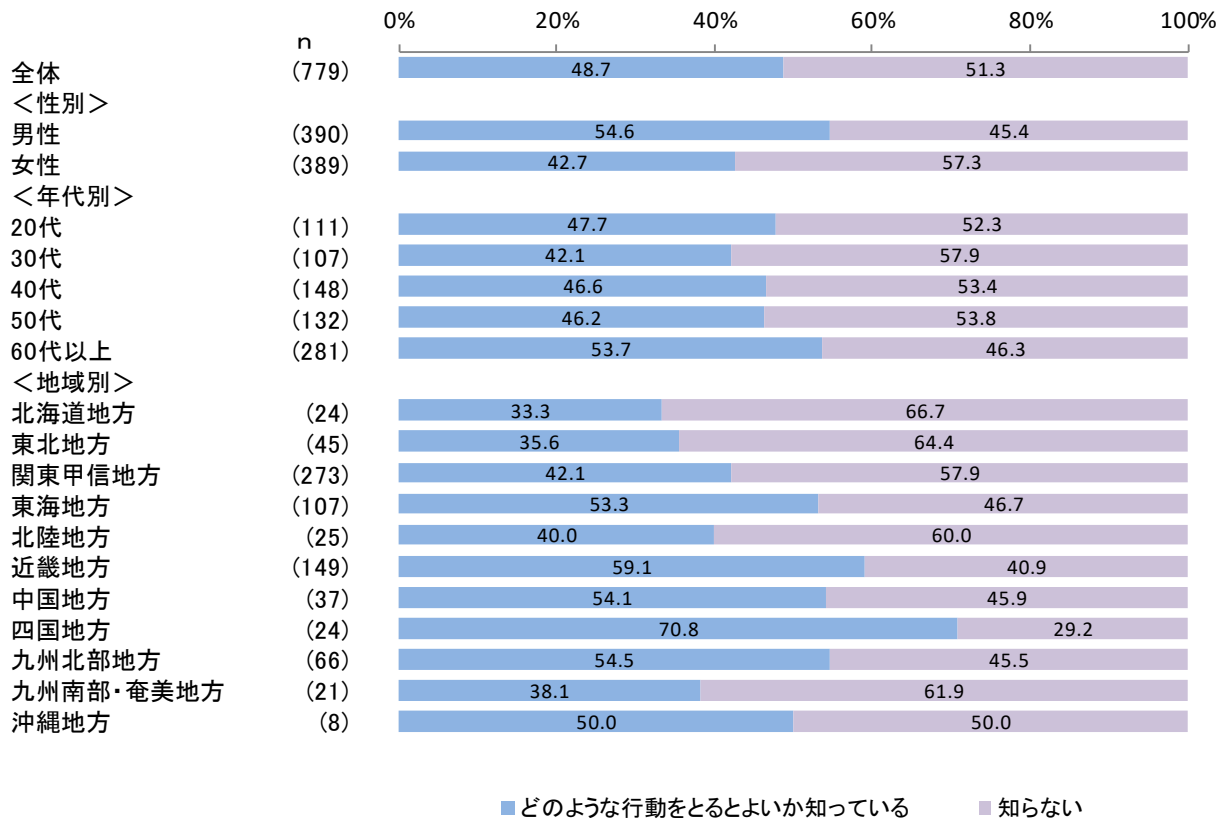
		n	知っている	知らない
全体		2,000	25.6	74.4
Q1. 災害リスク把握	自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している	784	32.8	67.2
	自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している	349	30.4	69.6
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはあると思っている	470	20.4	79.6
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている	186	17.2	82.8
	自分の住む地域の災害リスクについて考えたことはない	211	10.0	90.0

居住地の災害リスク把握別にみると、自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している層は、認知度(32.8%)が高くなっている。

(2) 地震津波、火山噴火に関する防災情報発表時の行動

Q28 あなたは、次の情報が発表された際に、どのような行動をとるとよいか知っていますか。
あてはまるものを1つ選んでください。

①南海トラフ地震臨時情報



※ベースがn=29 以下は参考値

<南海トラフ地震臨時情報>が発表された際に「どのような行動をとるとよいか知っている」は 48.7% となっている。

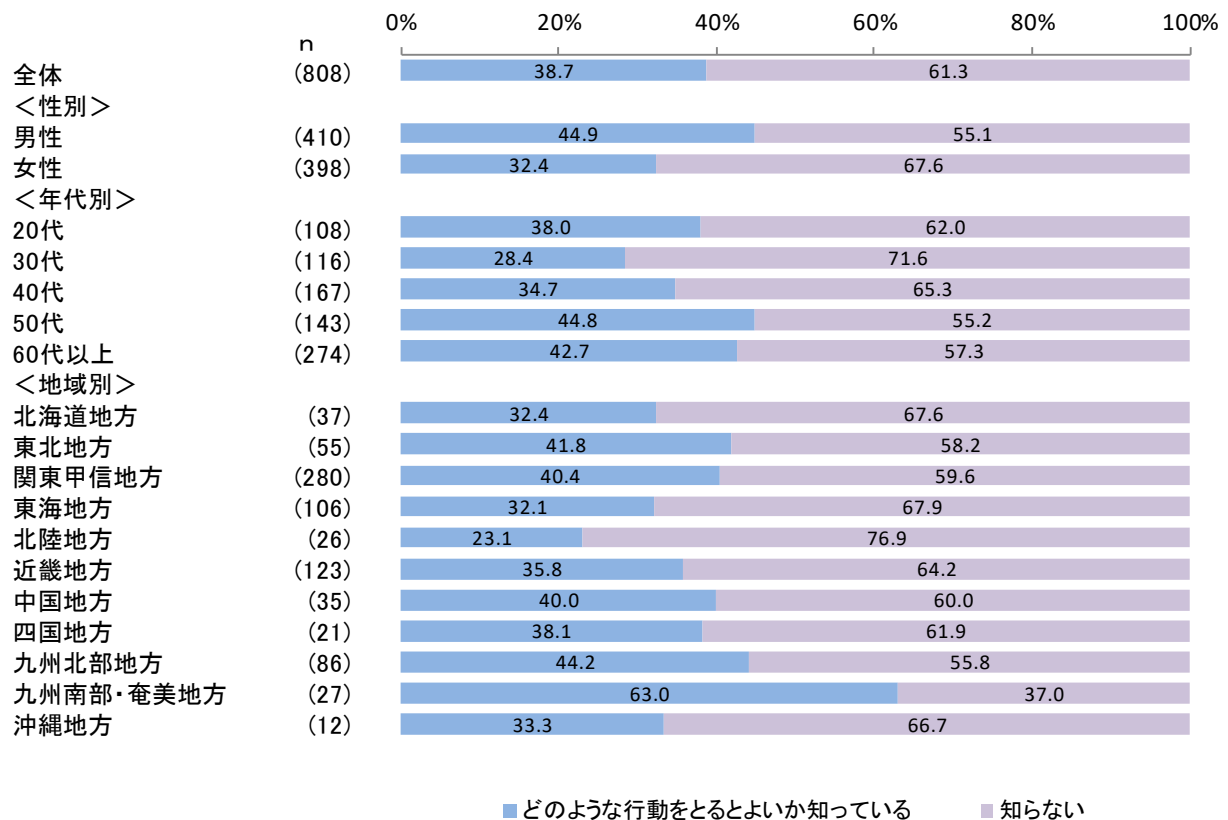
性別にみると、「どのような行動をとるとよいか知っている」は、男性 54.6%、女性 42.7%で、男性の方が高い。

年代別では、60代以上で「どのような行動をとるとよいか知っている」が 53.7%と高い。

地域別では、東海地方、近畿地方、中国地方、九州北部地方で「どのような行動をとるとよいか知っている」が過半数を締め高くなっている。

II. アンケート調査結果

②噴火速報



※ベースがn=29以下は参考値

<噴火速報>が発表された際に「どのような行動をとるとよいか知っている」は38.7%となっている。性別にみると、「どのような行動をとるとよいか知っている」は、男性44.9%、女性32.4%で、男性の方が高い。

年代別では、50代で「どのような行動をとるとよいか知っている」が44.8%と高い。

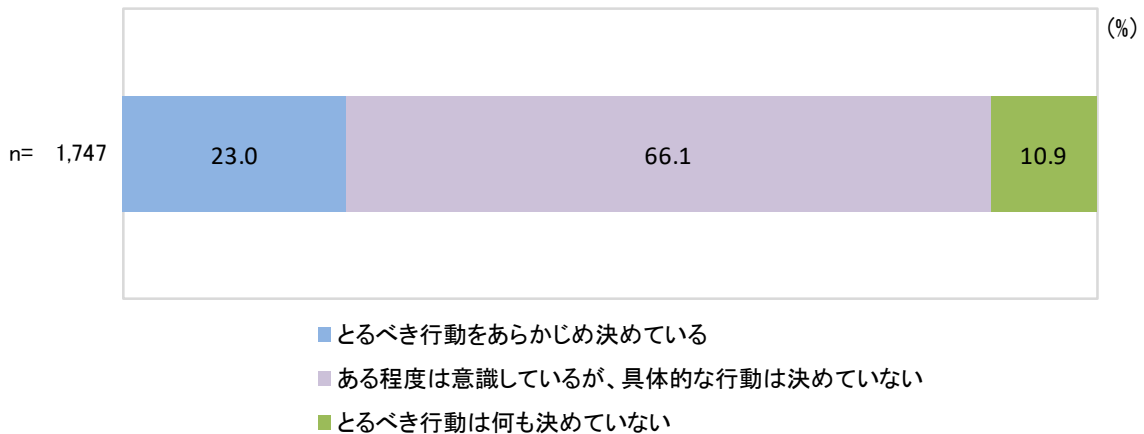
地域別では、九州北部地方で「どのような行動をとるとよいか知っている」が44.2%と高くなっている。

11. 緊急地震速報

(1) 見聞き時の行動決定

Q29 あなたは、日頃から緊急地震速報を見聞きしたときに、とるべき行動をあらかじめ決めていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

n=1,747 ベース：緊急地震速報を「知っている」と回答した人



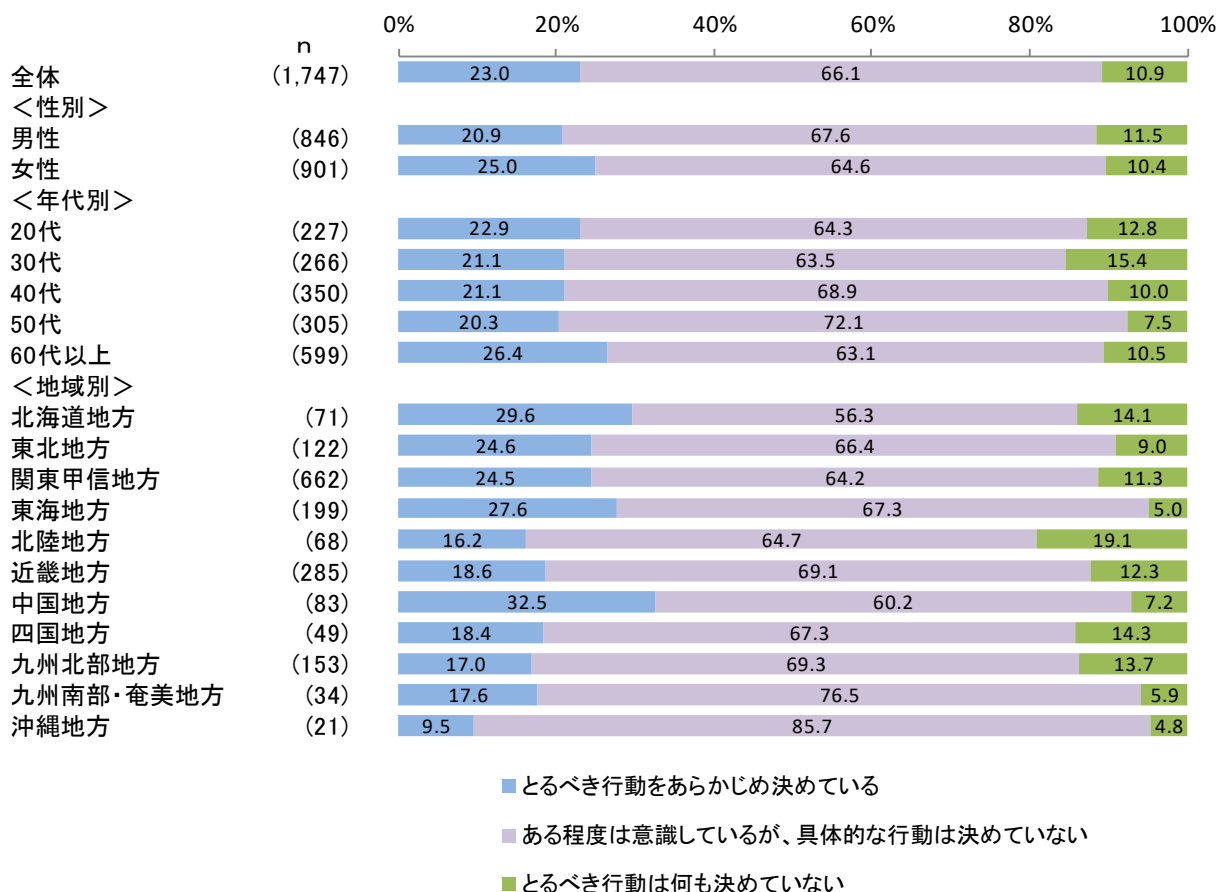
緊急地震速報を見聞きした時の行動については、「とるべき行動をあらかじめ決めている」が23.0%、「ある程度は意識しているが、具体的な行動は決めていない」が66.1%、「とるべき行動は何も決めていない」が10.9%となっている。

* ■はR3+10ポイント以上、■はR3+5ポイント以上、■はR3-10ポイント以下、■はR3-5ポイント以下 (%)

	n	か と じ る め べ 決 め 行 て 動 い を あ ら	動 い あ は る 決 め 、 具 体 的 な 行 て	決 と め る て べ い き な 行 動 は 何 も
R3	1,747	23.0	66.1	10.9
R1	1,806	21.0	68.9	10.1

緊急地震速報を見聞きした時の行動は、令和元年度調査時とほぼ同様に傾向にある。

II. アンケート調査結果



※ベースがn=29 以下は参考値

性別にみると、全体と同様の傾向にある。

年代別では、50代で「ある程度は意識しているが、具体的な行動は決めていない」(72.1%)がやや高い。30代では「とるべき行動は何も決めていない」が15.4%と高くなっている。

地域別では、北海道地方、中国地方で「とるべき行動をあらかじめ決めている」(29.6%、32.5%)が高く、九州南部・奄美地方で「ある程度は意識しているが、具体的な行動は決めていない」(76.5%)が高い。北陸地方では「とるべき行動は何も決めていない」(19.1%)が高くなっている。

II. アンケート調査結果

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下
 * 赤字はベースがn=29以下のため参考値

		n	じと める 決 め き て 行 い 動 る を あ ら か	決 る あ る め が る て 、 程 度 具 体 は 意 識 し て い は い	め と る い べ な き い 行 動 は 何 も 決
全体		1,747	23.0	66.1	10.9
Q1.災害リスク把握	自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している	734	35.6	60.5	4.0
	自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している	314	23.2	72.0	4.8
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはあると思っている	412	10.9	76.0	13.1
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている	159	8.8	69.8	21.4
	自分の住む地域の災害リスクについて考えたことはない	128	7.0	46.9	46.1
Q30.緊急地震速報見聞後の行動	揺れに備えて身構えた	1,020	28.3	64.2	7.5
	周りの人に地震が来ることを知らせた	262	35.9	58.8	5.3
	頭を守る、机の下に身を隠すなどその場で身を守った	486	38.3	57.4	4.3
	子どもや家族など身のまわりの人を守った	359	29.2	65.7	5.0
	棚などの家具が倒れないように押さえた	305	29.8	66.2	3.9
	火を消した	532	31.4	64.1	4.5
	ドアなどを開けて逃げ道を確保した	401	37.4	58.4	4.2
	屋内から屋外へ出た	134	35.8	61.2	3.0
	テレビやラジオ、携帯電話などで最新、詳細な地震情報を知ろうとした	789	27.1	66.7	6.2
	その他	10	40.0	50.0	10.0
特段の行動をとらなかった（できなかった）	99	5.1	66.7	28.3	
どれもあてはまらない（自分のいる地域を対象とした緊急地震速報を見聞きしたことがない）	111	8.1	57.7	34.2	

居住地の災害リスク把握別にみると、自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している層では、「とるべき行動をあらかじめ決めている」（35.6%）が高くなっている。自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している層や自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはあると思っている層では、「ある程度は意識しているが、具体的な行動は決めていない」（72.0%、76.0%）が高く、自分の住んでいる地域の災害リスクの程度によって、取るべき行動の傾向に変化がみられる。

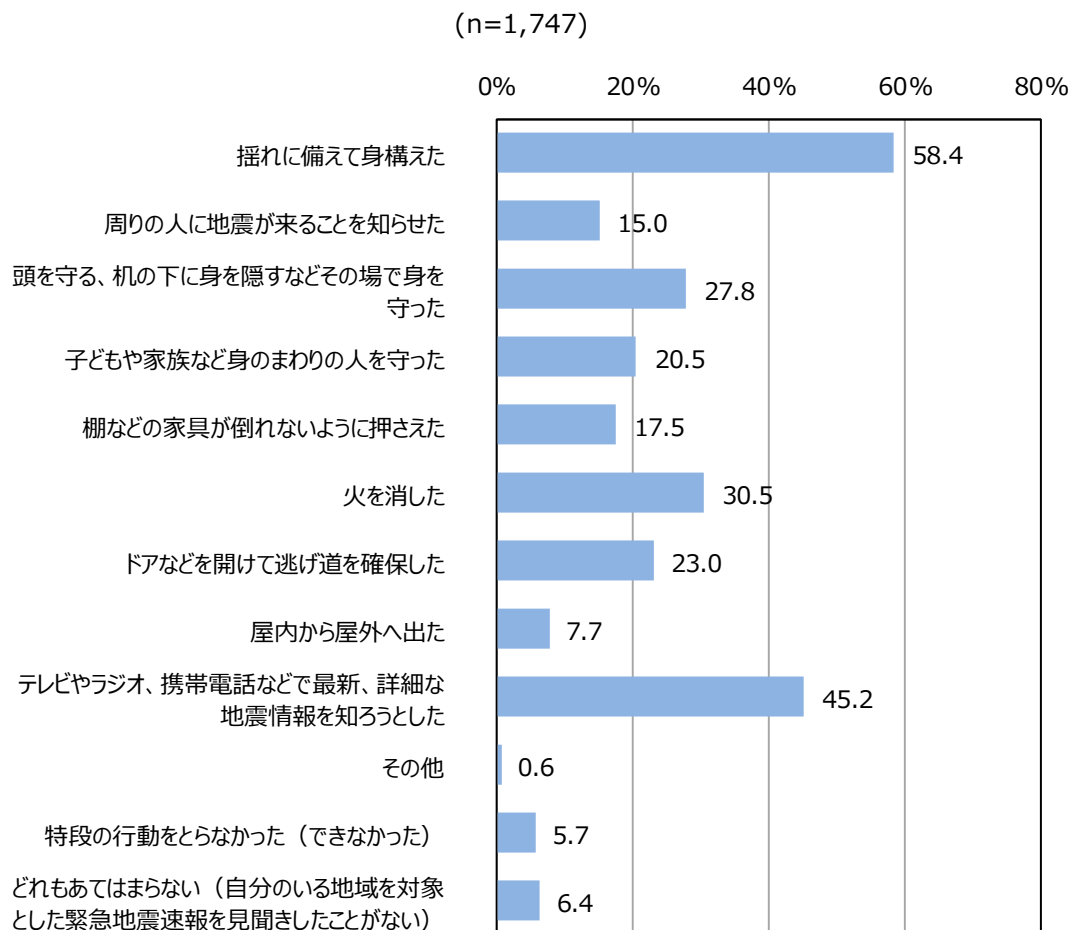
緊急地震速報見聞後の行動別では、周りの人に地震が来ることを知らせた、頭を守る、机の下に身を隠すなどその場で身を守った、ドアなどを開けて逃げ道を確保した、屋内から屋外へ出たの各層で「とるべき行動をあらかじめ決めている」（35.8～38.3%）が高くなっている。

II. アンケート調査結果

(2) 緊急地震速報の見聞き後の行動

Q30 あなたは、自分のいる地域を対象とした緊急地震速報を見聞きして、どのような行動をとったことがありますか。あてはまるものを全て選んでください。

n=1,747 ベース：緊急地震速報を「知っている」と回答した人



自分のいる地域を対象とした緊急地震速報を見聞きした後の行動については、「揺れに備えて身構えた」が58.4%で最も高く、次いで「テレビやラジオ、携帯電話などで最新、詳細な地震情報を知ろうとした」（45.2%）、「火を消した」（30.5%）、「頭を守る、机の下に身を隠すなどその場で身を守った」（27.8%）となっている。

Ⅱ. アンケート調査結果

* ■はR3+10ポイント以上、■はR3+5ポイント以上、■はR3-10ポイント以下、■はR3-5ポイント以下

	n	揺れに備えて身構えた	周りの人に地震が来ることを知らせた	頭を守る、机の下に身を隠すなどその場で身を守った	子どもや家族など身のまわりの人を守った	子どもや家族など身のまわりの人を守った	押さえた	火を消した	ドアなどを開けて逃げ道を確保した	屋内から屋外へ出た	テレビやラジオ、携帯電話などで最新、詳細な地震情報を知ろうとした	その他	特段の行動をとらなかった(%)	速報を見聞きしたことがない(%)	いざという時はまらな(%)
R3	1,747	58.4	15.0	27.8	20.5	17.5	30.5	23.0	7.7	45.2	0.6	5.7	6.4		
R1	1,481	67.3	19.0	19.1	17.2	10.7	25.4	16.6	5.4	28.2	0.8	11.8			

緊急地震速報を見聞きした後の行動を令和元年度調査と比較すると、「テレビやラジオ、携帯電話などで最新、詳細な地震情報を知ろうとした」が大きく上昇している。その他、令和元年度調査時と比較して、「頭を守る、机の下に身を隠すなどその場で身を守った」、「棚などの家具が倒れないように押さえた」、「火を消した」、「ドアなどを開けて逃げ道を確保した」が上昇している。

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下

* 赤字はベースがn=29以下のため参考値

	n	揺れに備えて身構えた	周りの人に地震が来ることを知らせた	頭を守る、机の下に身を隠すなどその場で身を守った	子どもや家族など身のまわりの人を守った	子どもや家族など身のまわりの人を守った	押さえた	火を消した	ドアなどを開けて逃げ道を確保した	屋内から屋外へ出た	テレビやラジオ、携帯電話などで最新、詳細な地震情報を知ろうとした	その他	特段の行動をとらなかった(%)	速報を見聞きしたことがない(%)	いざという時はまらな(%)
全体	1,747	58.4	15.0	27.8	20.5	17.5	30.5	23.0	7.7	45.2	0.6	5.7	6.4		
性別															
男性	846	56.6	15.5	26.0	18.0	18.4	27.4	19.1	8.9	39.1	0.9	6.1	6.7		
女性	901	60.0	14.5	29.5	23.0	16.5	33.3	26.5	6.5	50.8	0.2	5.2	6.0		
年代別															
20代	227	53.7	18.9	41.9	15.4	22.5	22.0	24.2	10.1	33.9	0.4	2.6	5.7		
30代	266	56.4	15.4	30.1	30.8	16.5	22.9	17.3	9.4	38.3	0.8	4.5	6.8		
40代	350	59.7	15.1	25.4	27.4	15.7	30.6	20.6	6.3	40.6	0.9	6.3	5.7		
50代	305	56.1	12.8	25.6	21.3	17.7	29.8	22.0	4.3	48.9	0.0	7.2	8.2		
60代以上	599	61.4	14.4	24.0	13.5	16.9	37.2	26.9	8.5	53.3	0.7	6.2	5.8		
地域別															
北海道地方	71	52.1	12.7	26.8	19.7	19.7	38.0	25.4	11.3	53.5	0.0	2.8	11.3		
東北地方	122	71.3	25.4	31.1	23.0	27.9	45.1	39.3	17.2	58.2	0.0	1.6	1.6		
関東甲信地方	662	66.2	16.3	27.5	21.3	22.8	36.3	29.8	6.0	49.1	0.8	3.3	2.9		
東海地方	199	56.3	16.1	33.7	17.6	10.6	27.1	17.1	9.0	38.7	1.0	6.0	8.5		
北陸地方	68	45.6	11.8	17.6	14.7	16.2	30.9	16.2	10.3	38.2	0.0	11.8	10.3		
近畿地方	285	52.6	12.6	28.8	20.7	10.9	23.5	14.7	4.6	39.6	0.7	9.5	8.8		
中国地方	83	51.8	13.3	28.9	26.5	15.7	18.1	9.6	4.8	47.0	0.0	4.8	4.8		
四国地方	49	57.1	14.3	30.6	14.3	6.1	18.4	10.2	0.0	40.8	0.0	12.2	10.2		
九州北部地方	153	45.8	11.1	22.9	22.9	14.4	22.2	15.0	12.4	40.5	0.7	7.2	11.8		
九州南部・奄美地方	34	47.1	5.9	23.5	17.6	5.9	20.6	29.4	5.9	38.2	0.0	2.9	8.8		
沖縄地方	21	38.1	4.8	19.0	9.5	14.3	14.3	23.8	9.5	23.8	0.0	19.0	14.3		

性別にみると、女性は「テレビやラジオ、携帯電話などで最新、詳細な地震情報を知ろうとした」(50.8%)が高い。

年代別では、20代で「頭を守る、机の下に身を隠すなどその場で身を守った」(41.9%)が高く、30代で「子どもや家族など身のまわりの人を守った」(30.8%)が高い。

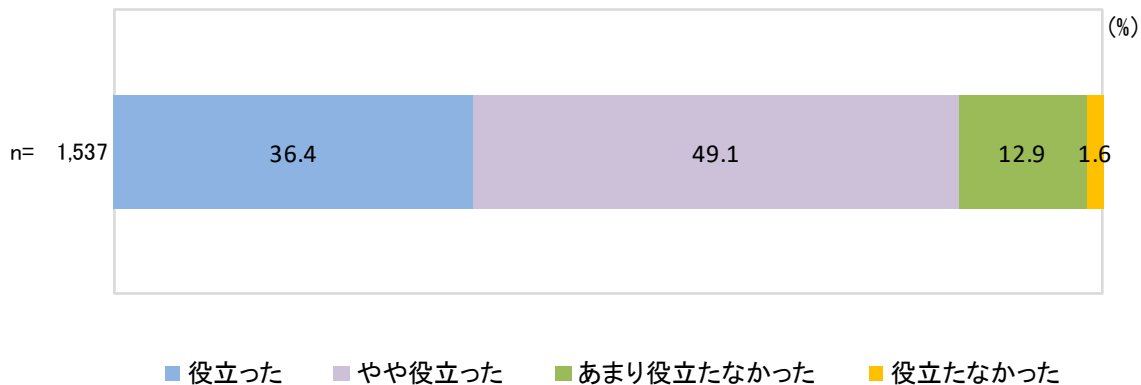
地域別では、東北地方で「揺れに備えて身構えた」(71.3%)、「テレビやラジオ、携帯電話などで最新、詳細な地震情報を知ろうとした」(58.2%)などの行動が一般的に高くなっている。

II. アンケート調査結果

(3) 緊急地震速報の役立ち度

Q31 あなたが、緊急地震速報を見聞きしてとった行動の結果、緊急地震速報はどの程度役立ったと思いますか。あなたの考えにもっとも近いものを1つ選んでください。

n=1,537 ベース：緊急地震速報の見聞き時の行動で、何らかの行動をとったと回答した人



緊急地震速報については、「役に立った」が36.4%、「やや役に立った」が49.1%となり、両者を合わせた緊急地震速報の役立ち度は85.5%となっている。

* ■はR3+10ポイント以上、■はR3+5ポイント以上、■はR3-10ポイント以下、■はR3-5ポイント以下 (%)

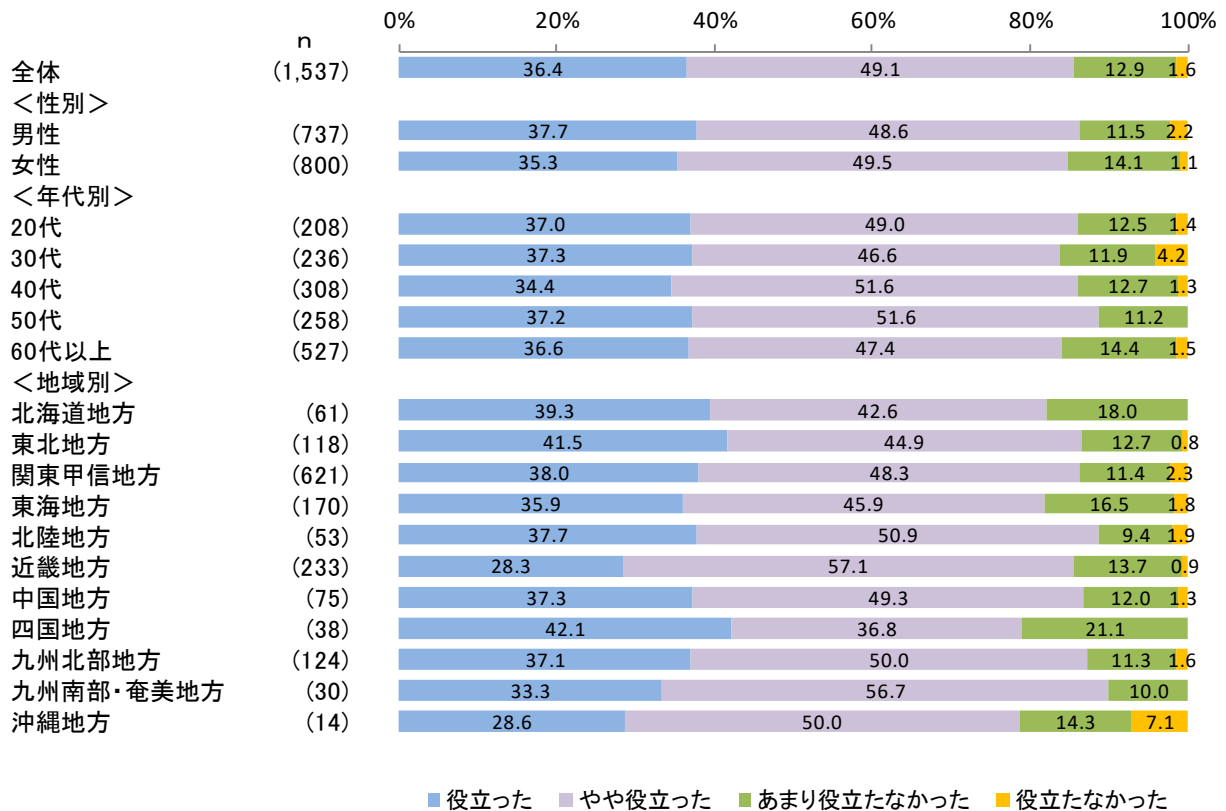
	n	役に立った	やや役に立った	あまり役に立たなかった	役に立たなかった
R3	1,537	36.4	49.1	12.9	1.6
R1	1,250	47.9	41.7	9.0	1.4

※N数について、R1、H29同様、緊急地震速報を見聞き時に何らかの行動をとったと回答した人

緊急地震速報の役立ち度を令和元年度調査と比較すると、「役に立った」が12ポイント低下、「やや役に立った」が7ポイント上昇している。全体としての役立ち度は令和元年度89.6%に対して85.5%と、いずれも8割台後半となっている。

Ⅱ. アンケート調査結果

※ベースがn=29以下は参考値



※ベースがn=29以下は参考値

性別にみると、全体と同様の傾向にある。

年代別にみても、全体と同様の傾向にある。

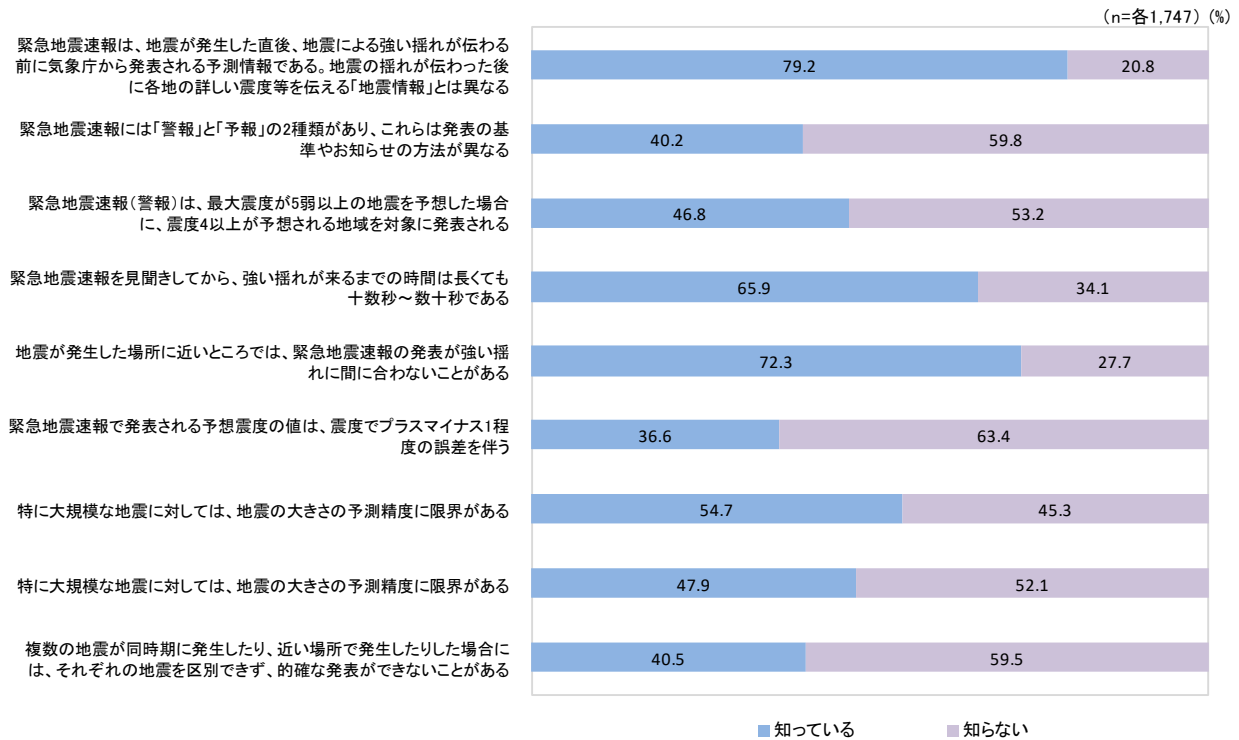
地域別では、東北地方、四国地方で「役に立った」(41.5%、42.1%)がやや高く、近畿地方、九州南部・奄美地方で「やや役に立った」(57.1%、56.7%)が高い。

II. アンケート調査結果

(4) 緊急地震速報の内容認知度

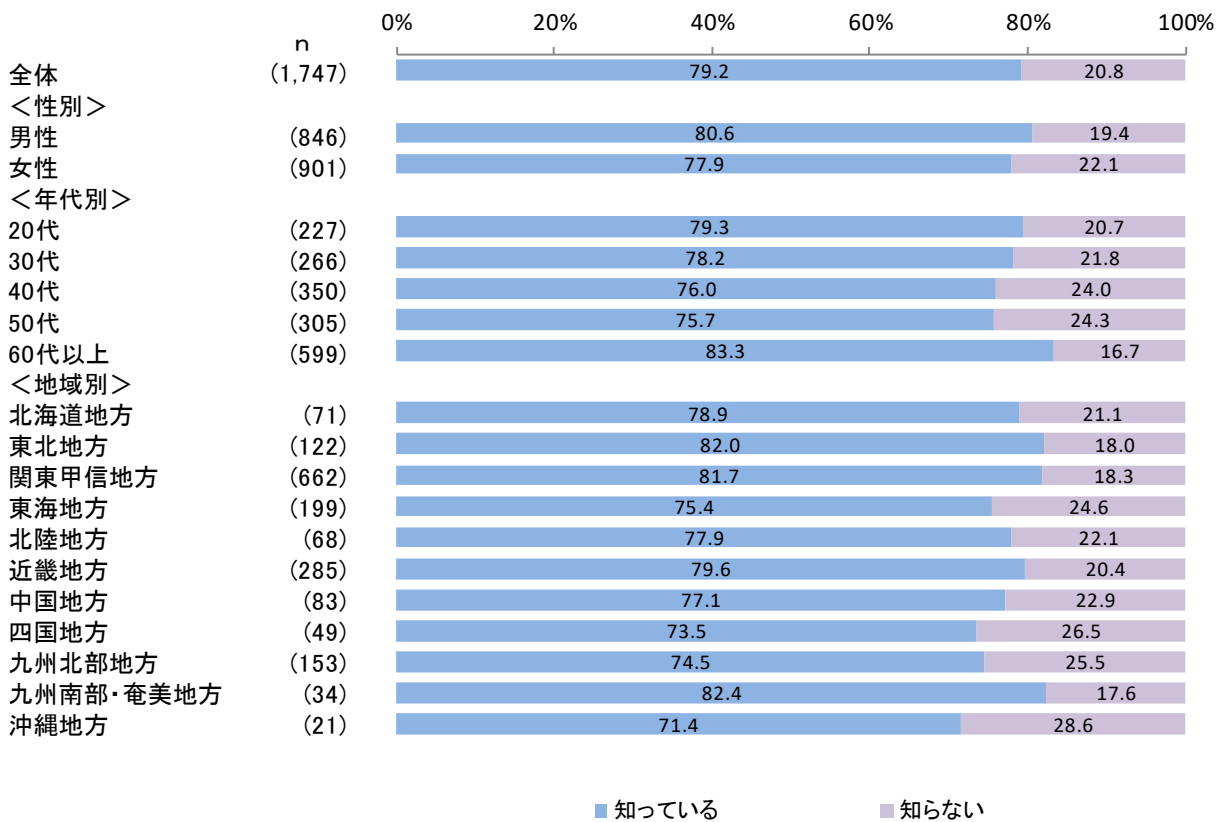
Q32 あなたは、緊急地震速報に関する以下の事柄について知っていますか。
あてはまるものを全て選んでください。

n = 各 1,747 ベース：緊急地震速報を「知っている」と回答した人



緊急地震速報に関する事柄の認知度（「知っている」）は、＜緊急地震速報は、地震が発生した直後、地震による強い揺れが伝わる前に気象庁から発表される予測情報である。地震の揺れが伝わった後に各地の詳しい震度等を伝える「地震情報」とは異なる＞が 79.2%で最も高く、次いで、＜地震が発生した場所に近いところでは、緊急地震速報の発表が強い揺れに間に合わないことがある＞（72.3%）、＜緊急地震速報を見聞きしてから、強い揺れが来るまでの時間は長くても十数秒～数十秒である＞（65.9%）となっている。

①緊急地震速報は、地震が発生した直後、地震による強い揺れが伝わる前に気象庁から発表される予測情報である。地震の揺れが伝わった後に各地の詳細な震度等を伝える「地震情報」とは異なる



※ベースがn=29 以下は参考値

<緊急地震速報は、地震が発生した直後、地震による強い揺れが伝わる前に気象庁から発表される予測情報である。地震の揺れが伝わった後に各地の詳細な震度等を伝える「地震情報」とは異なる>の認知度は79.2%。

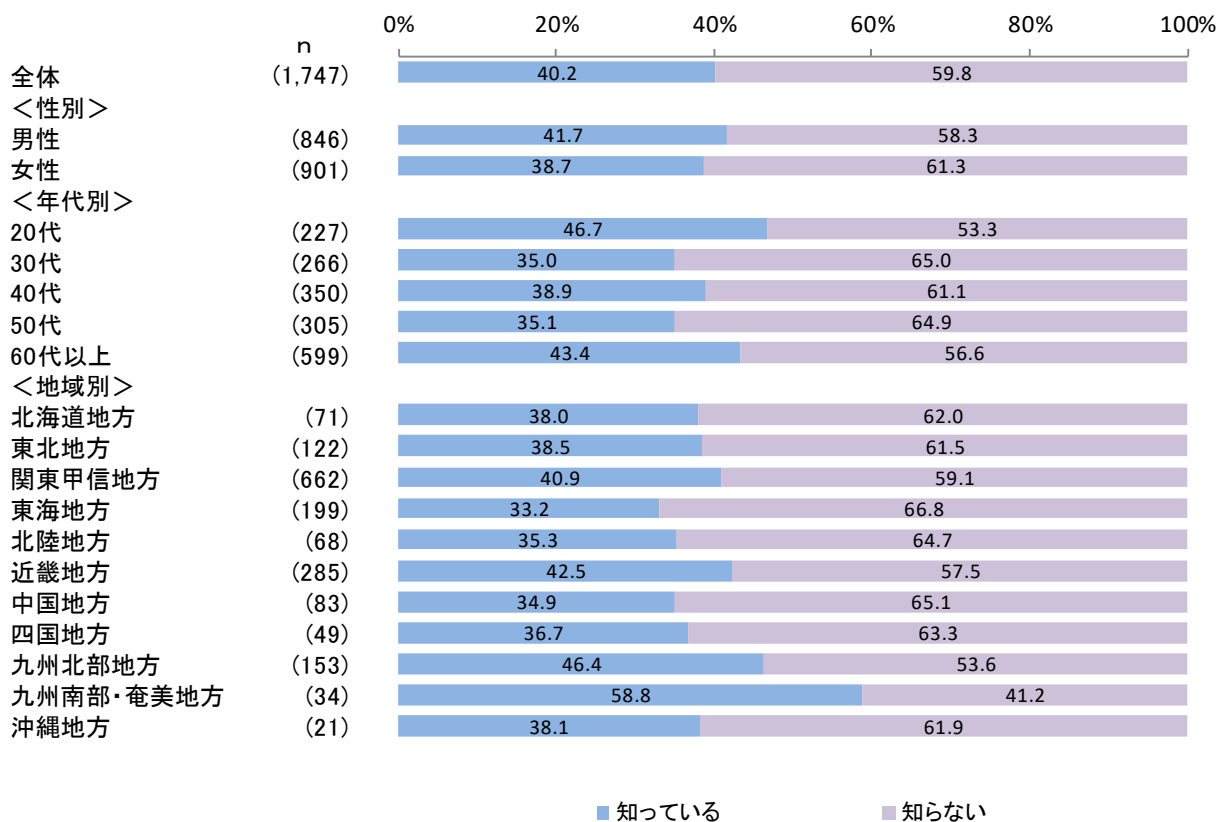
性別にみると、全体と同様の傾向にある。

年代別にみても、全体と同様の傾向にある。

地域別にみても、全体と同様の傾向にある。

II. アンケート調査結果

②緊急地震速報には「警報」と「予報」の2種類があり、これらは発表の基準やお知らせの方法が異なる



※ベースがn=29以下は参考値

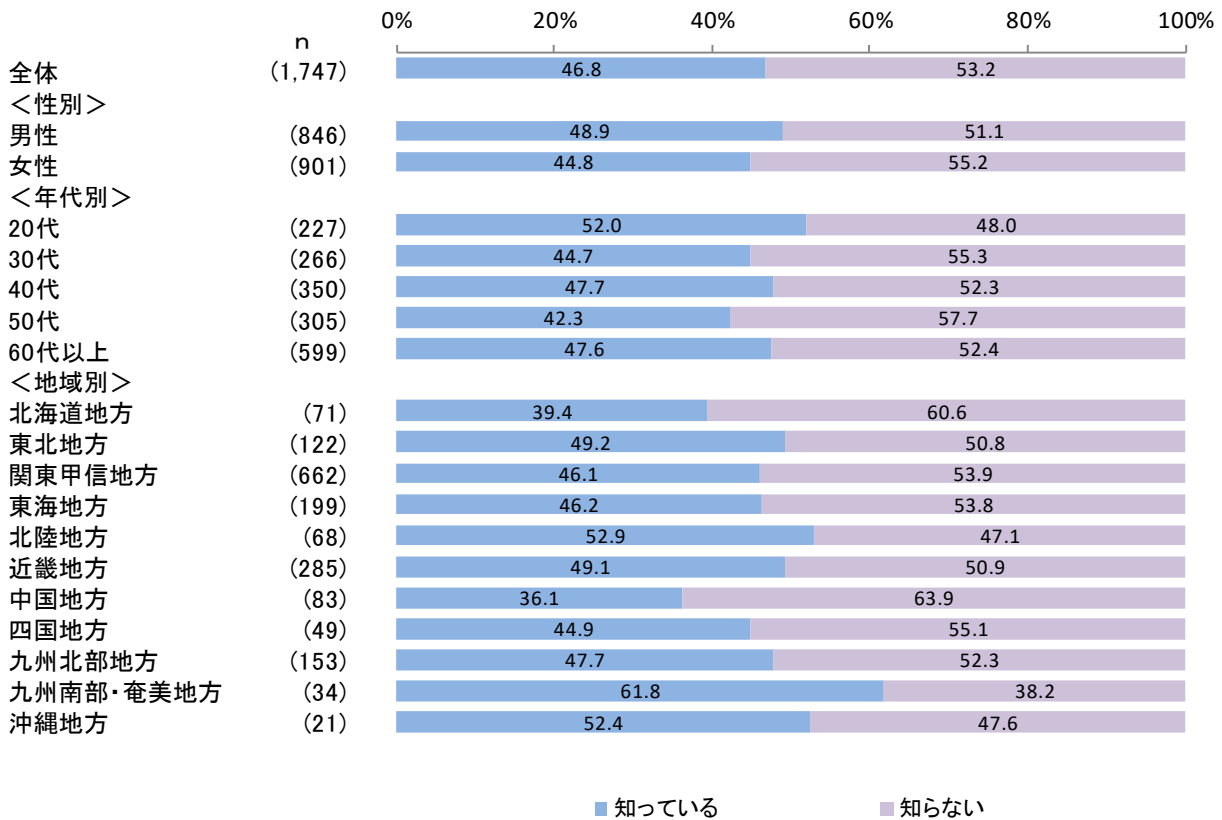
<緊急地震速報には「警報」と「予報」の2種類があり、これらは発表の基準やお知らせの方法が異なる>の認知度は40.2%。

性別にみると、全体と同様の傾向にある。

年代別では、20代の認知度（46.7%）が高い。

地域別では、九州北部地方、九州南部・奄美地方の認知度（46.4%、58.8%）が最も高い。

③緊急地震速報（警報）は、最大震度が5弱以上の地震を予想した場合に、震度4以上が予想される地域を対象に発表される



※ベースがn=29以下は参考値

<緊急地震速報（警報）は、最大震度が5弱以上の地震を予想した場合に、震度4以上が予想される地域を対象に発表される>の認知度は46.8%。

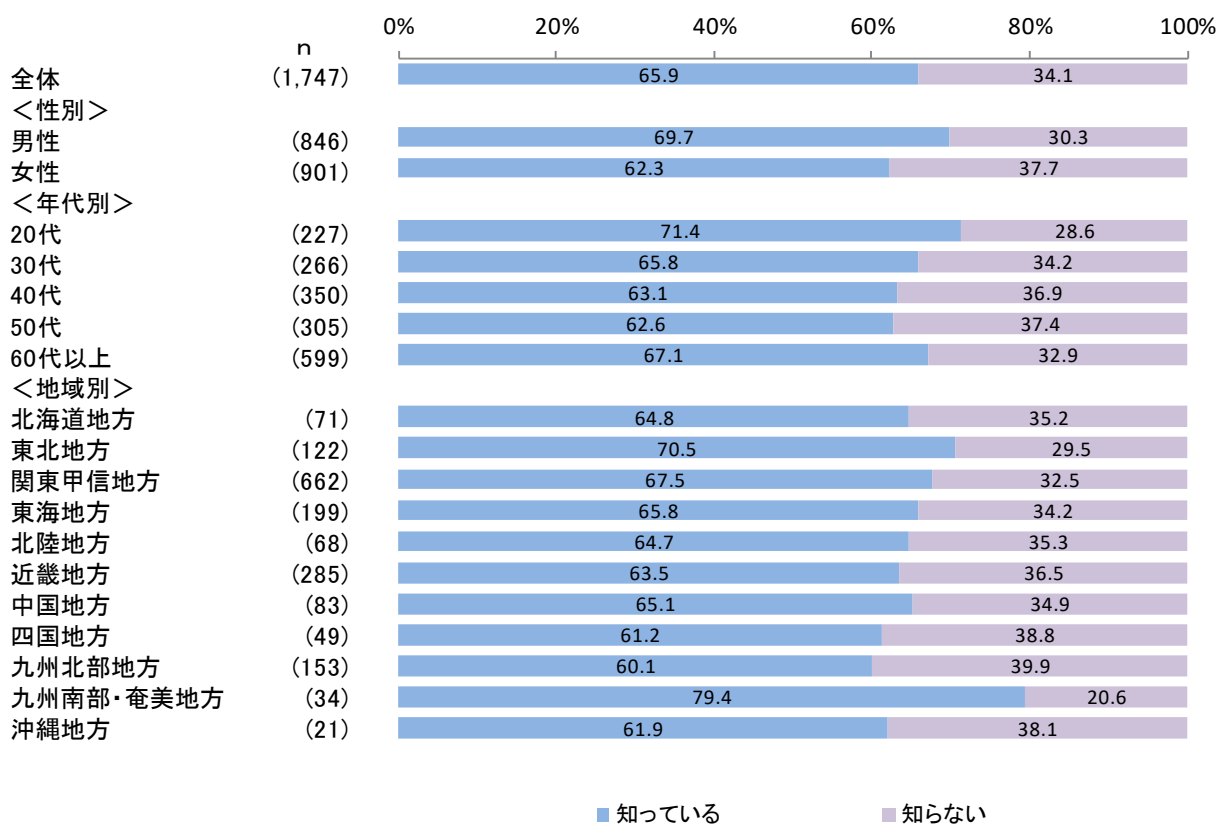
性別にみると、全体と同様の傾向にある。

年代別では、20代の認知度（52.0%）が高い。

地域別では、北陸地方、九州南部・奄美地方の認知度（52.9%、61.8%）が高い。

II. アンケート調査結果

④緊急地震速報を見聞きしてから、強い揺れが来るまでの時間は長くても十数秒～数十秒である



※ベースがn=29 以下は参考値

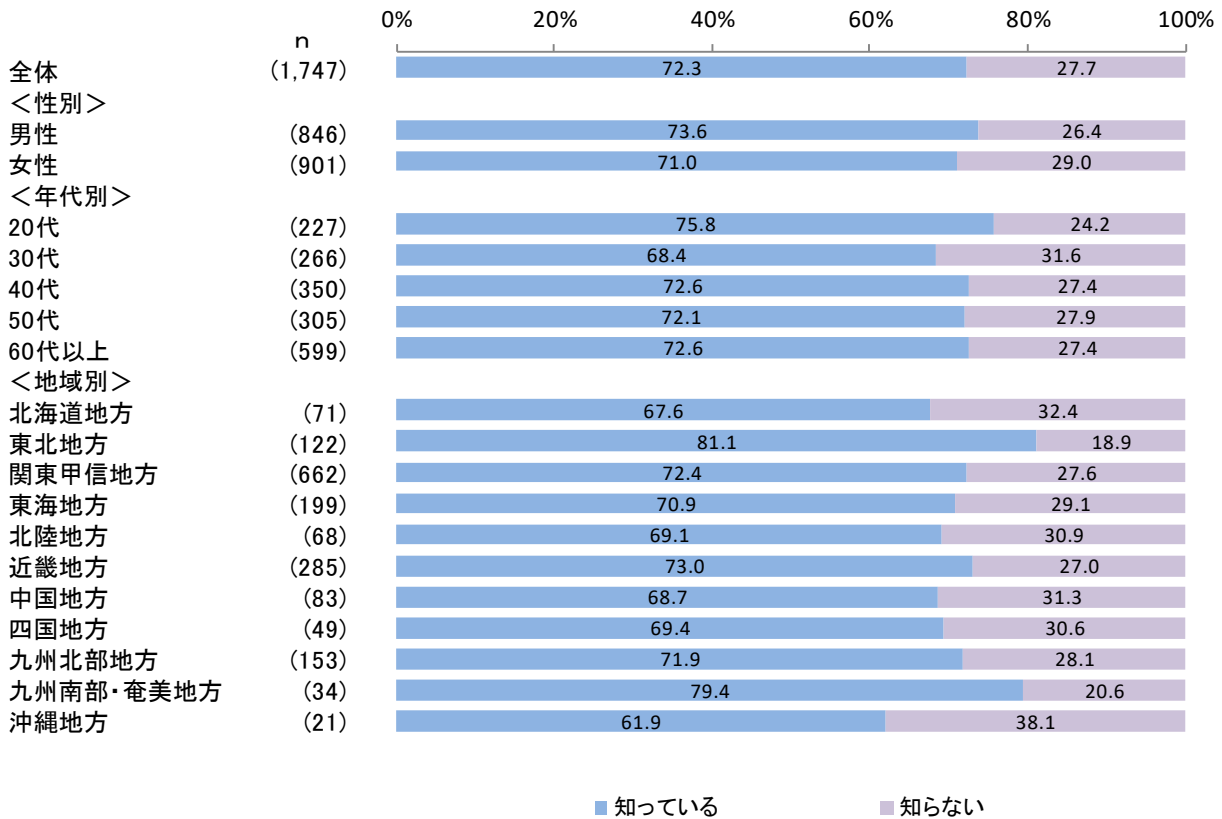
<緊急地震速報を見聞きしてから、強い揺れが来るまでの時間は長くても十数秒～数十秒である>の認知度は65.9%。

性別にみると、男性の認知度は69.7%で、女性（62.3%）をやや上回る。

年代別では、20代の認知度（71.4%）が高い。

地域別では、九州南部・奄美地方の認知度（79.4%）が高い。

⑤地震が発生した場所に近いところでは、緊急地震速報の発表が強い揺れに間に合わないことがある



※ベースがn=29以下は参考値

<地震が発生した場所に近いところでは、緊急地震速報の発表が強い揺れに間に合わないことがある>の認知度は72.3%。

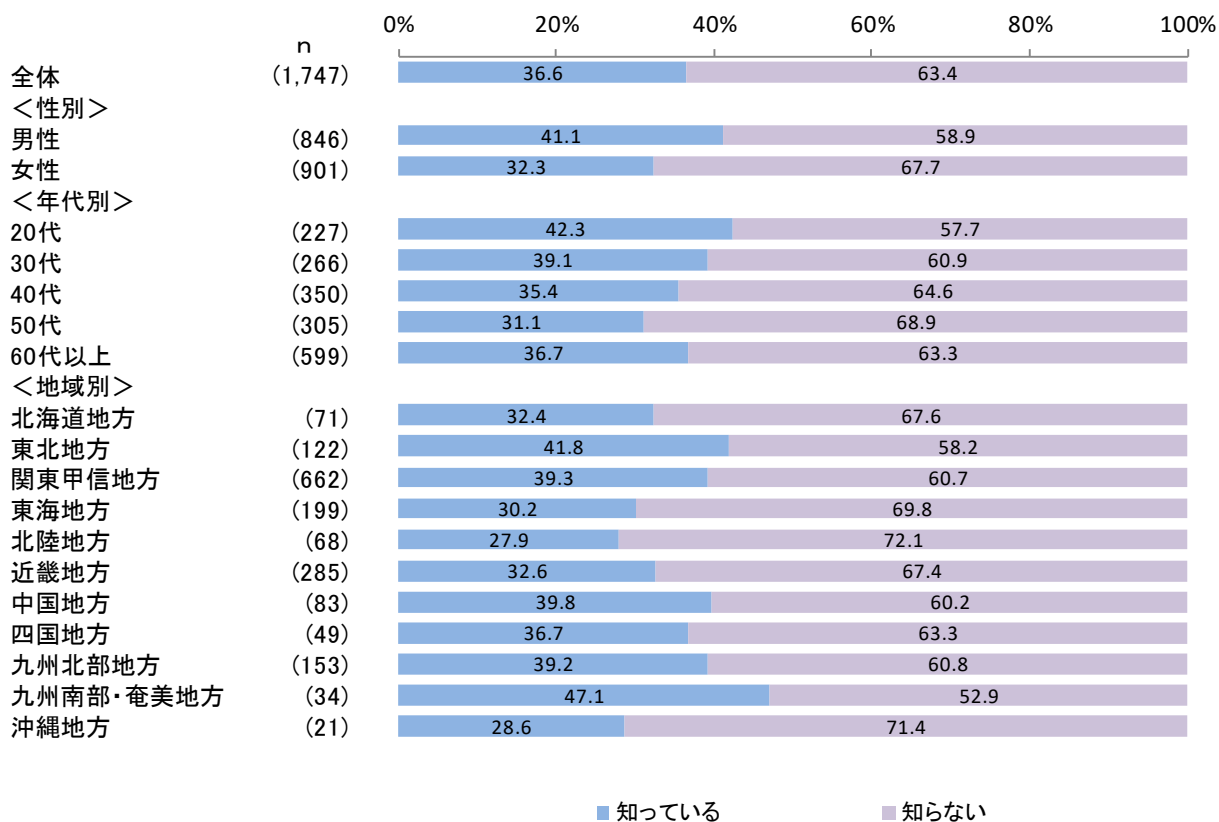
性別にみると、全体と同様の傾向にある。

年代別にみても、全体と同様の傾向にある。

地域別では、東北地方、九州南部・奄美地方の認知度（81.1%、79.4%）が高い。

II. アンケート調査結果

⑥緊急地震速報で発表される予想震度の値は、震度でプラスマイナス1程度の誤差を伴う



※ベースがn=29以下は参考値

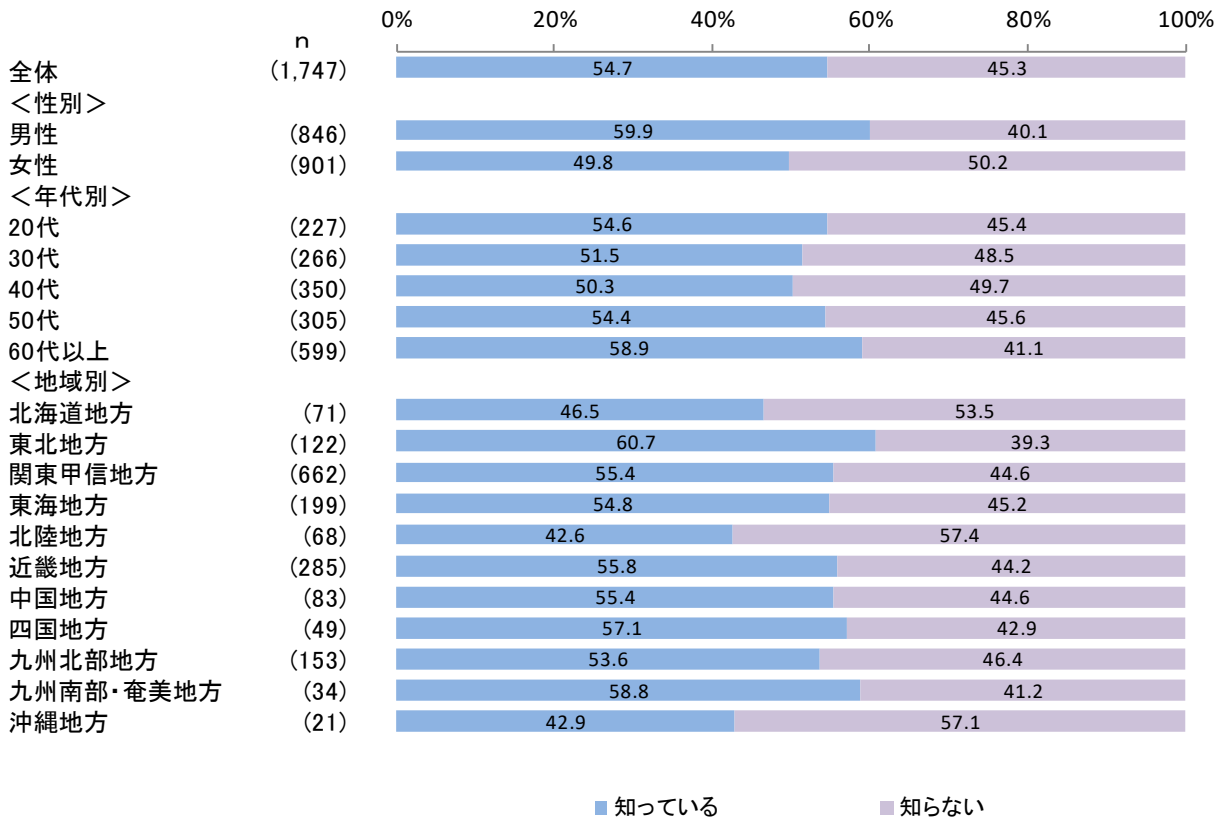
<緊急地震速報で発表される予想震度の値は、震度でプラスマイナス1程度の誤差を伴う>の認知度は36.6%。

性別にみると、男性の認知度は41.1%で、女性（32.6%）を上回る。

年代別にみると、全体と同様の傾向にある。

地域別では、東北地方、九州南部・奄美地方の認知度（41.8%、47.1%）が高い。

⑦特に大規模な地震に対しては、地震の大きさの予測精度に限界がある



※ベースがn=29以下は参考値

<特に大規模な地震に対しては、地震の大きさの予測精度に限界がある>の認知度は54.7%。

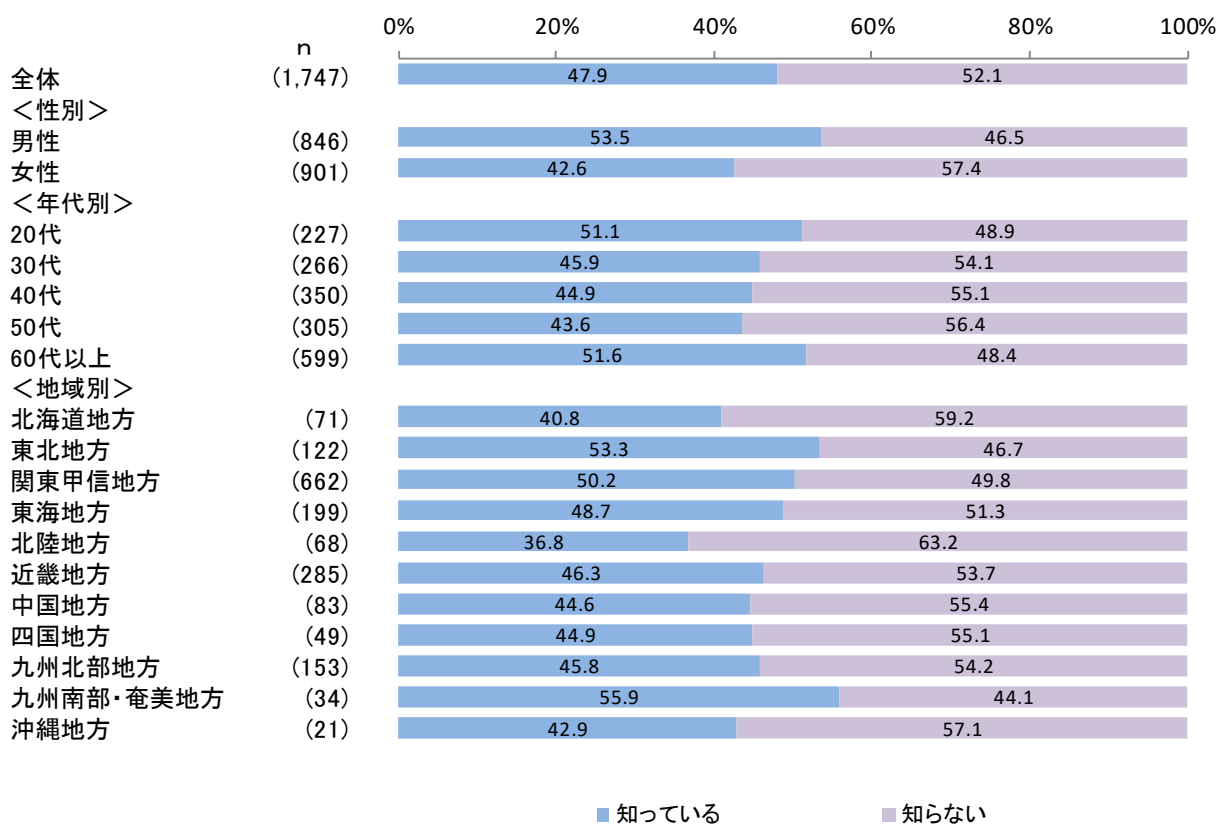
性別にみると、男性の認知度は59.9%で、女性（49.8%）を上回る。

年代別では、60代以上の認知度（58.9%）がやや高い。

地域別では、東北地方の認知度（60.7%）が最も高い。

II. アンケート調査結果

⑧複数の地震が同時期に発生したり、近い場所で発生したりした場合には、それぞれの地震を区別できず、的確な発表ができないことがある



※ベースがn=29以下は参考値

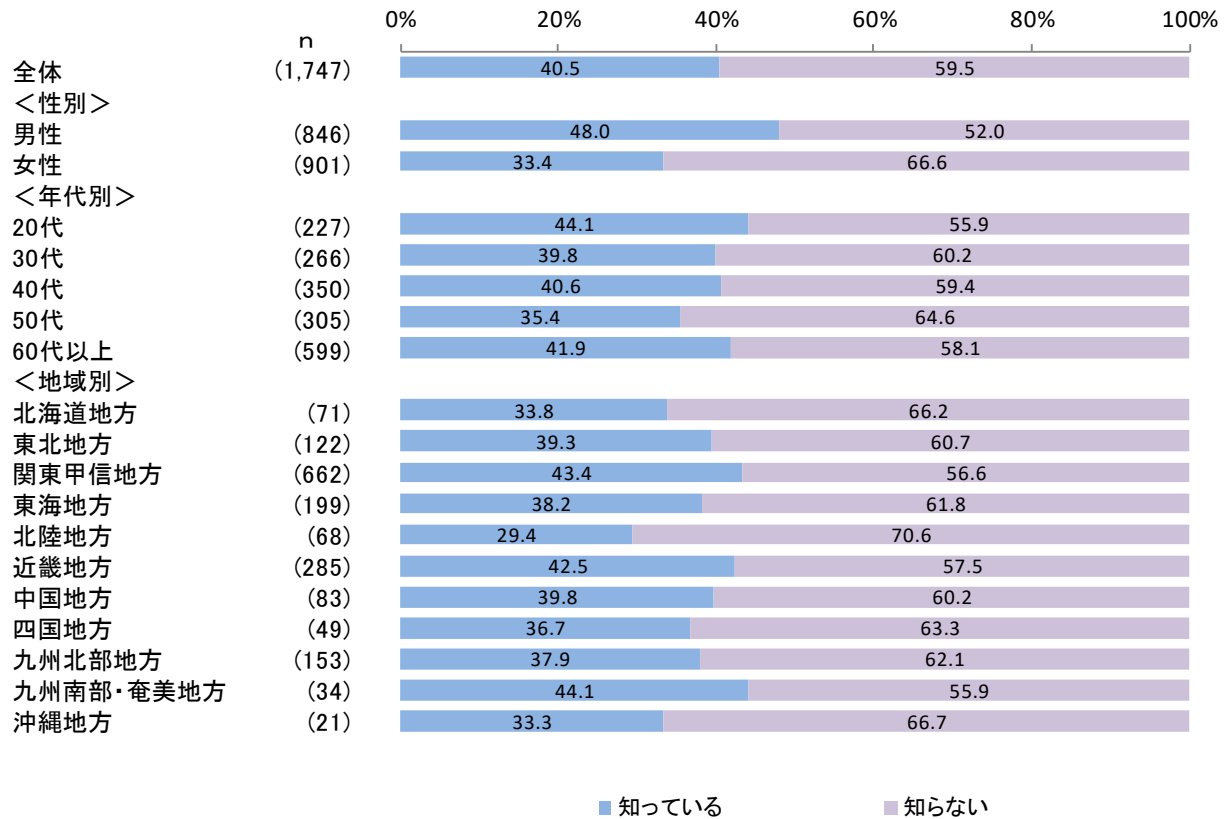
<複数の地震が同時期に発生したり、近い場所で発生したりした場合には、それぞれの地震を区別できず、的確な発表ができないことがある>の認知度は47.9%。

性別にみると、男性の認知度は53.5%で、女性（42.6%）を上回る。

年代別では、20代、60代以上の認知度（51.1%、51.6%）がやや高い。

地域別では、東北地方、九州南部・奄美地方の認知度（53.3%、55.9%）がやや高い。

⑨事故、落雷、機器の障害など地震以外の現象を地震と誤認して、緊急地震速報を発表する可能性がある



※ベースがn=29以下は参考値

<事故、落雷、機器の障害など地震以外の現象を地震と誤認して、緊急地震速報を発表する可能性がある>の認知度は40.5%。

性別にみると、男性の認知度は48.0%で、女性（33.4%）を上回る。

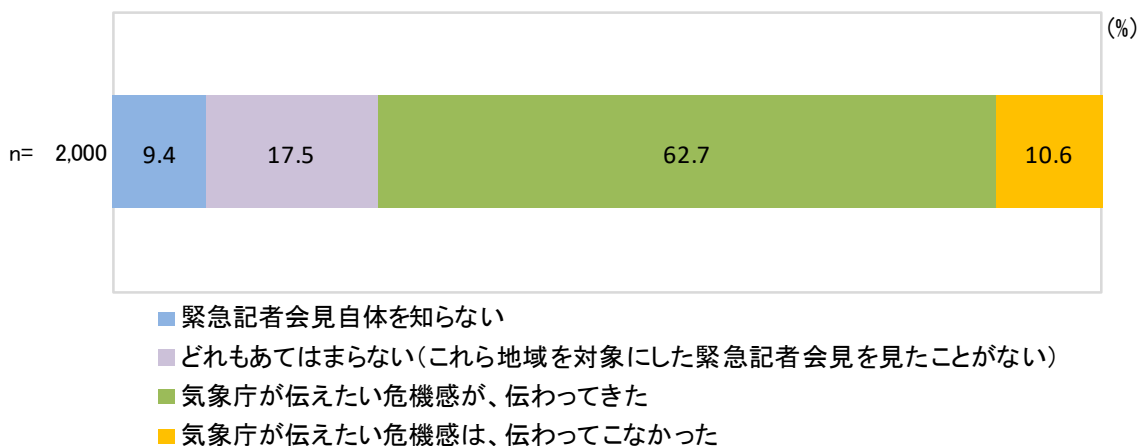
年代別にみると、全体と同様の傾向にある。

地域別では、北海道地方、北陸地方では「知らない」（66.2%、70.6%）が高い。

12. 緊急記者会見

(1) 気象庁による緊急記者会見をみて感じたこと

Q33 気象庁では、大雨や台風などによって重大な災害が発生するおそれが高まっている時に、そのことをお知らせするために緊急記者会見を行います。
 あなたがお住まいの地方を対象にした緊急記者会見をご覧になったときにどのように感じましたか。あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。



住まいの地方を対象にした緊急記者会見を見て感じたことについては、「気象庁が伝えたい危機感が、伝わってきた」が62.7%を占めている。

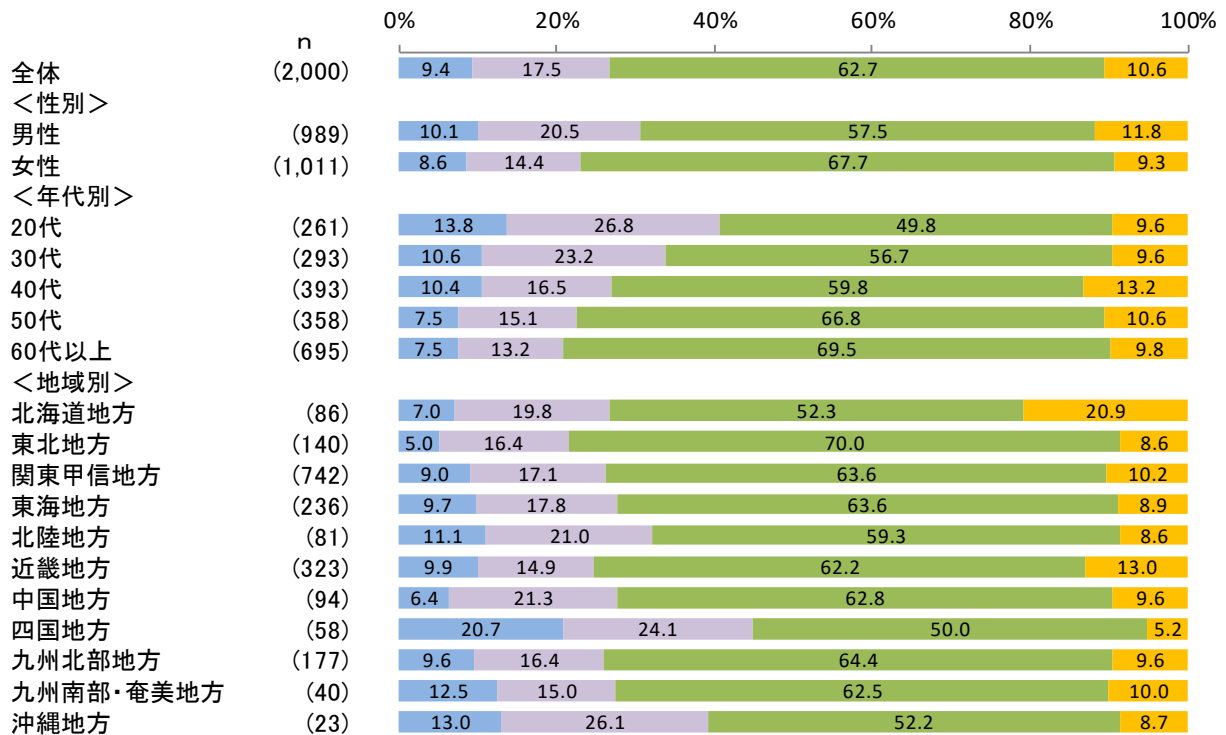
* ■はR3+10ポイント以上、■はR3+5ポイント以上、■はR3-10ポイント以下、■はR3-5ポイント以下 (%)

	n	緊急記者会見自体を知らない (%)	どれもあてはまらない(これら地域を対象にした緊急記者会見を見たことがない) (%)	気象庁が伝えたい危機感が、伝わってきた (%)	気象庁が伝えたい危機感が、伝わってこなかった (%)
R3	2,000	9.4	17.5	62.7	10.6
R1	2,000	9.2	26.3	51.2	13.2

緊急記者会見を見て感じたことを令和元年調査と比較すると、「気象庁が伝えたい危機感が、伝わってきた」が12ポイント上昇している。

Ⅱ. アンケート調査結果

※ベースがn=29以下は参考値



- 緊急記者会見自体を知らない
- どれもあてはまらない(これら地域を対象にした緊急記者会見を見たことがない)
- 気象庁が伝えたい危機感が、伝わってきた
- 気象庁が伝えたい危機感は、伝わってこなかった

※ベースがn=29以下は参考値

性別にみると、「気象庁が伝えたい危機感が、伝わってきた」は女性（67.7%）が男性（57.5%）を上回る。年代別では、高年層ほど「気象庁が伝えたい危機感が、伝わってきた」が高い傾向がみられる。地域別では、東北地方で「気象庁が伝えたい危機感が、伝わってきた」（70.0%）が高くなっている。

II. アンケート調査結果

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下
 * 赤字はベースがn=29以下のため参考値

		n	緊急記者会見自体を知らない	地域を対象にした緊急記者会見	どれもあるはまらない（これら	わってきた	気象庁が伝えたい危機感が、伝	わってこなかつた	気象庁が伝えたい危機感は、伝
全体		2,000	9.4	17.5	62.7			10.6	
Q1.災害リスク把握	自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している	784	8.7	14.0	70.7			6.6	
	自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している	349	10.0	17.5	66.8			5.7	
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはあると思っている	470	8.3	21.3	60.4			10.0	
	自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている	186	11.3	22.0	56.5			10.2	
	自分の住む地域の災害リスクについて考えたことはない	211	11.4	17.5	36.5			34.6	

居住地の災害リスク把握別にみると、自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している層では、「気象庁が伝えたい危機感が、伝わってきた」（70.7%）がやや高くなっている。

Ⅲ. 調査結果のまとめ

(1) 防災についての意識

＜居住地の災害リスクを何らかの手段で把握している人＞は、「自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している」と「自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している」を合わせて56.7%である。こうした意識は、令和元年度からあまり変わらないが、居住地の災害リスクを把握していない理由については、「自分の住む地域で災害はめったに発生しないと思っているから」が令和元年度よりも8ポイント上昇しており、居住地のリスクを楽観視する傾向が認められる。

防災情報の認知度は、「台風情報」が87.0%にのぼり、「顕著な大雨に関する情報」(56.4%)、「記録的短時間大雨情報」(52.3%)、「全般、地方、府県の気象情報」(52.5%)、「注意報、警報、特別警報」(51.6%)も5割を超える。しかし、これらに比べると「早期注意情報(警報級の可能性)」(23.6%)や「竜巻注意情報」(31.8%)の認知度は低い。

(2) 気象庁から発表される防災情報の入手手段

大雨警報や台風情報など気象庁から発表される防災情報の入手手段は、「テレビ(一般放送)」(86.9%)、「スマートフォンのアプリ(気象情報等を受信・表示したりする専用アプリ)」(42.3%)、「気象庁ホームページ」(34.4%)、「自治体からの電子メール(自治体(都道府県・市区町村)が提供する登録制の防災メールサービス)」(34.4%)、「市区町村の防災行政無線」(33.1%)が主要な手段となっている。こうした情報入手手段を平成29年度調査と比較すると、「ツイッター、フェイスブック、LINEなどのソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)」(9ポイント上昇)、「市区町村の防災行政無線」(22ポイント上昇)の2媒体の存在が大きくなっている。

一方、大雨警報や台風情報など気象庁から発表される防災情報の入手手段について、今後、さらなる充実を最も期待している手段については、「テレビ(一般放送)」(38.4%)が最も高く、次いで「市区町村の防災行政無線」(13.8%)の順となっているが、平成29年度調査と比較すると、ここでも「ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)」(6ポイント上昇)、「市区町村の防災行政無線」(11ポイント上昇)の2媒体で上昇している。

なお、大雨警報や台風情報など気象庁から発表される防災情報について、気象庁ホームページ以外で入手するホームページは「気象会社など、気象情報専門のホームページ」(58.0%)、「その他のホームページ(ニュースサイトやポータルサイトの天気コンテンツ)」(60.9%)が特に高い。大雨警報や台風情報など気象庁から発表される防災情報を入手した場合、家族や親せき、知人などに伝達する方法は、「音声電話」が49.4%で最も高く、これに「ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)」(42.0%)が続いている。

気象庁では、自治体、報道機関、民間気象事業者等の協力を得て、様々な手段で防災情報を国民に伝えているところであり、これら多様な手段が防災情報の入手に活用されていることが再認識される結果となった。また、スマートフォンアプリやソーシャル・ネットワーキング・サービスといった新しいメディアが一定の存在感を示す一方で、従来からのテレビや自治体の防災行政無線への期待が大きいことが確認された。

引き続き気象庁では、自らによる防災情報の適切な提供に努めるとともに、様々なニーズに応えられる

Ⅲ. 調査結果のまとめ

よう、自治体、報道機関、民間気象事業者等による防災情報の伝達についても連携を進める。

(3) 気象庁ホームページ

リニューアル後のコンテンツ使用頻度は、「ほとんど使っていないが、大雨や台風などの影響を受けそうなどきなどは使う」が 57.0%を占め、「リニューアル後のコンテンツのページを知らない又は使うことがない」(15.3%)が続く。

しかし、リニューアル後のコンテンツは好評で、「とても使いやすい」(13.9%)と「やや使いやすい」(65.2%)の合計で 79.1%にのぼっている。特に、ほぼ毎日、3日に1回程度の使用頻度の高い層では「とても使いやすい」がそれぞれ 41.5%、36.1%と評価されている。

気象庁から発表される防災情報を確認するにあたっての使い勝手に関する肯定的評価(「そう思う」)では、<様々な防災情報を1つにまとめて表示できるページがあり、使い勝手がよい>が 70.3%で最も高く、次いで<GPS機能により、自分の所在地の情報の入手がしやすい>(69.8%)、<スマートフォン表示に対応しておりスマートフォンでも見やすい>(66.4%)となっている。

一方で、<高齢者への配慮(文字・画像の大きさやメニューが分かりやすいなど)がされている>の肯定的評価(「そう思う」)は 34.3%で、否定的評価(「そうは思わない」) 29.7%と拮抗していた。年代別では、20代の肯定的評価(50.7%)が高いものの、30代~50代では否定的評価が肯定的評価を上回っている。なお、気象庁から発表される防災情報を確認する際の気象庁ホームページのアクセスルートは、「検索エンジンによる検索結果から」が 62.4%と特に高く、次いで「登録したブックマーク(お気に入り)から」(34.1%)となっている。

コンテンツ使用頻度の回答結果で「ほとんど使っていないが、大雨や台風などの影響を受けそうなどきなどは使う」が 57.0%を占めていることについては、大雨台風の際にアクセス数が飛躍的に跳ね上がる現状と一致している。アクセス集中に耐えうるように、サーバ資源の増強や適切なサーバ設計に関する調査、コンテンツ自体の軽量化、軽量版の開発等の対策を進めている。

コンテンツの使いやすさが高評価であったことについては、今回のリニューアルで、特定の地点を設定すると関連する情報が一覧で見られる「あなたの街の防災情報」の新設や、スマートフォンで利用することを第一に考えたデザインなど、一覧性や利便性の向上を図っており、これらの改善がユーザーに評価されたものと思われる。

一方で、文字・画像の大きさやメニューの分かりやすさなどの配慮については、30代~50代で否定的評価が肯定的評価を上回っていたことが分かった。気象庁ホームページは、高齢者等にも配慮した配色指針に沿って作成しており、文字サイズの変更も可能であるものの、現役世代に対する使いやすさの向上を追求する必要があると思われる。

現在進めている、大量アクセスに耐えうるサーバ資源の増強、コンテンツ自体の軽量化等の取り組みを引き続き進めていく。また、高齢者だけでなく現役世代等にとっての使いやすさも改善の余地があると考えられることから、ユーザーの使いやすさの改善・向上も行っていく。

(4) 台風情報

自分のいる地域または関係する地域に接近する可能性がある台風情報を見聞きした際の行動は、「テレビ、ラジオ等から最新、詳細な気象情報(雨の状況や警報の発表状況など)を確認した」(74.8%)、「インターネットから最新、詳細な気象情報(雨の状況や警報の発表状況など)を確認した」(54.8%)、「外出を控えた」(46.5%)が上位を占める。経年で比較すると、令和元年度が令和元年台風第19号により日本の広い範囲で大きな被害を被った年であることに留意する必要があるが、令和元年度調査に比べると「イン

ターネットから最新、詳細な気象情報を確認した」「市区町村による避難情報を確認した」「家族や知り合いに情報を伝えた」「レジャーや旅行の計画の変更又は継続について検討を行った」などが大きく低下している。

台風情報に最も期待することは、「台風の進路や強度の予測精度向上」（49.6%）、「自分のいる地域での危険な状況（程度）がわかりやすい情報」（27.8%）がトップ2で、令和元年度調査でも同様だったが、「台風の進路や強度の予測精度向上」が18ポイント、「自分のいる地域での危険な状況（程度）がわかりやすい情報」は12ポイント上昇しており、予測精度の向上とわかりやすい情報のニーズが高まっている。

なお、台風情報について、より早い段階（台風発生前2～5日程度前）で分かった場合の活用要望としては、「避難の準備や台風に対する備えを行う」（56.8%）が最も高く、これに「レジャーや旅行の計画の変更又は継続を決める」（21.6%）が続いている。

情報を確認するメディアとしてテレビやインターネットが多いことは想定どおりで、昨年からは気象庁ホームページの台風経路図の表示を改善する取組をしている。また、台風情報への期待として予報精度向上が最も大きいことも想定どおりで、進路予報の誤差を業績指標として継続的に検証しているところである。

台風の進路予報や強度予報について引き続き技術開発を進めて精度向上を目指すとともに、今後の台風情報の改善の際には、わかりやすい情報への要望なども踏まえて検討していく。

（5）大雨特別警報・キキクル・警戒レベル

大雨特別警報の認知は、「どのようなものであるか知っている」が29.1%、「名前は聞いたことがあるが、詳しくは知らない」が35.5%、「知らない」が35.4%。

キキクル（危険度分布）の認知は、「どのようなものであるか知っている」が15.5%、「名前は聞いたことがあるが、詳しくは知らない」が26.4%、「知らない」が58.2%である。

大雨に関する避難情報等の「警戒レベル」の認知は、「どのようなものであるか知っている」が34.4%、「名前は聞いたことがあるが、詳しくは知らない」が43.9%、「知らない」が21.8%。

大雨特別警報・キキクル・警戒レベルの認知を居住地の災害リスク把握別にみると、自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している層では「どのようなものであるか知っている」が大雨特別警報で42.2%、キキクル（危険度分布）で25.5%、警戒レベルで52.8%と高くなっている。

大雨特別警報やキキクル（危険度分布）位置づけの認知度（「知っている」）をみると、＜「大雨特別警報」は、災害が発生又は切迫していることを示す「警戒レベル5相当」に位置付けられている＞が78.8%と高い。これに比べると、＜キキクル（危険度分布）の「うす紫」は、危険な場所からの避難が必要とされる「警戒レベル4相当」に位置付けられている＞＜キキクル（危険度分布）の「赤」は、高齢者等は危険な場所からの避難が必要とされる「警戒レベル3相当」に位置付けられている＞の認知はやや低く、52.0%、51.0%となっている。

自分のいる地域または関係する地域を対象とした大雨特別警報を見聞きした時の行動としては、「テレビ、ラジオ等から最新、詳細な気象情報（雨の状況や警報の発表状況など）を確認した」が59.4%で最も高く、次いで「インターネットから最新、詳細な気象情報（雨の状況や警報の発表状況など）を確認した」（49.2%）、「買い物等の外出を控えた」（36.5%）となっている。

令和元年から運用を開始した住民の行動と情報とを対応付ける「警戒レベル」や、そのうち最も高いレベル5に相当する「大雨特別警報」について、特に出水期前を中心に周知の取組を推進しており、比較的多くの住民に理解されている。一方、警戒レベル5は災害がすでに発生又は切迫している状況となるため警戒レベル4までに避難行動をとることが極めて重要である。その避難開始の判断の参考となる危険度分布について、広く認知していただけるよう令和3年3月から「キキクル」という愛称を用い始めたにもかかわらず、レベルごとの色の意味も含め、まだ理解度が高いとはいえない。

ハザードマップを確認しているような、普段から防災意識が高く、災害リスクについて理解している人

Ⅲ. 調査結果のまとめ

の理解度が高くなったのは想定どおりである。また、キキクルで危険度が高まっているときより、大雨特別警報を見聞きしたときの方が、情報収集を強化したり、知り合いに情報を伝えたり、外出を控える等の行動がとられていることは想定どおりである。一方、大雨特別警報が発表され警戒レベル5に相当する状況下で、ハザードマップを確認する等、そのときまでにすでにとられていることが期待される行動をとっている住民もいた。

防災情報の利活用方法や、想定される災害リスク、とるべき避難行動について平時から情報発信することに加え、台風接近時等の社会の関心が高まるタイミングで集中的に情報発信するなど、効果的・効率的な普及啓発の取組を推進していく。

キキクルの理解が十分に進んでいない状況を踏まえ、SNS等あらゆる手段を活用するとともに、防災活動に関係する都道府県や市町村、報道機関等とより一層連携して、普及啓発の取組を推進していく。

(6) 線状降水帯

〈線状降水帯〉の認知は、「聞いたことがあり、どのような現象か知っている」が51.2%、「聞いたことはあるが、どのような現象か知らない」が31.8%、「聞いたことがない」が17.0%である。地域別では、中国地方、九州北部地方、九州南部・奄美地方で「聞いたことがあり、どのような現象か知っている」(62.8%、65.0%、62.5%)が高くなっている。自分のいる地域または関係する地域で「線状降水帯が発生しています」という言葉を聞いたときの意識としては、「危機感が高まった」が48.4%、「やや危機感が高まった」24.5%で、両者を合わせた72.9%が“危機意識”を抱いたことになる。

線状降水帯という現象の理解度については、「堅調な大雨に関する情報」が多く発表された地域で高く、それらの地域で「線状降水帯が発生しています」という言葉を聞いたときに伝わる危機感が高かったことは想定どおりである。

「顕著な大雨に関する情報」の位置づけがより一層理解されるよう、引き続き認知度・理解度を高める取組を継続する。また、線状降水帯の予測精度向上を推進し、具体的な情報発信のあり方や避難計画等への活用方法について情報の精度や有識者等の意見を踏まえつつ情報の改善を検討していく。

(7) 近年提供を開始した気象情報

気象庁が近年提供を開始した気象情報の認知度は、「熱中症警戒アラート」が67.2%で最も高く、次いで「アメダス(地域気象観測所)の湿度データ」(54.8%)となっている。一方で、「解析積雪深」(26.8%)、「解析降雪量」(27.5%)は相対的に低くなっている。

居住地のリスク把握別にみると、自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している層は、「アメダス(地域気象観測所)の湿度データ」(65.0%)、「熱中症警戒アラート」(77.7%)が高い。

各情報の認知度については、概ね想定どおりだったと考える。「解析積雪深」、「解析降雪量」についての認知度は相対的に低い。これらの情報は道路管理者などを意識して周知してきたことから、一般向けの認知度を向上する余地があると考えている。

暖候期における「熱中症警戒アラート」の認知度向上について、引き続き関係省庁等と連携して取り組んでいく。寒候期における積雪深や降雪量の情報については、令和3年11月より開始した「降雪短時間予報」を含め、道路管理者だけでなく、一般の車での移動や除雪の判断に活用していただくよう訴求しており、政府での広報施策や報道機関での紹介を通じて、認知度向上を図っていく。

(8) 気候変動

文部科学省と気象庁が共同で公表した刊行物「日本の気候変動 2020」については、「聞いたことがあり、既に読んだことがある」が 6.2%、「聞いたことはあるが、どのような資料か知らない」が 33.7%、「聞いたことがない」が 60.2%となっている。

気候変動については、「強い危機感を感じている」が 23.7%、「不安だ」が 50.2%、「様々な意見があり信頼できない」が 16.8%、「興味が無い」が 9.0%となっている。「様々な意見があり信頼できない」及び「興味が無い」を合計した年代別割合は、20代 39.1%、30代 36.1%、40代 28.0%、50代 21.7%、60代以上 17.1%と、年齢が若いほど「様々な意見があり信頼できない」と「興味が無い」の割合が大きいが、また「様々な意見があり信頼できない」及び「興味が無い」とした男性の割合は 31.1%、女性の割合は 20.5%と、女性の約 1.5 倍の割合の男性が「様々な意見があり信頼できない」「興味が無い」としている。居住地の災害リスク把握別にみると、自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している層は「強い危機感を感じている」(35.1%)、自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している層は「不安だ」(60.5%)が高い。

気候変動を感じる事象としては、「大雨、豪雨、激しく降る雨」(77.2%)、「猛暑、熱帯夜、夏の暑さ」(71.5%)が 2 大事象となっており、気候変動に強い危機感を感じている層はこの 2 大事象に対する反応が特に高い傾向となっている(「大雨、豪雨、激しく降る雨」91.4%、「猛暑、熱帯夜、夏の暑さ」87.3%)。

将来考えられる気候変動の影響等の予測で最も知りたいこととしては、「大雨、洪水の変化」(22.2%)、「平均気温の変化」(22.1%)が上位で、将来考えられる気候変動の影響等の予測でもっとも知りたいことでは、「2030 年頃に予測される変化(現在から約 10 年後)」が 81.6%を占めている。なお、「2050 年頃に予測される変化(現在から 30 年後)」、「2100 年頃に予測される変化(現在から 80 年後)」の合計は、20代は 36.3%である一方、60代以上では 9.0%であり、若い年代ほど遠い将来の予測される変化について知りたい割合が多い。

また、気候変動に関する情報の期待としては、「これから気候変動がどう進むのか、地域毎により詳細な情報」が 48.8%で最も高く、これに「災害が発生するような大雨等の極端な気象現象が発生した場合に、その現象における気候変動の影響(強度及び頻度)と、将来さらに気候が変化した場合の同種の気象現象の変化(強度及び頻度)」(40.6%)が続いている。

「日本の気候変動 2020」を聞いたことがある層が 3 割という点については、報道機関や公的機関に同資料が引用されているケースが少なくないことがうかがわれる。

気候変動については、「強い危機感を感じている」「不安だ」を合わせて 7 割以上と想定した通りの結果であった。若い世代ほど「様々な意見があり信頼できない」「興味が無い」と回答する割合が高いが、若い世代は、気候の変化を経験として得づら一方で、気候変動の影響を最も受けることになることから、若い世代に課題の理解を促す情報の提供を検討していく必要がある。

現在、気象庁では 2100 年頃を対象とした気候変動予測を実施している一方、「2030 年頃に予測される変化(現在から約 10 年後)」をもっとも知りたいと回答した層が 8 割以上を占めており、想定していたよりも多かった。10 年先を対象とした地域ごとの詳細な情報、大雨等の極端な現象の変化の情報が求められていることを踏まえて対応する必要がある。

引き続き、様々な分野で、「日本の気候変動 2020」の利用が図られるよう、地域の詳細な情報も纏めている都道府県版のリーフレット等も活用しながら、「日本の気候変動 2020」の周知に努めていく。

また、もっとも気候変動を感じる事象として、「大雨、豪雨、激しく降る雨」が挙げられている。このため、今後は、大雨等を中心に将来の気候予測情報を、気象台が行う防災の啓発活動に織り込み、防災と気候変動を一体として理解を深めるよう検討していく。

若い世代に気候変動の課題の理解を促す情報の提供については、関係省庁や機関と連携し、検討していきたい。若い世代も半数以上が、60代以上に至っては 9 割以上が 10 年程度先を対象とした予測の要望が

Ⅲ. 調査結果のまとめ

大きい。10年規模の予測可能性についても検討していく。

(9) 地震津波、火山噴火に関する防災情報

地震津波、火山噴火による災害から身を守るために、気象庁から発表される防災情報の認知度（「知っている」）は、＜緊急地震速報＞＜地震情報＞（各87.4%）、＜大津波警報、津波警報、津波注意報、津波予報、津波情報＞（88.2%）がいずれも9割近くと高い。これらに比べると、「長周期地震動に関する観測情報」（28.4%）、「降灰予報」（25.6%）の認知度は3割未満と低いといえる。

気象庁から発表される防災情報のうち、＜緊急地震速報＞と＜南海トラフ地震に関連する情報＞の認知度を令和元年度調査と比較すると、＜緊急地震速報＞の認知度はおおよそ9割を占めほぼ変化がない。＜南海トラフ地震に関連する情報＞の認知度（39.0%）は令和元年度から10ポイント上昇している。

また、気象庁から発表される防災情報を居住地の災害リスク把握別にみると、自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している層の認知度が一般的に高く、＜緊急地震速報＞（93.6%）、＜地震情報＞（94.6%）、＜大津波警報、津波警報、津波注意報、津波予報、津波情報＞（95.5%）が9割を超えるほか、「長周期地震動に関する観測情報」（36.9%）、主に対象が火山周辺となる「降灰予報」（32.8%）の認知度も3割台に達している。

地震津波、火山噴火に関する防災情報発表時の行動についてみると、ここで示す情報は発表対象とする地域に限られるものの、＜南海トラフ地震臨時情報＞が発表された際に「どのような行動をとるとよいのか知っている」は48.7%、＜噴火速報＞が発表された際に「どのような行動をとるとよいのか知っている」は38.7%となっている。

現在、気象庁では地震津波による災害から身を守るために、気象庁から発表される防災情報の普及啓発の取組を様々な手段で行っている。例えば、新しい気象庁ホームページの特設ページや11月の「津波防災の日」に合わせた講演会や気象科学館での特設展示、他機関とコラボして講演会等を行っているところである。今回の結果は概ね想定している通りであったが、「長周期地震動に関する観測情報」の認知度については、各種普及啓発の機会において引き続き向上に向けて取組を進めて行く必要がある。

火山活動に関連する防災情報の普及啓発については、各火山周辺の火山防災協議会を構成する関係機関とも協力しつつ進めているところである。発表対象となる現象、地域（影響範囲）が主に火山周辺となることから、情報への関心の持たれ方については想定されることも踏まえつつ、引き続き普及啓発に取り組む。

現在、地震津波に関して行っている各種普及啓発の取組は、今後も引き続き進めていく。2023年が関東大震災から100年、2024年が昭和東南海地震から80年ということもあり、これら周年行事とも合わせた形で普及啓発の取り組みを進めていく。現在、全国的に「津波フラッグ」の海水浴場への導入や一般への認知度を高める努力をしているところであり、首長訪問・市町村訪問等における働きかけ、聴覚障害者向けの普及啓発においては、ろうあ連盟と連携した取り組みも進めて行く。

火山に関する各種の普及啓発も引き続き進めていく。気象庁ホームページにおける「噴火速報」等の説明についても、より分かりやすくなるよう修正を行っていく。

(10) 緊急地震速報

緊急地震速報を見聞きした時の行動については、「とるべき行動をあらかじめ決めている」が23.0%、「ある程度は意識しているが、具体的な行動は決めていない」が66.1%、「とるべき行動は何も決めていない」が10.9%となっている。こうした行動意識は、令和元年度調査からほとんど変わっていない。なお、「とるべき行動をあらかじめ決めている」は、自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認し

て把握している層で35.6%と高くなっている。

自分のいる地域を対象とした緊急地震速報を見聞きした後の行動については、「揺れに備えて身構えた」が58.4%で最も高く、以下、「テレビやラジオ、携帯電話などで最新、詳細な地震情報を知ろうとした」(45.2%)、「火を消した」(30.5%)、「頭を守る、机の下に身を隠すなどその場で身を守った」(27.8%)となっている。

緊急地震速報の評価については、「役立った」が36.4%、「やや役立った」が49.1%となり、両者を合わせた緊急地震速報の役立ち度は85.5%であるが、令和元年度調査と比較すると、「役立った」が12ポイント低下、「やや役立った」が7ポイント上昇している。全体としての役立ち度は令和元年度89.6%に対して85.5%と、いずれも8割台後半となっている。

緊急地震速報に関する事柄の認知度（「知っている」）は、＜緊急地震速報は、地震が発生した直後、地震による強い揺れが伝わる前に気象庁から発表される予測情報である。地震の揺れが伝わった後に各地の詳しい震度等を伝える「地震情報」とは異なる＞が79.2%で最も高く、次いで、＜地震が発生した場所に近いところでは、緊急地震速報の発表が強い揺れに間に合わないことがある＞(72.3%)、＜緊急地震速報を見聞きしてから、強い揺れが来るまでの時間は長くても十数秒～数十秒である＞(65.9%)となっている。

現在、気象庁では毎年6月と11月に緊急地震速報の全国訓練を行っており、特に11月の訓練は「津波防災の日」に合わせて広く国民を対象に訓練を行っているところである。緊急地震速報という言葉の認知度は高いが、取るべき行動をあらかじめ決めていた方の割合は高くないことが改めて確認された。

現在行っている緊急地震速報全国訓練の取組は今後も引き続き進めていく。今年度末にリニューアル予定の政府インターネットテレビ動画「緊急地震速報」の中に、緊急地震速報を見聞きした際の行動を場面別に盛り込み、通常の3分程度の動画のほかにSNS用のショート動画を作成して、緊急地震速報を見聞きしたときの取るべき行動について普及啓発を行っていく。

自由回答一覧

Q2. あなたが自分の住む地域の災害リスクを具体的に把握していない理由は何ですか。

あてはまるものを全て選んでください。(いくつでも) /7.その他 具体的に理由を記入してください

崖や川もないし土地は丘台(女性・60代以上・関東甲信地方)
リスクだらけで何を重視すべきか分からないから(男性・50代・近畿地方)
安全地帯に住んでいる(男性・50代・近畿地方)
ハザードマップでは災害リスクは確認されない(男性・60代以上・東海地方)
ハザードマップは見たがすぐ忘れてしまう(男性・40代・近畿地方)
引っ越ししてきた土地でまだよく知らない(女性・20代・関東甲信地方)
近くに川があるがそこから20m以上高台に住宅があるから(男性・60代以上・関東甲信地方)
転居して日が浅く 災害情報の熟知までに至っていない(男性・60代以上・関東甲信地方)
ある程度把握してるから(男性・40代・九州北部地方)

Q4.あなたが、大雨警報や台風情報など気象庁から発表される防災情報を入手する手段は何ですか。

あてはまるものを全て選んでください。(いくつでも) /12. その他 入手する手段を具体的に記入してください

ヤフー天気(女性・60代以上・四国地方)
市の防災ラジオ(女性・50代・東海地方)
ウィンディー(男性・60代以上・東海地方)
テレビ(男性・60代以上・関東甲信地方)
車で回って来る(女性・60代以上・中国地方)
ヤフー防災(男性・40代・四国地方)
PC(男性・60代以上・九州北部地方)
スマートフォンで(男性・60代以上・九州南部・奄美地方)
市役所情報(男性・60代以上・北陸地方)
地元CATV(男性・60代以上・北海道地方)
LINE(女性・60代以上・関東甲信地方)
家族から教えてもらう(男性・40代・関東甲信地方)
Twitter(女性・50代・関東甲信地方)
地域の町内放送(女性・40代・中国地方)
消防団の広報活動(男性・60代以上・近畿地方)
地域の放送(女性・20代・関東甲信地方)
グーグルホーム(男性・20代・関東甲信地方)
上越市(女性・60代以上・北陸地方)
ニュースアプリ(男性・40代・九州北部地方)
携帯での検索(女性・60代以上・関東甲信地方)
ライン(男性・20代・九州北部地方)
ネット情報(女性・50代・東海地方)
市の防災情報メール(男性・60代以上・東海地方)

Q6.あなたが、大雨警報や台風情報など気象庁から発表される防災情報を入手した場合、家族や親せき、知人などにどのような手段で知らせますか。あてはまるものを全て選んでください。(いくつでも)

／5.その他 知らせる手段を具体的に記入してください

夫と会話する。(女性・60代以上・関東甲信地方)
玄関に白いタオルを巻く(男性・40代・近畿地方)
携帯電話(女性・40代・関東甲信地方)
知人にはMAILか電話で知らせるが家族には知らせない(女性・60代以上・九州北部地方)
LINE(女性・40代・関東甲信地方)
アプリ(女性・20代・九州北部地方)

Q7.あなたが、大雨警報や台風情報など気象庁から発表される防災情報の入手手段について、今後、さらなる充実を期待している手段は何ですか。最も期待するもの、2番目に期待するもの、3番目に期待するものまで選んでください。／1.最も期待するもの／12.その他

市役所情報(男性・60代以上・北陸地方)
広報マイク(男性・40代・九州北部地方)
携帯のアラート(女性・30代・関東甲信地方)
自治体からの防災メル(男性・60代以上・東海地方)

Q7.あなたが、大雨警報や台風情報など気象庁から発表される防災情報の入手手段について、今後、さらなる充実を期待している手段は何ですか。最も期待するもの、2番目に期待するもの、3番目に期待するものまで選んでください。／2.2番目に期待するもの／12.その他

防災無線(男性・60代以上・東海地方)
防災無線(女性・60代以上・関東甲信地方)
地域の放送アナウンス、町内放送(女性・40代・中国地方)
有線(女性・60代以上・北陸地方)
町内放送(女性・50代・中国地方)
防災行政無線(女性・60代以上・東海地方)
車走行での案内(女性・60代以上・沖縄地方)
各自治体の範囲内で(女性・40代・近畿地方)
防災無線(男性・60代以上・関東甲信地方)
形態のアプリ(男性・60代以上・東海地方)
役場の防災カー(女性・60代以上・九州北部地方)

Q7.あなたが、大雨警報や台風情報など気象庁から発表される防災情報の入手手段について、今後、さらなる充実を期待している手段は何ですか。最も期待するもの、2番目に期待するもの、3番目に期待するものまで選んでください。／3.3番目に期待するもの／12.その他

町内会の(女性・60代以上・中国地方)
無線(男性・60代以上・東海地方)
スマートフォンで(男性・60代以上・九州南部・奄美地方)
友人からのMAIL(女性・60代以上・九州北部地方)
有線(女性・60代以上・北陸地方)
防災行政無線(女性・60代以上・東海地方)
町内会無線(男性・60代以上・関東甲信地方)

IV. 巻末資料

自治体からの防災メール(男性・60代以上・東海地方)
防災無線(女性・60代以上・九州北部地方)

Q10.あなたが、大雨警報や台風情報など気象庁から発表される防災情報を確認する場合、気象庁ホームページへは、どのルートからアクセスしますか。あてはまるものを全て選んでください。(いくつでも)
 /5. 気象庁以外のホームページから 具体的なページ名 (URL でも可) を記入してください

yahoo ニュース(女性・60代以上・近畿地方)
yahoo(男性・60代以上・関東甲信地方)
jma.go.jp とアドレス入力する(男性・30代・東海地方)
ヤフー(女性・60代以上・九州南部・奄美地方)
NHK 防災(女性・60代以上・九州北部地方)

Q11.あなたは、自分のいる地域または関係する地域に接近する可能性がある台風について台風情報を見聞きした際に、どのような行動をとりましたか。過去1年間に見聞きした場合の行動について、あてはまるものを全て選んでください。(いくつでも) /11.その他 とった行動を具体的に記入してください

雨戸を閉めた(男性・40代・東海地方)
通勤の際に雨具やモバイルバッテリー、懐中電灯を携帯した(男性・30代・東海地方)
カーテンも二重にして過ごした。(女性・60代以上・関東甲信地方)
家の周りの点検と対策法(男性・60代以上・関東甲信地方)
家の周りの整理(男性・60代以上・東海地方)
窓に板を貼り付けた(男性・60代以上・九州南部・奄美地方)
ベランダの掃除や洗濯物を室内に入れた(女性・40代・関東甲信地方)
風で飛びそうなものを片付けた(女性・60代以上・北陸地方)
仕事を休む(男性・40代・近畿地方)
家の周りの風で飛ばされそうな物のかたづけ(女性・60代以上・北陸地方)
非常食、飲料水、電源を確保した(男性・50代・東海地方)
知人の別荘に避難した(女性・60代以上・九州北部地方)
早いうちに買い物(女性・60代以上・関東甲信地方)
風に飛ばされないように、片付けられるものはしまったり、固定したりした。(女性・30代・関東甲信地方)
食事や防災グッズの在庫確認(女性・30代・近畿地方)
家の外の片付け(男性・40代・関東甲信地方)
水を貯めた(女性・40代・関東甲信地方)
屋外の片付け(女性・60代以上・関東甲信地方)
雨戸を閉める、家の周囲を片付ける(女性・60代以上・東海地方)
食料品の買い出し(女性・40代・近畿地方)
大風対策を判断(男性・60代以上・沖縄地方)
ベランダのものをしまう(女性・60代以上・近畿地方)
雨戸を閉めた(男性・20代・関東甲信地方)
買い出し(女性・20代・九州北部地方)

Q12. あなたが、台風情報に期待することは何ですか。最も期待すること、2番目に期待すること、3番目に期待することまで選んでください。／1. 最も期待するもの／10. その他 期待することを具体的に記入してください

何時に一番雨風が酷くなるか30単位くらいでの予報(女性・40代・関東甲信地方)
具体的に影響を受ける時間帯がわかれば知りたい(男性・60代以上・沖縄地方)

Q12. あなたが、台風情報に期待することは何ですか。最も期待すること、2番目に期待すること、3番目に期待することまで選んでください。／2. 2番目に期待するもの／10. その他 期待することを具体的に記入してください

雨量(女性・30代・北陸地方)

Q12. あなたが、台風情報に期待することは何ですか。最も期待すること、2番目に期待すること、3番目に期待することまで選んでください。／3. 3番目に期待するもの／10. その他 期待することを具体的に記入してください

交通機関の運航予定(男性・50代・東海地方)
河川への雨量予想(女性・60代以上・九州北部地方)

Q13. 台風の中には、台風になってから（発生後）、3日くらいで日本に接近してくるものがあります。現在、台風情報は台風発生の1日前から発表していますが、あなたは、そのような台風の台風情報について、より早い段階（台風発生の2～5日程度前）で分かった場合、何に活用したいですか。あてはまるものを1つ選んでください。／4. その他 活用したいことを具体的に記入してください

洗濯、買い物、通院など日常生活のスケジュールを考える(女性・50代・関東甲信地方)
買い出しなどの検討を行う(女性・40代・関東甲信地方)
車での移動(女性・60代以上・東北地方)
食料や水その他の備蓄(女性・60代以上・九州北部地方)
家への被害防御(男性・60代以上・関東甲信地方)
自宅の台風災害への対策や、災害を想定した備えの確認(男性・50代・関東甲信地方)

Q15. あなたは、自分のいる地域または関係する地域を対象とした大雨特別警報を見聞きした時に、どんな行動をとりましたか。あてはまるものを全て選んでください。(いくつでも)／13. その他 とった行動を具体的に記入してください

食料などの買い出し(女性・50代・関東甲信地方)
停電の備えを確認した(男性・30代・東海地方)
畑の対応をした(男性・60代以上・関東甲信地方)
ライブカメラ(男性・60代以上・関東甲信地方)
仕事に行く(男性・20代・東北地方)
知人の別荘に避難した(女性・60代以上・九州北部地方)
配備した(男性・30代・九州北部地方)
水を貯めた、備蓄品の確認(女性・40代・関東甲信地方)
買い出し(女性・20代・九州北部地方)
家が高台にあるので家から出ない(男性・40代・関東甲信地方)

IV. 巻末資料

Q16. あなたは、自分のいる地域または関係する地域を対象としたキキクル（危険度分布）で危険度が高まっていることを見聞きした時に、どんな行動をとりましたか。あてはまるものを全て選んでください。（いくつでも）／12.その他 とった行動を具体的に記入してください

風による被害を最小限にする為の行動を取った(男性・60代以上・九州北部地方)
今迄 経験がないです。(女性・60代以上・関東甲信地方)
仕事に行く(男性・20代・東北地方)
知人の別荘に避難した(女性・60代以上・九州北部地方)
自宅の窓やガラス部分の施錠の確認(男性・50代・関東甲信地方)

Q23. あなたは、気候変動についてどのように感じていますか。あてはまるものを1つ選んでください。／5. その他

どうしようもない。(男性・40代・東海地方)
気にはなるが、抗えないので特にやる事は無いと思っている(女性・40代・関東甲信地方)
備えと準備をすること(女性・50代・九州南部・奄美地方)
少し不安(女性・40代・九州北部地方)
先の話しでしかない(男性・30代・東海地方)
過去6600万年の中では誤差範囲のため、心配ない。(男性・40代・東海地方)
将来的に住みづらい気候になるのではないかと感じている(男性・20代・関東甲信地方)

Q24. あなたは、どのような事柄で気候変動の影響を感じるがありますか。あてはまるものを3つ以内で選んでください。（3つまで）／その他

残暑の長さ(男性・40代・東海地方)
海の中の生育や捕獲量の変化を聞いたとき(女性・50代・関東甲信地方)
農業で野菜の種まき時期の変化(男性・60代以上・東海地方)
森林破壊(女性・60代以上・関東甲信地方)
梅雨の長雨(女性・40代・関東甲信地方)
台風の直撃(女性・50代・沖縄地方)
農作物や魚の採れる場所が変わってきている(女性・60代以上・北陸地方)
季節外の寒い寒波=寒冷化?(男性・30代・東海地方)
秋が短く感じる(女性・20代・関東甲信地方)
春と秋が短くなった(男性・50代・東海地方)
温暖化よりも寒冷化(男性・30代・近畿地方)
海産物の分布変動(男性・50代・近畿地方)
台風(女性・50代・関東甲信地方)
強雷(男性・30代・関東甲信地方)
魚など生態系の変化(女性・60代以上・北海道地方)
竜巻(男性・40代・関東甲信地方)
ロシアなどの永久凍土が溶け未知のウイルスが広がるかもしれないこと(男性・20代・東海地方)

Q25-1. あなたが、将来考えられる気候変動の影響等の予測でもっとも知りたいことは何ですか。また、それはいつ頃を対象とした予測ですか。あてはまるものを1つずつ選んでください。／●知りたいこと／
12.その他

竜巻(男性・40代・東海地方)
生活への影響(男性・60代以上・東北地方)
全て(女性・50代・関東甲信地方)
地軸移動(女性・40代・近畿地方)
『不快指数』の情報(男性・60代以上・関東甲信地方)
竜巻(男性・40代・関東甲信地方)

Q26. 気候変動に関する情報で、期待するものは何ですか。あてはまるものを3つ以内で選んでください。
(3つまで)／7.その他

太陽活動が地球にもたらす影響(男性・40代・東海地方)
魚介類の収穫の変化など(男性・50代・近畿地方)
人類がいつまで生存できるか予測(女性・40代・関東甲信地方)
『不快指数』の情報(男性・60代以上・関東甲信地方)
局所的な気象の極端な変化の予想メッシュをより狭い(精度をもって)範囲で、ITツールで事前に伝達して欲しい(男性・50代・関東甲信地方)
脱炭素(男性・30代・関東甲信地方)

Q30. あなたは、自分のいる地域を対象とした緊急地震速報を見聞きして、どのような行動をとったことがありますか。あてはまるものを全て選んでください。(いくつでも)／10.その他 とったことがある行動を具体的に記入してください

鍋でインスタントラーメンを作っていたので、鍋を安全な場所に移動させた(男性・40代・東海地方)
家具から離れた(男性・60代以上・関東甲信地方)
倒れやすいものが無いか確認する、必要があれば離れる(男性・30代・東海地方)
携帯を持った・・・(女性・60代以上・関東甲信地方)
車に避難(男性・40代・近畿地方)
路地にいたので大きな通りに出た(女性・30代・近畿地方)
スマホ 財布などを手元に(男性・60代以上・関東甲信地方)
避難場所へ移動(男性・60代以上・九州北部地方)
避難口の確保(男性・40代・関東甲信地方)
集合住宅なのでエレベーターの取り残しの確認(男性・20代・関東甲信地方)

IV. 巻末資料

Q34. 気象庁の取組に対してご意見・ご要望がありましたらお聞かせください。(ご自由にお書きください)

主な意見は以下の通りである。

【情報の精度や的確な情報発信について】

- ・より正確な情報共有を期待してます(女性・20代・関東甲信地方)
- ・天気予報が外れることがもっと減ったら嬉しいです。(女性・40代・近畿地方)
- ・予測精度をより向上させる取り組みを進展させて頂きたい。(男性・50代・沖縄地方)
- ・最近の予報があまりあてにならない、昔のほうが割と良かったかと思う、TVや民間の情報に違いがある(男性・60代以上・九州北部地方)
- ・地域別の詳しい情報をリアルタイムで流して欲しい(女性・60代以上・関東甲信地方)

【情報発信の迅速性について】

- ・さらなる迅速な情報提供を期待します。(男性・30代・九州北部地方)
- ・正確性と速度を持って発表してほしい(男性・40代・近畿地方)
- ・災害が増えてきているからできるだけ早く知らせたい。(女性・40代・東海地方)
- ・大雨は早めに予測して知らせたい(女性・50代・沖縄地方)
- ・年々情報がより詳しく、提供する速度が迅速になってきていると感じる(女性・60代以上・北海道地方)

【情報のわかりやすさについて】

- ・わかりやすく端的に伝えてほしい(女性・20代・関東甲信地方)
- ・子どももわかるような図解や簡潔でわかりやすいテロップがつくと助かる。(女性・30代・東北地方)
- ・言葉が難しくて分かりにくい。もっと易しい言葉を使ってほしい。(男性・40代・近畿地方)
- ・もっとお年寄りや子ども、外国人の方などみんなに分かりやすく伝えてほしい(女性・40代・関東甲信地方)
- ・警報 注意報などのパラメータを老若男女問わずわかりやすいものにする工夫をしてほしい(男性・60代以上・関東甲信地方)

【情報発信のあり方について】

- ・危機感を国民に伝え、空振りのな批判があったとして、国民の身を守ることを優先となるような伝達に心がけていることが伝わる。(男性・30代・東北地方)
- ・危機管理の言葉が多くなり過ぎて、分からなくなることがあります。(男性・30代・北陸地方)
- ・会見で緊急避難などを訴える際は真剣みを感じられる話し方で伝えて欲しい。(女性・50代・東海地方)
- ・最近、50年に一度とか表現が少し過激だと思うが、慣れてしまうと、50年も100年もあまり差がないと思ってしまうのが、怖い。(男性・60代以上・中国地方)
- ・命が一番大切だと言う事を強く訴えて欲しい。命を守る為の適切な行動を分かりやすくアナウンスして欲しい。(女性・60代以上・近畿地方)

【気象庁への期待、励まし、感謝等】

- ・さまざまな災害に対していつも迅速に対応していて、とても信頼できる。これからも期待しています。(女性・20代・北陸地方)
- ・多くの命を救えるように、これからもよろしくお願いします!(男性・30代・東海地方)
- ・いつも、大切な情報を発信していただき感謝しています。(女性・40代・関東甲信地方)
- ・気候変動など大変な中、最善に取り組んで下さり感謝しています。身体など、夜遅くまで徹してお仕事もあるので気をつけて下さい。(女性・50代・関東甲信地方)
- ・日々のお勤め、誠にご苦労様です。適格かつ迅速な情報の発信を、よろしくお願いします。(男性・60代以上・関東甲信地方)

【一覧】

頑張っしてほしいです。(女性・60代以上・九州北部地方)
あまり無理をしないで、地道に頑張ってください。応援しています。(男性・40代・東海地方)
昔は気象庁一択でしたが今は気象予報会社があり普段の予報はそちらでもよい感じ。大規模な災害が予想されるときは気象庁という感じ。(男性・60代以上・東北地方)
観測点を増やして欲しい(男性・40代・東海地方)
原発地域の地震の危険性など、外との行政的な整合性がない。気象庁だけの問題とは思えないが。(女性・60代以上・関東甲信地方)
より精度の高い情報をお願いします(男性・50代・東海地方)
数年前よりは早い段階で国民に伝えてくれるようになり日々の活動の有り難さを感じる(女性・50代・近畿地方)
頼りにしています！きめ細かく改善しようとするこのようなアンケートとがあることも心強く、今後にも期待します。(女性・50代・関東甲信地方)
一生懸命やってると思う。(男性・60代以上・東北地方)
予算のこともあると思われるが地震予知を実現してほしい(男性・50代・東北地方)
これからも頑張ってください(男性・60代以上・関東甲信地方)
最近の気象予報は良く当たっております。感謝しております。(男性・60代以上・関東甲信地方)
最近、若干大袈裟に感じる。(男性・40代・東海地方)
緊急地震速報は誤報も多いという印象を持っている。技術の進歩に期待したい。(男性・30代・東海地方)
これからもより精度の高い観測と予測をお願いしますでも緊急地震速報の音は心臓に悪いと思う(女性・50代・近畿地方)
ややこしい言い方をしないで、危険、逃げろ と端的に言う(女性・60代以上・関東甲信地方)
いろいろなじょうほうを私たちに提供していただいております。ありがとうございます。(女性・50代・九州北部地方)
わかりやすさ(女性・50代・関東甲信地方)
いつもありがとうございます。信頼していますので、正確でわかりやすい情報をお願いします。情報を得ても、どう動けばいいかわからないので、具体的な行動を伝えてもらえると、より嬉しいです。(女性・30代・東海地方)
良くやってると思います。(男性・60代以上・東海地方)
頑張っほしい(男性・60代以上・近畿地方)
特にオススメ(男性・50代・東北地方)
より精度の高い予報を期待してます。(男性・60代以上・近畿地方)
予報精度向上をお願いします(男性・60代以上・関東甲信地方)
自然災害はいつ、どこでも起こりうるものですが、特に地震は予測しづらい中でもテクノロジーの進化である程度までは予測できるようになってきていて、気象庁の皆さん方の努力をすごく感じております。これからも、少しでも安全に、そして大災害の際に少しでも命が助かるよう、頑張っただきたいですし、我々も命を守る行動というものを認識する必要性を感じております。(男性・40代・東海地方)
テレビで伝えて頂けるのでありがたいです(女性・60代以上・近畿地方)
より詳しく分かるように研究してほしい(女性・60代以上・近畿地方)
よくやっていると思う(女性・60代以上・関東甲信地方)
いつも、国民のためにありがとうございます(女性・30代・東海地方)
現在以上に気候変動危機感など詳細に伝えていただけようお願いします。(女性・60代以上・東海地方)
精度の向上に期待している。(男性・60代以上・近畿地方)

IV. 巻末資料

年々情報がより詳しく、提供する速度が迅速になってきていると感じる(女性・60代以上・北海道地方)
身を守るのは、個人の責任であることをもっとPRしても良いと思います。過保護に情報を伝えて避難指示をだすよりも国民を突き放して当事者意識を持たせるべきかと思います。(男性・50代・近畿地方)
更に精度の高い情報。(女性・50代・関東甲信地方)
アメダス観測地点を増やすべき。(男性・60代以上・東海地方)
迅速に情報の提供をこれからもよろしくお願いします。(女性・50代・東海地方)
自然とのたたかいだからすごい(女性・60代以上・関東甲信地方)
これまで通りにしっかりと正確な情報を提供してほしいと思います。(男性・50代・北海道地方)
長い(女性・60代以上・東北地方)
Youtubでの情報発信、記者会を取り入れてほしい。TVを設置していない為(女性・40代・関東甲信地方)
NHKが素早くテレビを付けてしまう癖が有り、それだけ信頼しているのかなあ～とも感じます。(女性・60代以上・関東甲信地方)
テレビで発表する担当課長はいつも交代でやっているが、同じ人がやればいい。別に課長クラスでなく無役の若い人で十分。交代に出演したがつっていると笑いのネタにされている。(女性・60代以上・関東甲信地方)
ゴールの無いマラソン。しかし走るのをやめる事は出来ないと思われる。大変そう。(男性・50代・関東甲信地方)
長期の予報が可能なら、推進して欲しい。たとえ地震や噴火など。(男性・60代以上・関東甲信地方)
安全、安心な暮らしのためにがんばってください(男性・50代・中国地方)
扇情的、扇動的なマスコミに同調せず、正確な情報を正しく伝えて欲しい。(男性・50代・九州北部地方)
日本国民に正直に情報開示をし自分の身を守るとともに事故や危険な行動を起こす事も未然に防ぐ取り組みを希望する(女性・60代以上・近畿地方)
これからも正確な情報をお願いします。(女性・60代以上・東北地方)
日々のお勤め、誠にご苦労様です。適格かつ迅速な情報の発信を、よろしくお願いします。(男性・60代以上・関東甲信地方)
いつもありがとうございます。これからも憶せず積極的に行って欲しい(女性・40代・関東甲信地方)
地域を小さい区域に分けて教えてほしい(男性・60代以上・東海地方)
真剣さが伝わらない。慣れていないのだろう。(女性・60代以上・近畿地方)
即時に全ての放送を中止してでも流してほしい。特にNHKにはお願いしたい。(男性・60代以上・東海地方)
1秒、1分でも早い警報をお願いしたい。(男性・60代以上・関東甲信地方)
精度向上と予算の明確化(男性・60代以上・近畿地方)
カーボンニュートラルに取り組んでも、地球温暖化は遅延できても止まらないことを、国民に分かり易く伝えていないことが問題である。(男性・50代・関東甲信地方)
よく頑張っていると思うけどな(男性・30代・中国地方)
予報などいろいろ難しいでしょうし、風当たりが強い時もありますが、お仕事頑張って下さい(男性・30代・近畿地方)
解りやすい平易な説明を求めます(男性・50代・近畿地方)
気象情報の発信をよろしくお願いします。(男性・60代以上・関東甲信地方)
スマホを活用してほしい(男性・50代・北海道地方)
こればかりは気象庁の責任には出来ないので当ても、期待もしていない。期待するのも酷。(男性・60代以上・関東甲信地方)
タイムラグが有るからなんとも言えない。(女性・60代以上・関東甲信地方)

迅速に対応していただきたいです(女性・60代以上・東海地方)
より早く正確に伝えてほしい。(女性・40代・近畿地方)
予報、予測の精度追求。(女性・60代以上・四国地方)
「西日本豪雨に匹敵する」とか、「東日本大震災級の津波」とか、具体的に言っただけだとわかりやすいです。(女性・40代・中国地方)
予測の正確さ(男性・60代以上・関東甲信地方)
土砂災害注意報等の発表はメッシュ予報のためなのでこの場所に注意報や警報が出ることが理解できず避難行動の参考にならないもっとピンポイントでないと自分に危機が迫っているという危機感が感じられない(男性・60代以上・北陸地方)
毎日放送される気温の変化の精度を上げてほしい(女性・50代・東北地方)
頑張ってください(女性・60代以上・近畿地方)
今まで通り専門用語を使わず、誰にでもわかるように伝えて下さい(女性・50代・近畿地方)
より早く正確な情報がわかるように、取り組んで行ってほしいです。(女性・60代以上・九州北部地方)
一般炊きな情報と個別地域の情報と放送局ごとで分担するなどそれぞれの役割分担ができたならもう少し黄陸的になる気がします。(女性・60代以上・関東甲信地方)
もっと素人(一般市民)にわかりやすい表現で話して欲しい。専門家が専門家にしゃべっているんじゃないんだよ。(男性・50代・関東甲信地方)
雨は詳細に出ているが風の情報は雨ほど詳細ではない。詳しい情報が欲しい(男性・50代・近畿地方)
危険がある時は1秒でも早く知らせて貰うと対処がしやすいので期待します(女性・60代以上・九州北部地方)
やくにたつ(男性・60代以上・関東甲信地方)
居住地域の積雪状況を知らせるサービスがあると助かります。(男性・50代・北海道地方)
迅速に対応していると思うが地震だけは予知が出来ないし緊急地震速報がもう少し早かったらと思う。(女性・60代以上・関東甲信地方)
頑張ってください(男性・50代・関東甲信地方)
無駄になることをおそれないでほしい(女性・60代以上・関東甲信地方)
より正確でわかりやすい報道のため、年々改善していると思う。(男性・60代以上・東北地方)
高齢者は非難に対して動作も鈍くなっている事、トイレ等の事で拒否傾向にあることから、今よりもっと早急に非難するように伝える報道をしてほしい。
家族が説得し、移動準備をするまでにも時間が必要なので。(女性・50代・九州北部地方)
正確な情報が知りたいです。(女性・50代・関東甲信地方)
地震等の災害情報を知らせてくれるのは良いと思いますが、国民が混乱しない様に注意喚起して欲しいです。(女性・40代・関東甲信地方)
いつも、大切な情報を発信していただき感謝しています。(女性・40代・関東甲信地方)
日々の私たち安全のために尽力を尽くして頂いてありがたいと思っております。(女性・50代・関東甲信地方)
パソコンで地震リアルタイムを見ていて気付いた事ですが、もう少し情報が早く出て欲しいとつくづく思います。(男性・50代・東北地方)
これからも、正確な情報をお願いします。(女性・40代・東北地方)
私たちのいる地域では海が近いわけでも山間でもないので危機感があまりないので今のところとても満足してます。(女性・60代以上・関東甲信地方)
毎日24時間体制で取り組みを行って頂いていることに、日頃より感謝しています。(男性・60代以上・

IV. 巻末資料

関東甲信地方)
気象庁が災害級の危険が迫った状況での会見で、担当者の話し方に危機感が無く、大丈夫そうという感じがいつもする。もっと口調を強く、時には、机をたたきながら「非難しないと危険です！」くらいしたらいいと思う。話し方が淡々だと、危機感が伝わってこない。(男性・40代・北海道地方)
長周期地震動予測での長周期の定義を見直すべきである(男性・60代以上・関東甲信地方)
迅速な対応をお願いします。(女性・60代以上・関東甲信地方)
地震や台風など情報がより速く、分かりやすくなっていると思う。(女性・60代以上・沖縄地方)
現状でよい(女性・60代以上・近畿地方)
データがあっても、予測不能な時があるのがわかりました。なるべく予報を見て行動していますが、心配し過ぎず的確に行動できるように備えたいと思います。(女性・60代以上・関東甲信地方)
想定外の災害が増えてくると思うので、緊急時は様々なメディアを通じて情報発信をして欲しい(男性・60代以上・関東甲信地方)
いち早く正確に(男性・60代以上・東海地方)
頑張ってください。(男性・50代・関東甲信地方)
いち早く正確な情報を流してほしい(女性・60代以上・東北地方)
スマホ自体の普及率や操作がわからない人の対策を考えてほしい。(男性・60代以上・関東甲信地方)
ホームページが非常に見にくい(男性・40代・関東甲信地方)
大地震(震度4以上)については早急に知らせてほしい台風・大雨についてはこまめに知らせてほしい伝達方法は従来通り、緊急はスマホ、次善はTV。(男性・60代以上・東北地方)
なるべく優しい言葉でわかりやすく、絵や写真を用いて説明があると嬉しいです。(女性・40代・関東甲信地方)
いろんな災害からの被害がなるべく少なく済むように正確な情報を早く伝えてほしい。(女性・60代以上・関東甲信地方)
週間天気予報をより詳細に出してもらえれば良いと思います。特に、体感気温が知りたいです。(女性・40代・関東甲信地方)
的確な予報に感謝しています。(女性・60代以上・関東甲信地方)
よりの確な避難鼓動が出来る様に詳細な情報が適切に発表して頂きたい。(男性・60代以上・関東甲信地方)
情報が正確かどうか疑問に思う(女性・60代以上・北陸地方)
今の所まんぞく(女性・50代・東北地方)
今後も詳細な予報を迅速に伝えてほしい(男性・60代以上・関東甲信地方)
現時点でできる事をしていただいていると思う。(男性・60代以上・近畿地方)
よく頑張って予報など出してくれていると思う(女性・60代以上・九州北部地方)
予測のつかない異常気象の連続で、大変だとは思いますが、今後も正確な情報を伝えて貰いたい。(女性・60代以上・九州北部地方)
天気予報を外しすぎてると思う(女性・40代・関東甲信地方)
道路の細かい積雪状況を知りたい(女性・60代以上・中国地方)
精度がより高い予報、速報を提供下さい(男性・60代以上・東海地方)
台風、地震などの予報精度の向上(男性・60代以上・東海地方)
雨のメッシュ予報と共に雲のメッシュ予報も欲しい(男性・60代以上・近畿地方)
生活に役立っていてとても有難いです。今以上に正確な情報が得られたらもっと便利になると思われま す。(女性・60代以上・九州北部地方)
命を守るための情報の提供(男性・60代以上・東北地方)

頑張ってください。(男性・40代・東海地方)
岡山は災害の発生の少ない県だと思っています、避難警報をみても、よそ事のように思えることが多くあります。そのため深刻になれないことが多くあります(女性・60代以上・中国地方)
地震情報が詳しく知りたい(女性・50代・近畿地方)
頑張ってください(女性・60代以上・近畿地方)
原稿を読むだけで危機感があまり伝わらない。(男性・60代以上・関東甲信地方)
頑張ってください。(男性・60代以上・関東甲信地方)
最近の天気予報は当たらないことが多い(女性・60代以上・北海道地方)
今後も、迅速な情報伝達にご尽力ください。(男性・60代以上・北陸地方)
迅速の取り組んでください(男性・60代以上・関東甲信地方)
気象変化の予知の制度は高くなってきているが、地震の予知に関しての情報は身近に感じられない(男性・60代以上・関東甲信地方)
警報で即座に避難するケースにあったことがないため、もっと確度の向上を期待します。(男性・60代以上・関東甲信地方)
地球温暖化利権への加担は止めるべき(男性・30代・東北地方)
自然相手は大変な仕事だと思います これからも頑張ってください(女性・60代以上・九州北部地方)
とにかく迅速に変化に対する情報が欲しい(男性・50代・近畿地方)
さまざまな災害に対していつも迅速に対応していて、とても信頼できる。これからも期待しています。(女性・20代・北陸地方)
頑張ってください。(女性・60代以上・北陸地方)
命が一番大切だと言う事を強く訴えて欲しい。命を守る為の適切な行動を分かりやすくアナウンスして欲しい。(女性・60代以上・近畿地方)
しっかりやってくれていると思う。(男性・60代以上・関東甲信地方)
日夜努力していることが伝わる。(男性・60代以上・北海道地方)
より生活者の視点にたったわかりやすい情報提供(男性・60代以上・東海地方)
もっとわかりやすく(男性・60代以上・東北地方)
期待しています。(女性・60代以上・北海道地方)
自治体の情報をこまめに聞いておきたい。(女性・60代以上・中国地方)
会見することはいいことである。その後何もならないでよい。(女性・30代・北陸地方)
地域ごとにより正確な天気予報を知りたい。(女性・60代以上・東北地方)
情報の発信を早くしてほしい。(男性・60代以上・九州北部地方)
日々の業務お疲れ様です。今後もわかりやすい情報を迅速に発信してください。(女性・60代以上・九州北部地方)
もっとわかりやすい言葉で伝えてほしい(男性・40代・東北地方)
巨大地震の予測に対する精度を上げて欲しいです。(男性・40代・九州北部地方)
技術が進歩していることはありがたいと思う(女性・60代以上・九州北部地方)
昼夜ご苦労様です。(男性・60代以上・近畿地方)
今後も精度を高めるようお願いします。(男性・50代・東北地方)
予測精度の向上(男性・30代・関東甲信地方)
なるべく、信頼できる情報が知りたいです。(女性・60代以上・中国地方)
ユーチューブチャンネルの開設(男性・50代・東海地方)
早くて正確な情報の提供を行なって欲しい。(男性・60代以上・関東甲信地方)
普段生活している時には意識することはありませんが、緊急時には民間が出すものより情報が詳しいの

IV. 巻末資料

で、ありがたいと思っています。表立って目立つ機関ではないですが、ないならないできっと困ってしまうと思うので、これからまめに見るようにします。(女性・40代・九州北部地方)
情報をいち早く知らせて欲しい。(男性・60代以上・関東甲信地方)
更なる正確性のある情報に期待しています。(女性・60代以上・九州北部地方)
気象庁の情報はたくさんありますが、精度をますます高めてほしいと思います。特に地震の事前予知の精度を高めてほしいと思います。(男性・60代以上・近畿地方)
予測は大変だと思いますが、正確な情報提供を期待しています。(女性・40代・近畿地方)
夜遅くても情報開示にご苦労さまです。TVで見えています。(男性・60代以上・九州北部地方)
ありがたいと感謝しています。(男性・60代以上・九州北部地方)
早い段階での情報発信(女性・60代以上・関東甲信地方)
災害が多くなってきたからか、近年、だいぶわかりやすくなったと思う。(男性・50代・関東甲信地方)
近年の地球温暖化によるものかは分からないが、予報が外れる確率が高い(男性・60代以上・東海地方)
災害時の時にどのようなことをやらない方がいいかを知りたい。(男性・60代以上・関東甲信地方)
なるべく正確に(女性・60代以上・近畿地方)
難しい(女性・40代・北陸地方)
線状降水帯の発生について、予報がすすむとより安心です。(女性・60代以上・東海地方)
会見をもっと円滑に進めてほしい。(女性・60代以上・中国地方)
いつもご苦労様です(女性・40代・東海地方)
会見で緊急避難などを訴える際は真剣みを感じられる話し方で伝えて欲しい。(女性・50代・東海地方)
これからも地域の身近な情報を公開してください(女性・60代以上・関東甲信地方)
気象庁ホームページがリニューアルされて、慣れないためとても使いづらい(女性・60代以上・関東甲信地方)
自治体との連携を密にする、避難所の公表等(男性・60代以上・東北地方)
いつもご苦労様です。これからも頑張ってください。(男性・40代・関東甲信地方)
もっとお年寄りや子ども、外国人の方などみんなに分かりやすく伝えてほしい(女性・40代・関東甲信地方)
ご苦労様です(女性・50代・中国地方)
私たちがいざと言う時意識して行けるように、色々な方法で働きかけてくれているのを感じます。あとは私たち一人一人が危機感を持てるかどうかの問題だと思います。(女性・20代・東北地方)
最近、50年に一度とか表現が少し過激だと思うが、慣れてしまうと、50年も100年もあまり差がないになってしまうのが、怖い。(男性・60代以上・中国地方)
今後も精度向上に向けた取り組みを継続してください。(男性・60代以上・北陸地方)
多少差異はあっても危険は知らせてほしい(男性・60代以上・関東甲信地方)
もっとやさしく、3歳の子供でもわかるように伝えるべきである、緊急性を伝えるためには。学術的なことは終わってから伝えればいい、今は、数分後は、数時間後は、明日は、みんな学者じゃないからね、危険度の表をその時の生活者が見る？緊急性の高い時はそんなものへのつっぱりにもならない、空振りでもいいから、緊急性を伝えて欲しい！(男性・60代以上・九州北部地方)
一般人にわかりやすい情報提供(男性・60代以上・関東甲信地方)
いつもありがとうございます(男性・20代・四国地方)
アクションを起こしてくれると危機感も増すと思うので、これからも何かと報道してほしい。(女性・50代・九州南部・奄美地方)
正確な報道(女性・60代以上・東海地方)
難しいとは思いますが、まだ予測が遅い。今後の予測の速さ、正確性を期待する(男性・50代・九州北部地方)

今後もっと詳しく情報を教えてほしい。(女性・60代以上・近畿地方)
災害が起こるたびに曖昧なことしか言わないので会見を見てもよく分からない(女性・30代・九州北部地方)
いつもありがとう、助かってます(女性・20代・近畿地方)
より精度の高い予報が欲しい。(月日・時間・地域・大きさ強さ等)(男性・60代以上・九州北部地方)
分かりやすさをお願いしたい。(女性・40代・近畿地方)
より精度の高い予報(男性・50代・東海地方)
大人も子どもも分かりやすい言葉で話して欲しい 死ぬよりはましなので 少し大袈裟でも良いので発表して欲しい(女性・40代・沖縄地方)
正確で具体的な情報を迅速に伝えてほしい(男性・60代以上・関東甲信地方)
今後も最悪を想定した情報をお願いします(男性・40代・近畿地方)
巨大地震の可能性をもっと大声で発信すべき(男性・60代以上・関東甲信地方)
最新の情報を教えて(男性・50代・関東甲信地方)
これからも頑張って下さい(男性・60代以上・東北地方)
地震、台風の、予報が、夕方頃に集中しているので、夜半、NHKで、常時予防を、流してほしい。(男性・60代以上・近畿地方)
これから先天気や地震しるどうなっていくのか不安(男性・40代・近畿地方)
人知れず努力されていることと推察します。人のためになる仕事だと思います(男性・40代・関東甲信地方)
災害が少しでも減るようこれからも頑張ってほしい(女性・30代・関東甲信地方)
より迅速にきめ細かい情報をリアルタイムで配信できるように頑張ってほしい。期待しています。(男性・60代以上・近畿地方)
何もなかった場合に色々言われてしまうような気もするし、でもどのように伝えたら危機感を持ってもらえるかなどすごく試行錯誤してくれているように感じます。大変だと思いますがとてもありがたいです。(女性・40代・関東甲信地方)
ありがとうあ(男性・30代・北陸地方)
頑張っている(男性・60代以上・東北地方)
精度向上に期待します(男性・50代・関東甲信地方)
災害が増えてきているからできるだけ早く知らせて欲しい。(女性・40代・東海地方)
予報なので仕方ないとは思いますが、見るサイトなどにより天気予報が違うので何を信じれば良いか分からなくなる。信用出来る予報を求めたい。(女性・30代・東海地方)
緊急地震速報はあまり当てにならないかなあ(女性・60代以上・関東甲信地方)
きしちょうの記者会見は下手過ぎる。もう少し伝える練習や研修を行うべきだ。PDFがみえない。(男性・60代以上・近畿地方)
最近の精度はすごい(男性・50代・関東甲信地方)
いつも早めの情報ありがとうございます??(女性・60代以上・関東甲信地方)
緊急時に素早い対応が取れる情報を流して欲しい(女性・60代以上・関東甲信地方)
緊急地震速報が、これまでよりも精度を増して、少なくとも1分程度前に知らせてくれたら、事前準備も慌てず出来ると思う。うちにはペットもいるので、自分たちの身を守りつつペットを捕まえて一緒に避難することが十数秒では難しい。難しいことだと思いますが、是非研究を続けてください。(女性・40代・近畿地方)
誤報を気にせず危険の可能性があれば、早期に発表して欲しい。(男性・60代以上・関東甲信地方)
集中豪雨の中継は、危険だと思う(女性・50代・九州北部地方)

IV. 巻末資料

役立っている(男性・20代・関東甲信地方)
予測の精度を上げて欲しい(男性・60代以上・北陸地方)
いま以上はきたいできない(男性・60代以上・九州南部・奄美地方)
予測精度をより向上させる取り組みを進展させて頂きたい。(男性・50代・沖縄地方)
わかりやすい説明をお願いします(女性・60代以上・東北地方)
台風の接近や地震など、危機感をもって、正確に伝えていると思う。(女性・40代・東海地方)
素早く 的確に 情報を 流していただきたい。(女性・60代以上・北海道地方)
Xバンドレーダーも活用して(男性・50代・関東甲信地方)
予想はずれてもいい(男性・60代以上・関東甲信地方)
各予報の精度向上、迅速発表をこれからもおねがいします。(男性・60代以上・関東甲信地方)
明確化(女性・60代以上・関東甲信地方)
硬いイメージがあるので、もう少し身近に感じられるようになって欲しい。(男性・40代・関東甲信地方)
これからも正確な情報を分かりやすく知らせてほしいです。(女性・60代以上・関東甲信地方)
自分の命は自分でという言葉は、少しだけが見放された感じがする。(男性・50代・関東甲信地方)
広報担当が多数いて理解度がかわる(男性・60代以上・関東甲信地方)
毎回、おっさんが説明しているが、もう少しマシなビジュアルの担当者はいないのか?(女性・50代・北海道地方)
情報の発信の速さと正確さ(女性・60代以上・北陸地方)
少しの変化でも、教えてほしい(女性・60代以上・九州北部地方)
隠さないで教えてほしい。(男性・60代以上・東北地方)
最近の災害の増加についてよく対応されていると思う。組織に固まらずに柔軟に様々な対応を進めて頂きたい。(男性・50代・関東甲信地方)
いつも情報ありがとうございます(男性・30代・九州北部地方)
正確性が低い(男性・20代・関東甲信地方)
わかりやすくしてほしい(女性・60代以上・北海道地方)
天気と結びつけた危険度予測があれば尚良いかと思えます。(女性・40代・関東甲信地方)
よく頑張ってます(男性・30代・東海地方)
わかりやすい情報発信を今後も続けてほしい(女性・50代・四国地方)
天変地異は、予想が、つかないです。(女性・60代以上・近畿地方)
正確性を増してほしい(男性・40代・近畿地方)
もう少し詳しく教えて欲しい(女性・50代・中国地方)
危機感を強調するくらいでいいと思う。(男性・40代・近畿地方)
過去の経験を超える気象変動が起きているので、被災を最小限に抑えられるよう情報発信を期待しています(女性・50代・関東甲信地方)
今後もよろしくお願いします。(男性・40代・東海地方)
近頃は、色々詳しく説明や、知らせがあり、とてもいいと思う(女性・60代以上・九州南部・奄美地方)
細かい地域ごとで、緊急記者会見してもらえたらよい。例えば、その地方で台風の影響が違うので、その地方ごとの気象庁がテレビで記者会見した方が、より緊張感が伝わるのでは。(女性・50代・中国地方)
気象予報の精度を向上を目指してほしい(男性・60代以上・北陸地方)
詳細を分かりやすく知りたい(女性・30代・関東甲信地方)
詳しく情報を知らせてくれるので助かっている(女性・60代以上・東海地方)
正確な情報を今後もお伝えください(男性・30代・関東甲信地方)

地域別の詳しい情報をリアルタイムで流して欲しい(女性・60代以上・関東甲信地方)
予報に関しては当たりハズレがあるので確率的に伝えるかどうか判断するのが本当に大変だと思う。(女性・40代・東海地方)
気象庁公式アプリがほしい(男性・30代・東海地方)
地震に対する精度(男性・60代以上・北陸地方)
災害を未然に防ぐ情報をより詳しく出せるように、これからも頑張ってもらいたいです。(女性・60代以上・関東甲信地方)
天気予報や大風・地震情報などできるだけ正確な情報が欲しいです(女性・30代・関東甲信地方)
ここ数年間で気象庁のホームページが、分かりやすく、各分野で詳細を発表してくださるので心強いです。まさに命綱です。各地方自治体に対応の遅れがあり、危惧しています。人命にかかわる事なので国家予算を注ぎ込んでより正確な情報が出せるように希望します。(女性・50代・九州南部・奄美地方)
台風後の温帯低気圧でも強風などで危険を感じるので、温帯低気圧の状況も台風情報に続いてほしい(男性・40代・北陸地方)
子どももわかるような図解や簡潔でわかりやすいテロップがつくと助かる。(女性・30代・東北地方)
災害はいつ来るかわからないことも有るとは思いますがなるべく正確な情報を早めに知らせて欲しいです(女性・60代以上・東北地方)
正確性と速度を持って発表してほしい(男性・40代・近畿地方)
予測技術は進んでいるし、伝え方も工夫が大変見られると思う。(男性・60代以上・関東甲信地方)
緊急時にはテレビで見る(女性・30代・北海道地方)
日々研究したりしていて、大変ご苦労であると感じています。(男性・60代以上・関東甲信地方)
気象庁担当者記者会見は無機質で危機感が伝わってこない！(男性・60代以上・関東甲信地方)
災害は増えていってるので、取り組みには期待しています。(女性・50代・関東甲信地方)
迅速な情報伝達で人命が救え、危険回避でかます。正確な情報をこれからも教えてほしいです(女性・60代以上・関東甲信地方)
命を守る行動をとかこれまでに経験したことのないといったフレーズに頼らず、危機の情報を提供してほしい(男性・30代・近畿地方)
以前より理解しやすくなった。その後の行動もとりやすくなったと思う。(女性・60代以上・関東甲信地方)
難しいとは思いますが、速報は、直前10秒後とかだから、あつと言う間に来るので対応出来無い。もう少し前にわかれば逃げようも有る。(女性・60代以上・関東甲信地方)
今後ともよろしく願います。あまり頻繁に基準やページレイアウトなど変えないでほしい。危険度の色表示昔は「赤」がトップ、今は変わっていて何が一番危険とか順番が分かりにくい。年寄りで色の区別が付きにくい人が増えている、色の識別の専門家(いるのかどうか分かりませんが)アドバイスもらって色の区別考えたら。(男性・60代以上・北海道地方)
素早い会見を開くことに責任感の重さを感じます。(女性・50代・関東甲信地方)
頑張ってる様子が見える。(男性・60代以上・九州南部・奄美地方)
テレビを天気予報を何気なく観ているだけでしたが、台風、地震、噴火、津波など、幅広く研究に取り組まれているのだと、改めて知りました。温暖化によってさまざまな危険が考えられるので、興味を持って知識を高めていかなければならないと考えさせられました。(女性・40代・関東甲信地方)
防災無線が聞き取れないので、何とかならないものかと思う。(女性・40代・中国地方)
これからも日本国のためによろしく願います。(男性・20代・四国地方)
評価できる(男性・40代・東海地方)
素早い対応をお願いしたい(男性・40代・東北地方)

IV. 巻末資料

さらなる迅速な情報提供を期待します。(男性・30代・九州北部地方)
今後もより正確な予報の提供に取り組んでいただきたい。(女性・40代・北陸地方)
迅速かつ正確な情報を期待しております。安心と安全を提供していただき感謝申し上げます。(女性・60代以上・関東甲信地方)
防災、天気などに関する総合的なアプリがあれば、スマホでもより情報を確認しやすくなると思う。(男性・30代・関東甲信地方)
今より もっと正確な情報が欲しいです。(男性・50代・北陸地方)
わかりやすい用語で知らせてほしい(女性・40代・東北地方)
今後も正確な情報提供を期待する(男性・60代以上・関東甲信地方)
わかりやすく、迅速に伝えて欲しい(女性・60代以上・東海地方)
予算が少な過ぎる。もっと堂々と予算請求すべき。(男性・50代・東海地方)
いつも 難しい予報を伝えて貰ってありがとうございます(女性・60代以上・近畿地方)
誠実でとても信頼できる(男性・60代以上・関東甲信地方)
この間辿々しく話す予報官?で緊急性が無かった(女性・60代以上・東北地方)
出来るだけピンポイントの情報が欲しい、広いエリアだと余計に恐怖を感じる事になる、特に独居の高齢者には闇雲に歩き回る方が危険だと思う(女性・60代以上・九州北部地方)
天気予報が外れることがもっと減ったら嬉しいです。(女性・40代・近畿地方)
大雨は早めに予測して知らせてほしい(女性・50代・沖縄地方)
ある程度の限界はあると思うが、予報精度を上げていただきたい。(女性・60代以上・近畿地方)
より正確な情報を期待します。(女性・40代・近畿地方)
今の気候変動で不安になる(女性・50代・関東甲信地方)
より正確な情報、より早くお知らせして欲しいです。(女性・50代・関東甲信地方)
もっと災害時の行動を分かりやすく告知して欲しい(女性・20代・近畿地方)
がんばって下さい。(男性・60代以上・北陸地方)
ありがとうございます(男性・40代・九州北部地方)
いち早く情報を流してほしい(男性・30代・関東甲信地方)
現在の情報の出し方で満足している。現在地震や津波の影響を普段考える地域に居ないので、実感がありませんが非常に重要な情報だと思います。(男性・60代以上・近畿地方)
これからも頑張ってください(男性・30代・近畿地方)
今後も迅速で正確な情報を期待します。(男性・60代以上・関東甲信地方)
お疲れ様です(男性・40代・九州北部地方)
がんばれ(男性・50代・関東甲信地方)
最近は特に細かく知らされるようになった。(女性・60代以上・近畿地方)
50年に1度や100年に1度という言葉聞きすぎて、重大であると思えなくなった。そう言う言葉が欲しいのではなく、具体的に伝えて欲しい(女性・40代・九州北部地方)
これからも気象情報の精度を上げてください。(女性・50代・関東甲信地方)
年々予測の精度が高まっていると思います。これからも信頼できる予測をお願いします。(女性・50代・東北地方)
熊本地震や豪雨災害の時は非常に情報が役にたったし、心強かった。特に豪雨の時には次の自分の行動に繋がられるように気象庁の情報には気を付けていた。大変有り難かった。(女性・40代・九州北部地方)
何にしても、1週間後の天気が最も重要。(男性・60代以上・近畿地方)
東日本大震災を経験してからよくみるようにしていますが、周りは少しオーバーだという人もいますがそれぐらい危機感があつていいと思います。これからも重宝させていただきます。(女性・20代・関東甲信

地方)
今以上に情報発信を頻繁にして欲しい。(男性・60代以上・近畿地方)
一般人にも分かるような説明をして頂けたら嬉しいです。ごくたまに、気象関係の専門用語みたいなのが出てくるので、何を言っているのか分からない時があります。(男性・30代・関東甲信地方)
全ての災害予測の精度を高めてほしいです。(男性・40代・関東甲信地方)
緊急事態の速報が遅い(女性・60代以上・関東甲信地方)
速く正確な情報を伝えた欲しい。(女性・60代以上・近畿地方)
なるべく見るようにしています。(女性・50代・中国地方)
素早い対応を心がけてください(女性・50代・関東甲信地方)
地震の予報は、まだまだ難しいとは思いますが。科学者の方との情報交換でしかないと思います。期待しております。大事な家族のために。(男性・60代以上・九州北部地方)
危機感を国民に伝え、空振りの批判があつたとして、国民の身を守ることを優先となるような伝達に心がけていることが伝わる。(男性・30代・東北地方)
今のままでよいと思います(男性・40代・東北地方)
地震予知の精度(男性・60代以上・東海地方)
いつもありがとうございます。(女性・20代・関東甲信地方)
ある程度の確実性でも速さ優先が好ましい(男性・30代・関東甲信地方)
的確なタイミングで情報を伝えて欲しい。(女性・60代以上・東海地方)
迅速な対応をお願いしたい(男性・30代・東海地方)
普段の暑い寒いでも頼りにしています(女性・40代・北陸地方)
天気予報の精度がもっと上がってくるとありがたい(女性・20代・東海地方)
いつもありがとうございます。(女性・20代・北海道地方)
地図の精度を上げてほしい(男性・60代以上・近畿地方)
有難い(女性・40代・関東甲信地方)
地震の予測はあくまで予測であり、速報が来たところで間に合わないことが多いので、予測よりも防災と災害後の対応に時間や費用をかけてほしい。天候の予測についてはよくやってくれていると感じています。(女性・30代・近畿地方)
難しいと思うが、正確な情報を流して欲しい。(男性・30代・関東甲信地方)
毎日の体感の暑さと寒さの変化がわかるようにしてほしい(男性・20代・近畿地方)
更に正確、迅速な情報開示(男性・40代・関東甲信地方)
より正確な情報提供を望みます(男性・60代以上・近畿地方)
正確な情報(女性・50代・関東甲信地方)
より正確な情報共有を期待してます(女性・20代・関東甲信地方)
地震、台風の予想などしていただくので、対策を考える事が出来て助かります。(女性・60代以上・九州北部地方)
わかりやすく端的に伝えてほしい(女性・20代・関東甲信地方)
視聴者が、もっと危機感を抱けるような、話し方、表現で説明されるよう希望する。(男性・60代以上・近畿地方)
兎に角、速報なのだから、速く伝えてほしい。その中で、ある程度の誤差であるとか、違いであるとかは仕方がないと思う。(女性・60代以上・東北地方)
多くの命を救えるように、これからもよろしくお願いします!(男性・30代・東海地方)
これまで以上に重要性が増すため頑張っていたきたい(男性・30代・東海地方)
地域ごとに説明して欲しい。(女性・60代以上・近畿地方)

IV. 巻末資料

ウェザーニューズに舐められないでね(男性・30代・近畿地方)
期待します(男性・40代・関東甲信地方)
とてもよく頑張っていると思います。(女性・60代以上・東北地方)
以前、とても参考になっていたので、『不快指数』の情報・発表を復活して欲しい。(男性・60代以上・関東甲信地方)
昼夜を問わず、災害を減らすために取り組んで下さり、助かっています。特に緊急地震速報は、大きい揺れが来るぞと身構える事ができるので本当に助かっています。また、気候変動により災害も変わってきていますがその都度制度を変更し、対応しているところは凄いなと思っています。(女性・40代・関東甲信地方)
今後も迅速且つ正確な情報を伝えてください。(男性・50代・関東甲信地方)
予報精度の更なる向上。(男性・40代・関東甲信地方)
正確性とスピードと平等(女性・50代・関東甲信地方)
今後も予測の精度改善を期待したい。(女性・40代・関東甲信地方)
感謝(男性・40代・東海地方)
わかりやすく、短く伝えてほしい(女性・40代・九州北部地方)
わかりやすい(男性・20代・近畿地方)
気象庁と公共交通機関の連携を密にして欲しい。(男性・50代・中国地方)
予想がハズレると困る。(男性・50代・東海地方)
自然災害等の発生時または予測される時等、迅速にかつ的確に必要な情報を提供して頂き有難たく思い感謝いたします。引き続き詳細な情報の提供をお願いします。(男性・60代以上・九州北部地方)
災害時はとても不安になるので、気象庁からの情報が有難いです。(女性・30代・九州北部地方)
速さ(男性・30代・九州北部地方)
正確に予想することは難しいことだと思いますが、天気や台風の進路情報など…正確な予測をお願いしたいです(女性・50代・関東甲信地方)
期待しています(女性・60代以上・九州北部地方)
気象庁の予報だけが頼りです。宜しくお願いします。(女性・60代以上・九州南部・奄美地方)
最新の細かい情報を期待します。(女性・60代以上・北陸地方)
さまざまな予測の精度向上を期待している(男性・20代・東海地方)
みんなの安全を保障できるようなじょうほうはっしんを期待します(男性・20代・関東甲信地方)
最近の気象状況はこれまでとは違って亜熱帯のようになり不安を感じます。できるだけ正確な情報をつかんで周知できるようにしてください。(女性・60代以上・北陸地方)
危機管理の言葉が多くなり過ぎて、分からなくなることがあります。(男性・30代・北陸地方)
国民の命に関わる非常に重要なお仕事ですので、大変なことが多いの思いますが、是非、力を尽くしてください。よろしくをお願いします。(男性・60代以上・東海地方)
現在の研究の進捗を知りたい(男性・40代・関東甲信地方)
早く知らせてほしい(女性・60代以上・関東甲信地方)
気候変動など大変な中、最善に取り組んで下さり感謝しています。身体など、夜遅くまで徹してのお仕事もあるので気をつけて下さい。(女性・50代・関東甲信地方)
近年、気象庁の災害予想への取り組みは目を見張るほど進化していると感じる。しかし、一方で、政府官邸での会見での「安楽的な発言」との乖離、連携の無さが見られる。政府は国民にパニックにならないよう情報を制限しているようでない。(男性・50代・関東甲信地方)
正確な情報を適時に届けてほしい(女性・50代・東海地方)
SNSやAIの活用など、最新技術の活用に期待してます。(男性・30代・関東甲信地方)

精度アップをお願いいたします(男性・40代・関東甲信地方)
早めの天気予報を期待します(女性・60代以上・関東甲信地方)
台風や降雪等は鉄道の運行状況が左右されるので、事前に正確な情報と鉄道会社の計画運休等の指示を統一してもらえると通勤の可否の判断がしやすくなるのでありがたいです。(女性・20代・関東甲信地方)
大雨や台風は早い段階でやってくるのが分かるので対策もとれるが、地震は思いもしない時に突然くるので身構えるくらいしか出来ない事が多い。地震速報が鳴ってから揺れるまで秒なので、その間は恐怖心しかない。出来る事なら、もう少し早くに分かれればもっと何か出来そう。(女性・40代・中国地方)
ささいなことでも注意喚起してくれると役に立つ(女性・50代・関東甲信地方)
いつも大変お世話になっております。今のところ信頼しかないです。(女性・40代・東北地方)
いつも国民のためにありがとうございます。(男性・20代・関東甲信地方)
現状と共に命を守る行動、避難の具体的方法を伝えてくださることは、動揺している時には助かる。国民の安心安全な生活を守るために、これからもより精度の高い情報をよろしくお願い致します。(女性・60代以上・関東甲信地方)
できるだけ早めのお知らせ(女性・60代以上・関東甲信地方)
現在はかなり高く予報が当たる感じ(男性・60代以上・東海地方)
頑張ってください(男性・20代・近畿地方)
不安で(女性・40代・関東甲信地方)
警報 注意報などのパラメータを老若男女問わずわかりやすいものにする工夫をしてほしい(男性・60代以上・関東甲信地方)
最近、天気も当たるし、時間帯で、天気が出るので、とても有難いです(女性・40代・九州北部地方)
私たちにとってとても重要な情報を取り扱っているのだから、こんごも正確で有意義な情報提供を期待しております。大変ではありますが、頑張ってください。(女性・40代・関東甲信地方)
自分の住んでる所がもっと詳しく知りたい(女性・50代・中国地方)
これからも精度の高い予報をお願いします。(女性・50代・関東甲信地方)
期待します(男性・60代以上・北陸地方)
日々変化していく中での取組は大変だと思います。皆さんになかなか周知できないとは思いますが工夫して取り組まれて行かれることに期待しています。(女性・40代・中国地方)
NHKだけでなく民放とも協力すべき。災害を事前に避けられるような取組を強化すべし。(男性・30代・東海地方)
とにかく精度の向上。(男性・40代・近畿地方)
伊勢湾台風時6歳だったが、本当に恐ろしかったことを憶えている。当時と比較したら今は気象情報はふんだんに取れるようになったが、災害が無くなるわけではない。最悪を逃れるために、気象庁の仕事は本当に大切だと思っている。(女性・60代以上・東海地方)
より正確な予報を期待します(男性・30代・関東甲信地方)
地球温暖化で日本がこれからどうなっていくのか取り組みとか有るのか詳しく情報として流して欲しいです。(女性・60代以上・沖縄地方)
更に、精度向上、早い状況発信をお願いしたい(男性・50代・東北地方)
緊急時においてはどのような行動を取るべきかが 危険を避ける上でカギとなるかと思えます。専門的な用語は最小限に使い、私のような高齢者にも瞬時に理解・判断できるような情報提供していただきたい。(女性・60代以上・東北地方)
いつもありがとうございます。(男性・50代・近畿地方)
さらに短時間で記者会見してほしい。(女性・40代・中国地方)
無理せず頑張ってください。(男性・40代・関東甲信地方)

IV. 巻末資料

テレビ全般あまり信用していない(女性・30代・関東甲信地方)
最近の予報があまりあてにならない、昔のほうの方が割と良かったかと思う、TV や民間の情報に違いがある(男性・60代以上・九州北部地方)
サイトのUIを親しみやすくしてほしい(男性・40代・九州北部地方)
どんどん精度が上がってきていると思う。これからも、地震、台風が大変なことにならなくてもいいから、随時情報を流してほしい。大袈裟でもいいと思います。(女性・60代以上・近畿地方)
緊急地震速報で精度をあげて欲しい。(男性・60代以上・東北地方)
あまり頻繁に危機表現を変えないで欲しい(男性・60代以上・関東甲信地方)
昼夜を問わず災害は起こりますが、その中で奮闘してくださっている気象庁の方々に感謝申し上げます。これからも頑張ってください。(男性・60代以上・九州北部地方)
地震速報はありがたいです。(女性・50代・関東甲信地方)
いつも貴重な情報を迅速に伝えてくださり、ありがとうございます(男性・20代・東海地方)
精度を上げてほしい(男性・60代以上・北海道地方)
日本は地震大国であるので、災害の中でも広範囲に渡る速報は大切である。より精度の高い速報を望みます。(女性・60代以上・関東甲信地方)
緊急地震速報がもう少し早いといいと思う(女性・20代・関東甲信地方)
テレビのローカル番組で詳細を放送してほしい(男性・60代以上・九州南部・奄美地方)
いつも参考にさせて頂いております。最近、地震が多いので緊張します。これからもお世話になりますのでよろしくお願い致します。(女性・60代以上・関東甲信地方)
予報精度の向上を期待します(男性・60代以上・東海地方)
yahooの天気アプリを利用。予報が外れるが全く気にしない。それよりも早めに対応ができるので、外れてもいいからある程度の情報が欲しい。台風は、米軍の情報を利用している。特に風速毎に何時から何時までと具体的に、表示するので備えが完璧にできる。(男性・60代以上・沖縄地方)
的確な表現で、どのように行動するかの指示を国民に伝える(女性・40代・関東甲信地方)
頑張ってください(男性・40代・東北地方)
もっと国民に危機感を感じられるよう、発信していくべきだ(男性・60代以上・東海地方)
もう少し広報に力を入れて目に付きやすいようにしてほしい(男性・20代・関東甲信地方)
いつも有り難う御座います。(男性・40代・近畿地方)
富士山の噴火や南海トラフのリスクが高まっている場合に、きちんと会見し、日本国民全員に伝えられるか。(国民な不安が高まるような発言ができないのではないか?)と思う。(男性・30代・関東甲信地方)
詳しく解説するので分かりやすい(女性・60代以上・九州南部・奄美地方)
もっと早く正確に(男性・20代・九州北部地方)
これからも種々の情報・対策を、宜しく願い申し上げます。(男性・30代・関東甲信地方)
なるべく早く正確な情報を伝えて欲しい(女性・60代以上・関東甲信地方)
簡単に分かるようなアプリがあるとありがたい(男性・20代・関東甲信地方)
発表する人の説明がわかりにくい時がある(女性・60代以上・近畿地方)
サイトの操作をもっと簡単に、分かりやすいものにしてほしい(男性・50代・関東甲信地方)
とても不安に思いました。(男性・30代・北陸地方)
緊急会見での言葉の選び方が、危機感を感じさせ、備えなければと感じる良い伝え方だと思う。(男性・40代・関東甲信地方)
より具体的な言葉での説明を希望します。(女性・60代以上・北陸地方)
地震を予知できるものを作ってください。(男性・20代・近畿地方)
分かりやすい言葉で説明してほしいです。(男性・40代・中国地方)

種類が多すぎてよく分からない(女性・30代・中国地方)
地震速報はありがたいが、速報音があまり好きではありません。(女性・20代・関東甲信地方)
緊急性の高い情報を瞬時に発信していただきたく、これからもよろしくお願いたします。(男性・50代・関東甲信地方)
限られた予算ではあるが、国民の防災のため、頑張っ欲しい。(男性・50代・中国地方)
がんばって(男性・30代・中国地方)
継続は力なりで頑張っほしい。(男性・20代・関東甲信地方)
はっきりと分かりやすく子供にも理解できるようにお願いします(男性・50代・関東甲信地方)
気象庁で発表される情報を頼りにしています、これからも頑張っください。(男性・30代・東北地方)
身近に起こったこともあるので今後も情報を共有していきたい(女性・60代以上・九州南部・奄美地方)
情報がより分かりやすくなり大変役立っています。(女性・60代以上・東北地方)
最近はずごいと思います??(女性・60代以上・関東甲信地方)
国民の安全を守るために、より正確な情報を知らせて下さるようお願いいたします。(女性・60代以上・関東甲信地方)
ゲリラ豪雨や、夏の猛暑日など日本の天候や気温が以前より厳しくなっている。自分の命を守るための消費電力もそれ相応に増えてくるので、低所得世帯への補助などを検討してほしい。(男性・30代・九州北部地方)
せっかくの情報も危機感の薄い地域では伝わらない！より良い周知を望み期待しています。(女性・60代以上・東海地方)
原稿の棒読みはやめてほしい(男性・40代・関東甲信地方)
海外の衛星からの情報も提示した方がいい(男性・40代・関東甲信地方)
正確かつ早く知りたい(男性・60代以上・関東甲信地方)
かなり精度も上がってきていると思います。コンピュータシミュレーションを始めとした科学的アプローチを今後も続けて欲しいと思います。(男性・60代以上・九州南部・奄美地方)
日本全国については特に不満等ないのですが、市町村単位の局所的な取組にはもっと頑張っ頂きたいです。勿論、予算や世界規模の異常気象等、今でもやっている事は多いと思いますが、局所的な異常気象で家族に不幸がないように情報を発信して下さい。(男性・40代・関東甲信地方)
情報を詳しく早く知る事ができると良いと思う(女性・40代・関東甲信地方)
より正確な情報をお願いします。(女性・60代以上・関東甲信地方)
今現在も頑張っおられると思います。正確な情報で私たちが取るべき行動を伝えていただきたく思います。(女性・60代以上・近畿地方)
今のままでいい(男性・60代以上・近畿地方)
早い段階で情報発信をしていただき感謝しています(女性・40代・九州北部地方)
短かく、簡潔に(女性・20代・東海地方)
国民を守る為に常に最新技術を投入してくれているので助かっております(男性・30代・九州北部地方)
引き続き、命を守るための情報発信をお願いいたします。(女性・30代・関東甲信地方)
私自身も、最近になって自分もたらしているかもしれない招来への悪影響を考えるようになりました。もっと一人一人が危機感を感じられるようにがんばっほしいです。お疲れ様です。(女性・20代・東北地方)
言葉が難しくて分かりにくい。もっと易しい言葉を使っほしい。(男性・40代・近畿地方)
ありがとう(女性・20代・九州北部地方)
今も十分精度は高い情報を提供してくれているが、更なる向上を目指していただきたい(男性・30代・関東甲信地方)

IV. 巻末資料

<p>気象変動による災害や地震は幾ら備えをしていても一瞬にして破壊し生命も奪われる恐ろしい事です。でも高度な分析でいつどこでどの程度の災害が起こるかと言う予測があることで安心感に繋がっています。(女性・60代以上・関東甲信地方)</p>
<p>災害の予測は非常に難しいと思うが AIなどを駆使して事象をよく分析して頑張ってもらいたいと思う(女性・60代以上・近畿地方)</p>
<p>具体的にどのくらいの危険なのか、どうするのがベストなのかわかりやすく伝えてほしい(女性・40代・関東甲信地方)</p>
<p>世の中の人の生命にかかわることなので、これからも気象庁の発表を頼りにしています。どうぞ宜しくお願いします。(女性・60代以上・近畿地方)</p>
<p>緊急気象情報など、画像で発表する時には、分かりやすく、なるべくテロップなど使って欲しいです。(女性・60代以上・関東甲信地方)</p>
<p>この近年、雨が降れば豪雨になる事が多く(台風ではなくても台風級の豪雨が最近多い)、強風の日も増え、梅雨入り梅雨明けの予測もつかず、暖冬もしくは記録的大雪、南岸低気圧の勢力アップ、全て地球温暖化を中心に何らかの問題が起きているのは明白である。この危機をもっと分かりやすく国民(全世界に)頻繁に伝え、地球環境の悪化が我々人類にとって本当に身近な物だという事を伝える必要があると思う。また、この危機に対しての対策方法の情報も、国民に頻繁に伝える必要があると思う。(男性・40代・関東甲信地方)</p>
<p>最近、揺れを確認してからケータイにアラートが来ることが多いので対処が遅れることがある。首都直下型の危険性の高まりもあるので、何とか頑張ってもらいたいです。(男性・20代・関東甲信地方)</p>
<p>正確な情報を出してほしい。(男性・60代以上・中国地方)</p>
<p>十分努力していると思います。避難後の援助のあり方等を充実させて欲しいですが、これは国の取り組みだと思うので。(女性・40代・近畿地方)</p>
<p>速報が来ると備える気持ちになるのですが、日頃からの対策が疎かになってしまっています。(男性・20代・関東甲信地方)</p>
<p>あまり危機感を煽りすぎるのも良くないでしょうが、もっと危機感をもてるような会見等にしてほしい(女性・30代・近畿地方)</p>
<p>頑張ってもらいたい(男性・20代・関東甲信地方)</p>
<p>今後も、重要な気象情報を発信してほしいです。(男性・20代・近畿地方)</p>
<p>都内と地方のメディアも含め伝え方に不公平に感じる時があるので、都内、都市も含めて、全部伝えて欲しい(男性・40代・九州北部地方)</p>
<p>災害に対しての迅速なかつ正確な情報。混乱を引き起こす流言に対する対処等。(男性・60代以上・東海地方)</p>
<p>地震予測は難しいと思いますが多くの情報、確認法を取り入れて欲しいと思います。例えば雲の形状などで地震を予測するなど。(女性・60代以上・関東甲信地方)</p>
<p>今まであまり災害と縁が無い地域で、避難の経験がありがたいことにならないので、何かあった時に対処できるか不安。(女性・50代・関東甲信地方)</p>
<p>ホームページが変わってからとても見やすくなりました！(男性・20代・東海地方)</p>
<p>適当な知識しか持ち合わせていないテレビ局に好き勝手報道させるのではなく、気象庁独自のチャンネル、例えばアプリとかがあっても良いと思う。(男性・20代・関東甲信地方)</p>
<p>出来だけ早く災害情報が伝えられるようお願いいたします(男性・60代以上・関東甲信地方)</p>
<p>今後もより気象情報の正確性を上げられるよう頑張ってもらいたい。(男性・20代・九州北部地方)</p>
<p>正確な早い情報を 求めています(女性・50代・関東甲信地方)</p>
<p>いつもありがとうございます。地震研究は苦勞が多いと思いますが技術向上を期待しております。(男性・</p>

20代・関東甲信地方)
子供、お年寄りにも伝わる、より分かりやすいビジュアル、言語表現などの工夫を引き続きお願いしたいです。南海トラフ地震や今後の地震予測などの情報を分かりやすくまとめたサイトなどがあればいいなと思います。(女性・30代・近畿地方)
1週間先までの正確な予報を期待(男性・60代以上・関東甲信地方)
予測する事は困難な事かもしれませんが、少しでも予測が現実と合ってくる事を期待します。また、地球温暖化など、気象に影響を与えるものについても、気象庁の姿勢を出して行ってほしいと思います。(女性・60代以上・東海地方)
わかりやすく正確な情報を迅速に教えてほしい(女性・30代・近畿地方)
いつもありがとうございます(女性・30代・関東甲信地方)
Tvで、会見されてますが、人によりわかりにくいときがある。(女性・50代・東海地方)
火山の噴火の予知の精度を上げてほしい。(男性・60代以上・東海地方)
いつもありがとうございます。これからも宜しく願いいたします。(女性・60代以上・関東甲信地方)
これからも頑張って危険な天候などを教えてくれたら嬉しいです。お世話になっております。(女性・20代・関東甲信地方)
防災アプリを日頃見ているので、それらを通して気象庁のデータを活用できていると思います。川の危険水位をよく確認しますが、アクセスが集中すると動かなくなったりするので、設備面が民間 行政 気象庁などで強くなるといいなと思います。(女性・60代以上・九州北部地方)
年々精度が高くなって来ていると思います。(女性・60代以上・九州北部地方)
南海トラフ地震が30年のうちにくるとかではなく、2～3年の間での予測ができるようになると有り難いです。(女性・50代・東海地方)

----- < 調 査 票 > -----

気象情報の利活用状況に関する調査

■防災についての意識等についてお伺いします。

(全員)

Q1. あなたは自分の住んでいる地域で、大雨や台風などによる災害リスクがあるかどうか知っていますか。

あなたの状況に最も近いものを1つ選んでください。

1. 自分の住む地域の災害リスクを、ハザードマップなどを確認して把握している
2. 自分の住む地域の災害リスクを知人や周囲の人などから聞いて、ある程度把握している
3. 自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはあると思っている
4. 自分の住む地域の災害リスクを把握していないが、リスクはないと思っている
5. 自分の住む地域の災害リスクについて考えたことはない

(Q1=3~5)

Q2. あなたが自分の住む地域の災害リスクを具体的に把握していない理由は何ですか。

あてはまるものを全て選んでください。

1. 自分の住む地域で災害は滅多に発生しないと思っているから
2. 自分の住む地域で災害を経験したことがないから
3. 自分の住む地域のハザードマップは当たらないと思っているから
4. 自分の住んでいる環境（崖や川の有無、低地か高地かなど）で何となく分かるから
5. 災害リスクの把握の仕方が分からないから
6. 災害リスクを把握する時間がないから
7. その他 具体的に理由を記入してください
8. どれもあてはまらない（特に理由はない）

(全員)

Q3. あなたは、大雨や台風などによる災害から身を守るために、気象庁から発表される防災情報を知っていますか。知っているものを全て選んでください。

1. 知っている
2. 知らない

<項目>

- 注意報、警報、特別警報
- 早期注意情報（警報級の可能性）
- 土砂災害警戒情報
- 台風情報
- 全般、地方、府県の気象情報
- 指定河川洪水予報（氾濫注意情報、氾濫警戒情報、氾濫危険情報、氾濫発生情報）
- 竜巻注意情報
- 記録的短時間大雨情報
- 顕著な大雨に関する情報

■ 気象情報等の入手手段についてお伺いします。

(全員)

Q4.あなたが、大雨警報や台風情報など気象庁から発表される防災情報を入手する手段は何ですか。

あてはまるものを全て選んでください。

● テレビ、ラジオ、音声電話

1. テレビ（一般放送）
2. レビ（リモコンの「d ボタン」で表示されるデータ放送）
3. ラジオ
4. 音声電話（177 天気予報電話サービス等）

● メール、ホームページ、SNS、アプリ

5. 自治体からの電子メール（自治体（都道府県・市区町村）が提供する登録制の防災メールサービス）
6. その他の電子メール（「自治体からの電子メール」以外のメールサービス）
7. 気象庁ホームページ
8. その他のホームページ（自治体、報道機関、気象会社など）
9. ツイッター、フェイスブック、LINE などのソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）
10. スマートフォンのアプリ（気象情報等を受信・表示したりする専用アプリ）

● 防災行政無線、その他

11. 市区町村の防災行政無線
12. その他 入手する手段を具体的に記入してください
13. どれもあてはまらない（入手する手段はない）（排他）

(Q4=8)

Q5.あなたが、気象庁ホームページ以外のホームページで、大雨警報や台風情報など気象庁から発表される防災情報を入手する手段は何ですか。あてはまるものを全て選んでください。

1. 国（気象庁以外）のホームページ、自治体のホームページ
2. 報道機関のホームページ
3. 気象会社など、気象情報専門のホームページ
4. その他のホームページ（ニュースサイトやポータルサイトの天気コンテンツ）

(Q4=1~12)

Q6.あなたが、大雨警報や台風情報など気象庁から発表される防災情報を入手した場合、家族や親せき、知人などにどのような手段で知らせますか。

あてはまるものを全て選んでください。

1. 会って話す
2. 音声電話
3. 電子メール
4. ツイッター、フェイスブック、LINE などのソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）
5. その他 知らせる手段を具体的に記入してください
6. どれもあてはまらない（家族や親戚、知人などには知らせない）

IV. 巻末資料

(全員)

Q7.あなたが、大雨警報や台風情報など気象庁から発表される防災情報の入手手段について、今後、さらなる充実を期待している手段は何ですか。最も期待するもの、2番目に期待するもの、3番目に期待するものまで選んでください。

●テレビ、ラジオ、音声電話

1. テレビ（一般放送）
2. テレビ（リモコンの「dボタン」で表示されるデータ放送）
3. ラジオ
4. 音声電話（177 天気予報電話サービス等）

●メール、ホームページ、SNS、アプリ

5. 自治体からの電子メール（自治体（都道府県・市区町村）が提供する登録制の防災メールサービス）
6. その他の電子メール（「自治体からの電子メール」以外のメールサービス）
7. 気象庁ホームページ
8. その他のホームページ（自治体、報道機関、気象会社など）
9. ツイッター、フェイスブック、LINE などのソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）
10. スマートフォンのアプリ（気象情報等を受信・表示したりする専用アプリ）

●防災行政無線、その他

11. 市区町村の防災行政無線
12. その他
13. 期待する入手手段はない

〈項目〉

- ・ 最も期待すること
- ・ 2番目に期待すること
- ・ 3番目に期待すること

■気象庁ホームページについてお伺いします。

(Q4=7)

Q8-1.気象庁では令和3年2月、大雨警報や台風情報など気象庁から発表される防災情報を表示するコンテンツのページをリニューアルしました。このリニューアル後のコンテンツのページについて、現在のあなたの使用頻度を1つ選んでください。

【リニューアル後のコンテンツのページの現在の使用頻度】

1. ほぼ毎日
2. 3日に1回程度
3. 週に1回程度
4. ほとんど使っていないが、大雨や台風などの影響を受けそうなときなどは使う
5. ほとんど使っていない（大雨や台風などの影響を受けそうなときなどでも使わない）
6. リニューアル後のコンテンツのページを知らない又は使ったことがない

(Q8-1=1~5)

Q8-2.気象庁では令和3年2月、大雨警報や台風情報など気象庁から発表される防災情報を表示するコンテンツのページをリニューアルしました。このリニューアル後のコンテンツのページについて、現在のあなたの考えにもっとも近いものを1つ選んでください。

1. とても使いやすい
2. やや使いやすい
3. やや使いにくい
4. とても使いにくい

(Q8-1=1~5)

Q9.あなたが、気象庁ホームページで大雨警報や台風情報など気象庁から発表される防災情報を、確認するにあたっての使い勝手について、あてはまるものを全て選んでください。

1. そう思う
2. そう思わない
3. わからない

<項目>

- 様々な防災情報を1つにまとめて表示できるページがあり、使い勝手がよい
- スマートフォン表示に対応しておりスマートフォンでも見やすい
- GPS機能により、自分の現在地の情報の入手がしやすい
- 地図コンテンツについて、表示領域の変更など操作がしやすい
- 見たい防災情報へのアクセスがしやすい
- 高齢者への配慮（文字・画像の大きさやメニューが分かりやすいなど）がされている
- 防災情報を見るとき、あまり時間がかからずに情報を表示できる
- 防災情報を見るとき、エラーが起こらずに情報を表示できる
- ニュース前よりもリニューアル後の方が、コンテンツのページは使い勝手がよい

(Q8-1=1~5)

Q10.あなたが、大雨警報や台風情報など気象庁から発表される防災情報を確認する場合、気象庁ホームページへは、どのルートからアクセスしますか。あてはまるものを全て選んでください。

1. 登録したブックマーク（お気に入り）から
2. 検索エンジンによる検索結果から
3. 気象庁公式ツイッター投稿のリンクから
4. その他ツイッター、フェイスブック、LINEなどのソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）投稿のリンクから
5. 気象庁以外のホームページから 具体的なページ名（URLでも可）を記入してください

■台風に関する情報についてお伺いします

(Q3_4=1)

Q11.あなたは、自分のいる地域または関係する地域に接近する可能性がある台風について台風情報を見聞きした際に、どのような行動をとりましたか。過去1年間に見聞きした場合の行動について、あてはまるものを全て選んでください。

1. テレビ、ラジオ等から最新、詳細な気象情報（雨の状況や警報の発表状況など）を確認した
2. インターネットから最新、詳細な気象情報（雨の状況や警報の発表状況など）を確認した
3. ハザードマップを確認した
4. 市区町村による避難情報を確認した
5. 家族や知り合いに情報を伝えた
6. 外出を控えた
7. 通勤や通学ができるかどうかを確認した
8. レジャーや旅行の計画の変更又は継続について検討を行った
9. 仕事の計画の変更又は継続について検討を行った
10. 避難した又は避難の準備や台風に対する備えを行った
11. その他 とった行動を具体的に記入してください
12. 特段、何も行動をとらなかった
13. どれもあてはまらない（過去1年間は見聞きしたことがない）

IV. 巻末資料

(Q3_4=1)

Q12.あなたが、台風情報に期待することは何ですか。最も期待すること、2番目に期待すること、3番目に期待することまで選んでください。

1. 台風の進路や強度の予測精度向上
2. 台風の進路予報で台風が進む範囲の詳細な表現（現在は円で表現しているが、より適切な予報の表現となるように楕円やメッシュで示すなど）
3. 自分のいる地域での危険な状況（程度）がわかりやすい情報
4. 予想時間の延長（現在は5日先までの予報）
5. 進路予報の図において、予報円の時間間隔をもっと短くした情報（現在、1日より先の予報は1日間隔）
6. 台風の大きさの予報（現在は強さの予報のみ）
7. 台風が温帯低気圧や熱帯低気圧に変わった後の進路や強度の予報の継続
8. どのように行動したらよいか判断できる情報
9. 台風シーズン前に提供される、その年の台風発生数の多い／少ないに関する見通し
10. その他 期待することを具体的に記入してください
11. 特になし

〈項目〉

- 最も期待すること
- 2番目に期待すること
- 3番目に期待すること

(Q3_4=1)

Q13.台風の中には、台風になってから（発生後）、3日くらいで日本に接近してくるものがあります。

現在、台風情報は台風発生の1日前から発表していますが、あなたは、そのような台風の台風情報について、より早い段階（台風発生の2～5日程度前）で分かった場合、何に活用したいですか。あてはまるものを1つ選んでください。

1. 避難の準備や台風に対する備えを行う
2. レジャーや旅行の計画の変更又は継続について検討を行う
3. 仕事の計画の変更又は継続について検討を行う
4. その他（活用したいことを具体的に記入してください）
5. どれもあてはまらない（活用したいと思わない）

■大雨特別警報やキキクル（危険度分布）についてお伺いします。

(全員)

Q14.あなたは、特別警報のうち、「大雨特別警報」がどのようなものであるか知っていますか。

また、「キキクル（危険度分布）」がどのようなものであるか知っていますか。

あてはまるものを1つ選んでください。

1. どのようなものであるか知っている
2. 名前は聞いたことがあるが、詳しくは知らない
3. 知らない

〈項目〉

- 大雨特別警報
- キキクル（危険度分布（土砂災害、浸水害、洪水害））

(Q14_1=1~2)

Q15.あなたは、自分のいる地域または関係する地域を対象とした大雨特別警報を見聞きした時に、どんな行動をとりましたか。あてはまるものを全て選んでください

1. どれもあてはまらない（これらの地域を対象とした大雨特別警報を見聞きしたことがない）（排他）
2. テレビ、ラジオ等から最新、詳細な気象情報（雨の状況や警報の発表状況など）を確認した
3. インターネットから最新、詳細な気象情報（雨の状況や警報の発表状況など）を確認した
4. どこが危険な状況となっているか「キキクル（危険度分布）」を地図で確認した
5. ハザードマップを確認した
6. 市区町村による避難情報を確認した
7. 家族や知り合いに情報を伝えた
8. 買い物等の外出を控えた
9. 通勤や通学をするかどうかを決めた
10. レジャーや旅行の計画の変更又は継続について検討を行った
11. 仕事の計画の変更又は継続について検討を行った
12. 避難した又は避難の準備を行った
13. その他 とった行動を具体的に記入してください
14. 特段、何も行動をとらなかった

(Q14_2=1~2)

Q16.あなたは、自分のいる地域または関係する地域を対象としたキキクル（危険度分布）で危険度が高まっていることを見聞きした時に、どんな行動をとりましたか。あてはまるものを全て選んでください。

1. どれもあてはまらない（これらの地域を対象としたキキクル（危険度分布）で危険度が高まっていることを見聞きしたことがない）
2. テレビ、ラジオ等から最新、詳細な気象情報（雨の状況や警報の発表状況など）を確認した
3. インターネットから最新、詳細な気象情報（雨の状況や警報の発表状況など）を確認した
4. ハザードマップを確認した
5. 市区町村による避難情報を確認した
6. 家族や知り合いに情報を伝えた
7. 買い物等の外出を控えた
8. 通勤や通学をするかどうかを決めた
9. レジャーや旅行の計画の変更又は継続について検討を行った
10. 仕事の計画の変更又は継続について検討を行った
11. 避難した又は避難の準備を行った
12. その他 とった行動を具体的に記入してください
13. 特段、何も行動をとらなかった（排他）

■大雨に関して避難情報等の警戒レベルについてお伺いします。

(全員)

Q17.あなたは、大雨に関して避難情報等の「警戒レベル」がどのようなものであるか知っていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

1. どのようなものであるか知っている
2. 名前は聞いたことがあるが、詳しくは知らない
3. 知らない

IV. 巻末資料

((Q14_1=1~2) かつ (Q14_2=1~2) かつ (Q17=1~2))

Q18.あなたは、大雨特別警報やキキクル（危険度分布）について、次のことを知っていますか。あてはまるものを全て選んでください。

1. 知っている
2. 知らない

<項目>

- 「大雨特別警報」は、災害が発生又は切迫していることを示す「警戒レベル5相当」に位置付けられている
- キキクル（危険度分布）の「うす紫」は、危険な場所からの避難が必要とされる「警戒レベル4相当」に位置付けられている
- キキクル（危険度分布）の「赤」は、高齢者等は危険な場所からの避難が必要とされる「警戒レベル3相当」に位置付けられている

■集中豪雨を引き起こす原因の一つである線状降水帯についてお伺いします。

（全員）

Q19.あなたは、「線状降水帯」という言葉を聞いたことがありますか。また、どのような現象か知っていますか。

1. 聞いたことがあります、どのような現象か知っている
2. 聞いたことはあるが、どのような現象か知らない
3. 聞いたことがない

(Q19=1~2)

Q20.あなたが、自分のいる地域または関係する地域で「線状降水帯が発生しています」という言葉を聞いたとき、どのように感じましたか。あてはまるものを1つ選んでください。

1. どれもあてはまらない（自分のいる地域または関係する地域で「線状降水帯が発生しています」という言葉を聞いたことがない）
2. 危機感が高まった
3. やや危機感が高まった
4. あまり危機感が高まらなかった
5. 危機感が高まらなかった

■近年、気象庁が提供を開始した気象情報についてお伺いします。

（全員）

Q21.気象庁が近年提供を開始した以下の気象情報について、見聞きしたことがあるものを全て選んでください。

1. 見聞きしたことがある
2. 見聞きしたことがない

<項目>

- 「2週間気温予報」
週間天気予報の先の2週間先まで（8日先から12日先を中心とした各日の5日間平均）について、地点ごとの最高気温、最低気温等を発表する情報です。（令和元年6月提供開始）
- 「解析積雪深」道路管理者の通行規制の適時適格な判断などを支援することを目的とし、積雪の深さの実況を推定する情報です。（令和元年11月提供開始）
- 「解析降雪量」解析降雪深と同様の目的で、降雪量の実況を推定する情報です。（令和元年11月提供開始）
- 「推計気象分布（日照時間）」観測所のない場所でも日照時間に関する観測情報をご利用いただくことを目的とし、気象衛星ひまわりの観測データ等を基にきめ細かな面的な日照時間の分布を推計した情報です。（令和2年9月提供開始）
- 「アメダス（地域気象観測所）の湿度データ」アメダス（地域気象観測所）に湿度計を順次導入し、湿度データの提供を開始しています。（令和3年3月以降順次提供開始）
- 「熱中症警戒アラート」暑さ指数（WBGT）に基づき、熱中症の危険性が極めて高いと予測される場合に、暑さへの「気づき」を呼びかけ熱中症予防行動を効果的に促すため、環境省と連携し発表する情報です。（令和3年4月提供開始）

■気候変動についてお伺いします。

(全員)

Q22.あなたは、文部科学省と気象庁が共同で公表した刊行物「日本の気候変動 2020※」について聞いたことがありますか。また、どのような資料か知っていますか。

1. 聞いたことがあります、既に読んだことがある
2. 聞いたことはあるが、どのような資料か知らない
3. 聞いたことがない

(全員)

Q23.あなたは、気候変動についてどのように感じていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

1. 強い危機感を感じている
2. 不安だ
3. 様々な意見があり信頼できない
4. 興味が無い
5. その他

(全員)

Q24.あなたは、どのような事柄で気候変動の影響を感じるがありますか。

あてはまるものを3つ以内で選んでください。

1. 猛暑、熱帯夜、夏の暑さ
2. 大雨、豪雨、激しく降る雨
3. 暖冬、雪不足、冬の寒さ、湖の結氷
4. 桜の開花日や紅葉など植物の生長の変化
5. (熱中症の搬送者、氷河の崩落、国際会議の結果等) 気候変動に関連する報道、テレビ番組
6. その他
7. 特に感じていない

(全員)

Q25-1.あなたが、将来考えられる気候変動の影響等の予測でもっとも知りたいことは何ですか。また、それはいつ頃を対象とした予測ですか。

1. 二酸化炭素などの温室効果ガスの濃度
2. 平均気温の変化
3. 大雨、洪水の変化
4. 台風の変化
5. 真夏日、猛暑日の変化
6. 熱波、湯水の変化
7. 高潮、高波の変化
8. 雪の変化
9. 冬日、真冬日の変化
10. 海水温の変化
11. 海洋の酸性化
12. その他
13. 特に知りたいことは無い

(Q25-1=1~12)

Q25-2.あなたが、将来考えられる気候変動の影響等の予測でもっとも知りたいことは何ですか。また、それはいつ頃を対象とした予測ですか。

1. 2030年頃に予測される変化(現在から約10年後)
2. 2050年頃に予測される変化(現在から約30年後)
3. 2100年頃に予測される変化(現在から約80年後)
4. その他

IV. 巻末資料

(全員)

Q26.気候変動に関する情報で、期待するものは何ですか。あてはまるものを3つ以内で選んでください。

1. これまでに気候変動がどのくらい進んできているのか、地域毎により詳細な情報
2. これから気候変動がどう進むのか、地域毎により詳細な情報
3. 災害が発生するような大雨等の極端な気象現象が発生した場合に、その現象における気候変動の影響（強度及び頻度）と、将来さらに気候が変化した場合の同種の気象現象の変化（強度及び頻度）
4. 50年に1度の大雨や100年に1度の大雨といった、めったに起こらない気象現象の将来変化
5. より正確かつ詳細な天気予報（明日・明後日、週間、台風）
6. より正確かつ詳細な季節予報（1ヵ月予報、3ヵ月予報、寒候期・暖候期予報）
7. その他
8. 期待する情報はない

■地震津波、火山噴火に関する防災情報についてお伺いします。

(全員)

Q27.あなたは、地震津波、火山噴火による災害から身を守るために、気象庁から発表される防災情報を知っていますか。あてはまるものを全て選んでください。

1. 知っている
2. 知らない

<項目>

- 緊急地震速報
- 地震情報
- 大津波警報、津波警報、津波注意報、津波予報、津波情報
- 長周期地震動に関する観測情報
- 南海トラフ地震に関連する情報（南海トラフ地震臨時情報、南海トラフ地震関連解説情報）
- 噴火警報（噴火警戒レベル）
- 噴火速報
- 降灰予報

(全員)

Q28.あなたは、次の情報が発表された際に、どのような行動をとるとよいか知っていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

1. どのような行動をとるとよいか知っている
2. 知らない

<項目>

- 南海トラフ地震臨時情報
- 噴火速報

■緊急地震速報についてお伺いします。

(Q27_1=1)

Q29.あなたは、日頃から緊急地震速報を見聞きしたときに、とるべき行動をあらかじめ決めていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

1. とるべき行動をあらかじめ決めている ※1
2. ある程度は意識しているが、具体的な行動は決めていない
3. とるべき行動は何も決めていない

<項目>

《とるべき行動をあらかじめ決めている》

- ・机の下などにもぐる
- ・家具や棚（たな）などから離れる
- ・家具や棚（たな）などを押さえる
- ・周りの人に地震が来ることを知らせる
- ・近くの安全な場所に移動する
- ・安全な場所なら揺れに備えて身構える
- ・ドアなどを開けて逃げ道を確保する
- ・外に出る

《ある程度は意識しているが、具体的な行動は決めていない》

- ・周囲の状況認識をと思う
- ・安全な場所を探すと思う

(Q27_1=1)

Q30.あなたは、自分のいる地域を対象とした緊急地震速報を見聞きして、どのような行動をとったことがありますか。あてはまるものを全て選んでください。

1. 揺れに備えて身構えた
2. 周りの人に地震が来ることを知らせた
3. 頭を守る、机の下に身を隠すなどその場で身を守った
4. 子どもや家族など身のまわりの人を守った
5. 棚などの家具が倒れないように押さえた
6. 火を消した
7. ドアなどを開けて逃げ道を確保した
8. 屋内から屋外へ出た
9. テレビやラジオ、携帯電話などで最新、詳細な地震情報を知ろうとした
10. その他 とったことがある行動を具体的に記入してください
 11. 特段の行動をとらなかった（できなかった）(排他)
 12. どれもあてはまらない（自分のいる地域を対象とした緊急地震速報を見聞きしたことがない）

(Q30=1~10)

Q31.あなたが、緊急地震速報を見聞きしてとった行動の結果、緊急地震速報はどの程度役立ったと思いますか。あなたの考えにもっとも近いものを1つ選んでください。

1. 役立った
2. やや役立った
3. あまり役立たなかった
4. 役立たなかった

IV. 巻末資料

(Q27_1=1)

Q32.あなたは、緊急地震速報に関する以下の事柄について知っていますか。あてはまるものを全て選んでください。

1. 知っている
2. 知らない

<項目>

- ・緊急地震速報は、地震が発生した直後、地震による強い揺れが伝わる前に気象庁から発表される予測情報である。地震の揺れが伝わった後に各地の詳しい震度等を伝える「地震情報」とは異なる
- ・緊急地震速報には「警報」と「予報」の2種類があり、これらは発表の基準やお知らせの方法が異なる
- ・緊急地震速報（警報）は、最大震度が5弱以上の地震を予想した場合に、震度4以上が予想される地域を対象に発表される
- ・緊急地震速報を見聞きしてから、強い揺れが来るまでの時間は長くても十数秒～数十秒である
- ・地震が発生した場所に近いところでは、緊急地震速報の発表が強い揺れに間に合わないことがある
- ・緊急地震速報で発表される予想震度の値は、震度でプラスマイナス1程度の誤差を伴う
- ・特に大規模な地震に対しては、地震の大きさの予測精度に限界がある
- ・複数の地震が同時期に発生したり、近い場所で発生したりした場合には、それぞれの地震を区別できず、的確な発表ができないことがある
- ・事故、落雷、機器の障害など地震以外の現象を地震と誤認して、緊急地震速報を発表する可能性がある

■緊急記者会見についてお伺いします。

(全員)

Q33.気象庁では、大雨や台風などによって重大な災害が発生するおそれが高まっている時に、そのことをお知らせするために緊急記者会見を行います。

あなたが、緊急記者会見をご覧になり、その対象が自分のいる地域または関係する地域となっていたとき、どのように感じましたか。あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。

1. 緊急記者会見自体を知らない
2. どれもあてはまらない（これら地域を対象にした緊急記者会見を見たことがない）
3. 気象庁が伝えたい危機感が、伝わってきた
4. 気象庁が伝えたい危機感は、伝わってこなかった

■最後に、気象庁の取組についてお伺いします。

(全員)

Q34.気象庁の取組に対してご意見・ご要望がありましたらお聞かせください。

(ご自由にお書きください)

以上